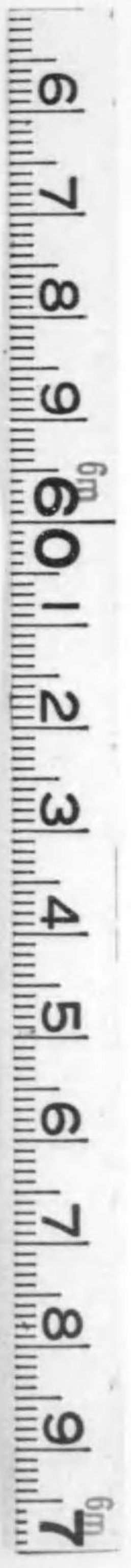


322
186



始



7.9.10

322-186

大關久五郎著

[外國篇]

中等
教育地理教科書

大正

7. 1. 28

內交

東京目黒書店發兌



中等
教育
地理教科書
外國篇
上卷

目次

ユーラジア……………一

第一章 アジア……………一

總說 自然地理……………一

各說……………一

東部アジア……………一五

支那……………一五

一、滿洲(東三省)……………二三

二、支那本部……………三五

三、蒙古……………五九

四、新疆……………六〇

五、青海 西藏……………六一

目次

南部アジア……………七

一、印度支那……………七

二、マライ群島……………八

三、印度……………九

西部アジア……………一〇

一、イラン地方……………一〇

二、アジアトルコ及びアラビア附イギリス諸領……………一〇

北部アジア……………一一

アジアロシア……………一一

一、シベリア……………一一

二、中央アジア……………一七

三、カフカズ地方……………一四

括説 人文地理……………一四

上巻目次終

中等教育 地理教科書 外國篇 中巻

目次

第二章 ヨーロッパ……………一

總説 自然地理……………一

各説……………一〇

北部ヨーロッパ……………一〇

一、ヨーロッパロシア……………一〇

二、スウェーデン・ノルウェー及びデンマーク……………一一

中央ヨーロッパ……………一二

一、ドイツ……………一二

二、オーストリア・ハンガリア……………一三

三、ヒテンス・タイン……………一五

三、スウイス……………一五

西部ヨーロッパ……………一六

一、フランス……………六二

 モナコ……………七一

二、ベルギー・オランダ……………七二

 ルクセンブルグ……………八一

三、イギリス……………八一

南部ヨーロッパ……………九七

一、イスパニア及びポルトガル……………九七

 シアラルタル……………一〇三

 アンドラ……………一〇五

二、イタリア……………一〇三

 サンマリノ……………一一一

 マルタ……………一一二

三、バルカン諸國……………一一三

括説 人文地理……………一一三

中卷目次終

中學 地理教科書 外國篇 下卷

目次

第三章 アフリカ……………一

總説 自然地理……………一

各説……………一四

 北部アフリカ……………一四

 内部アフリカ……………一三

 東部アフリカ……………一五

 南部アフリカ……………一〇

 西部アフリカ……………一七

 島嶼アフリカ……………一九

括説 人文地理……………四一

アメリカ……………四一

第四章 北アメリカ

總説 自然地理……………四九

各説……………六一

グリーンランド……………六二

カナダ……………六三

ニューファウンドランド……………六九

アメリカ合衆國……………七〇

アラスカ……………七五

ヘルムズ諸島……………八六

メキシコ……………八七

中央アメリカ……………九〇

西印度諸島……………九四

括説 人文地理……………九八

第五章 南アメリカ……………一〇八

總説 自然地理……………一〇八

各説……………一〇七

北部南アメリカ……………一〇七

東部南アメリカ……………一〇〇

西部南アメリカ……………一〇九

括説 人文地理……………一〇三

第六章 オセアニア……………一四一

オーストララシア……………一四二

一、オーストラリア及びタスマニア……………一四二

二、ニュージーランド……………一五八

メラネシア……………一五九

ミクロネシア……………一六二

ポリネシア……………一六五

第七章 兩極地方……………一七一

北極地方……………一七一

南極地方……………一七五

下卷目次終

中等教育 地理教科書 外國篇 上卷

大關久五郎 著



世界陸地の面積は約一四億平方千米、人口は約二十億、平均人口密度は約一人一平方千米である。

ユーラシアは、北半球に位する世界最大の大陸にして、起源古き開化諸處に起り、人口世界總數の五分の四に及べり。通例之を分ちて、アジア及び

ユーラシア

面積五四一七萬平方千米 人口一三〇〇百萬
人口密度(一平方千米につき)以下之に準ず(二四人)

第一章 アジア

面積四四一八萬平方千米 人口九〇〇百萬
人口密度二〇人

總説 自然地理

位置・境界

アジアは、ユーラシアの大部を占め、北は北極海、

第一章 アジア

1 ヲラル山脈・カスピ海・黒海を連ぬる境界線に關し諸説あり。ウラル川とマニチの低窪線とを取るはその一説なり。

海岸

東は太平洋、南は印度洋に臨み、西は地中海の東部及びその支海たる黒海と、カスピ海・ウラル山脈とを以て、ヨーロッパと界し、尙アフリカとは、印度洋の支海たる紅海及びスエズ地峽に由りて相隣り、北アメリカとは、北極海と太平洋とを連ぬるベーリング海峽を以て相隔てり。

海岸 アジアの海岸は、北・東南の三面各相異り、北極海岸は出入乏しく、後背の地は概ね低く、一年の大部は凍結す。太平洋岸は、弓状の海岸と淺き灣入と、半島の間に連り、外方には、日本群島を始め、花綵状をなせる列島延び、その間に、日本海、東及び南支那海等數多の縁海を控ふ。印度洋岸は、出入簡單にして、島も極めて少く、印度支那・印度・アラビアの三大半島南に突出して、ベンガル灣・アラビア海を擁せり。尙ペルシア灣及び紅海は、共に、アラビア海より岐れて大陸の間

〇〇〇

1 運河によりて断たれたる長さ一
二〇杆。

2 ダルダネル海
峽、マルモラ海、
ボスポロス海峽

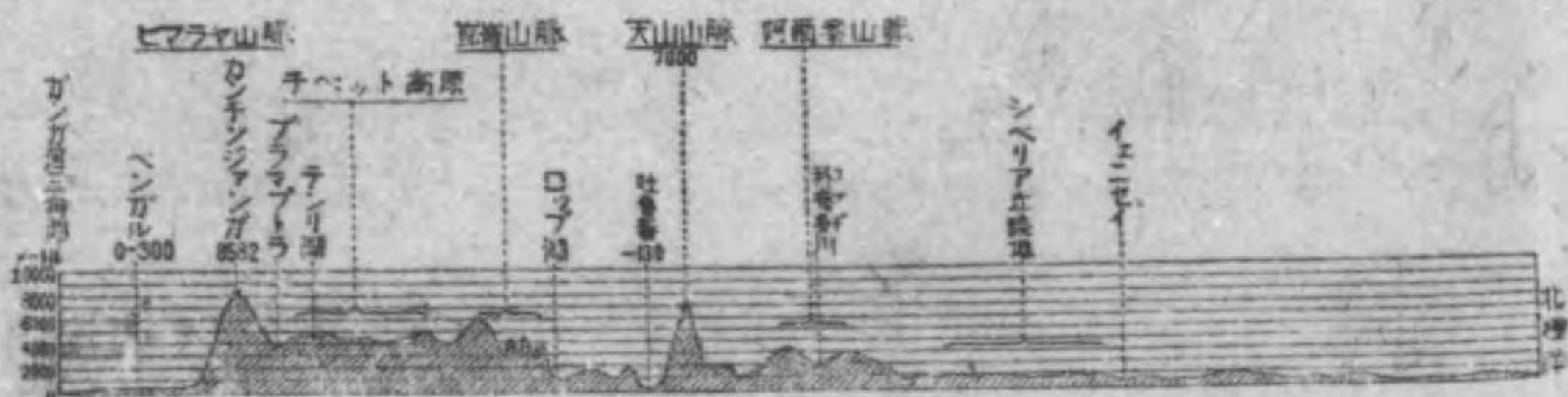
地形

に入り、そのうち紅海は、スエズ地峽の開鑿に依り、地中海と連る。スエズ運河とは即ち是なり。アジアの西南には、小アジア一名アナトリア半島あり、南は地中海、北は黒海に瀕し、兩海を連ぬる處は、島多きエーゲ海及び古今に名高き水道を作せり。

問 北緯四十度に於ける大陸の幅を地圖上にて測れ。アジアの最北端チェリウスキン Chelyuskin 岬と最南端ブル Burn 岬との間の大凡の長さは如何。アジア大陸とオーストラリア Australia 大陸との間に就きて述べよ。アジア東海岸の縁海、おもなる列島及び島半島、海峽を列舉せよ。

地形 アジアは、廣大なる山脈高原及び低地と、高峻なる山嶽とを以て、他の大陸に優り、尙

第一章 アジア



アジア南北の断面圖 (東經九十度に沿ふ)

三

27



地形図 アムダラ

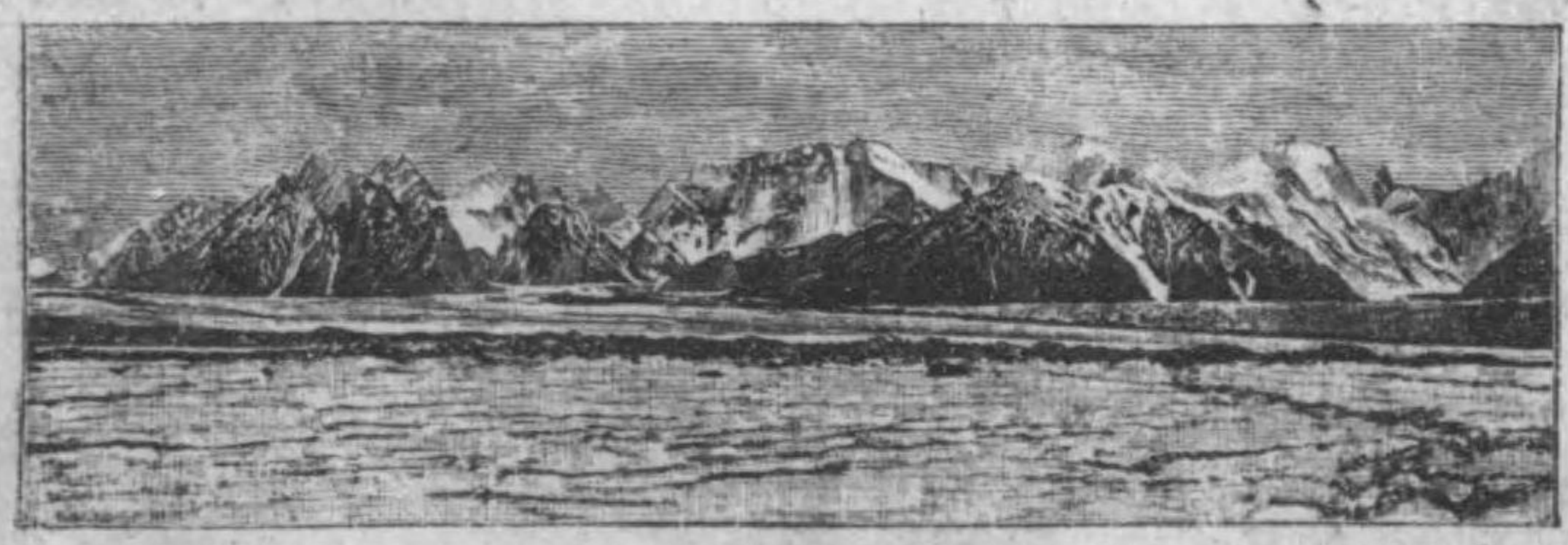
1:25,500,000

1この山脈には海抜千米の高峰多く、氷河諸處に存す。此外天山等の諸山脈にも氷河あり。

バミル高原東部の景



地理教科書 外國篇 上卷
 一部の窪地には、海面よりも低下せる處あり。大山脈は、世界の屋根と稱せらるるバミル高原より、東南に走れるヒマラヤ山脈に最も高く、中に世界第一の高峰エベレスト山(八八四〇米)あり。この山脈の北は、バミル高原の東に、ほぼ三角形に擴まれるアジアの中央大高原をなし、大陸の巨流は、概ねこゝに發源し



ヒマラヤ山の北に於けるカラコルム山の氷河

地理教科書 外國篇 上卷

四



印度ダージリンよりヒマラヤを望む

サ^{Sayan}ーヤン等の諸山脈あり。中にゴ^{Gobi}ビ沙漠を有する蒙古高^{Mongol}原此東方に横たはり、其外邊をなせる大興安嶺は、西藏高原の東に在る數多の縦走山脈と共に、中央大高原の東を疆る。支那の大河黄河揚子江は、共にこの斜面を東に下りて太平洋に朝す。大高原の西北には、廣大なる低原あり。その西

て、印度洋・太平洋及び北極海に注ぐ。高原の山脈は、大抵パミルを發して、東に放線狀に延び、崑崙^{Kunlun}・天山等の大山脈となり、その間に西藏高原・タリム盆地等を存す。又天山の北には、河爾泰^{Kashgar}

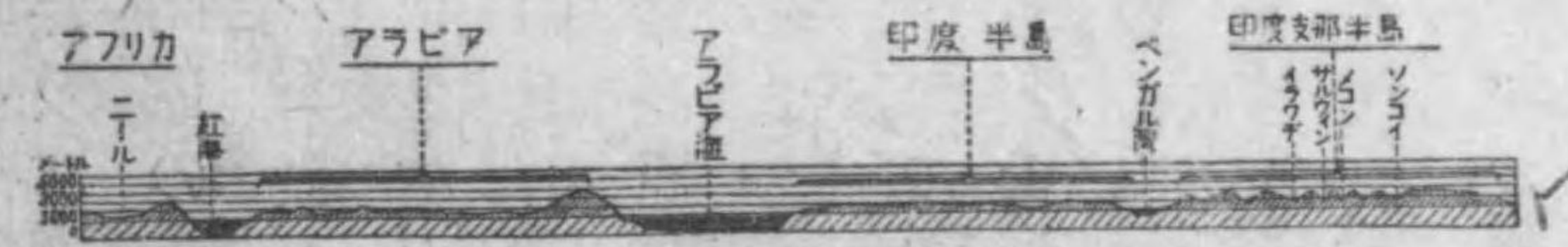
2 湖は黒海の水
面より低きこと
廿六米、鹽分甚
だ多し。アラル
海の水も亦鹹味
あり。

3 ヤプロノイ・ス
タノボイ等の山
脈はこの例。
4 湖面海拔四七六
米、最深處湖面
下一四三〇米。
主要河湖
延長 流域
百軒 平方計

メコン 三、六、二
インドス 三、六、二
ブラマプトラ 三、六、二
ガンガ 三、六、二
ヤツラト 三、六、二
チグリス 三、六、二
面積平方杆
カスピ海 四、五、三
アラル海 四、五、三
バイカル 四、五、三
バルハシ 四、五、三

南は、カスピ海・アラル海附近の大低窪地となり、自
ら東部ヨーロッパの低原に連り、内陸水系の一區域
を成せり。アム・シルの二川之に屬し、アラル海に
注ぐ。低原の東北部は、シベリア平原と稱せられ、
オビ・イニセイの諸川、この間を榮流し、三角口によ
りて北海に朝す。シベリア平原の東は、數多の低
き山脈、概ね西南より東北に走り、中に世界最深の
バイカル湖を湛へ、又北にレナ川、東に黒龍江を分

パミル高原より西に延互せるは、ヒンヅークシ・
エルプールズ及びカフカズ山脈等にして、そのさ
きは、ヨーロッパ中央以南の山脈と連り、南にイラン・
アルメニア及び小アジアの高原及び此等とエウ



アジア三大半島断面圖 (北緯二十三度に沿ふ)

フラト・チグリス二流の通ずるメソポタミア平地を隔て、
アラビアの沙漠高原あり。印度半島も亦、中にデカン高原
を有し、その北は有名なるインドス川及びガンガ・ブラマプ
トラ二川の流る、ヒンドスタン低原を隔て、ヒマラヤ山
脈に對す。印度支那は、ヒマラヤ山脈の東に在る縦走山脈
を以て骨髄となし、スマトラ・ジャバ・ボルネオ等のマライ群島
と、構造上の系統を同じうせり。此等諸島の大部分は更な
り、その以北、日本群島を経て、北アメリカなるアンウト列島
に至る間は、火山の噴出殊に著しく、尙、我富士火山脈は、南方
マリアナ列島方面にも延長せり。

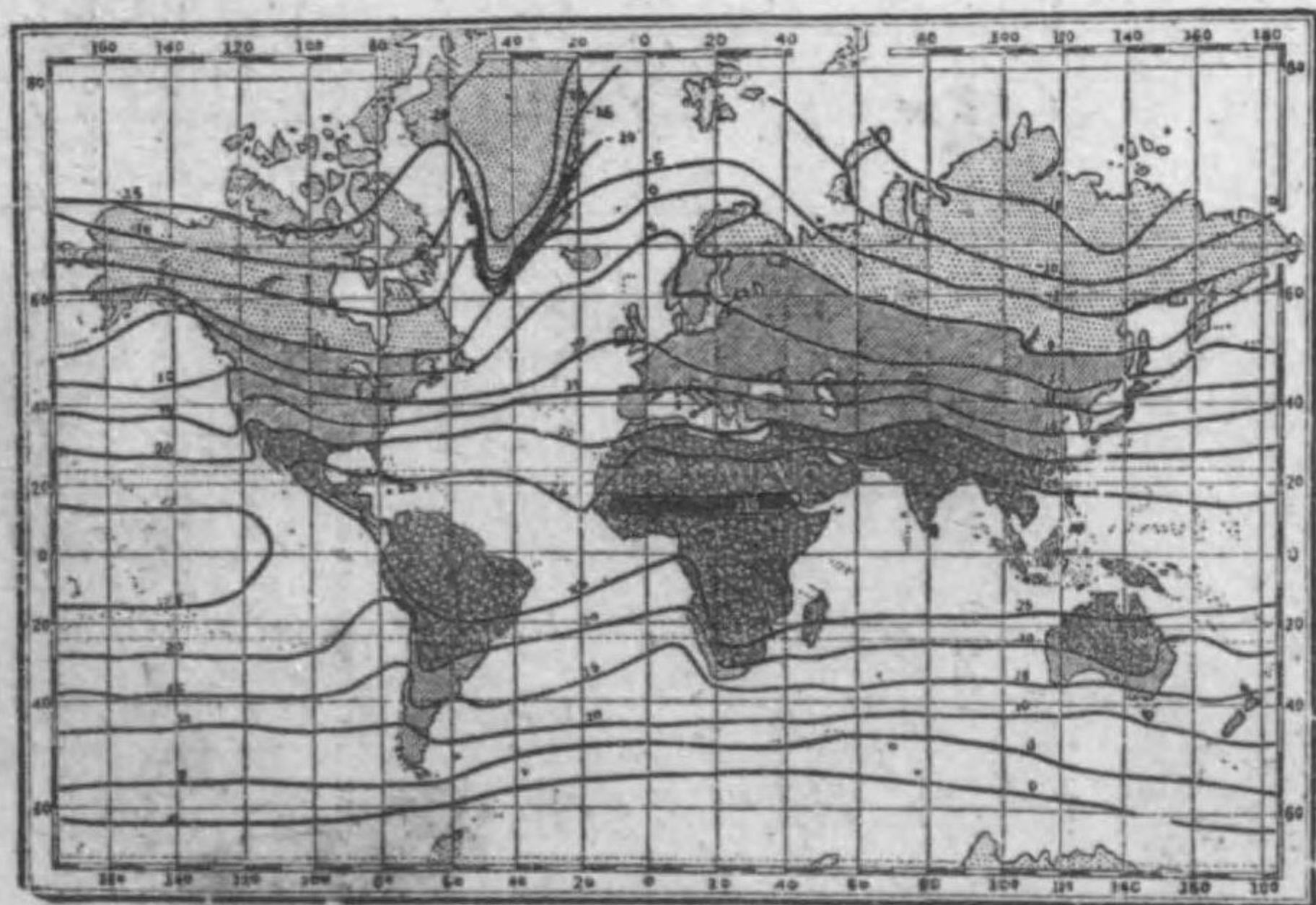
問 中央高原の地形につき著しき點を擧げよ 内陸水系の區域を白地
圖に表示せよ 地圖を見て南部アジアの河川を説明せよ 本邦と
カスピ海との面積比較の大略如何

氣候

1 レナ川下流に近
キペルホヤンス
クは世界で寒極
地と稱せられ、
一月の最低氣温
約零下攝氏七十
七度にノベメニ
とあり。

2 バグダドにて
は日陰の氣温
は五十五度に達
することあり。

氣候 大陸の廣袤甚だ大なるに加へ、地形變化に富み、高低の差大なれば、氣候の狀況各地一様ならず。北部アジアは、年中、氣温他に比して低く、シベリアの東北部には、世界の寒極と稱せらるゝ處あり。中部アジア及び西南アジアは、夏冬二季氣温の差頗る著しく、殊にイラン・アラビアの高臺は、夏季の暑熱甚だ酷烈なり。又降水量概して寡く、内陸には、ステップ(草原)及び沙漠、長大なる一帯をなし、遠くアフリカの北部と呼應せり。南部及び東部アジアは

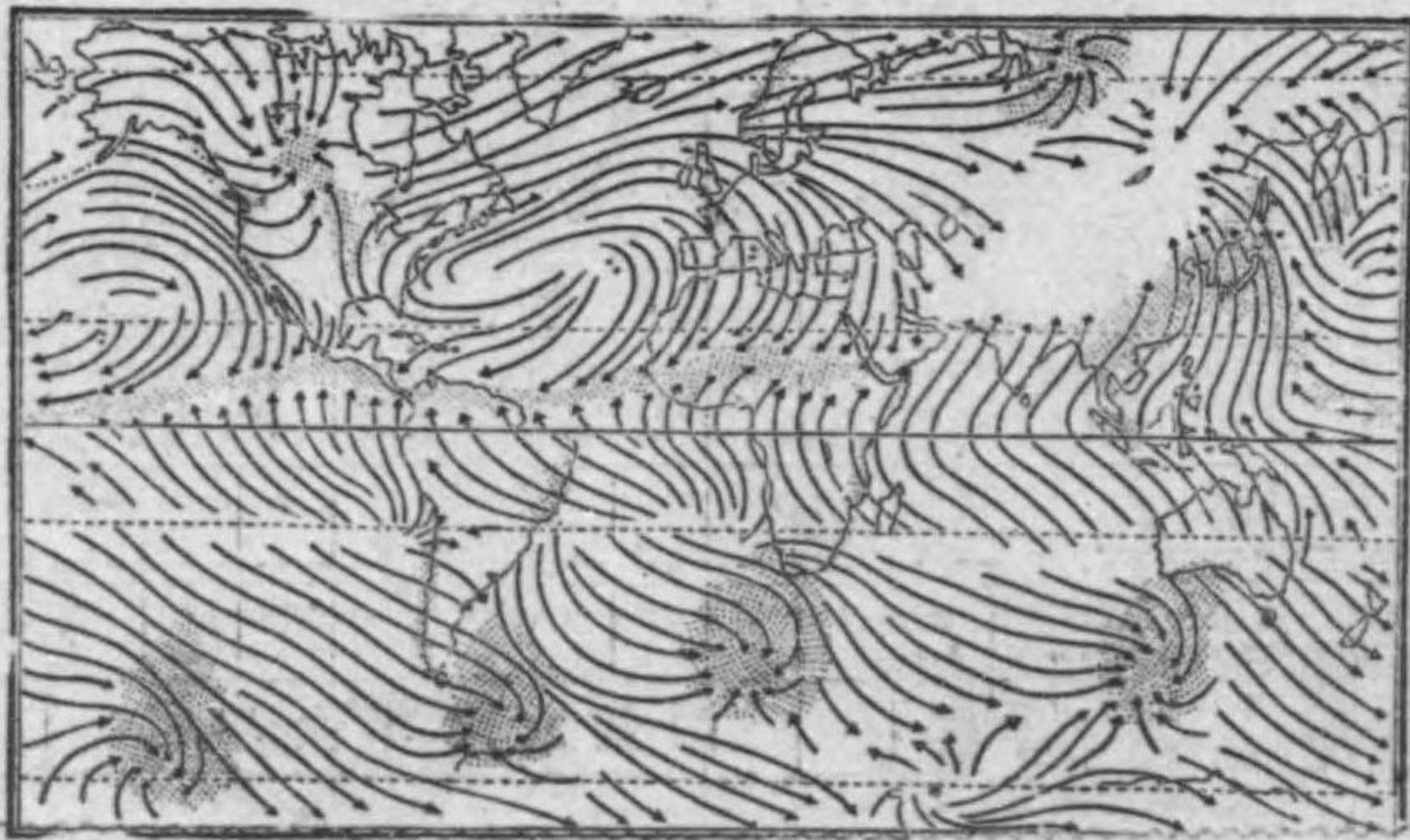


圖線温同年全世界

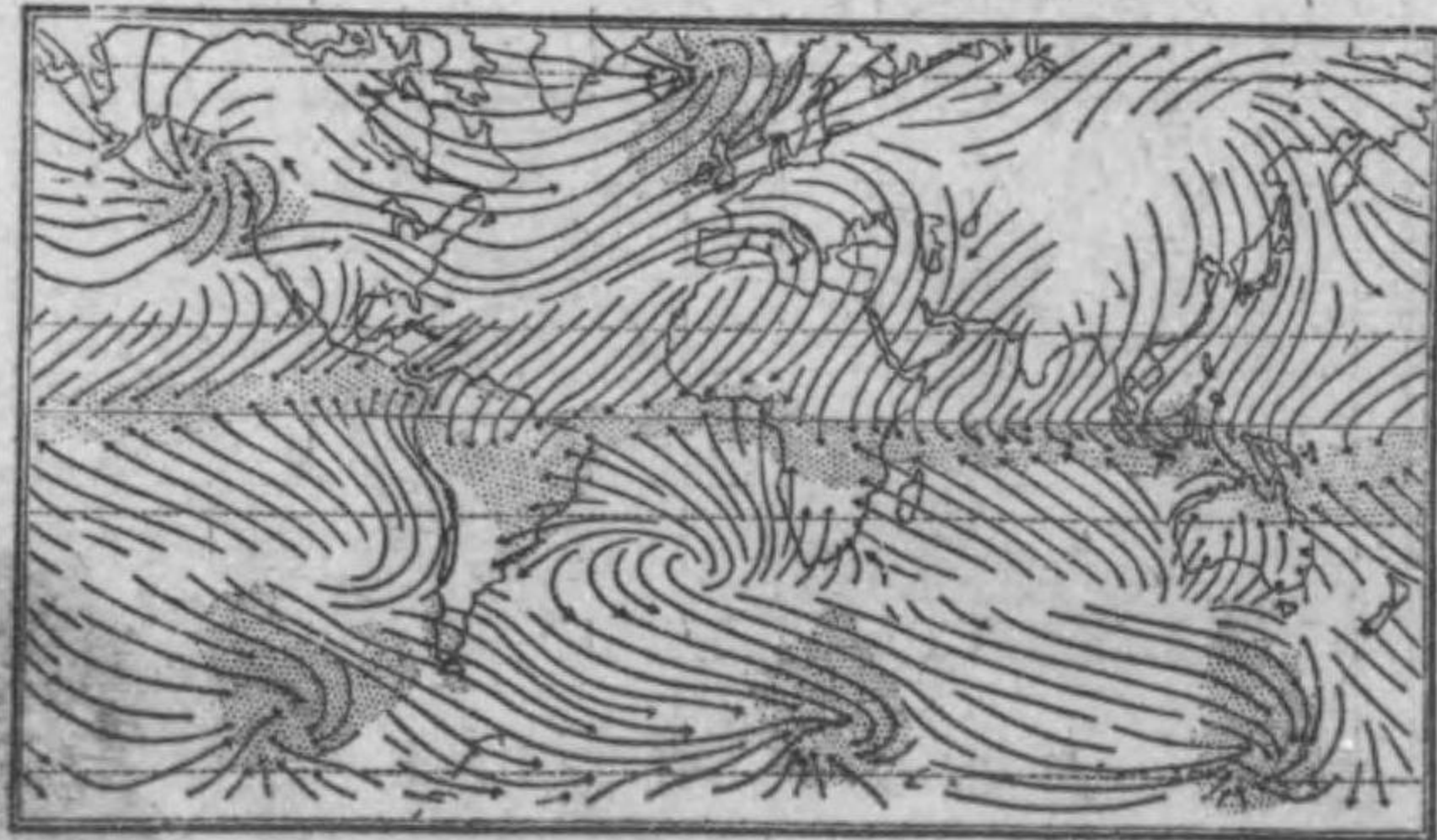
2 ヒマラヤ山脈の
東南斜面に全年
の降水量一二五
〇〇耗に及べる
處あり。

印度洋及び太平洋と大陸との間に季候風流行し、冬季は、概ね天晴れ、空氣乾燥し、夏季は、陰鬱の天候多く、多濕なり。尙、大山脈の高處は、氣候終歲、近寒にして、氷河を存するもの少からず。

(夏の球半北) 圖向風界世



(冬の球半北) 圖向風界世

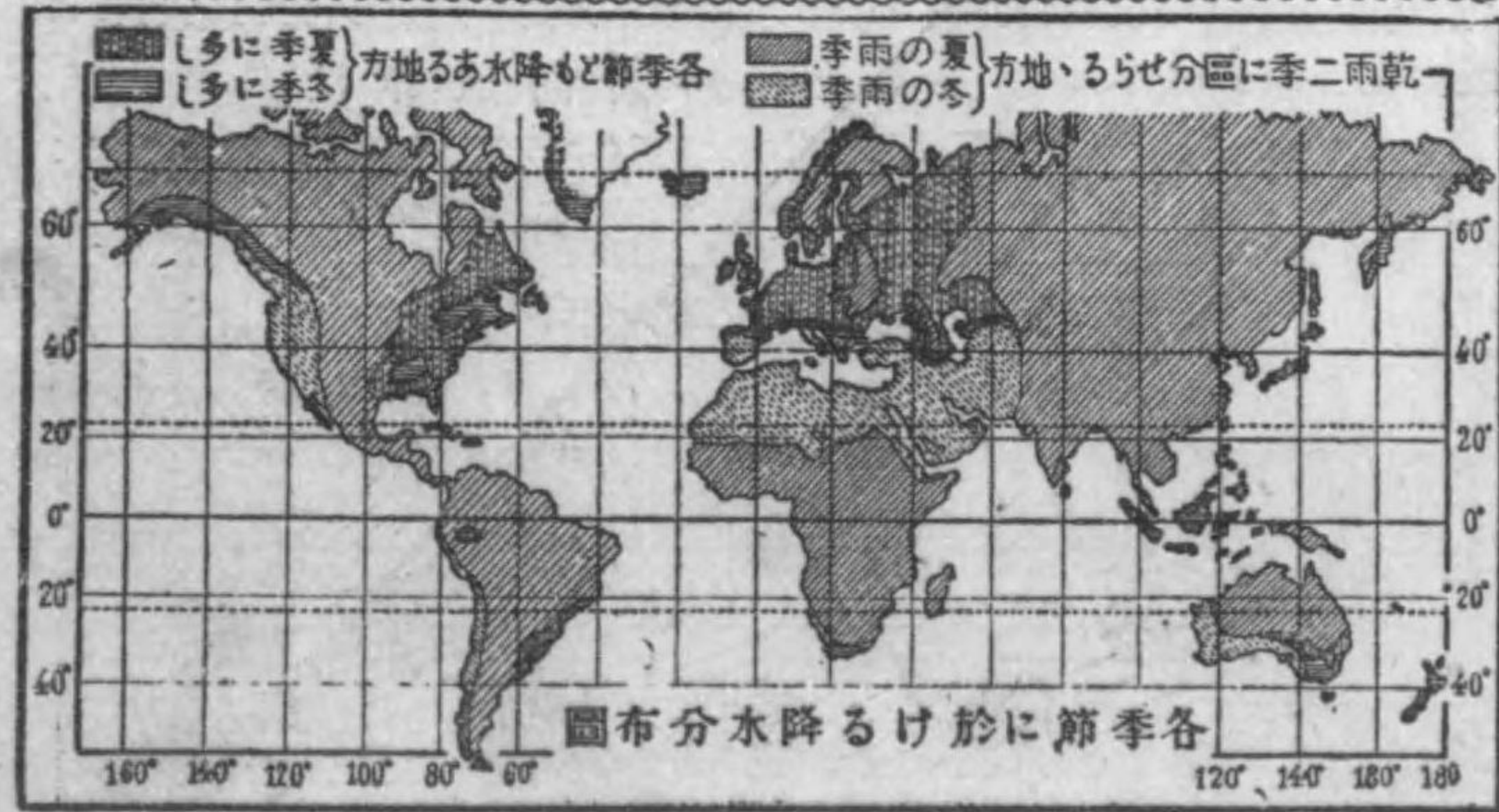


問 沙漠帯を生ずる原因如何 日本に於ける季候風の方向に就きて述

生物の分布

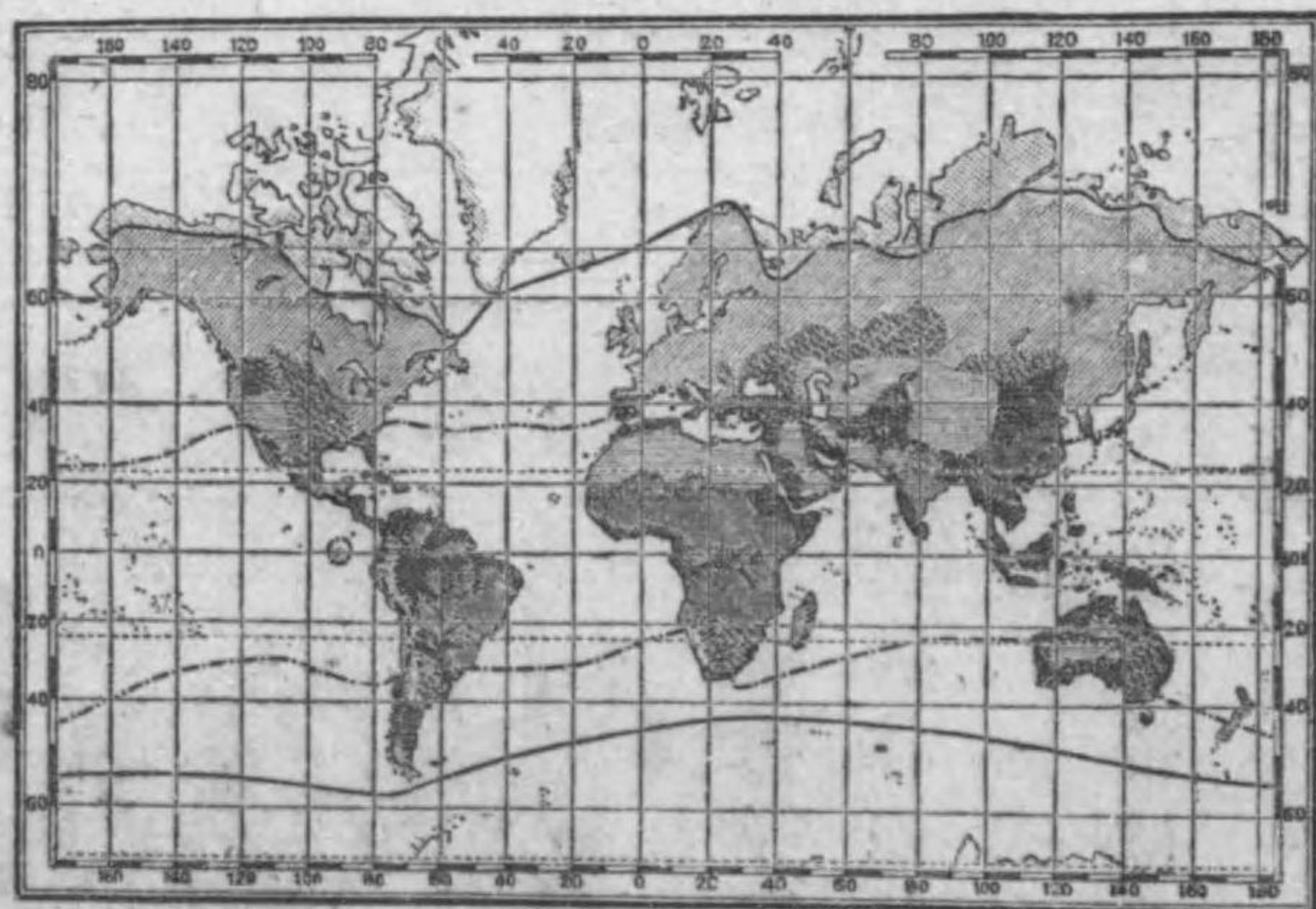
生物の分布
面積は廣
く、地形は複
雑に、氣候亦

べよ。
酷寒烈
暑の地
の沿岸
より遠
ざかれ
る所以
につき
て述べ
よ。



區々たれば、生物分布の變化甚だ多し。植物にては、北に凍土帯あり、北極海岸を占め、その南は針葉樹繁茂す。是より中部アジアの高原低地及び西南アジア一帯の地方は、草原及び沙漠の發達著しけれども、イラン・アラビア・小アジア等の高原の一部は、地中海沿岸に通有の亞熱帯林茂り、オリヴァ樹・柑橘類・無花果等の重要産あり。南部及び東部アジアの季候風帯に至れば、南に榕樹・チーク・マンゴロー

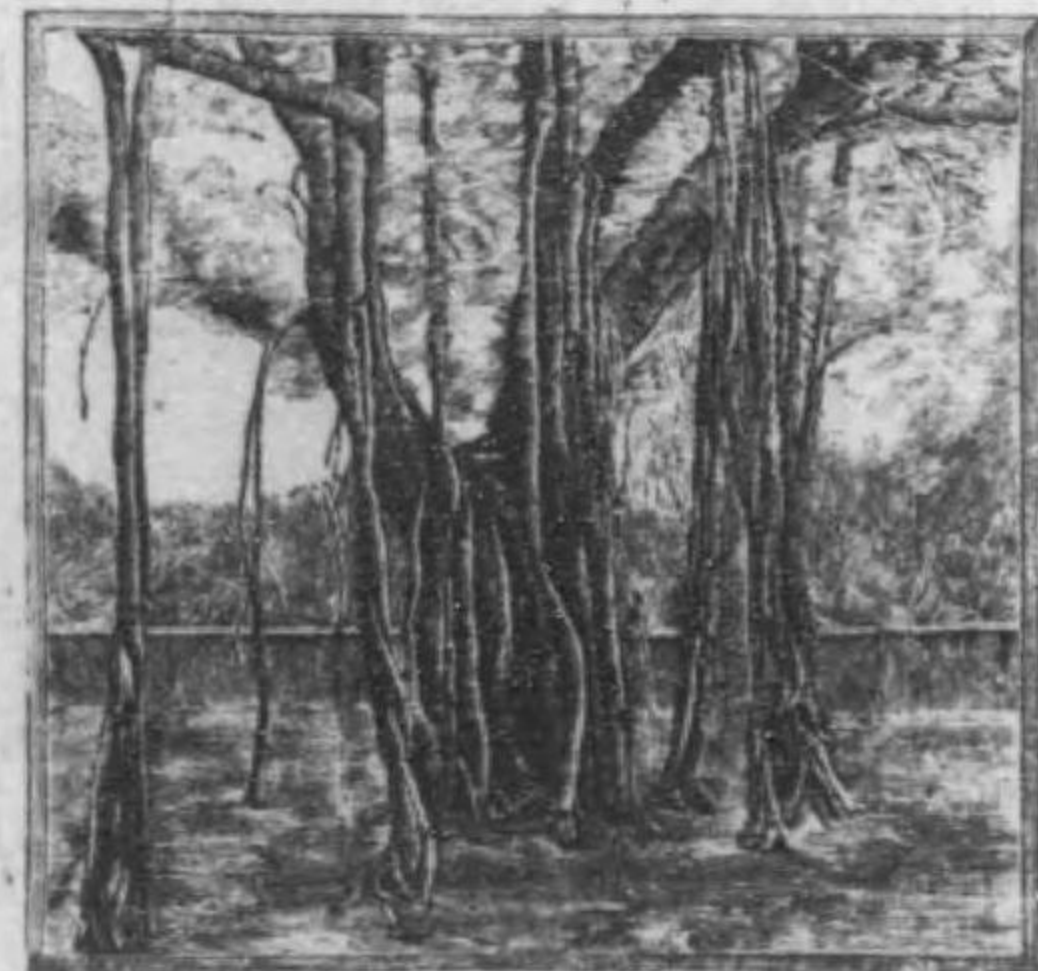
觀概布分の物植



茶樹 橡樹 橡樹の自生木樹
茶樹 橡樹 橡樹の自生木樹
茶樹 橡樹 橡樹の自生木樹
茶樹 橡樹 橡樹の自生木樹



に進むに従ひ、亞熱帯林・温帯林にうつる。季候風帯は、米・茶・珈琲・甘蔗・煙草等の農業植物を産すること多し。

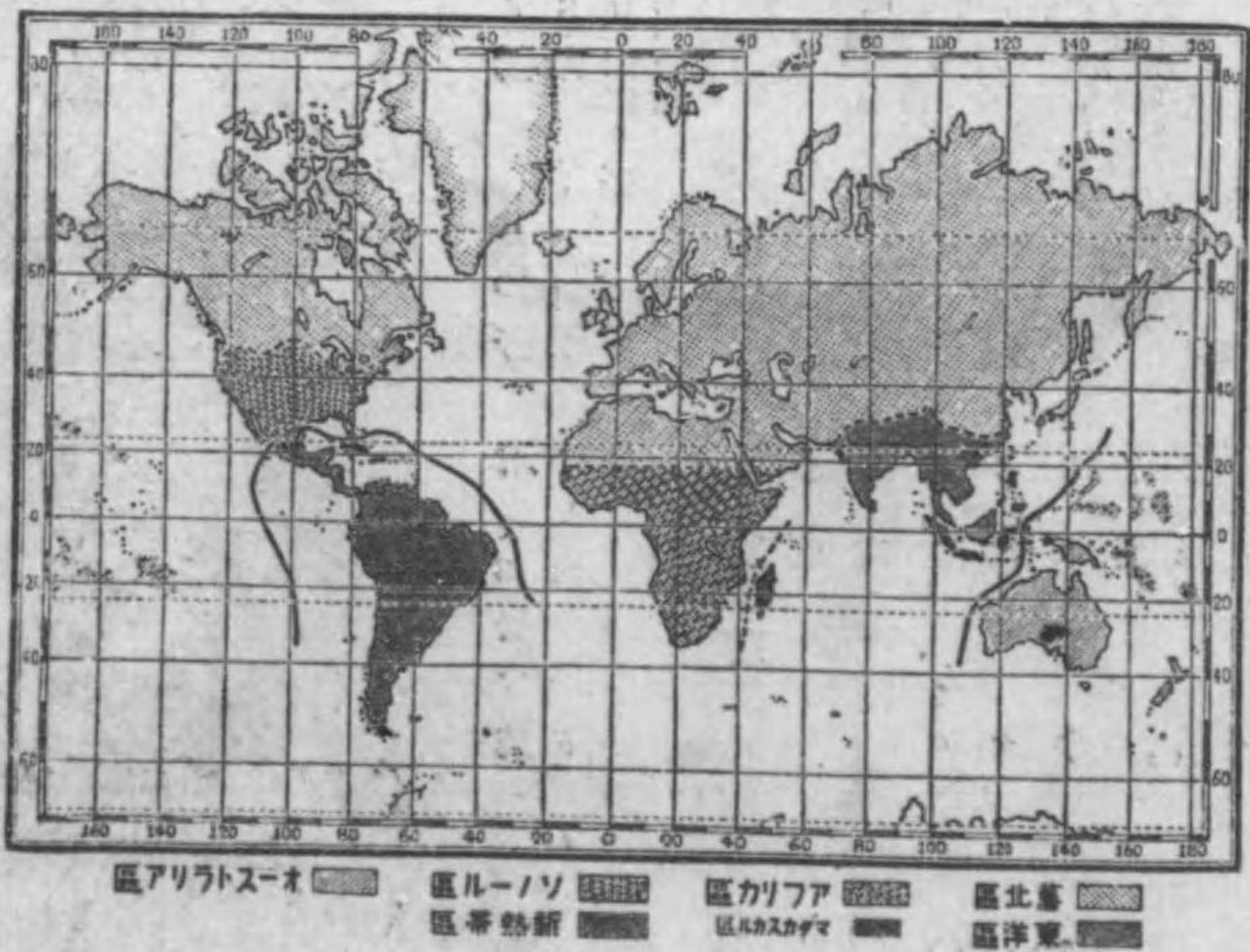


印度の榕樹

1 ステップ及び沙漠帯にても之を見る。
 2 牛の一種にしてまた有用の家畜なり。

動物は、分布上、大部分舊北區に屬し、世界有用家畜の原産地として著はれ、尙、現時にても、馬・羊・牛・豚の頭數は、實に全世界有數の位置を占め、野獸にして、性兇暴なるは、僅に狼・熊等あるのみ。印度及び印度支那地方は、別に東洋區をなし、前述家畜の外に、駱駝・象・水牛・ヒツ等あり。猛獸には、虎・獅子・豹等あり。又類人猿・猩々・犀・單角・獬・鱈魚等も棲息し、孔雀もこゝを本土とす。この外、北極海及び北太平洋沿岸に

観概布分の物動界世



物動の區北舊



- 1 海豹
- 2 白熊
- 3 ヲミツメ
- 4 麋
- 5 鹿
- 6 海豹
- 7 羊
- 8 羊
- 9 山羊
- 10 水牛
- 11 牛
- 12 鹿
- 13 駱駝
- 14 羊



物動の區洋東



- 1 猿類
- 2 象
- 3 虎
- 4 クロコダイル
- 5 水牛
- 6 水牛
- 7 犀
- 8 犀

は、數多の海獸及び水禽を見る。

問 内陸氣候と植物分布との關係如何。我國にツンドラの一種あることを聞知せざりしか如何。熱帶地方の香料植物につき知れるもの二三を挙げよ、又果實は如何。北部アジア沿岸の海獸の實例如何。

各 說

東部アジア

支那 總面積一一一四萬平方千米 人口三二一〇〇萬 人口密度二九人

區 分

支那本部(北支那・中支那・南支那) 面積三八八萬平方千米 人口三〇二〇〇萬 人口密度七八人

直省 滿洲(東三省)

面積九四萬平方千米 人口一三〇〇萬 人口密度一四人

新疆

面積一四三萬平方千米 人口二〇〇萬 人口密度一四人

蒙古

面積二七九萬平方千米 人口一八〇〇萬 人口密度〇・七人

藩部

青海・西藏

面積二一〇萬平方千米 人口二〇〇萬 人口密度〇・九人

位置 支那は、アジアの中央より太平洋に向つて開けたる略正三角形の輪廓をなせる大陸國にして、その面積、實に全アジアの四分の一に達し、北西南の三面は、ロシア、イギリス、フランス等の諸強國の領土によりて圍まる。

地形・海岸 地形上、アジアの中央大高原と、其東に漸下せる地方とに大別せらる。高原の地は、域内、境上共に高大なる山脈連亘し、其間に草原又は沙漠の臺地横たはり、是より東方の地は、地形東に漸下し、北方にては、滿洲(東三省)及び北支那の低原を擴め、南方にては、南支那の山地をなせり。崑崙山系に屬せる秦嶺山脈は、南北兩支那分界嶺として名高し。南支那は、その南斜面に、重要河川珠江を通ずるに過ぎざれども、北斜面には、揚子江流域の一半を有し、數多の支流と、その一部を綜合する洞庭鄱陽の二大湖とを存す。揚子江は、

1 南支那は更に中部・南部に分たれ概ね揚子江の流域を中部支那、その以南を南部支那と稱す、又北支那と稱するは通例北部支那の謂なり。

2 黄土はアジアにては中央アジアの諸地方より北支那一帯に弘く分布す。

(省肅甘) 流上河黃



西藏高原の東部に發源せる、世界の大河にして、中流以下舟運の利多く、沃野亦遠く開け、古來支那開發の中樞をなせり。

北支那には、揚子江と源流相近き黄河あり、黄土層の地方を貫流し、北支那の低地に入り、渤海に朝す。下流は、古來氾濫の害多く、河道の變遷屢にして、舟運の利甚だ少し。渤海の東北には、滿洲(東三省)あり。興安嶺と朝鮮との間、東北より西南に互り



(滬吳) 流下江子揚

て、一帶の低地延び、そのうち、渤海に注ぐ遼河の流域は、大凡南滿洲と稱せられ、我國との關係深く、東北に流れて黒龍江に朝する松花江の流域は、北滿洲と呼ばれ、ロシアの勢力圈たり。

支那は、面積の廣大なる割合に、海岸少く、且つその面する處は、悉く東アジアの縁海なるを以て、海上の活動頗る自由を缺けり。海岸は揚子江口を界として、南北に兩分せられ、北方には、遼東、山東の兩半島ありて、渤海、黃海を分ち、兩海岸概ね平滑にして、直に北支那の低地に連り、海底淺く、船舶の碇泊に便ならず。南方は、概ね弧狀を呈して西南に走り、小出入相繼ぎ、良錨處少からず。西南端に近く瓊州島あり。氣候 高原の地方は、一年を通じ、寒暑共に烈しく、空氣甚しく乾燥し、爲に沙漠をなせる地少からず。是に反し、東部諸

世界に於ける支那人の分布圖



地方は、季候風帶に屬し、そのうち滿洲及び北支那の一帶は、稍大陸性を帶ぶれども、南支那は、概して溫暖にして、一般に降水量多く、晩夏初秋の頃には、南海岸一帶、颱風に襲はるゝこと屢なり。
住民 支那は、人口約四億と稱せられ、その數の多きこと世界無比なり。人口の分布は、各處一樣ならず、中にて、支那本部は、その密度の大なること、世界最大稠密の地と比肩すべく、年々、印度支那、南洋地方に出稼若しくは移住するも

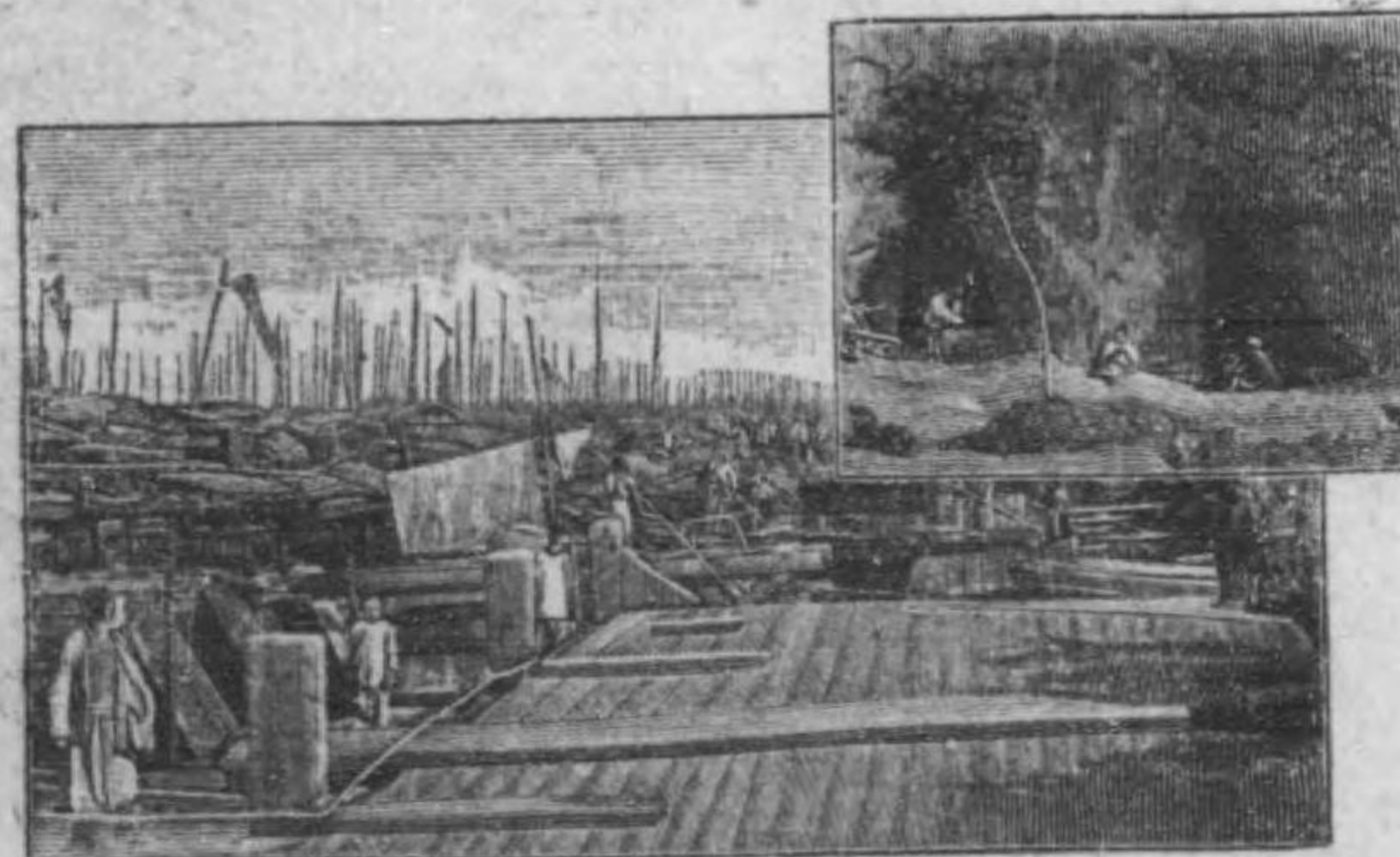
漢人種風俗一斑



多數を占むる漢人種は、古來、支那文明の代表的種族にして、性勞苦に耐へ、夙に高度の開化に達し、主

種族の多
に
分
れ
た
そ
の
最

河南省黃河沿岸土層に於ける居生活



船内生活 (上海黃浦江)

の亦多く、現時、在外支那人の總數八百萬人を超ゆと云ふ。支那人は、黄色人種に屬し、數

雍和宮 (北京喇嘛寺)



喇嘛僧

人修養の本づく所となりしも、時勢の進運に伴はず。國人の漸く覺醒するに至りしは、最近に屬し、専ら我國及び泰西

諸國に倣ひ、新教育の普及につとむ。されど、地方及び種族により、知識の程度著しく差異あり、従つて、宗教の如きも、多種多様に於て、佛教及びその一派たる喇嘛教、道教、回教並にキリスト教等行はる。

政治 支那は、古來、君主制の國なりしが、近年清朝倒れて中華民國新に起り、共和政を布き、大總統舉げられて政機を握り、國務總理以下各部の總長ありて、行政の事に當れり。然れども、國古くして情弊内に蟠り、地廣くして各民族の統一全からず、各省の督軍の如きは、權力頗る重く、募兵に成れる新軍を擁して勢を振ひ、中央政府の威令必ずしも地方に及ばず、殊に藩部に至りては、中央との連絡極めて薄弱にして、中には半獨立の狀をなすものあり。一方外國との關係を觀るに、過去數十年來、列強事を構へて、或は土地を兼併し、或

1 陸軍と相對して
中央政府直屬の
海軍あれども、
その勢力微弱に
して言ふに足ら
ず。

は之を租借し、或は鐵道の敷設、鑛山の採掘等に、それぞれ利權の獲得を競争する姿なるを以て、その將來に影響する所、獨り此國に止らず、隣國たる帝國とも至大の關係を有す。

地方誌

一、滿洲(東三省)

區分

盛京省

面積一四萬平方
人口五八〇萬人 人口密度四一人

吉林省

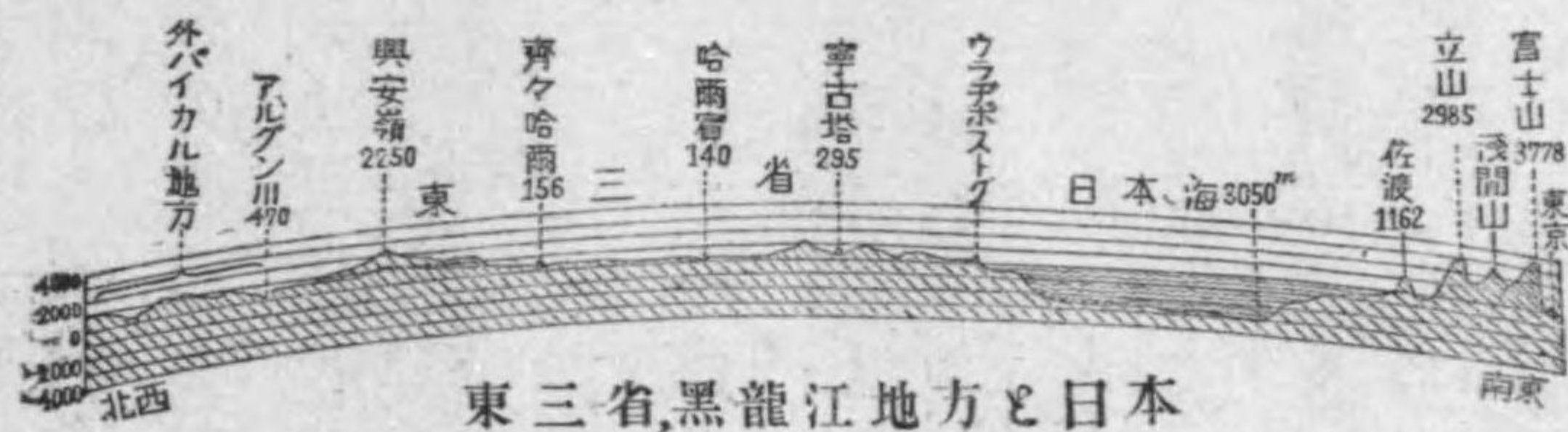
面積二七萬平方
人口五四〇萬人 人口密度二一人

黑龍江省

面積五三萬平方
人口一六〇萬人 人口密度三人

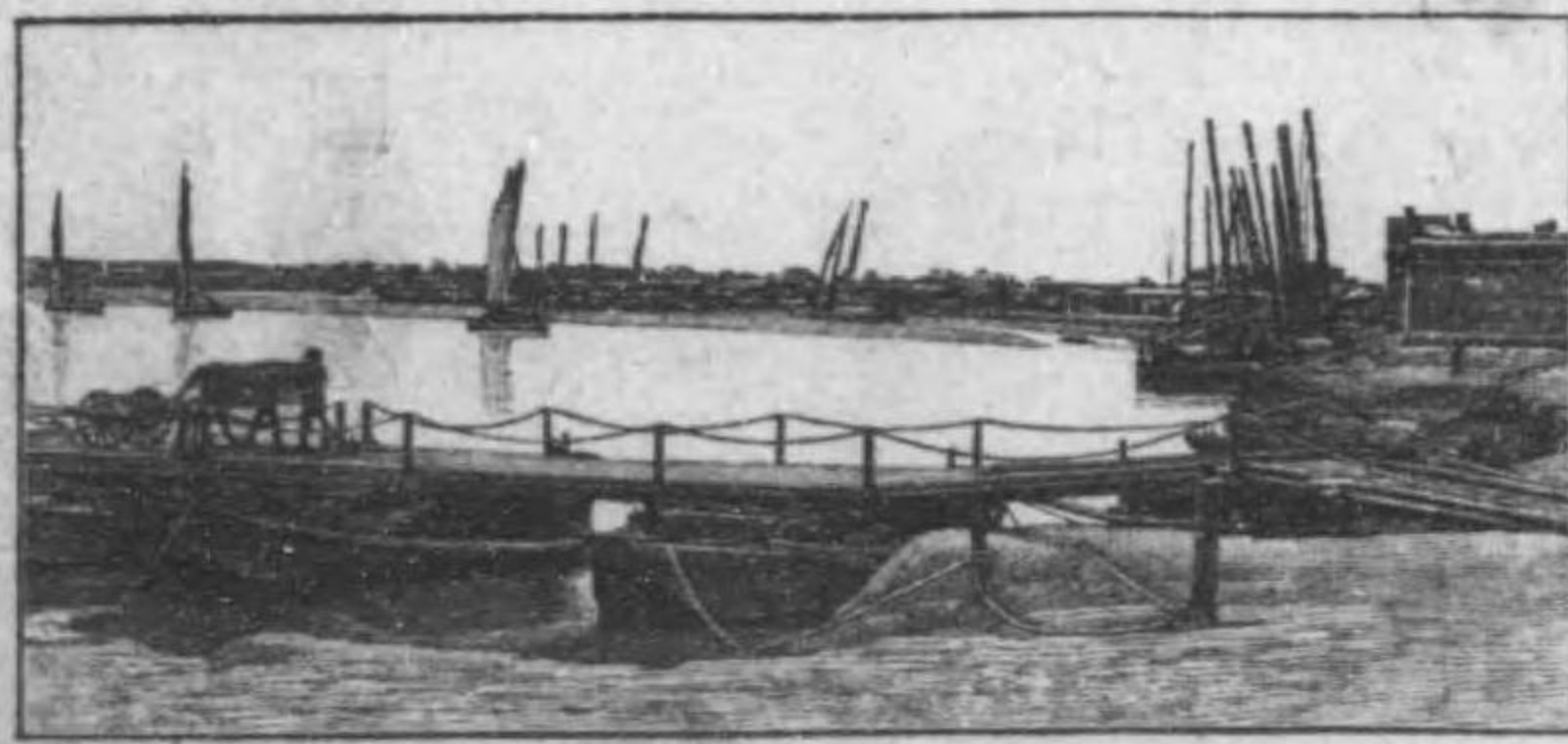
位置・地形

支那の東北部に位し、東南は我朝鮮に、東より北はシベリアに境し、西は蒙古及び支那本部と相據り、その中央は、西南より東北に亘れる滿洲の平原にして、遼河及び松



花江こゝを貫流す。二流は舟運の利多く、遼河口には、滿洲の名港あり。海岸は、遼東半島によりて東西兩面に分たれ、西は渤海に、東は黃海に臨み、半島の尖端は、我租借地關東州にして、海岸の出入特に著し。

氣候・産業 大陸の一部を占



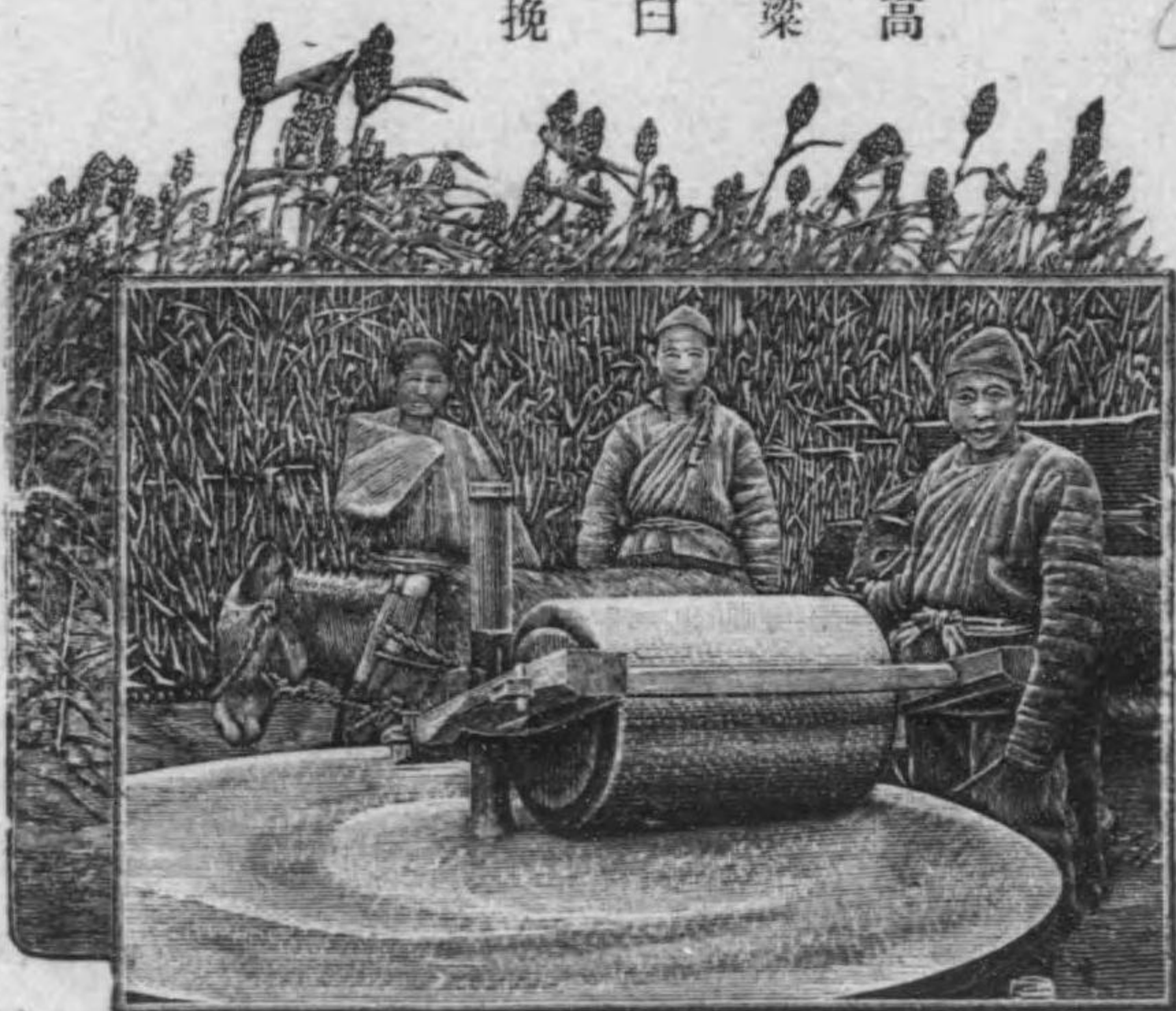
(港流上の運舟河遼) 口江通



む望を河遼ひ向に西りよ嶺鐵

1 冬季日本海沿岸に盛んに雪を降らしむる風はこの方面に發生する高氣壓に原因す、尙、梅雨季はこの南部に於て我國よりも短期間類似の現象を呈す。

挽白梁高

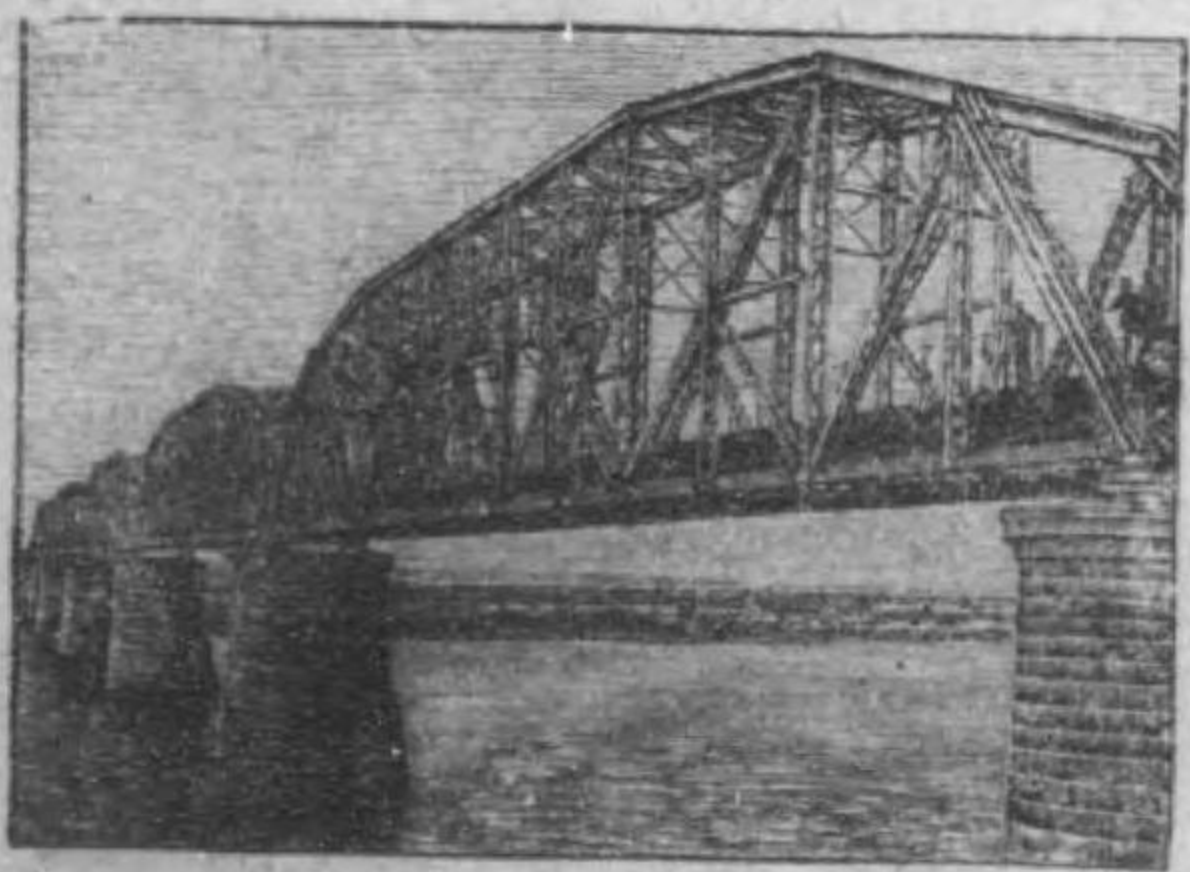


むるを以て、寒暑の差頗る大にして、降水量は一般に少し。産業は、農業最も著しく、大豆・高粱・玉蜀黍・小麥等の産に富み、

牧畜にては、驢・騾・牛等の飼育盛んに行はれ、南部には柞蠶絲の産も少からず。鑛物は、各種に互りて産出すれども、最も重要な石炭にして、撫順の如きは、良質なると、埋藏量の豊富なるを以て名高し。又近年大連その他の大都會地には、各種の工場も設立せられ、豆油・豆粕・麥粉の製造盛んなり。外國貿易は

専ら我國及び歐米諸國との間に行はれ、その大部は大連營口の二港を經由し、唯一部ロシアとの貿易は、哈爾濱又はウラヂポストクを經由して取引せらる。

交通 鐵道は、大部分我國及びロシアの兩國に屬し、我南滿洲鐵道は、大連に發し、長春に終り、その支線には、朝鮮の幹線と連結する安奉線あり。北には、東清鐵道の東滿鐵道通じ、西方シベリア鐵道の主要部と連絡し、東方はウラヂポストクに至る。線上哈爾濱より支線を出だして、わが南滿洲鐵道に長春にて連結す。尙、支那の京奉線は、我南滿洲線と奉天にて連結し、天津を経て北京に達す。黒龍江の本支流及び遼河は、航運頗る盛んにして、



橋鐵の江花松道鐵清東

1 滿洲族之に屬す

内陸交通を助け、又海上の交通は、大連及び營口を發着點とし、主として、我國及び支那本部の諸港との間に行はる。底電線には、佐世保より通ずる一線及び大連より起り芝罘に通ずるものあり。

住民政治 もと、ツングース族の居住せし處なれども、世の變遷と、漢人種の來住とに影響せられ、此等は邊鄙の地に残存し、現住民の多數は、南方より來れるものなり。滿洲は近世に於ける東亞政局の革新に動かされ、政治・經濟上、北部はロシア、南部は我帝國と交渉關係するところ深く、政治上の形勢甚だ複雑せり。然れども、二國の特權即ち鐵道租借地等の事を除けば、全部の統治三省の督軍によりて實施せられ、中にて、盛京奉天督軍權威最も大なり。

都會 盛京(奉天)省 南滿洲鐵道は、大連より發し、大石橋に

*本邦領事館所在
地符號 以下之
に準ず。

河 遼 と 口 營



至り支線を營口に出だす。營口(七)は、遼河の港にして、大豆及び其製品を出だし、冬季を除けば、船舶の出入頗る盛んなり。大石橋の北には、我駐劄軍司令部の所在地たる遼陽、滿洲第一の大都奉天あり。奉天(一八)は、古來滿洲に於ける政治・商業の中心地にして、南滿洲に於ける鐵道交通

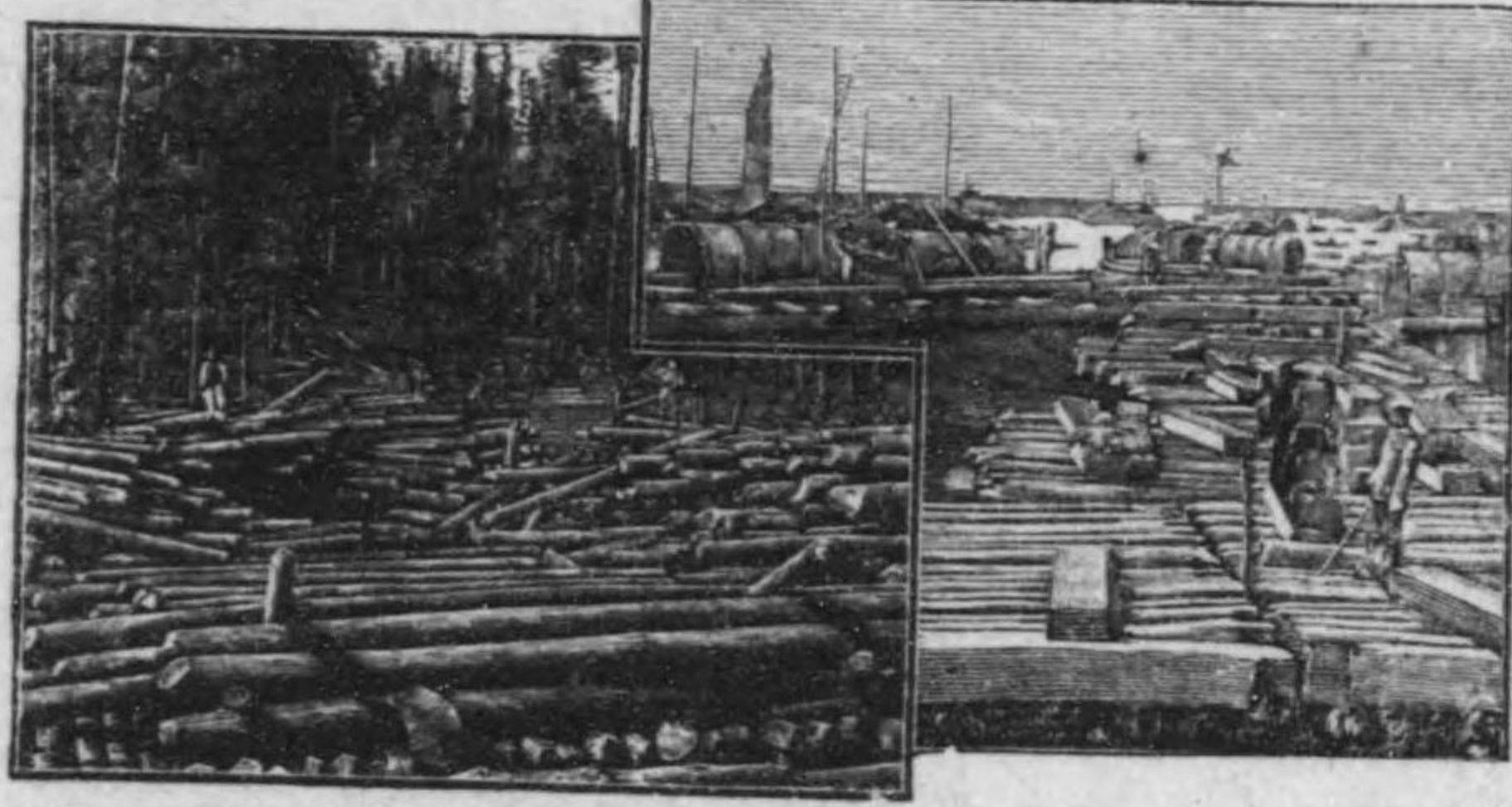


天 奉

(り在に郊北の天奉てしに廟宗太の清) 陵北

1この外、烟臺、本溪湖等にも炭坑あり。
本溪湖(支線)

林 森 山 白 長 (東 安) 著 到 筏 那 支

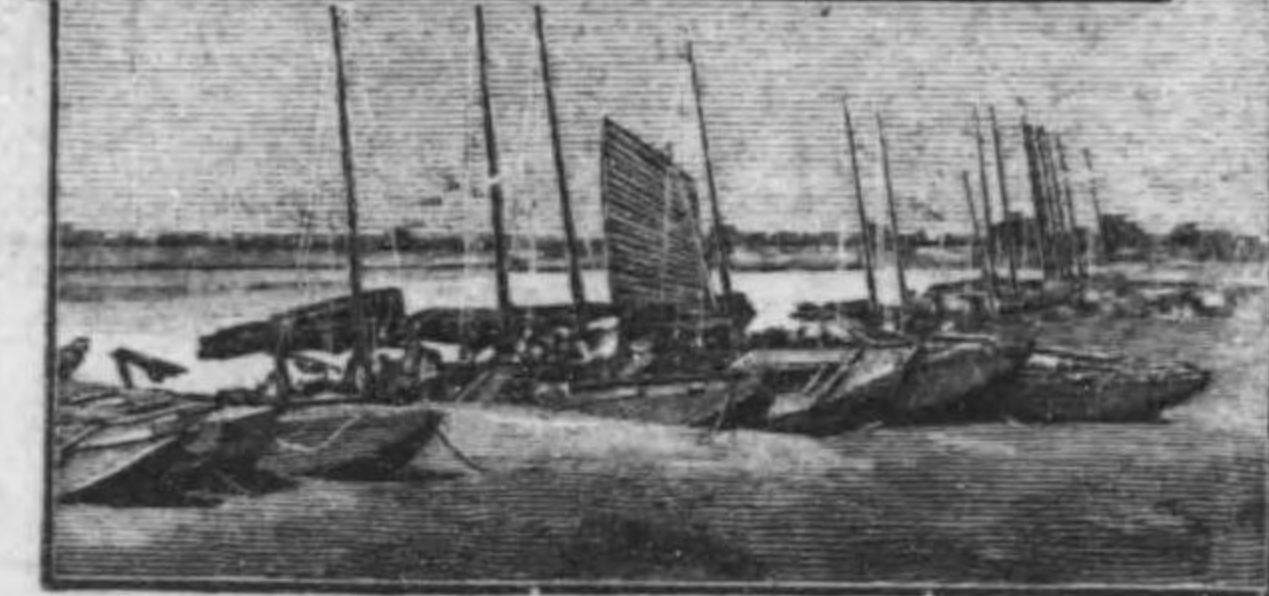


港 東 安 街 市 本 日 の 東 安



の中心たり。遼西の地には、新民府法庫門あり。奉天の東には、有名なる撫順炭坑あり。奉天より朝鮮に通ずる安奉線は、鴨綠江岸なる安東に至りて、京義線に連結す。安東(一四)は有名なる木材輸出港にして、附近の沿岸に海港大東溝あり。奉天の北には鐵嶺あり、西に馬蜂溝を控へ、大豆並にその製品の生産を以て名高し。

鐵嶺東門外大豆問屋

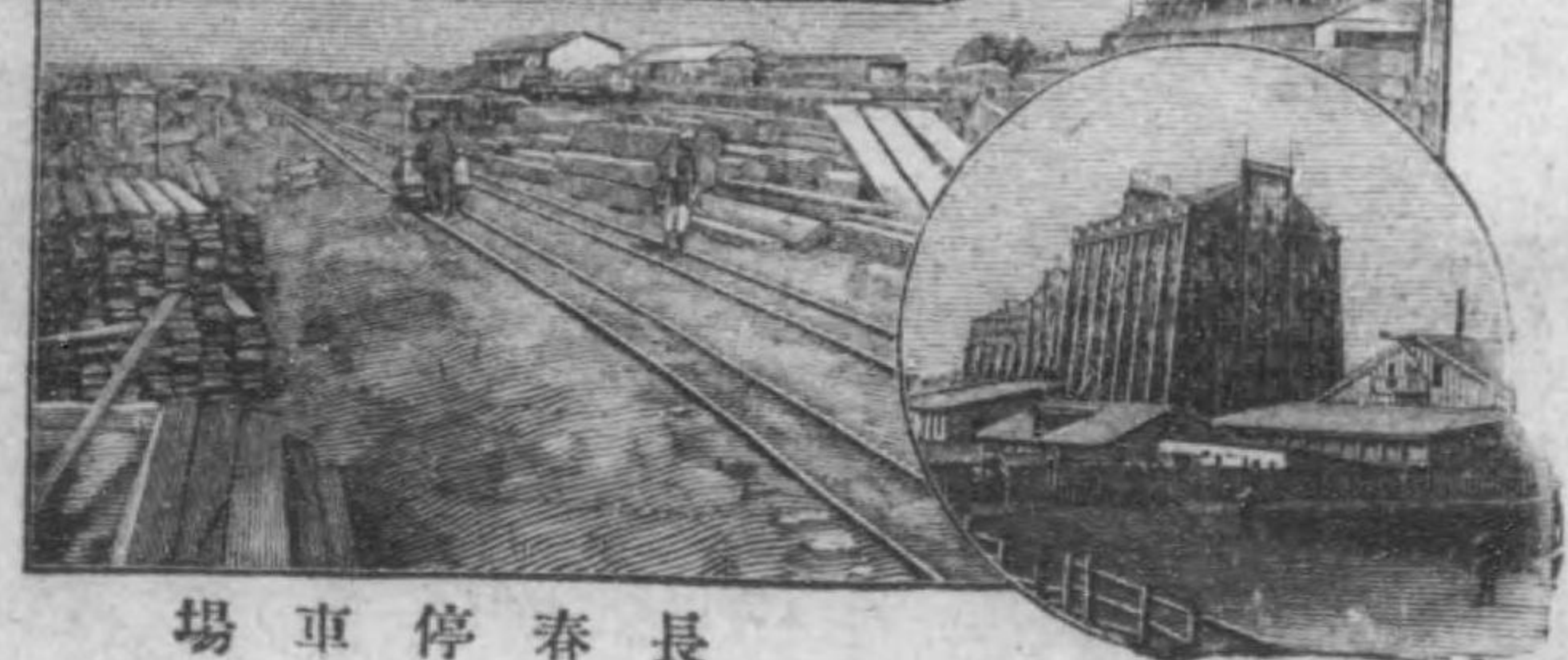


遼河馬蜂溝埠頭

吉林省 南滿洲鐵道は、長春にて東清鐵道に連る。長春(四)は、吉林南部の商業地にして、又滿洲に於ける日本・ロシア二國の勢力境界線に立て



長春大豆集積の光景

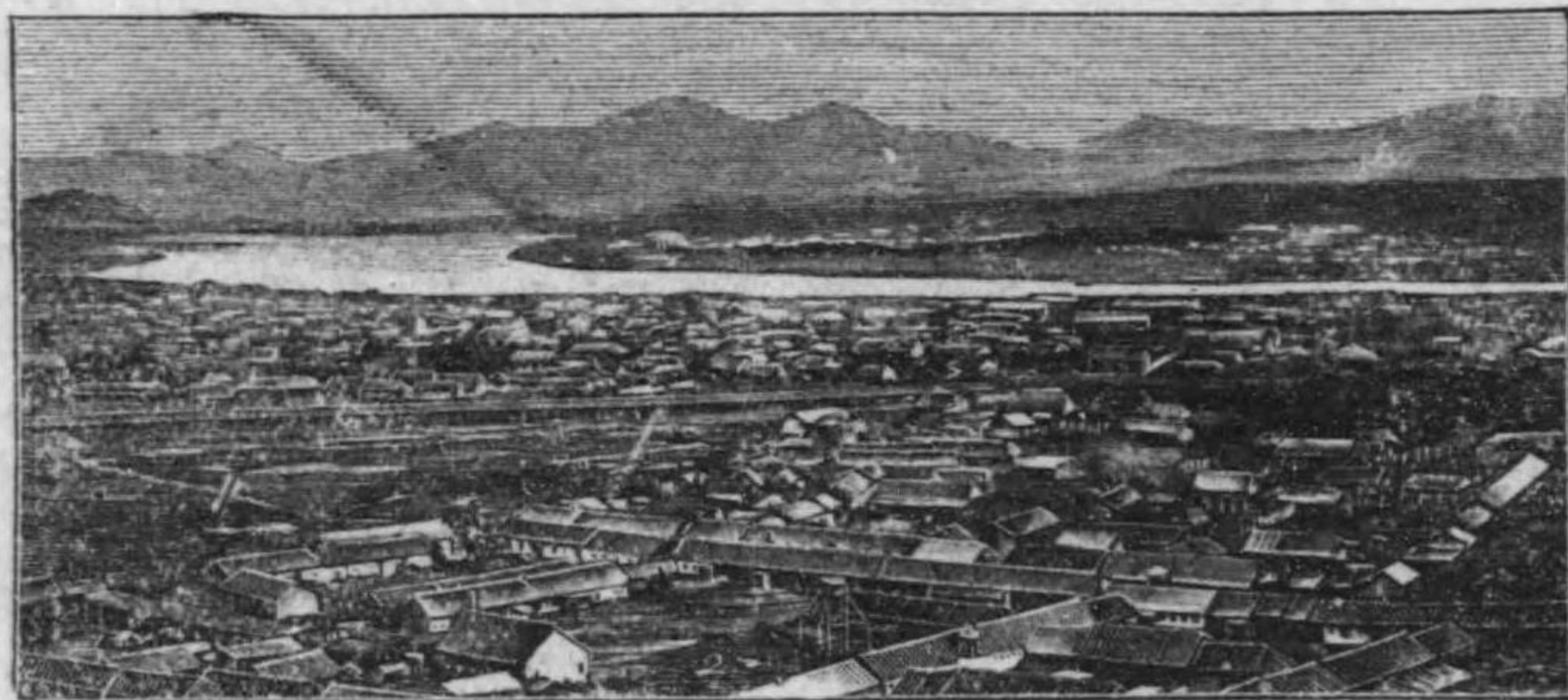


長春停車場

哈爾濱製粉會社

2 吉會線(吉林と朝鮮の會寧間)は現時豫定線にしてその完成の曉は滿洲横斷の重要線となる。

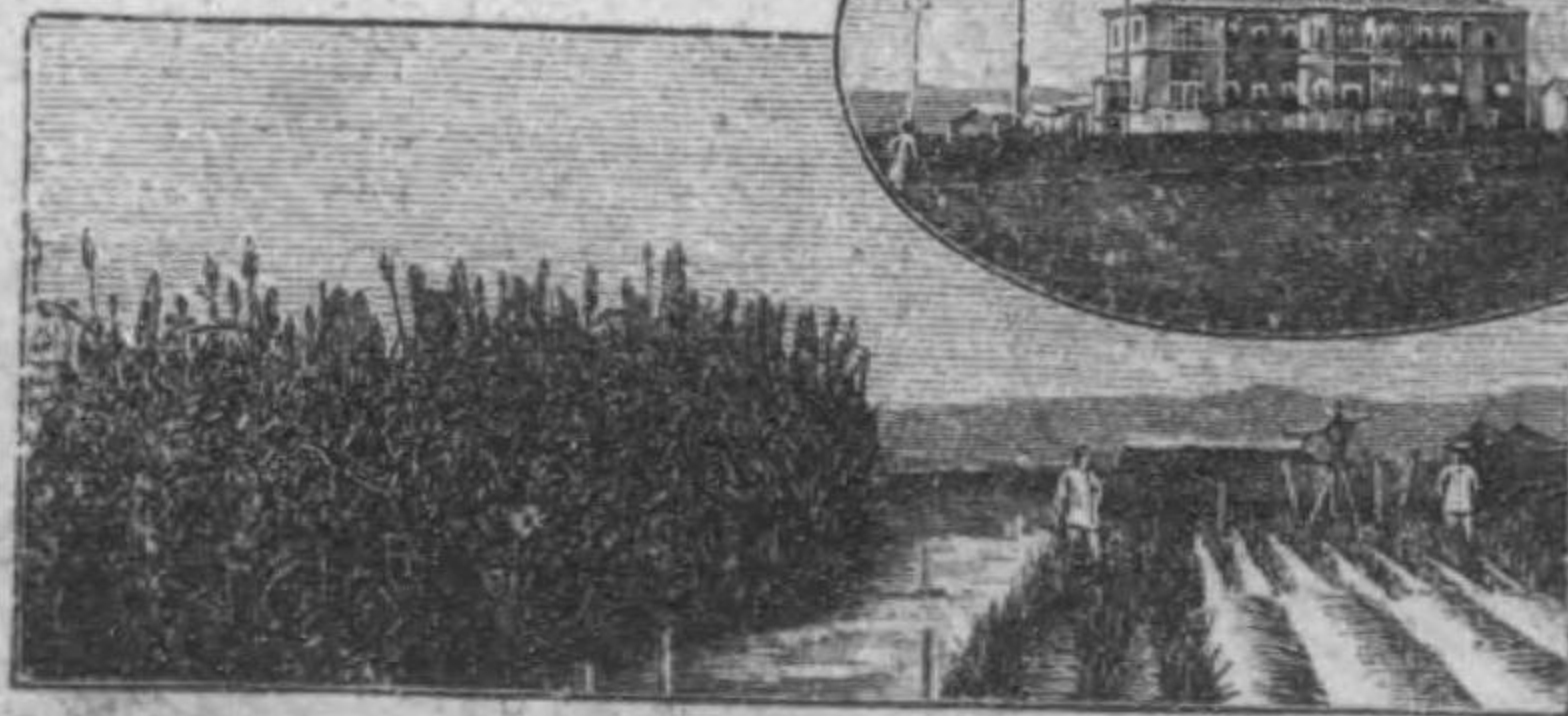
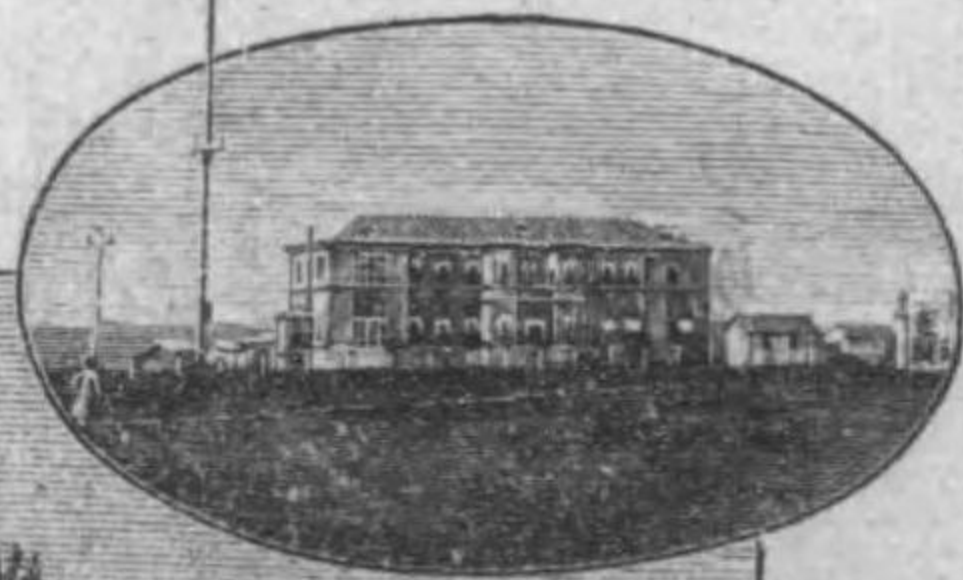
吉林と松花江



第一章 アジア

り。近時、全通せる吉長線は、此地に起り吉林に至る。他日吉會線と連絡し、朝鮮北部に達する豫定なり。省城吉林(一〇)は、松花江汽船通航の上、限に位し、木材・煙草等を集散す。又、朝鮮の北境に近く、閑島と稱する地域あり、豆滿江の流域に屬し、地味肥沃にして、高粱・大豆等の

龍井帝國開島總領事館



同農園内の高粱

哈爾濱賓車停車場



地にして、河港なり。

黒龍江省 東清鐵道は、北滿洲の平地より、漸次、興安嶺に上り、蒙古高原に入り、重要驛海拉爾を経て滿洲里に至り、シベ

農産豊かなり。龍井、局子街等の重要聚落あり。東清鐵道附近なる寧古塔(三)は、松花江の支流牡丹江に臨み、地方の重要市街なり。哈爾濱(三)は、ロシア人によりて建設せられたる北滿洲に於ける軍事・經濟上の要樞にして、ヨーロッパより極東に通ずる鐵道の大中心たり。この西、松花江に臨みて伯都訥(三)あり、蒙古との通商

リア鐵道と連結す。本線に近く省城齊々哈爾(三)あり、毛皮市場として著はる。この北方、嫩江岸に墨爾根、黒龍江岸に愛琿(三)あり。一般に、この省は、滿洲中僻遠の地なるを以て、土地未だ開けず、處々に森林の大なるものあり。

關東州

面積三三七八平方千米
人口六一萬 人口密度一八〇人

關東州は、遼東半島の尖端に位し、日露戰役の結果、ロシアより我國に引継ぎたる租借地にして、關東都督之を治む。

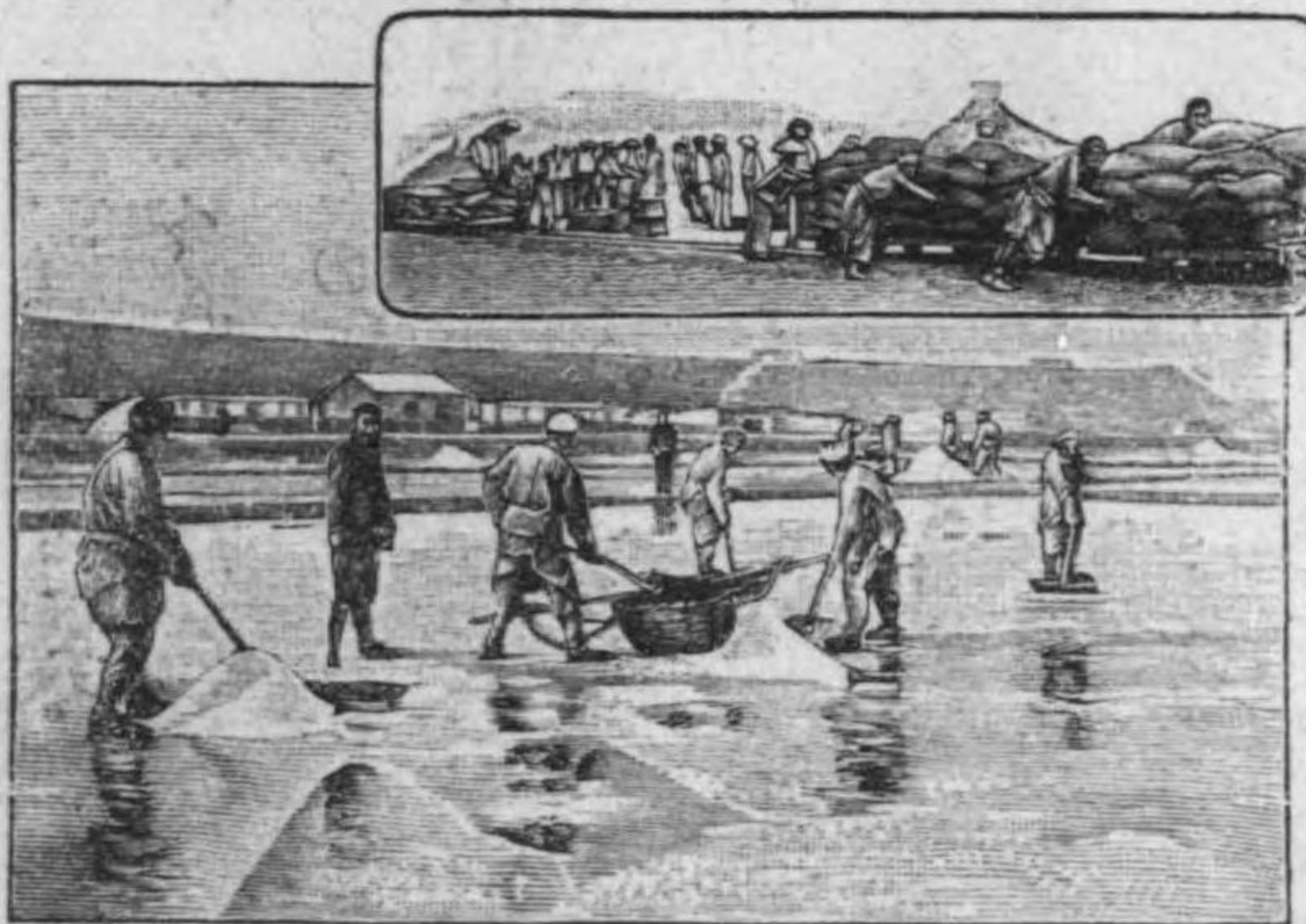
その面積滋賀縣に稍劣り、域内丘陵多く、平野乏しけれども、海岸は出入に富み、大連、旅順等の良港その南岸にあり。一般に農業行はれ、穀菽の産多く、水産製鹽の業また盛んなり。

齊々哈爾城南門街



住民の大部分は支那人なれども、政治・經濟上の實權は、邦人の手にあり。大連(六)はもとロシア人の建設に係る港市にして、我國と大陸とを連ぬる世界交通の衝に當り、港灣の規模大に、大豆・豆粕・石炭等の輸出多く、南滿洲鐵道の起點たり。この鐵道は、臭水子驛にて旅順支線を分岐す。旅順(二)

(高子鏡・景光の出搬鹽び及地鹽製)



と大陸とを連ぬる世界交通の衝に當り、港灣の規模大に、大豆・豆粕・石炭等の輸出多く、南滿洲鐵道の起點たり。この鐵道は、臭水子驛にて旅順支線を分岐す。旅順(二)



大連灣より大連港を望む

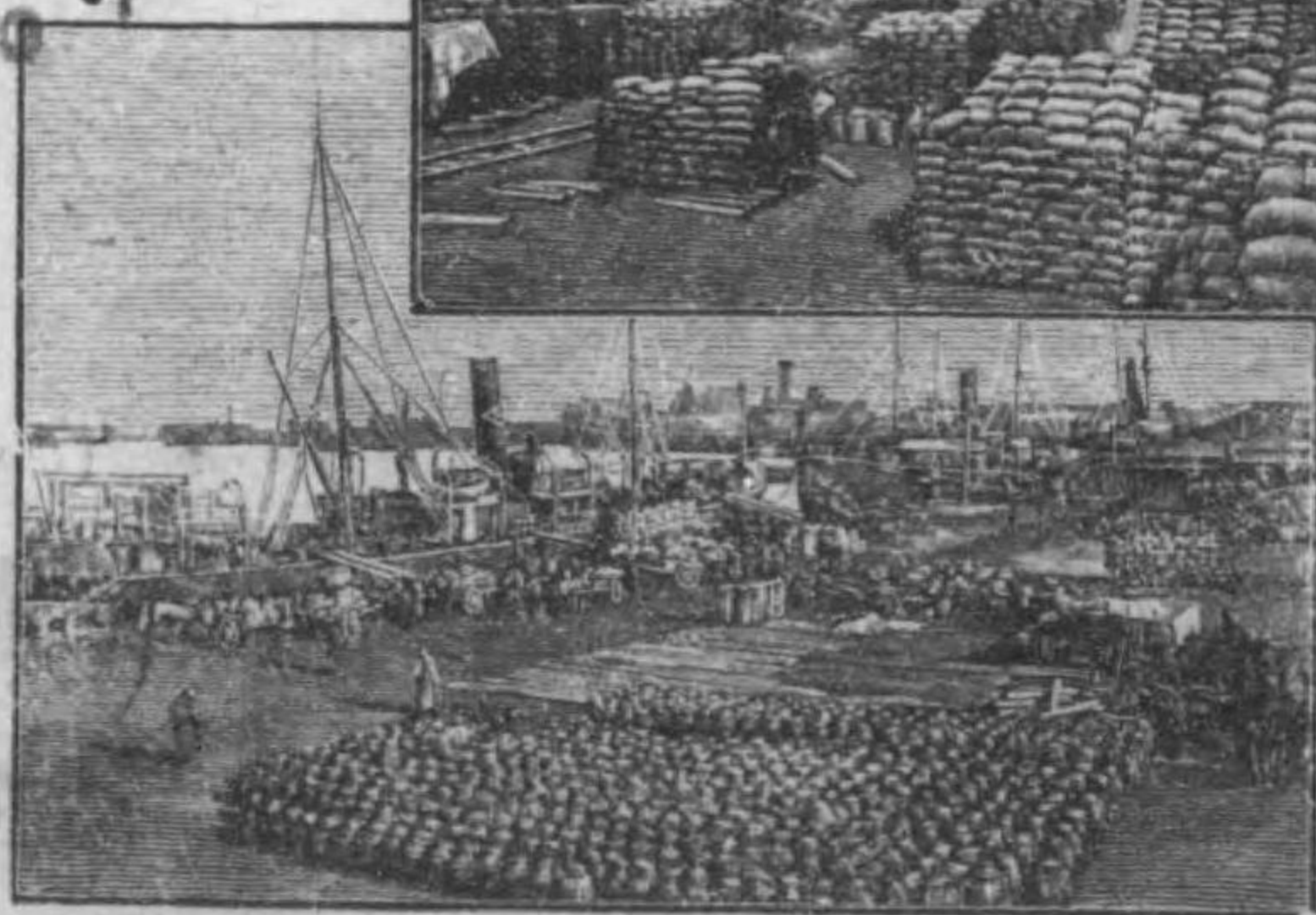
は日清・日露の兩役に名高き古戰場にして、港内二部に分れ、東部は要港、西部は商港なり。市内には、關東都督府海軍要港部、工科學堂等あり。附近の地には、日露戰役の古戰場多く、壯烈なる我將士の奮闘を偲ばしむ。半島の地峽部に金州あり。



二、支那本部
イ、北支那 直隸・山東・河南・山西・陝西

甘肅

北支那は、概ね黃河の通ずる區域にして、其上中流の地方は、高原及び山脈横たはり、下流の一帶は、北支那平原の主部を



大連埠頭に於ける大豆・油豆・粕

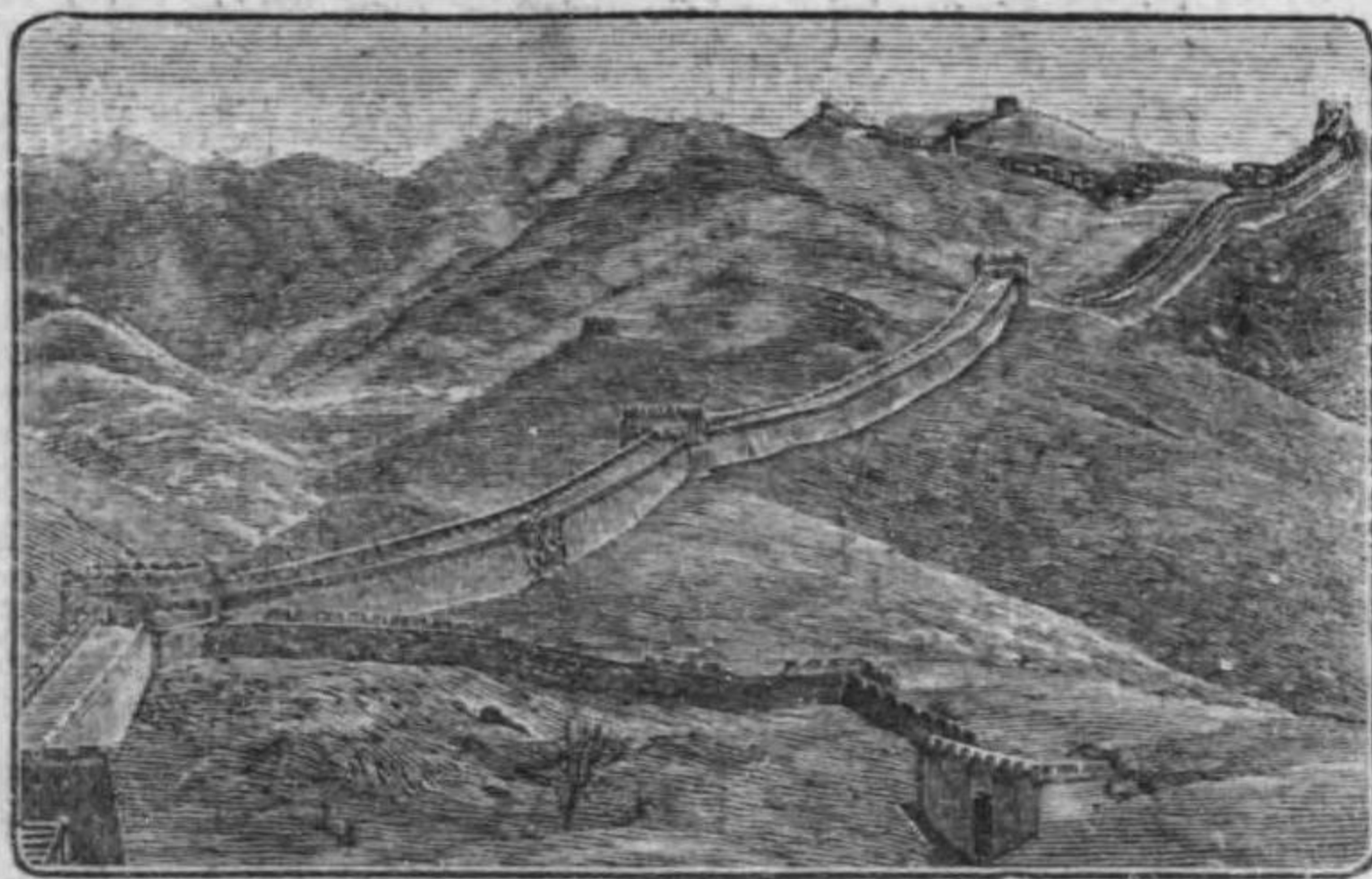
占め、文化風に開け、農桑の業、石炭鐵の富、共に見るべく、特に最近二三十年以來、鐵道敷設、鑛山獲得等に關係し、列強との關係益、複雑となれる處たり。

直隸省 北方は、蒙古高原、東北方は、淺き渤海に沿うて滿洲

に隣り、尙、萬里の長城、省の中部を東西に互りて山西に入り、南は北支那平原に漸移す。

北京及び天津は、此中央に在る大都會にして、北京(七〇)は清朝以來の首都、天津(七五)は省城にして、北

(近附關庸居)城長の里萬

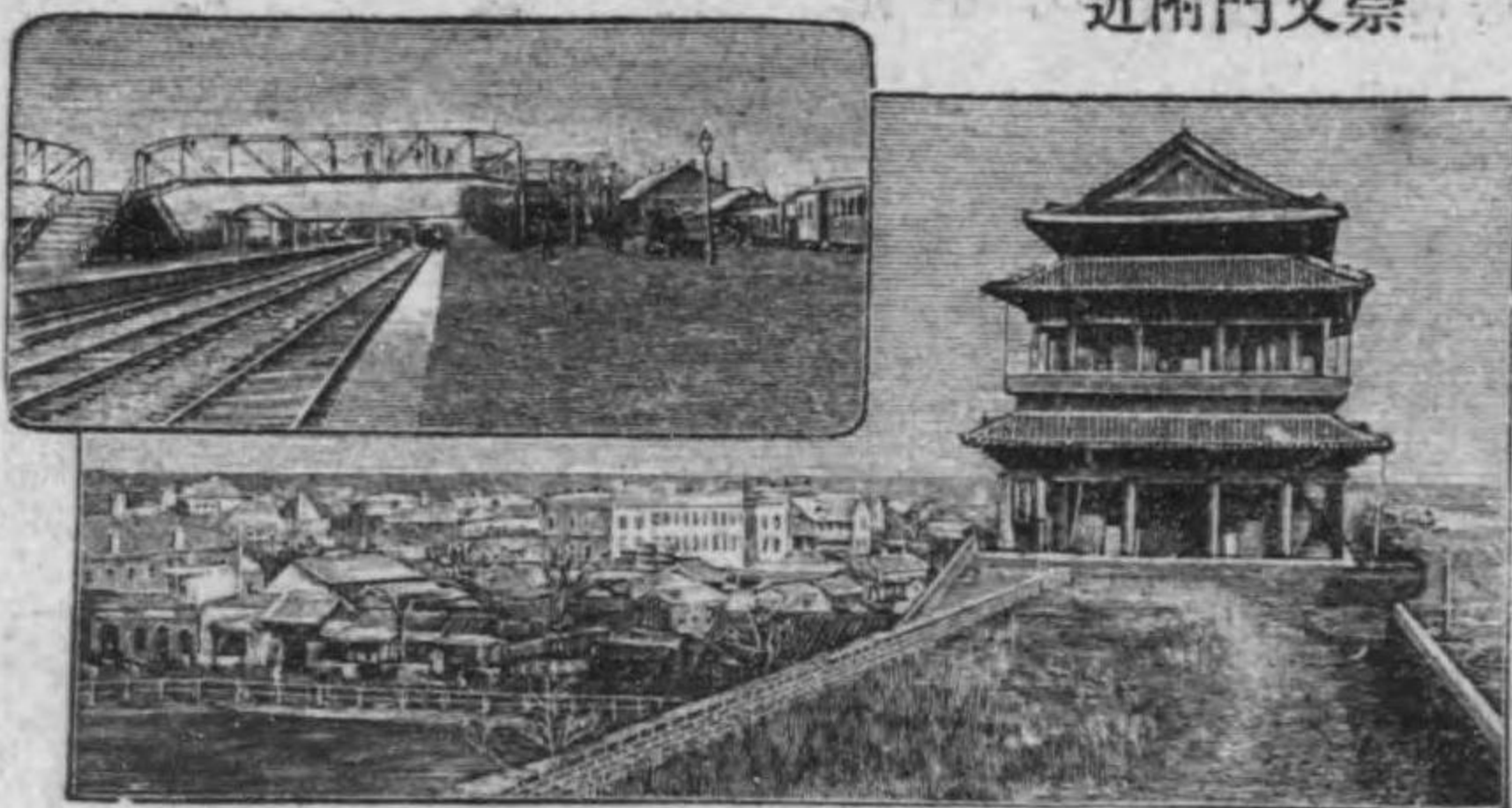


近附津天京北
1:6000000

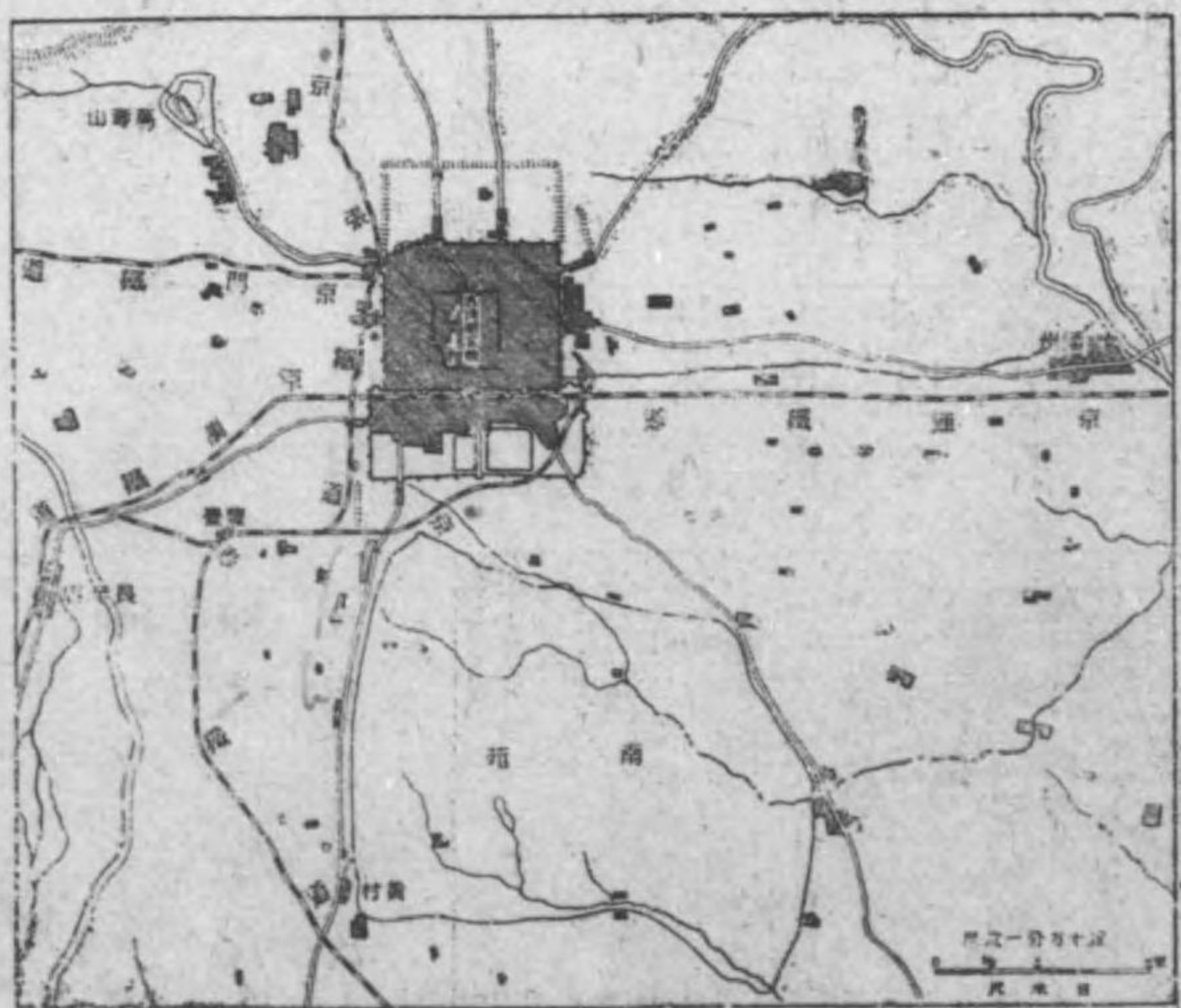
支那經濟上の大中樞たり。

北京は、その市街、内城(北)外城(南)に分れ、内城は舊

北京内城及壁々
崇文門附近



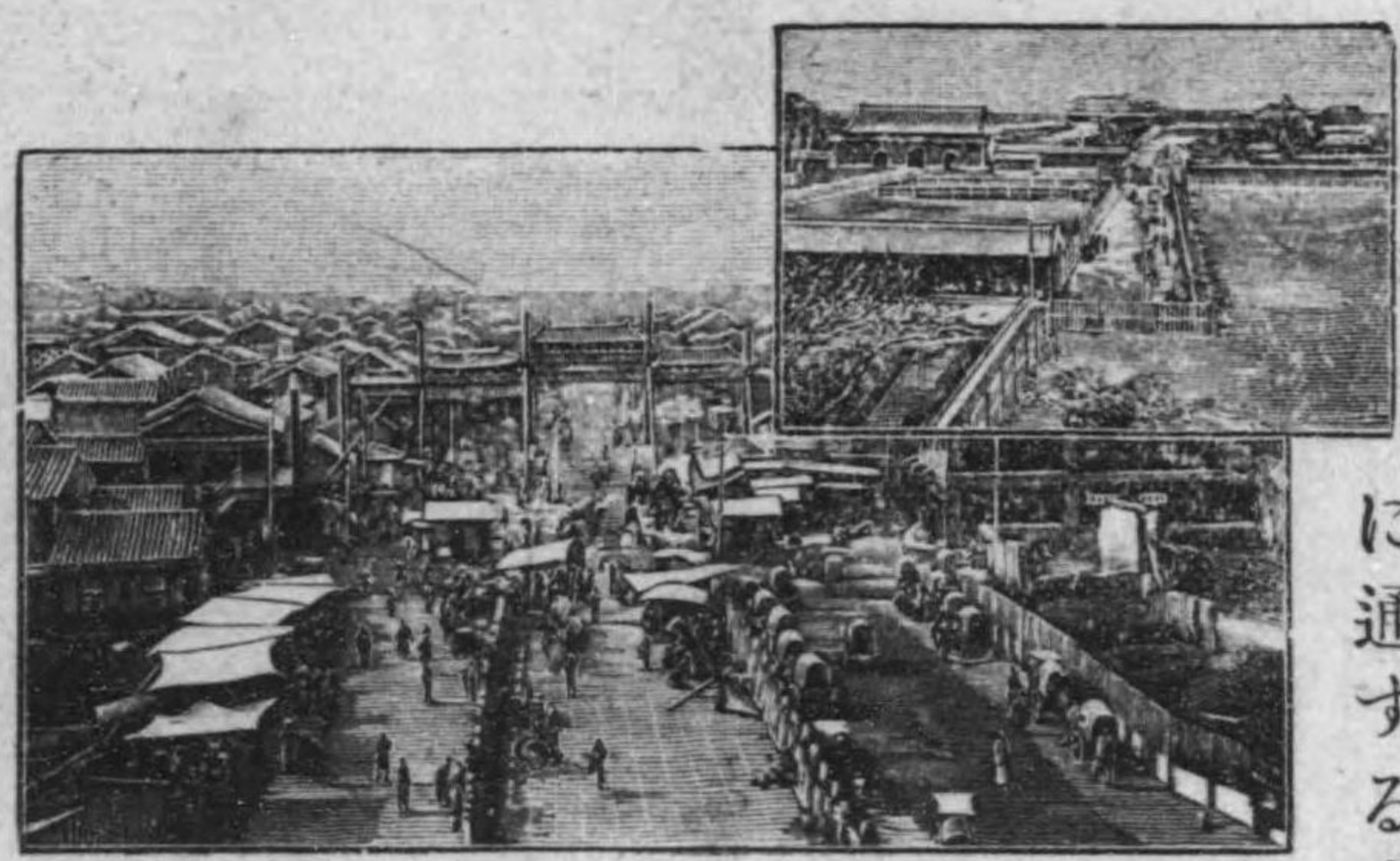
清朝の宮殿を始め、重要な官衙の所在地、外城は主として商業區たり。鐵道四方に通じ、滿洲、奉天間の京奉線、漢口



北京附近

1 官衙中には帝國公使館を始め列國の使臣館あり。

北京市街と北京城(城内)



に通ずる京漢線、蒙古地方に向へる京張線を

おもなるものとす。

天津は有名なる開港場にして、北

京及

び北

支那

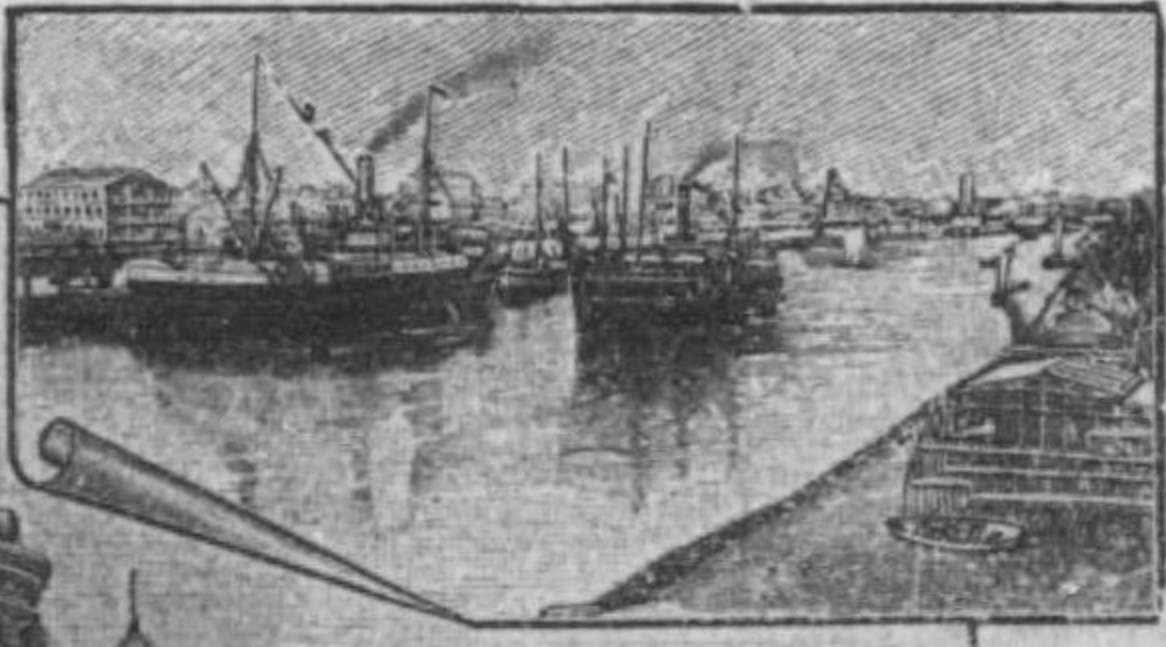
の門

戸と

して、

白河

天津の租界と沿岸の租界を望む



日本租界旭街



の下流に據り、冬季以外、之と大運河との航通を利し、商業

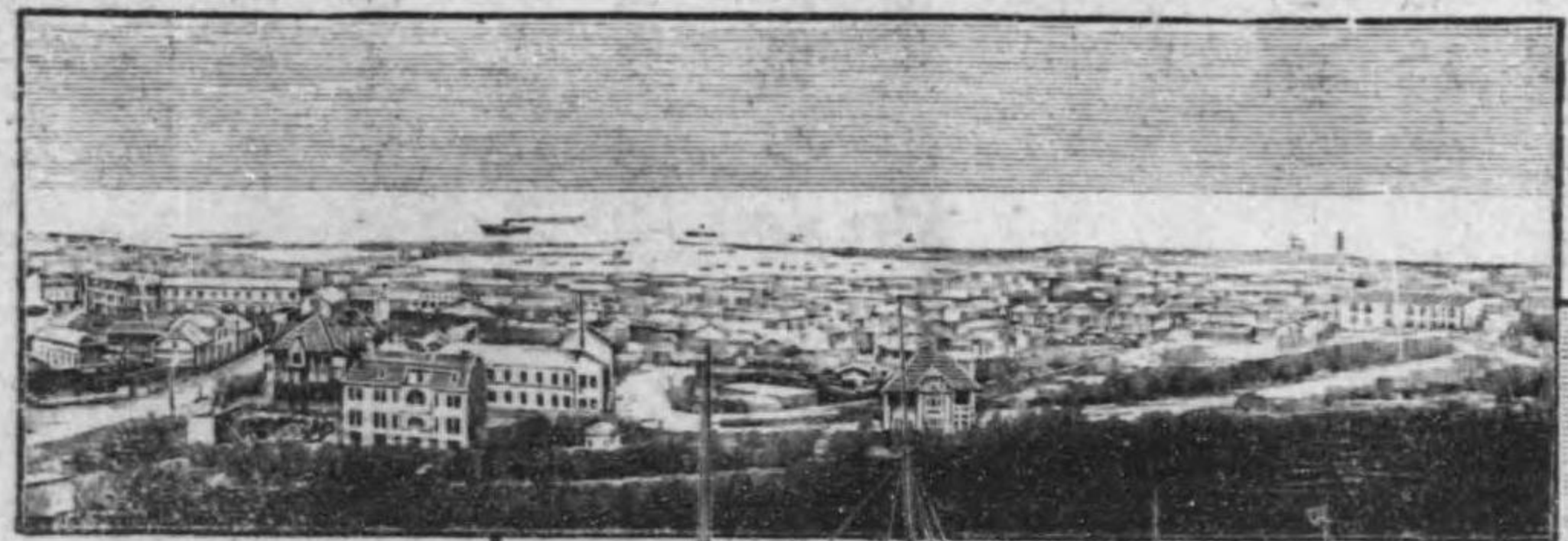
の殷盛北支那第一なり。この地より起れる鐵道津浦線は、南に馳せ、一端は京奉線と連り、本線は揚子江の下流に臨める南京の對岸浦口に終り、之と並行せる大運河と共に、南北連絡の重要交通線をなせり。尙、この地は、兵略上、北支那第一に居り、南方の南京即ち江寧と對立す。

天津の東には、之が補助港太沽あり、京奉線こゝを經、有名なる炭田開平を過ぎ、山海關より滿洲に入る。山海關の附近には、秦皇島と稱する不凍港あり。北京の西北に在る張家口(三)は、蒙古に通ずる要地にして、京張線通じ、毛皮皮革等の集散地たり。京漢線の沿道に



張家口の外羊の皮の堆積

青島と同一港内第一突堤



山東省 この省は山勝ちなる山東半島を控へ、石炭・鐵・石油等の鑛山を有し、蠶絲・繭紬等を産す。濟南(一〇)は省城の地にして、この南方曲阜に孔子の廟あり。



芝罘港

日獨戰爭に際し我軍の占領するところとなれり。

濟南にて津浦線と連絡せる山東鐵道は、東して黃海の重要港青島に終る。青島(一二)は、ドイツの租借せる膠州灣の港市にして、彼國極東經營の要鎮たりし處なり。半島の北岸に、イギリスの租借に係る威海衛及び開港場芝罘あり、芝罘(八)は形勝の地に在る古來の名港にして、蠶絲・繭紬を出だし、山東労働者の發着地なり。

河南省 概ね黃河の南に位し、その西部は、秦嶺の東に當れる山脈起伏すれども、中央以東は、全く新舊黃河の洪涵地に屬す。省城は開封(二〇)にして、この西に古の洛陽今の河南あり。二者鐵道に由りて相通ず。

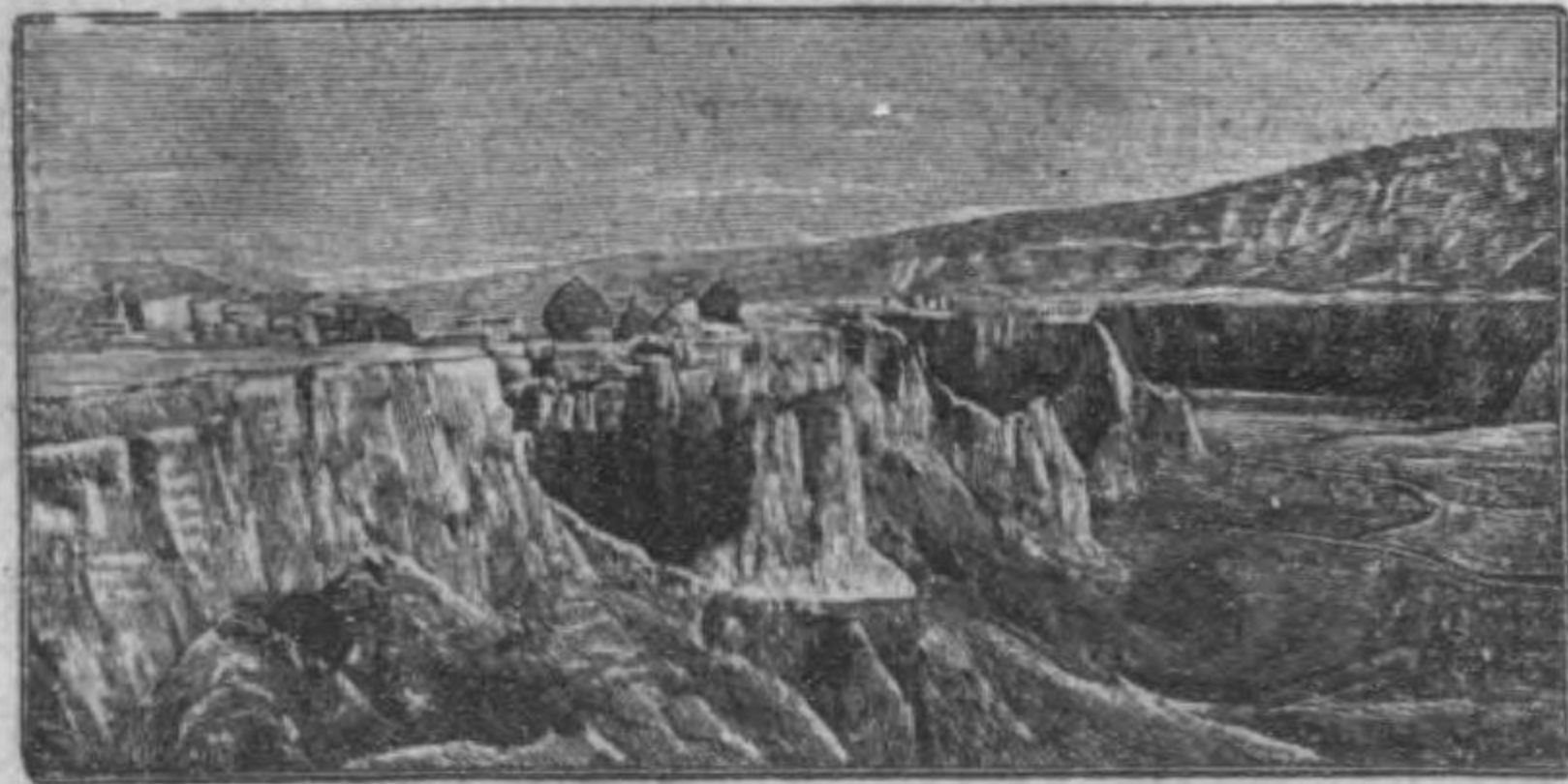
山西省 一般に高原狀を呈し、東南部は、石炭の埋藏量殆ど無盡藏と稱せらる。省城を太原(二三)と稱し、直隸省正定との間鐵道あり。この省の中央以南には、古代既に名ありし

都會を存す。

陝西省 北の大部分は高原狀を呈し、南は秦嶺その他の山脈、略ぼ東西に馳せ、古より南北の交通を妨ぐることに甚し。渭水の盆地には、古の長安附近に起れる省城西安(一〇〇)あり。潼關はその東方、黄河の屈曲點に臨む。

甘肅省 北支那の最西部を占め、崑崙山脈の略ぼ東西に走れる處に當り、地一般に開けず、農耕振はざれども、羊、山羊等の牧畜は頗る盛んなり。省城蘭州(五〇)は、羊毛その他畜産物の集散地として有名なり。蘭州の西には、起源古き小都會點在し、古來西域に通ずる要路に當れり。

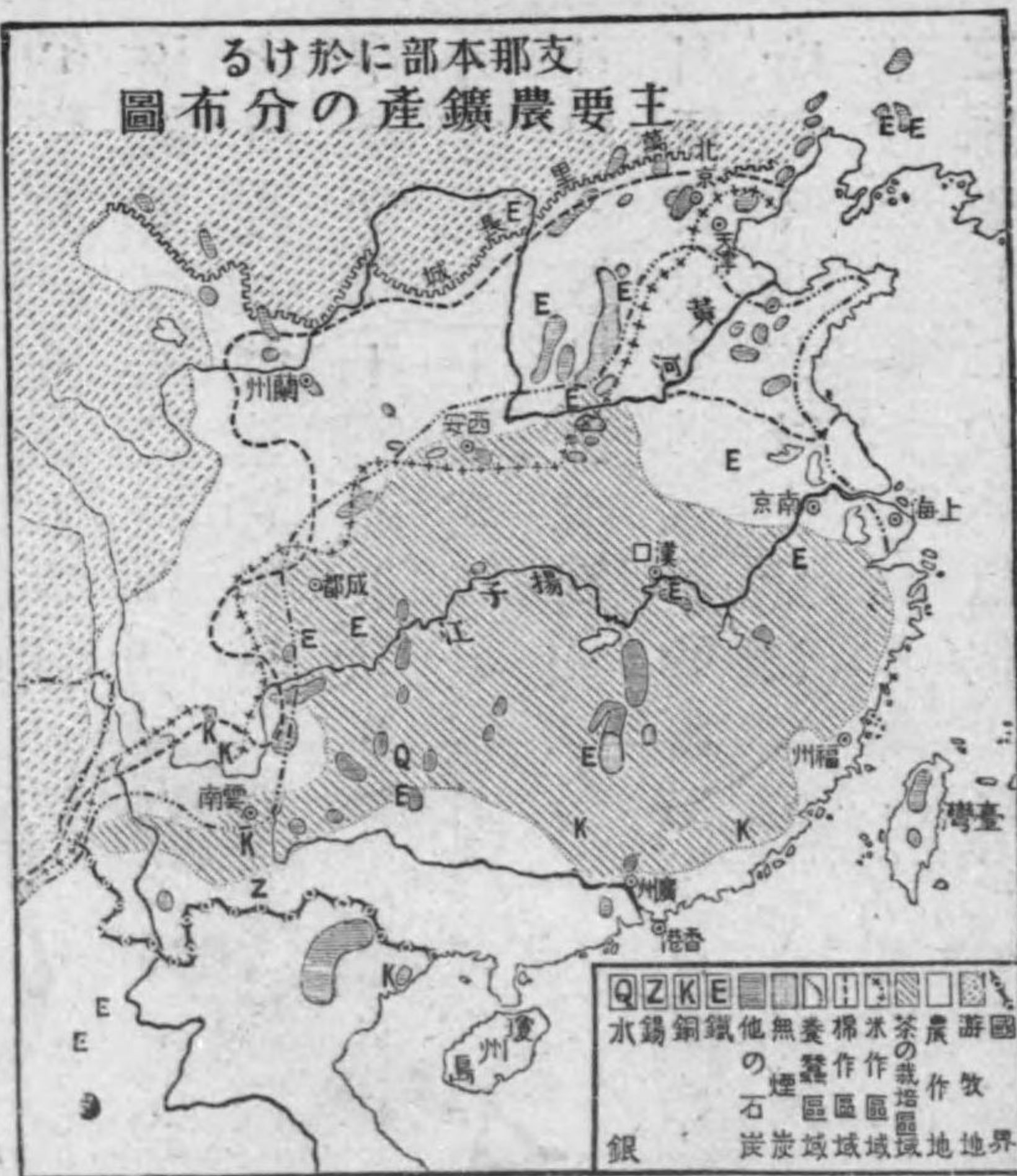
(近附昌黎省肅甘) 落聚の上層 土黃



1 蘭州の西北に嘉峪關あり、有名なる萬里の長城の終る處なり。

1 農牧業以外に現今重要産地諸處に現はる。

支那本部に於ける主要農産物の分布圖



揚子江流域の灌溉(近附昌宜)



發に資し、自業の基礎をなせる

口、中支那 江蘇、浙江、安徽、江西、湖南、湖北、四川、中支那は、古より支那開化の中心として、最も重要な地方にして、揚子江の巨流は、人體の動脈の如く、幾多の支流を合せ、緩流して内陸の開

以て、歴代を通じ、全國經濟の重心となり、從つて勢力爭奪の分野となり、人口稠密に、大小都邑夥しく發達せり。經濟上竝に外交上、列強の競うて心血を濺ぐ所以また此に存す。

江蘇省 この省は、揚

子江の下流と、支那平原の南部とに據り、夙に中支那の門戸をなせる處にして、世界の開港場上海(八四)兵略上の要地南京一名江寧(三〇)の如き大都會を擁し、鐵道内陸水運等の便



圖布分地産絲生るけ於に界世

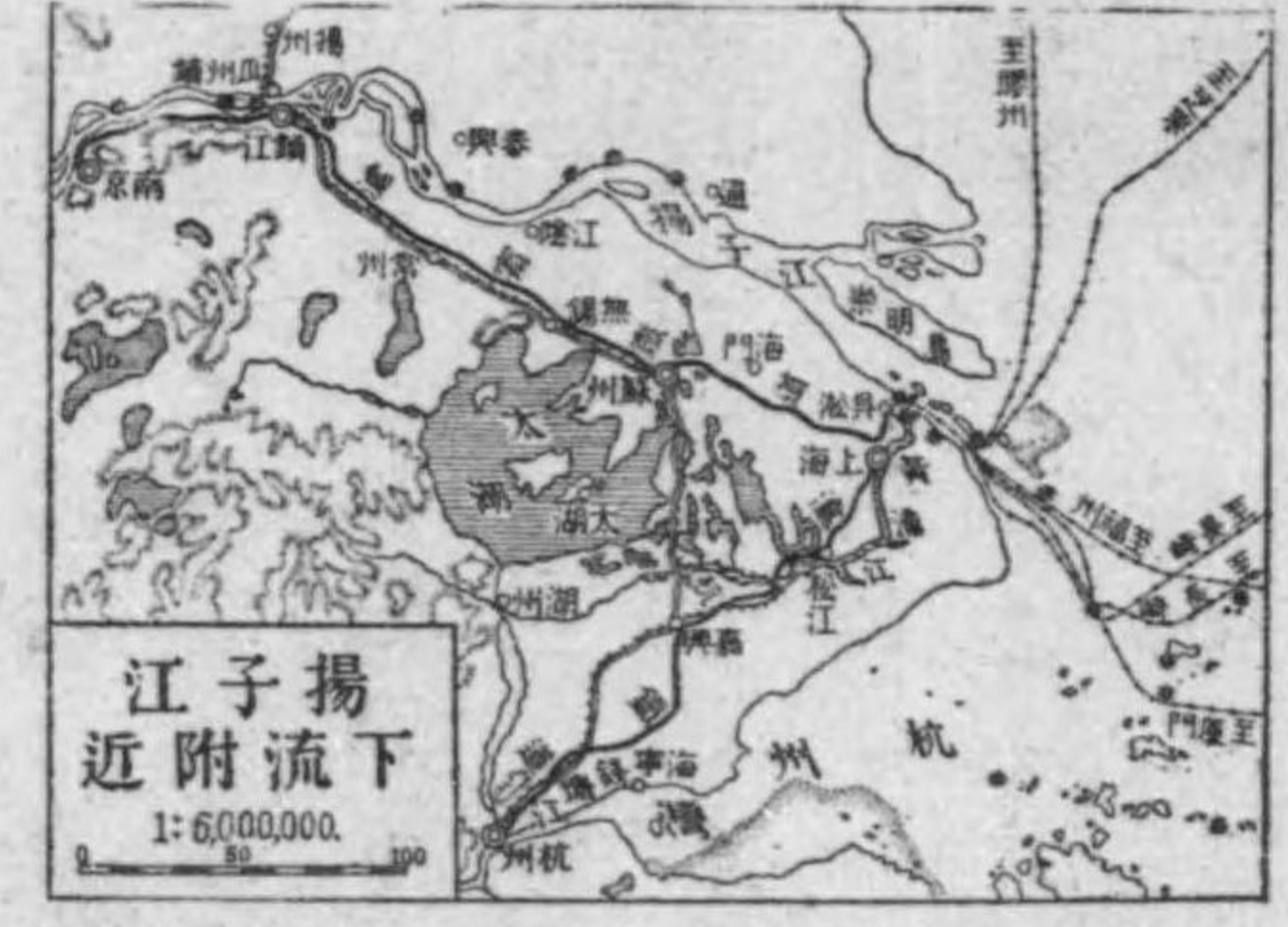


圖布分地産オカガ茶るけ於に界世

最もよく開けたり。

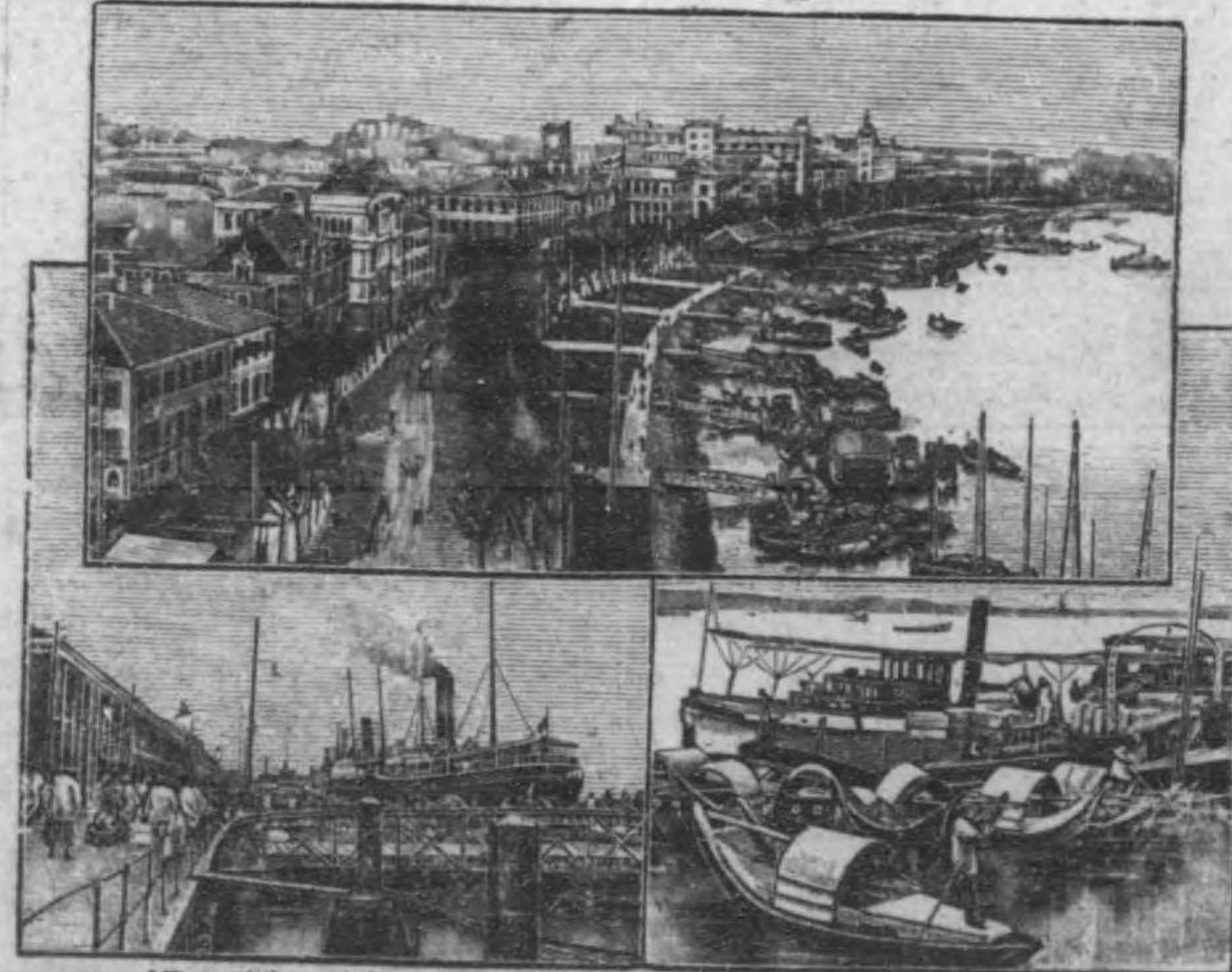
上海は、揚子江と、一小河黃浦江によりて連絡せらるゝ河港にして、その會點に當れる吳淞を外港とす。海洋航行の船舶も、大型

のものを除けば、概ね出入し得るを以



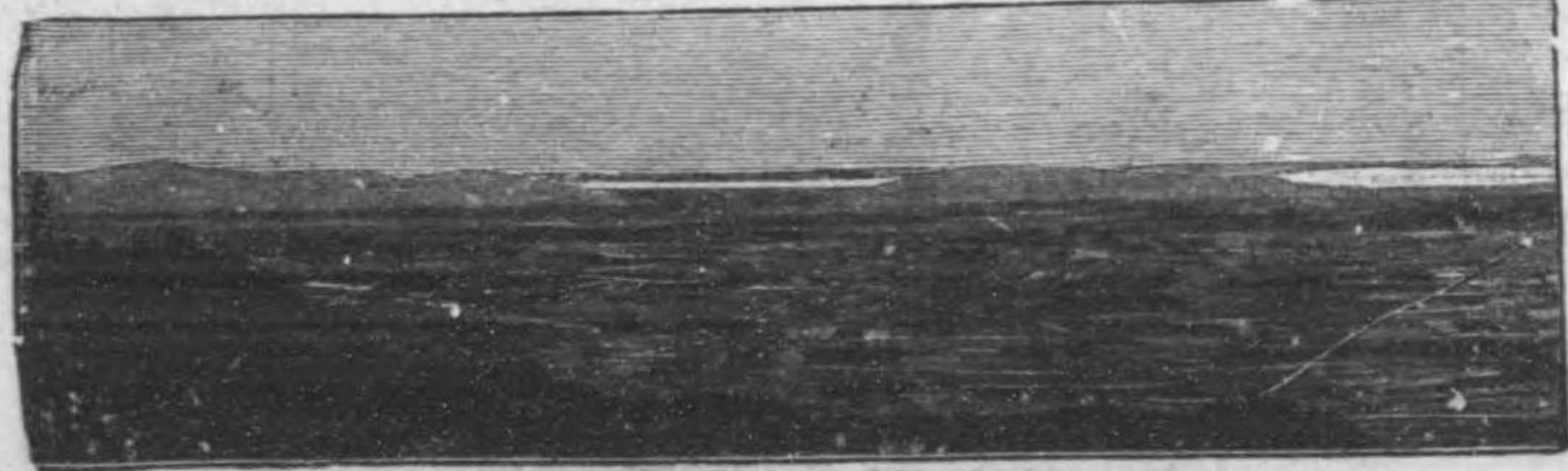
江子揚 近附流下 1:6,000,000

海上



(左)場船繁 (上)景の岸河區業商人國外 (右)江浦黃

て、開港場として大なる發達を遂げ、歐米人の東洋貿易に従事する者の過半は、この地を根據とす。通商の區域大なること支那第一にして、揚子江域より内地各方面、進んでは東洋各地、西洋諸國にも及び、生絲、茶、棉花等を輸出し、綿絲、綿布、石油その他の雜貨を輸入す。市街の内外は、又新式の工場工業行はれ、鐵道は南京及び杭州に通ず。



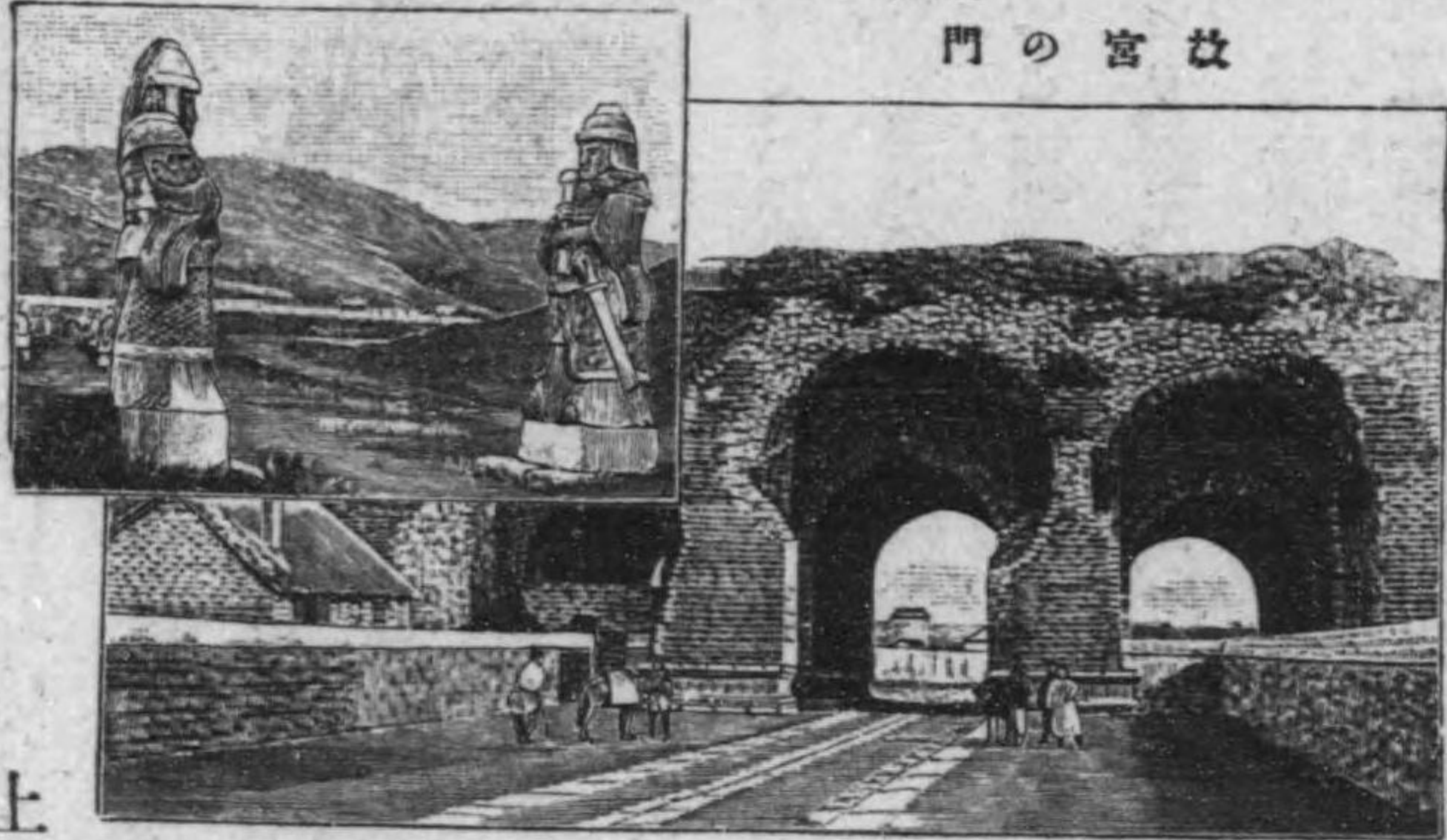
蘇州大湖附近の地形



南京城(下關より望む)

後條 商業の表
参照

南京の古蹟



本邦の船舶にして東洋、歐洲、米國及び濠洲航路等に從事するものは、いづれも此地を経由し、我國その他の外國に通ずる水底電線も此處に集まる。

上海の西に省城蘇州(五〇)あり、附近一



南京市中の小路

2北は天津、南は杭州に至る。

帶養蠶業發達し、製絲絹機業甚だ盛んなり。蘇州を經由せる鐵道は、大運河に臨める鎮江(一七)を過ぎり、南京に終る。南京は、古今を通じ、南方支那の重鎮にして、地形の利に據り、嘗て宏壯なる都會を營みしことあれども、今はその邊界漸く荒蕪に委ねぬ。市の西北の江岸に、下關と稱する南京の開港地あり。對岸の浦口は津浦線の終點なり。

西湖の北岸寶叔塔



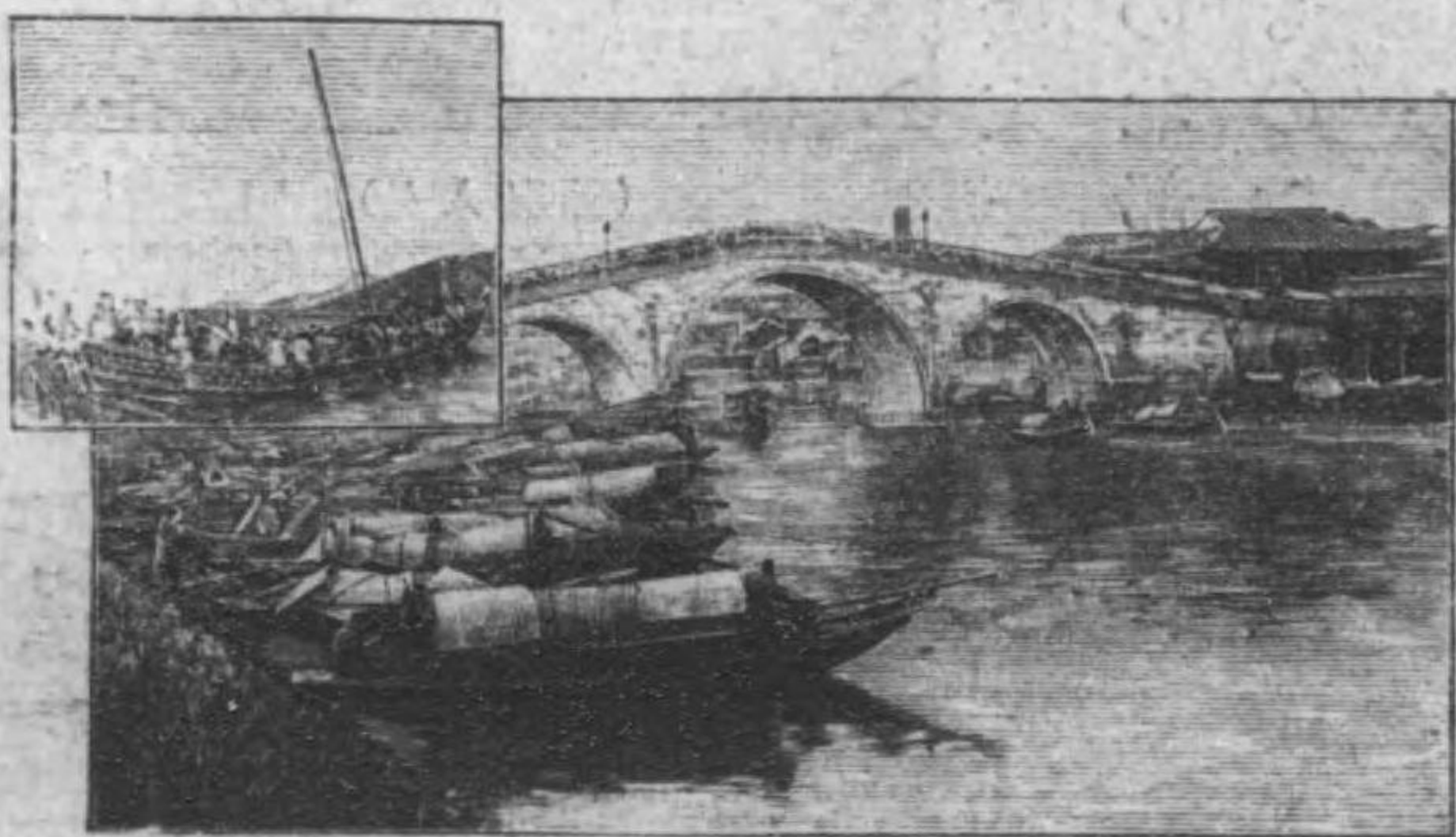
西湖十景の中の一橋

浙江省 地形、山多くして、平地に乏しく、錢塘江東北

慶

に向ひ三角口を開く。一般に、江蘇省と同じく、養蠶業甚だ盛大なり。省城杭州(三五)は、上海と鐵道に由りて連絡し、絹織の産と、風景の美とを以て著はれ、附近の錢塘江口は、海嘯に名あり。杭州の東には、支那の古港寧波(二六)あり、此東方に舟山列島、南に有名なる象山灣あり。

杭州拱宸橋と錢塘江上の船

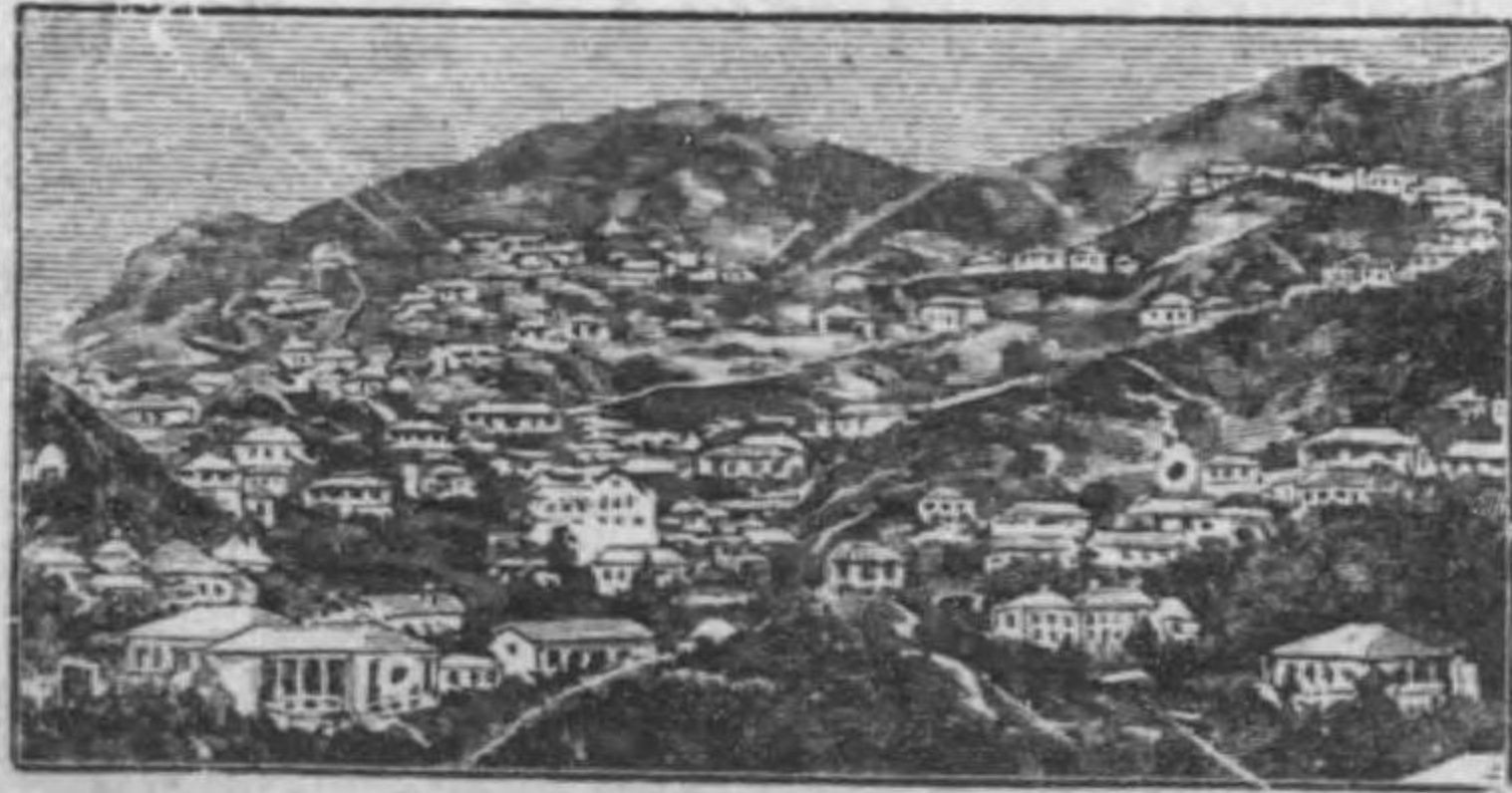


安徽省 揚子江の南北に擴まり、近時銅鐵の産出有望と稱せられ、こゝに省城安慶(四)開港場蕪湖(一四)あり。江西省 鄱陽湖附近の地よく開け、江の岸に、茶の一大市場たる九江(四)南部には省城南昌(三〇)あり。我國と關係深き

1 未だ全く竣工せず、列車は九江より途中迄通す。

南潯鐵道この間を通ず。省の西部に、萍鄉炭田横たはり、湖南と鐵道に由りて連結す。

湖南省 地形は江西省に類し、洞庭湖及び之に注げる諸川に沿うて、低地延び、亦農産頗る豊富なり。省城は長沙(五〇)にして、岳州(二)は省の門戸に當る。漢口・廣州(一名廣東)を連ぬる鐵道粵漢線は、湖北武昌より省の北部に入り、又其一部、長沙より南に發するものは、途中より萍鄉線を岐てり。

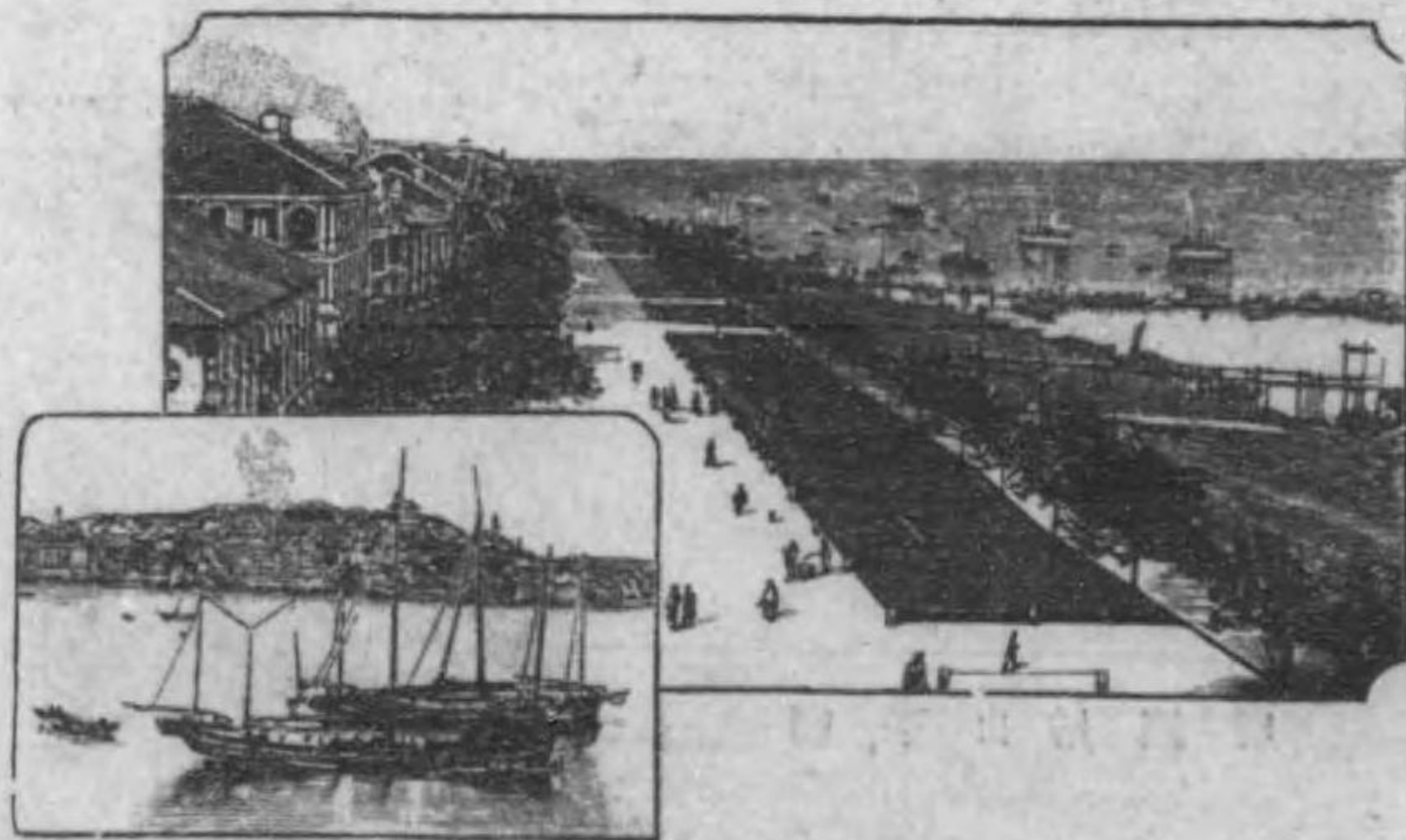


(墅別人外) 山廬

(望南りよ江子揚) (右)山廬と湖陽郡



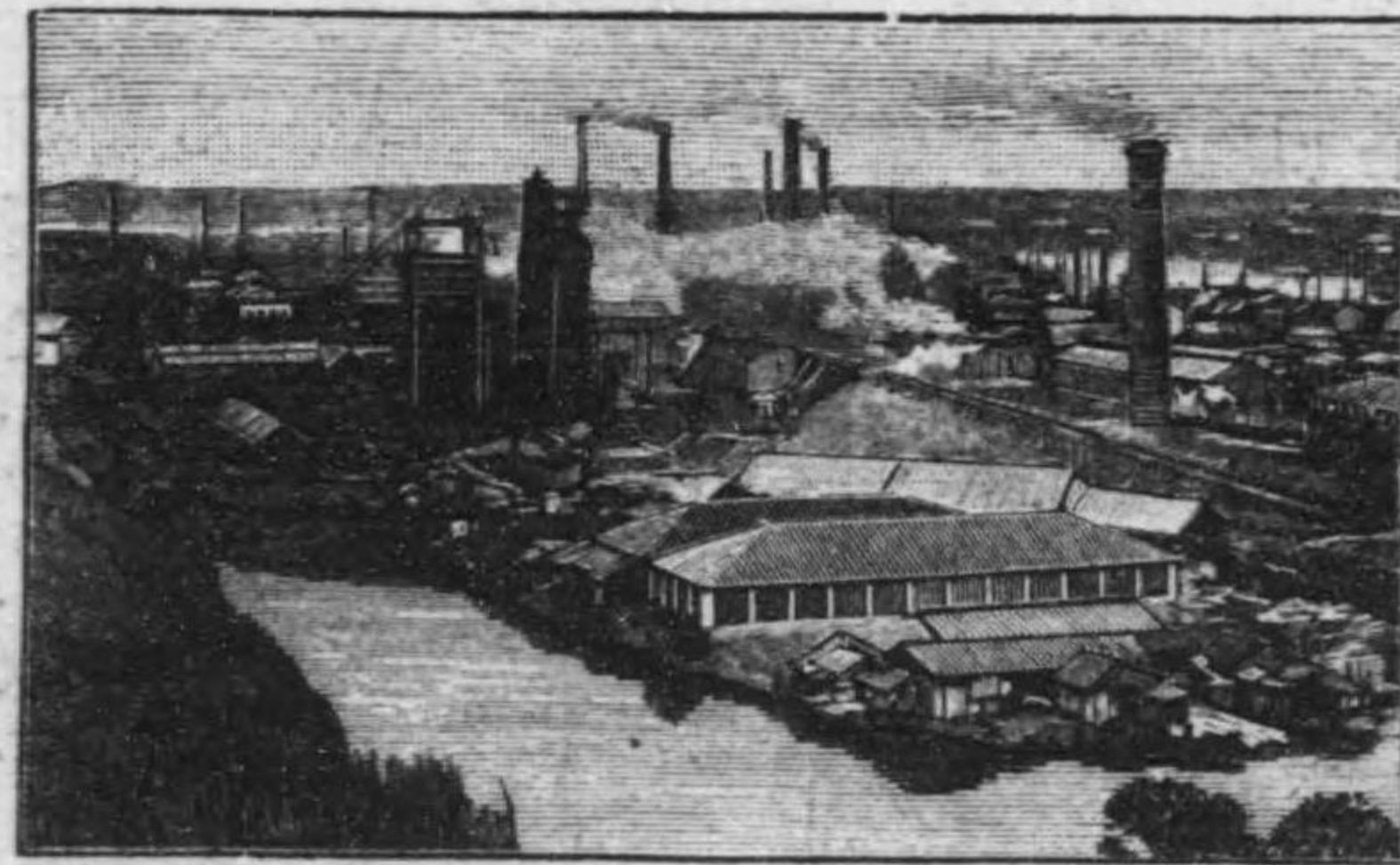
(口はるたふ植に道歩) 口漢



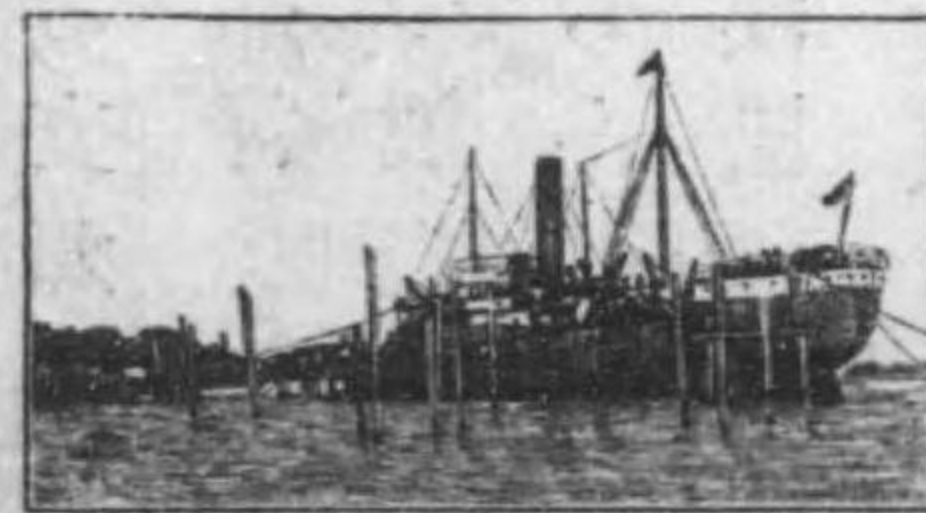
岸河の昌武

湖北省 揚子江中流の盆地中、最も大なる平野の一部を領し、農産特に豊かに、揚子江の本支流は、活潑なる航運に便す。漢口(八七)はこの中心に在る支那内地の大市場にして、水陸交通の衝に當り、數千噸の航洋汽船も來り泊すべく、又茶の製造に顯はれ、諸工業漸く起らんとす。漢江を隔て、對岸漢陽

漢陽の鐵政廠



波止場と鑛石運搬船



大冶



獅子山貯鑛所



鐵道

(四〇)には、著名なる兵工廠あり。此等は大江の對岸に在る省城武昌(五〇)と共に、鼎立の姿を成せり。此下流には、我國に鑛石を供給する大冶

宜昌 昌
ヨロバ人居住地



鐵山あり。又上流なる宜昌(五)は、湖北四川兩省の境なる峽谷の口に近く、従つて大船溯航の上限となり、交通上極めて重要なり。四川省巴蜀の盆地を包みて、山脈高原その周邊に起り、陸上交通甚しく不

三峽の險



1 東北に出づる處有名なる蜀の棧道なり。

2 石炭、石油、岩鹽等。

便なれども、養蠶及び鑛産に名あり。重慶(六〇)は揚子江湖航の上限にして、百貨輻輳し、古の蜀の都なる省城成都(四五)は、生絲棉花、絹織物等の生産に富めり。省の西部は、山脈連亘して、西藏との境を鎖し、政治上特別區域に屬し、嶮路綫にこの方面に通ず、打箭爐、巴塘之に沿ふ。

ハ、南支那 福建、廣東、廣西、貴州、雲南。

南支那は、沿岸概ね南支那海に臨み、内陸は、山地若しくは高原ありて、他と隔離する觀あるが故に、人文發達の狀勢、前二地方とは大に其趣を異にし、住民の多くは、南方印度支那民族と混血し、種族の差別多く、一般慣習の多様なること甚だ著し。

福建省 この省は我臺灣の對岸に位し、山岳丘陵起伏し、茶の産出ある外、一般に生産豊かならず。省城福州(六二)は閩

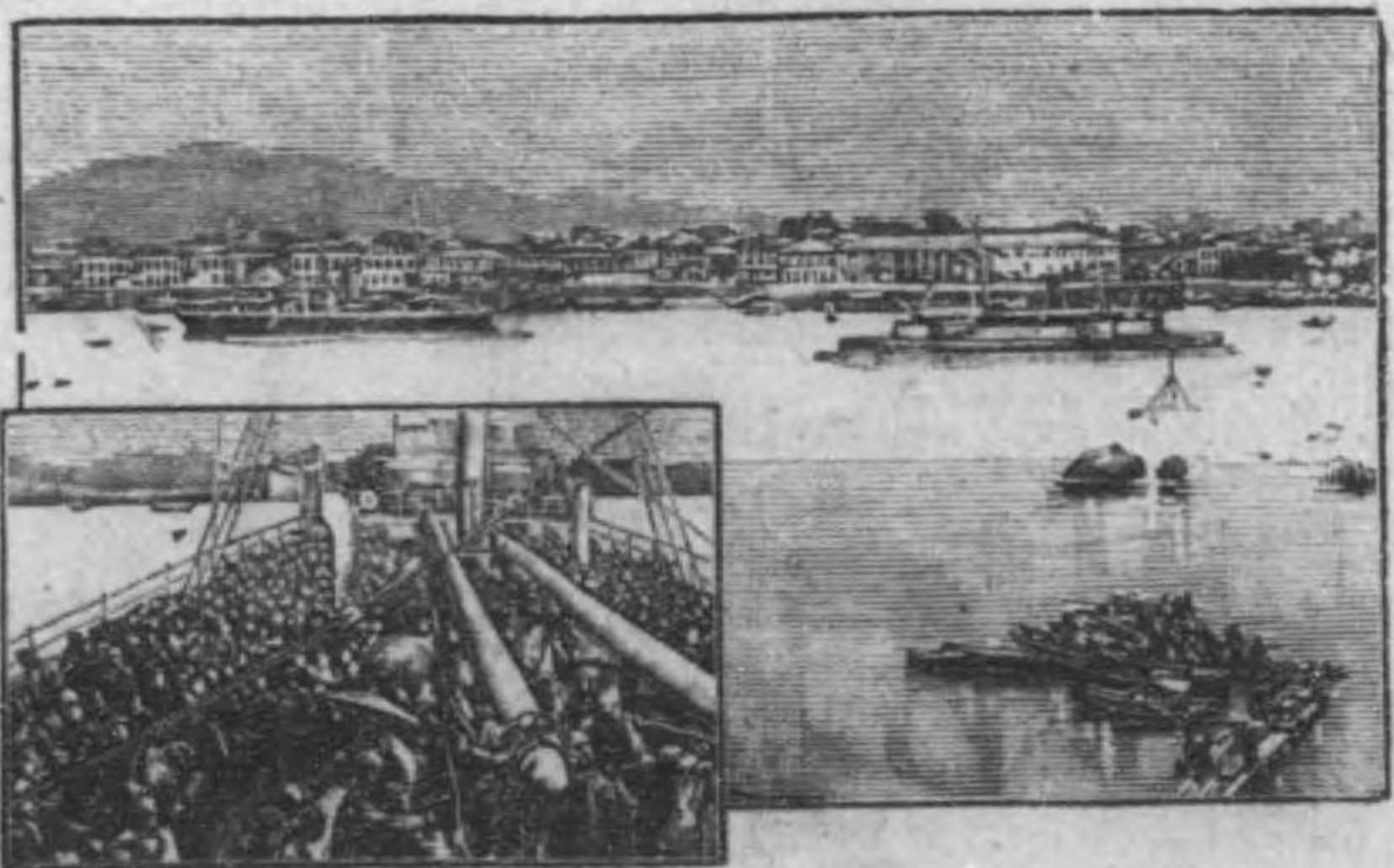
1 福建省は我國が支那をして他國に割讓せざることとを約せしめし地。

2 印度支那、マラ、イ諸島等に赴く。

福州 南臺倉前山より江を望む



江に臨み、茶の輸出多く、厦門(一一)は、島港にして、海外移民發著の中心として有名なり。兩者共に臺灣との通商盛んに行はれ、福州と我淡水との間、水底電線を通ず。



南洋移民の發出

廣東省 省は、南支那の大動脈たる珠江の下流を有し、氣候溫暖にして、米、茶、甘蔗等の收穫に富み、古來、對外商業を以て

名を顯はせり。省城廣州一名廣東(九〇)は、古き開港場にして、南支那に於ける經濟上・貿易上の大中心となり、盛んに生絲を出だし、尙細工物其他の工

藝品を産す。粵漢鐵道は、こ

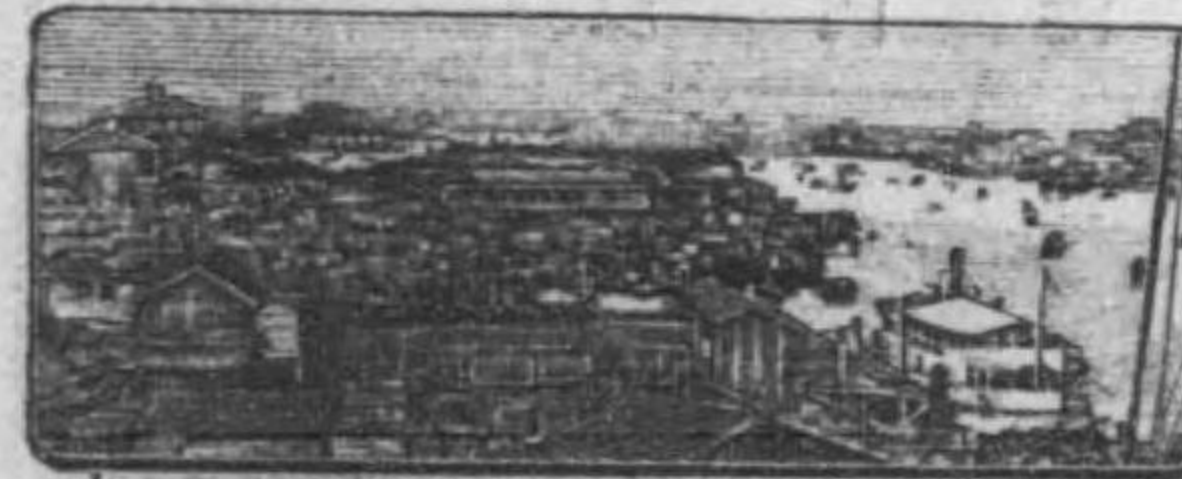
造製筵華方地東廣



業作糖搾の人士

(南河は岸右基南外城州廣は岸左)流支の江珠

港州廣



内港るた見りよ頭碼頭地留居州廣

1 イギリス東洋艦隊の根據地。

の地を發して、北に向ひ、南方香港の對岸より起れる鐵道ここに終り、珠江の分流と共に、南海岸との交通を助く。汕頭は、東部沿岸に位し、砂糖の集散地として著名なり。

外國領 香港は、珠江の口に近きイギリスの領島にして、對岸の租借地九龍半島と相對して、東洋有數の良錨地をつくり、港市ビクトリア(一八)島の北岸に發達す。この地はイギリスの極東貿易の伸繼港として繁榮し、我國及び支那の通商業に對し、至大の關係を有せり。西方遙に之と相對して澳門(八)あり、ポルトガルの領地にして、昔時大に殷盛を極めしかども、香港の興隆す



港アリトクビ港香

るに従ひ、全くその勢力を奪はれたり。南方雷州半島の東岸に、フランスの租借地廣州灣あり。

廣西省 珠江の本支流、省内を通じ、生産及び都邑の發達、共に南支那に於ては廣東省に次げり。

梧州(七)は河港として名高く、南甯(六)は省城なり。此他フランス領トン

キンに近く、一二の邊境都市あり。**貴州省** 雲貴高臺の東部を占め、人

口都邑一般に稀少なり。この地より雲南に亙り、印度支那民族の一たる苗族住す。省城は、貴陽(一〇)と稱す。

雲南省 雲貴高臺の西に據り、南よ



梧州(西江中流)

り西にかけてイギリス領、東南はフランス領に隣り、是がために交渉案件屢生じ、二國の勢力半乎として抜くべからず。省城は雲南(五)と稱し、トンキンとの間、フランスの敷設に係れる鐵道通ず。西方に大理及び騰越あり。

三、蒙古

蒙古は、廣大なる臺地にして、中に沙漠ゴビ横たはり、全域を内外蒙古に分つ。内蒙古は、支那本部に近接し、漢人の來住多き地方は、漸次本部諸省に編入せられ、中央政府の治下に立てり。是に反して、外蒙古は、ロシアの後援の下に

ゴビ雜景
蒙古族の遊牧生活



駱駝車

自治權を得、庫倫にある喇嘛教主その首長たり。蒙古族は、古來水草を逐うて轉々する漂泊民にして、馬・羊・山羊等の家畜を養ふ。主要なる都市に、庫倫・賣買城あり。共にシベリアとの通商殊に茶の取引盛んにして、賣買城に對し、シベリア側にキアフタあり。

四、新疆

天山山脈によりて、天山南路・天山北路に分れ、南路は塔里木の沙漠盆地、北路は山脈の間、細長なる窪地を横たふ。

住民は、おもにトルコ族及び漢人種にして、共に農・牧の業に従ひ、生絲・棉花・葡萄等の名産を出だす。天山北路の迪化(六)



者騎の族古蒙

(漠沙ンカマラクダ) 商隊の斷横漠沙



二國の通商上の進路に當れり。

五、青海 西藏

は、督軍の駐割地にして、

クルジアは、

ロシア領中

央アジアに

通ずる要地

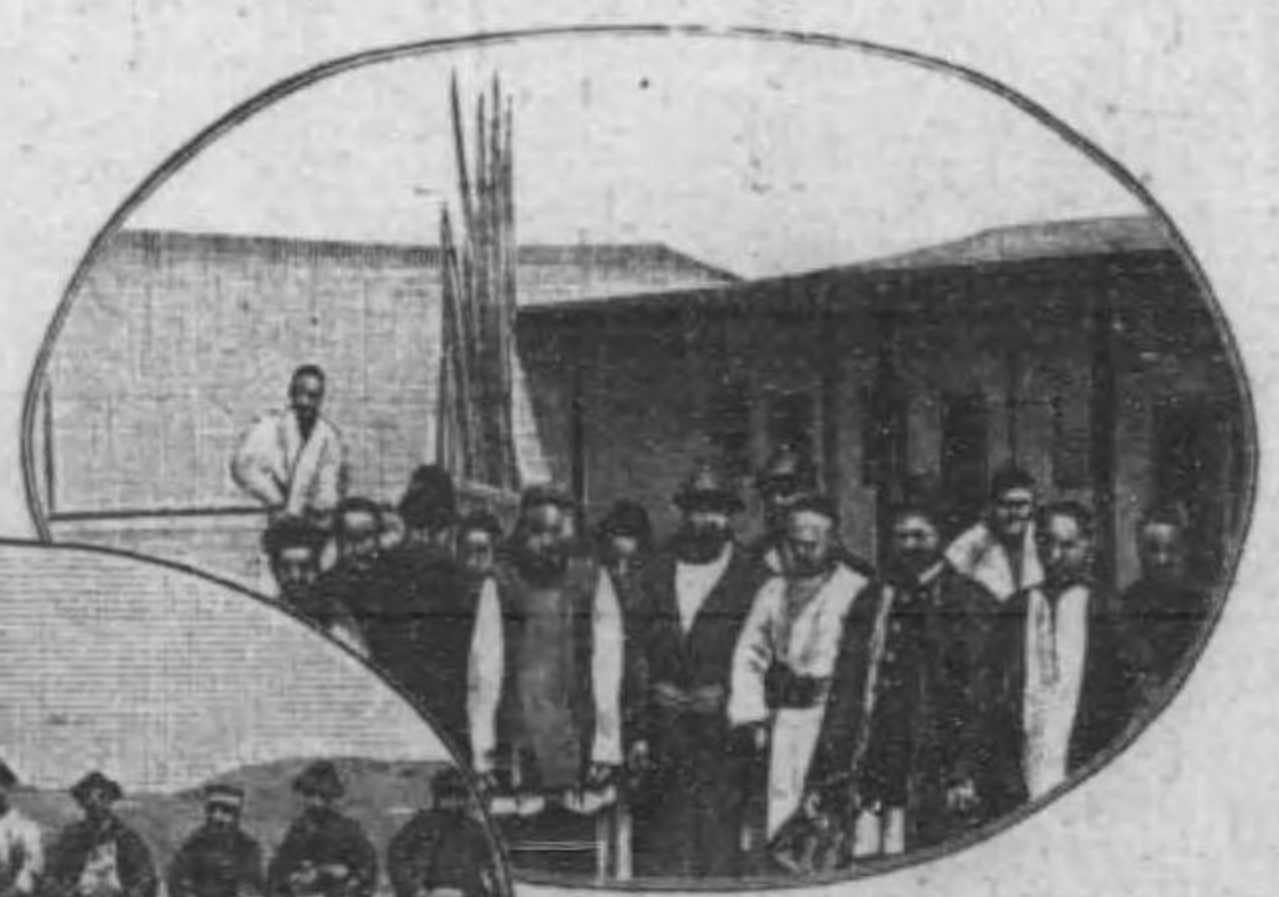
なり。天山

南路には、ホ

タン・ヤルカンド・カシ

ガル等あり。カシガ

ルはロシア・イギリス



伊犁土人と騎兵及び天幕



西藏高原西部之景色



兩者は、境域極めて不明なれども、青海は、概ね青海と稱する湖沼盆地附近を稱し、地高く、少數の蒙古人又は西藏人の遊牧區なり。西藏は、世界第一の高原にして、前藏・後藏の二部に分たれ、圖伯特族によりて住せらる。此族は主として牧畜に従事し、ヤックを飼養す。喇嘛教の首長達頼喇嘛政治を行ひ、中央政府よりは、もと駐藏官を置きしかども、近時イギリスの後援の下に、半獨立の姿にあり。首府をラサと稱し、近傍に喇嘛の大宮殿あり。

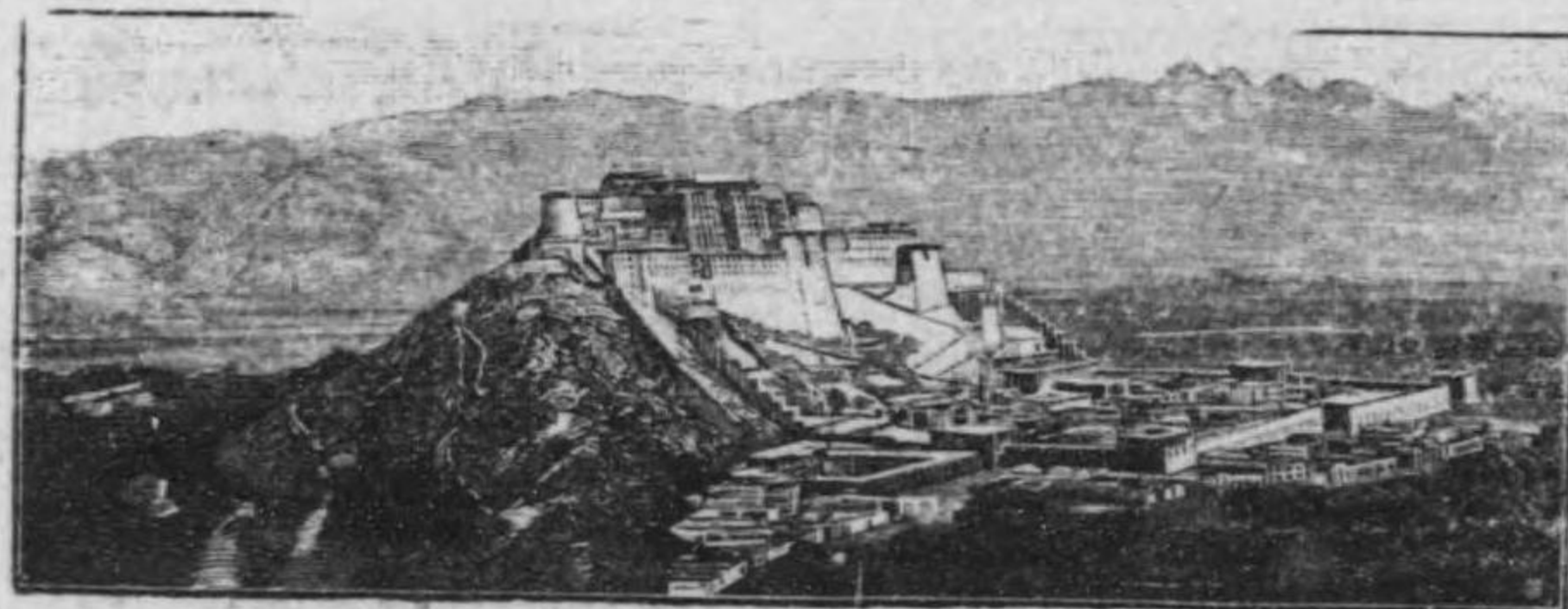


野生のヤク

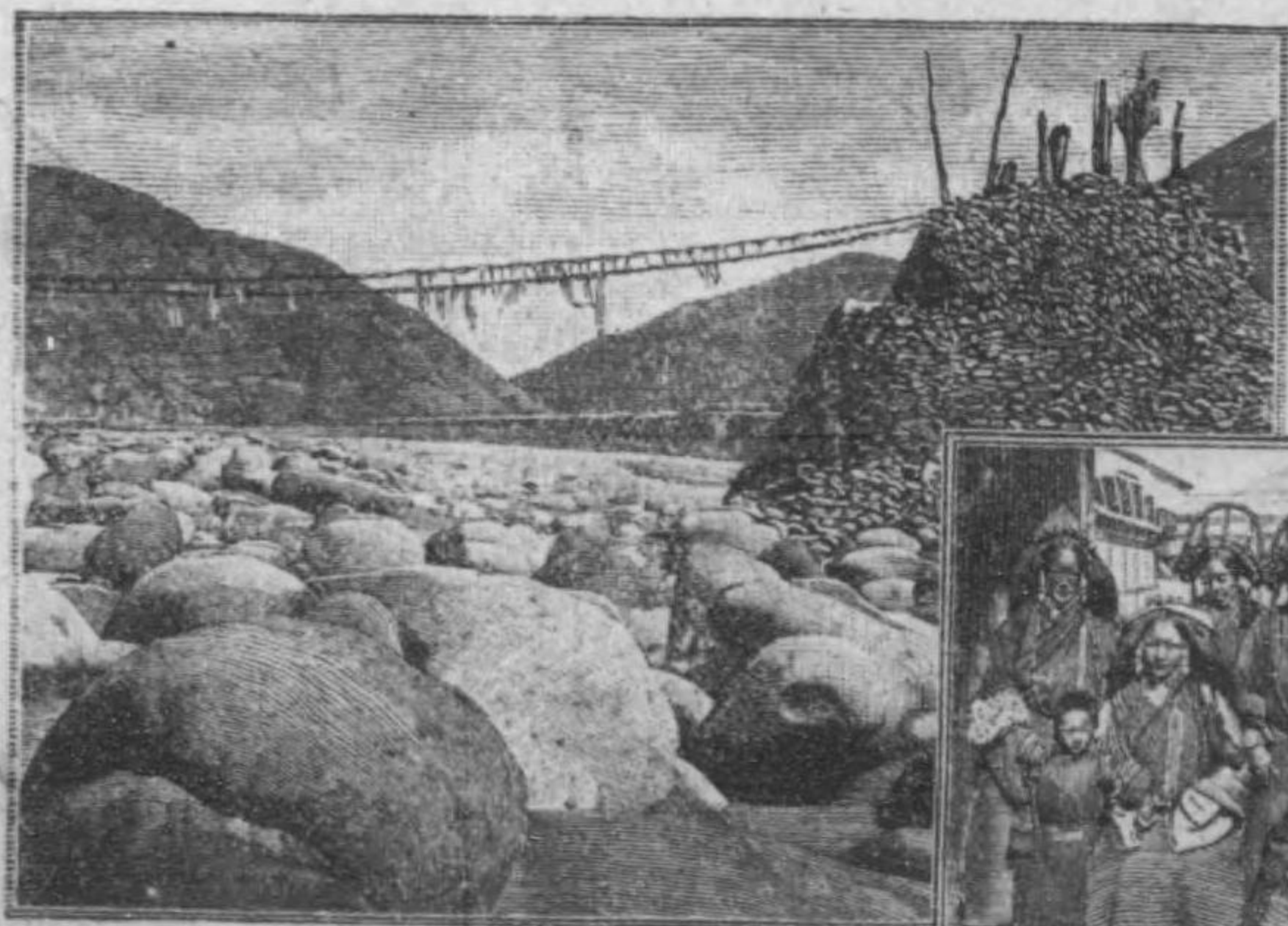
タラあり。亞東は印度への通路にある貿易場たり。

喇嘛高貴の家族

ポタラ宮殿とサラ盆地

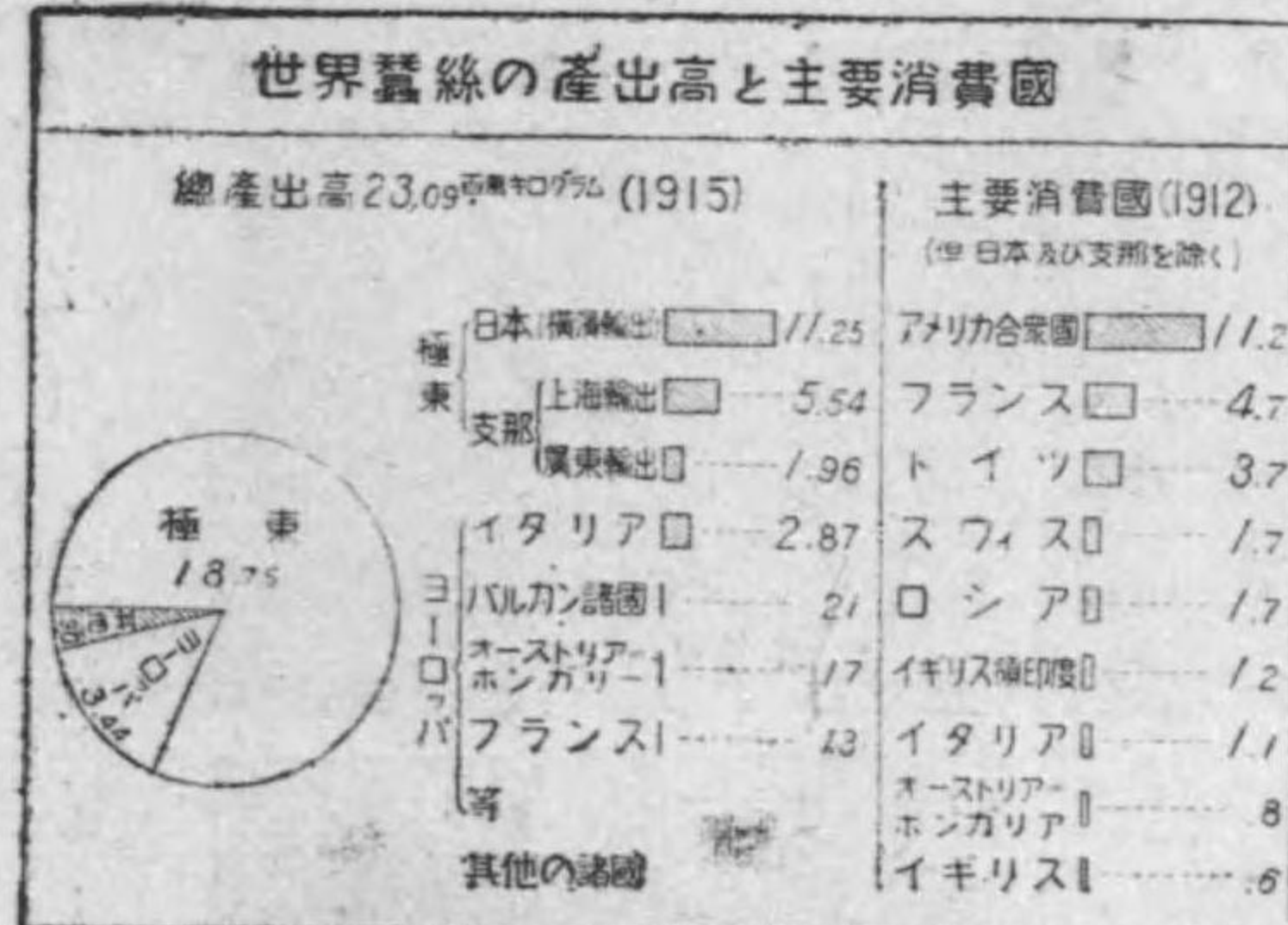


サボン川(下流はブラマブ川)の上流



産業 藩部即ち高原の地方は、内陸性氣候の影響により、灌漑の利を享くる小地域を除けば、概して自然の草原に依れる牧畜の行はるゝを見る。是に反し、本部・滿洲の大部は、概ね季候風帯に屬し、土地開けて農産甚だ豊富なり。即ち中部以北は、専ら畑作にして、高粱・大豆・玉蜀黍・麥類を主産物とし、中央以南は、土地の利用特に進み、水田大に開け、米産豊かに、又茶・棉花・麻類その他の農産甚だ多し。又養蠶業も、古來各地に行はれ、生絲の産出は、我國と共に世界に名高く、絹織物の産は世界の先進國たり。家畜の飼養は、

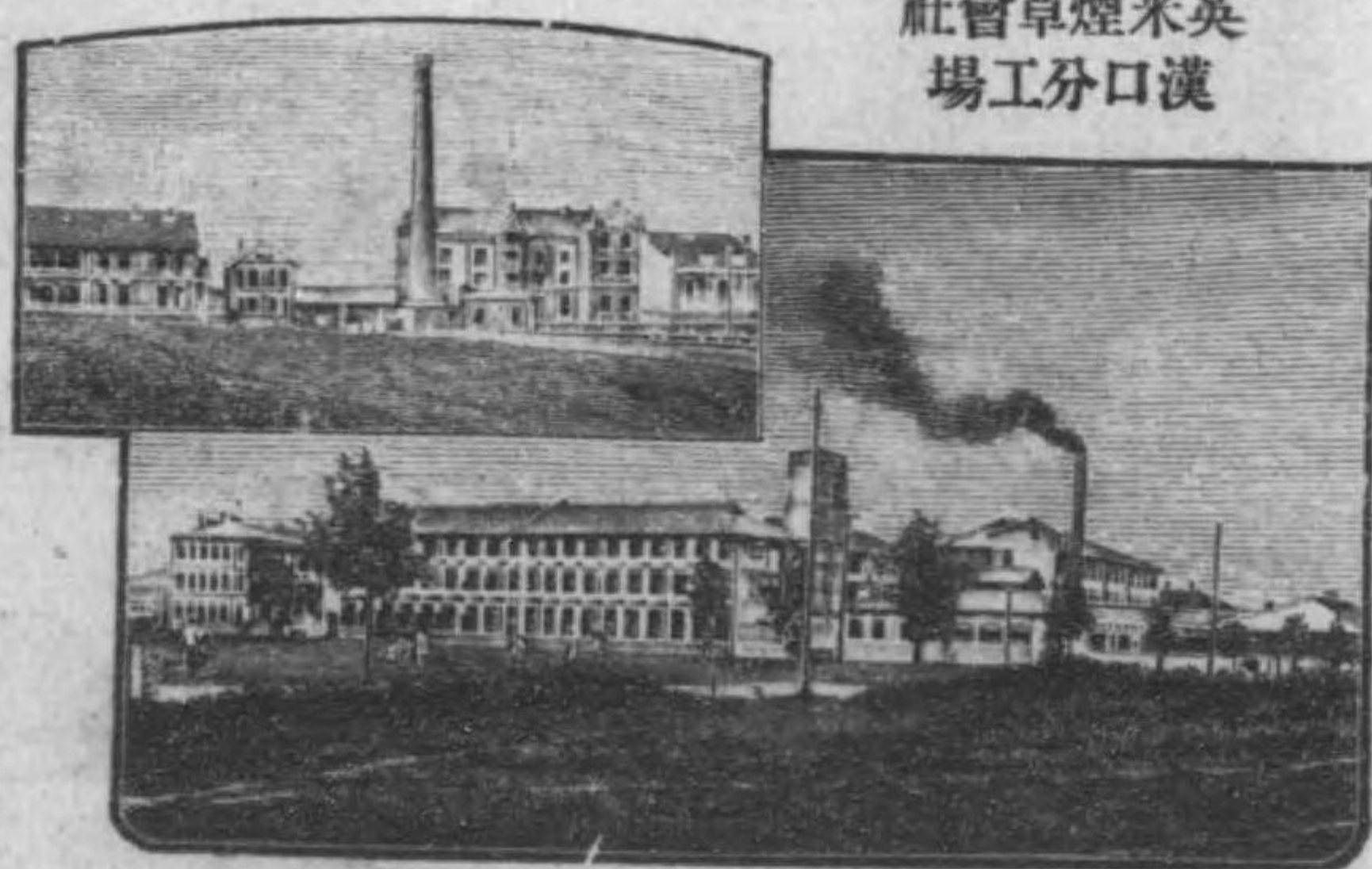
世界蠶絲の産出高と主要消費國



は世界の先進國たり。家畜の飼養は、

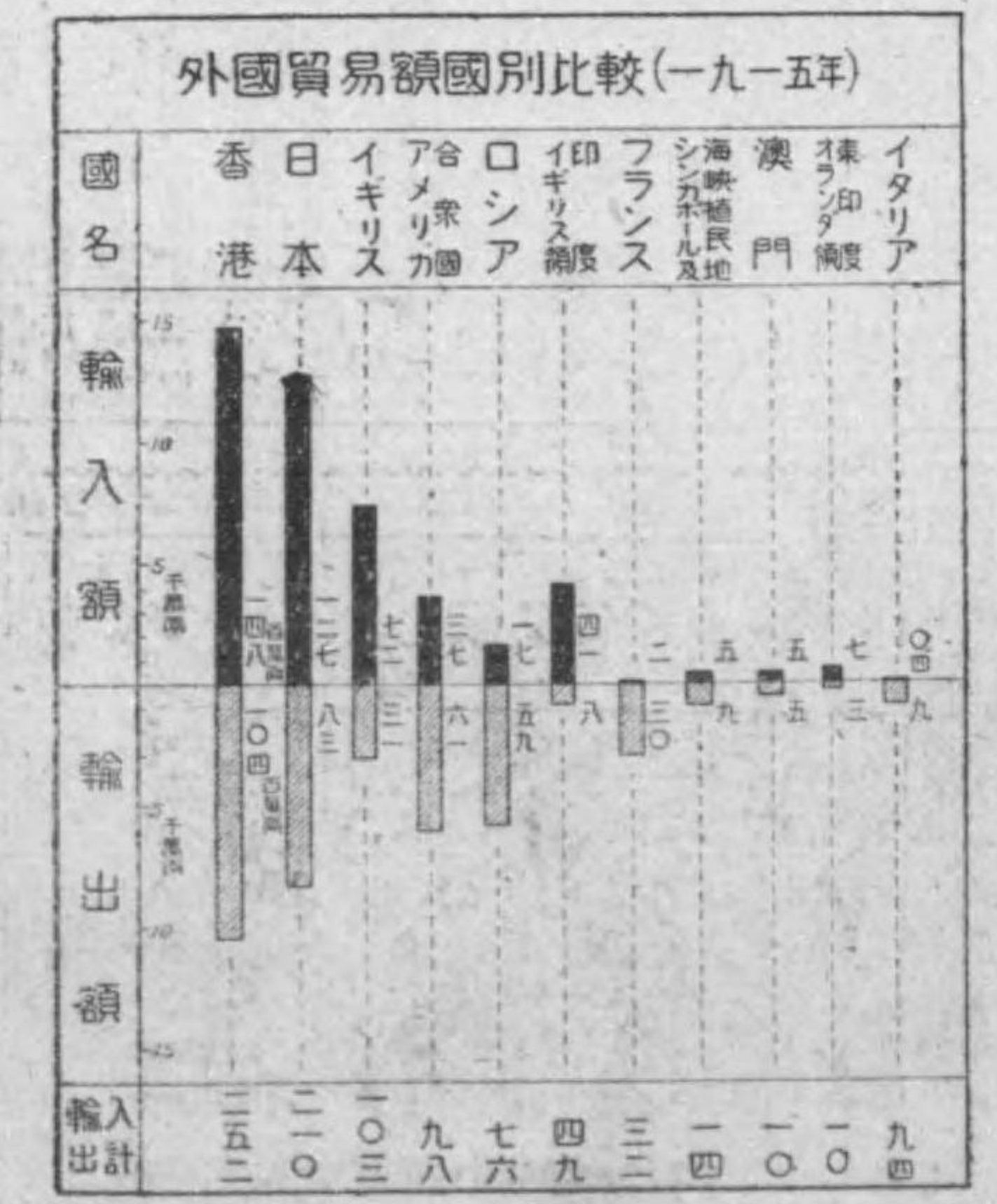
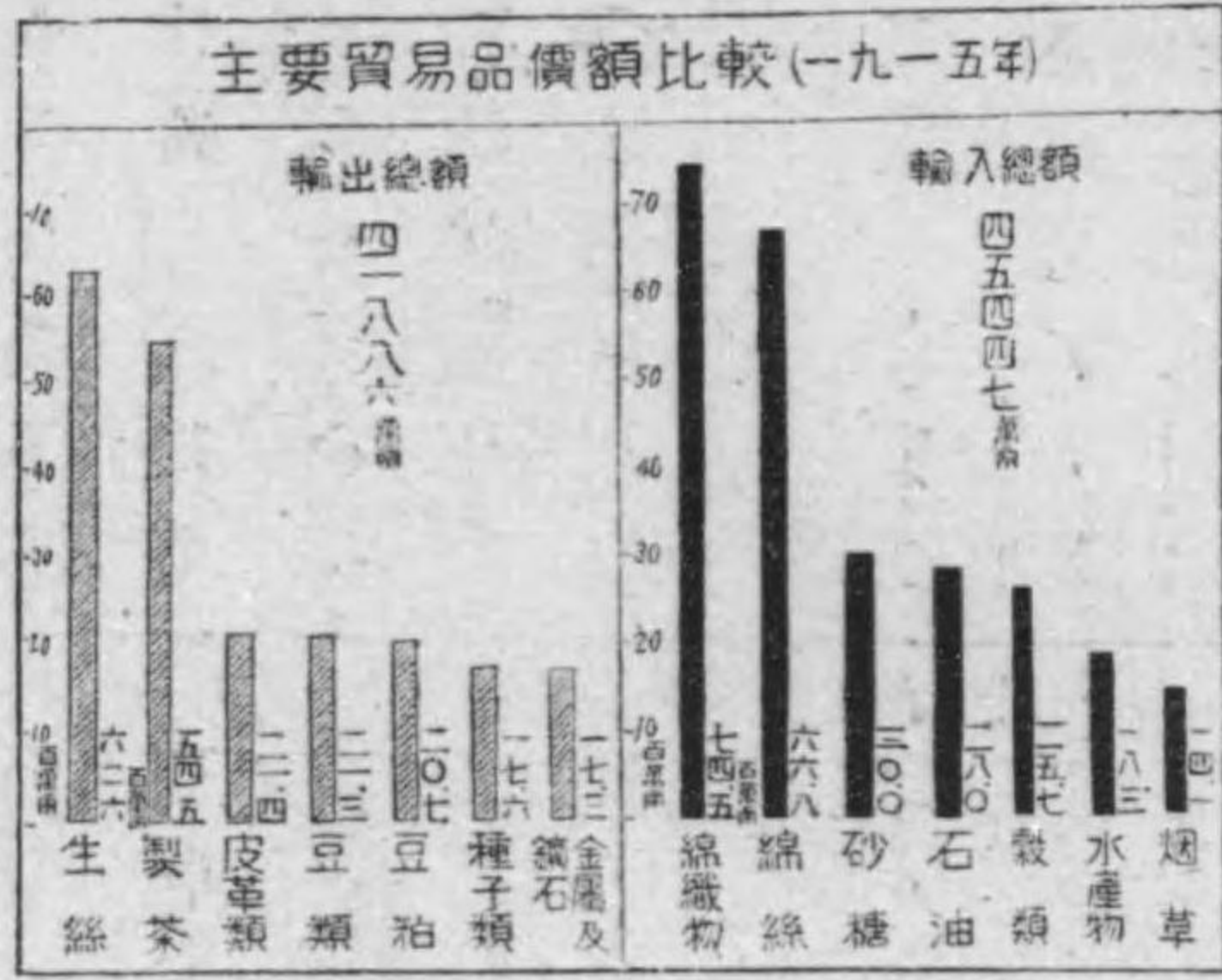
高原地方の馬・羊・山羊等自然の放牧以外に、本部・滿洲共に弘く行はれ、中央以北の馬・驢・騾、南部の黄牛、水牛、各地方の豚最も多く、その他一部には、山羊・羊・駱駝等飼養せらる。本部及び滿洲には、重要鑛物の埋藏多く、石炭・鐵等有用鑛産の將來は、世界の均しく注目する所たり。

(營經人ツイドとも) 社會酒麥島青

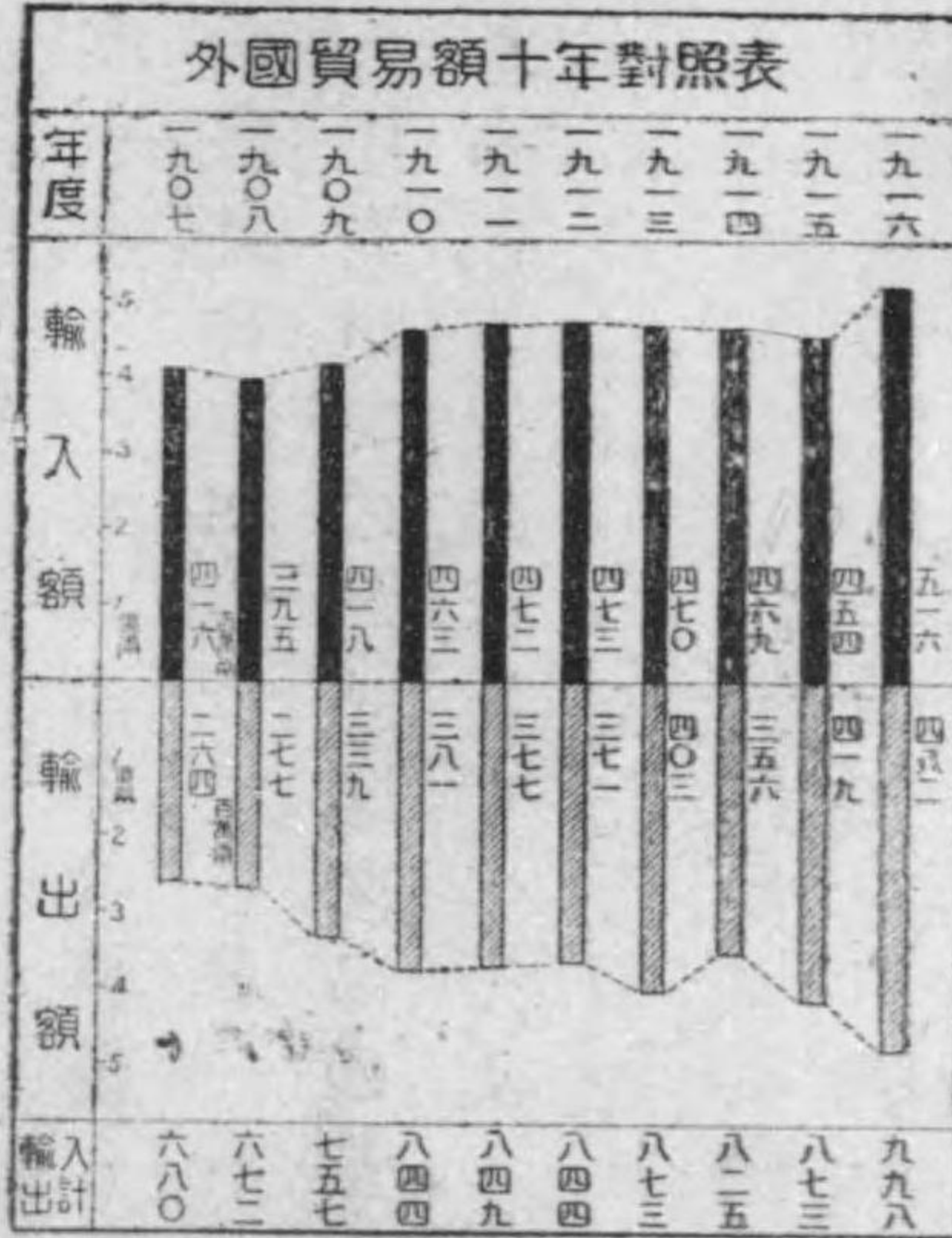


社會草煙米英 場工分口漢

工業は、絹機業最も進歩し、其他、綿工業を始め、各種の工場工業も、漸次盛運に向ひ、概ね中支那の東部及び大都會の所在附近に發達せり。されど、未だ悉く國內の需要を充たすこと能はず。尙、漆器・陶器は古來此

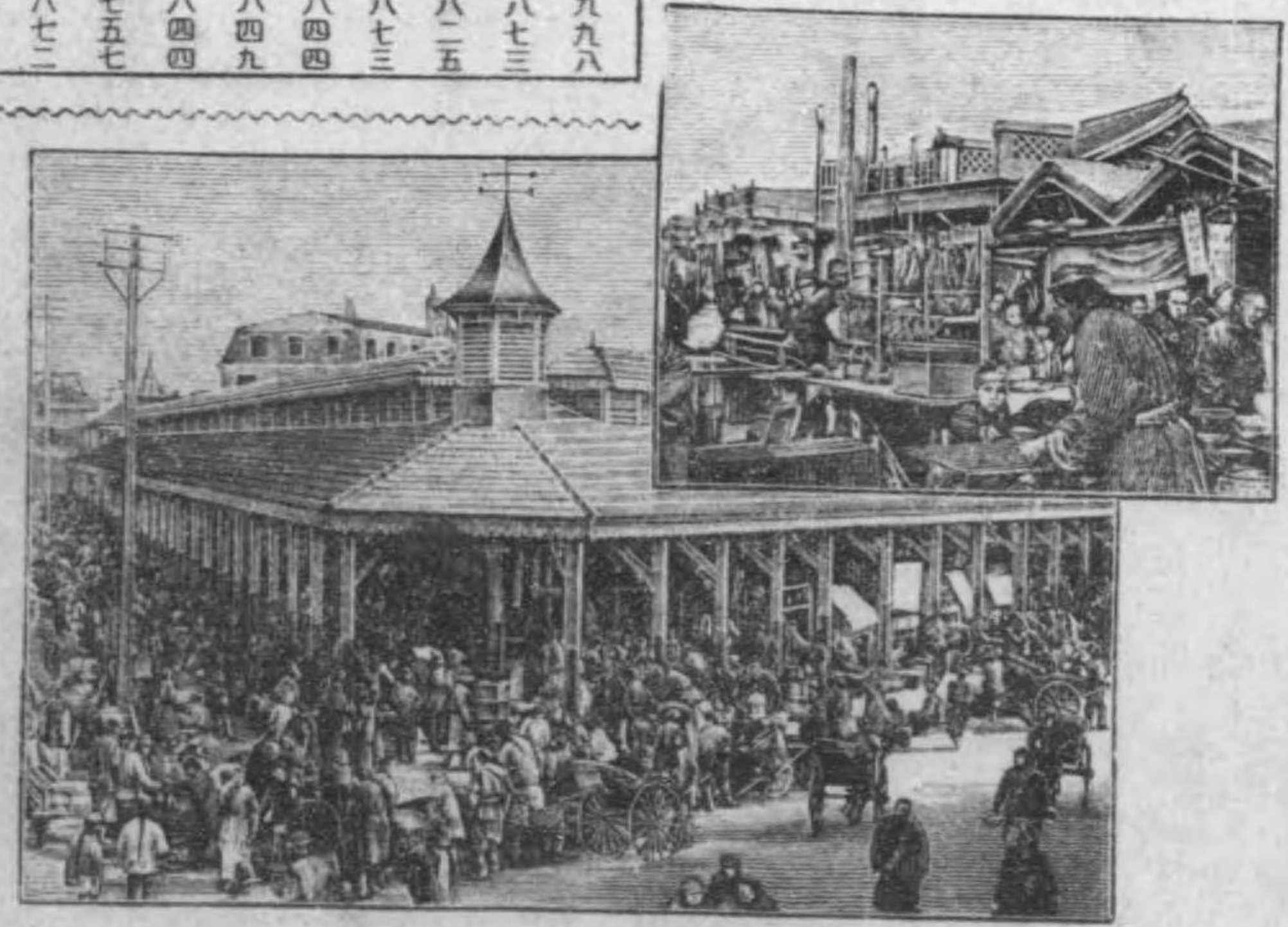


達せり。一般に地廣く民多ければ、外國貿易年々に盛況に向ひ、諸開明國殊にアメリカ合衆國・イギリス・日本・ドイツ等とは、原料品の輸出、精製品の輸入益、多きを加ふるに至れり。外國との交易場即ち開港場は、その數甚だ多く、そのうち、最



地理教科書 外國篇 上卷
國の名産なり。
商業 支那は、内國商業の統一未だ行はれず、貨幣の如き各地制定を異にし、取引上不便少からざれども、商業の規

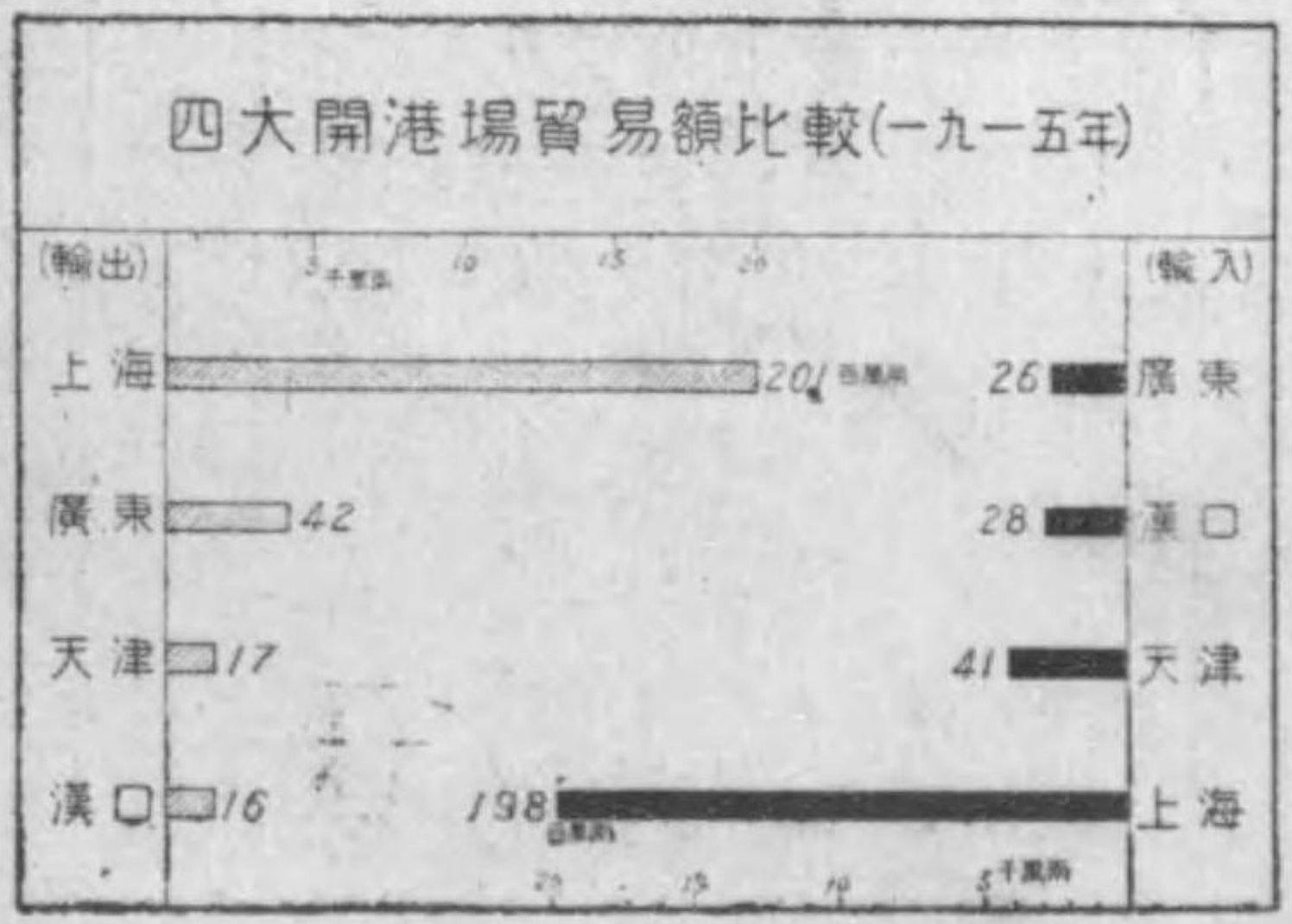
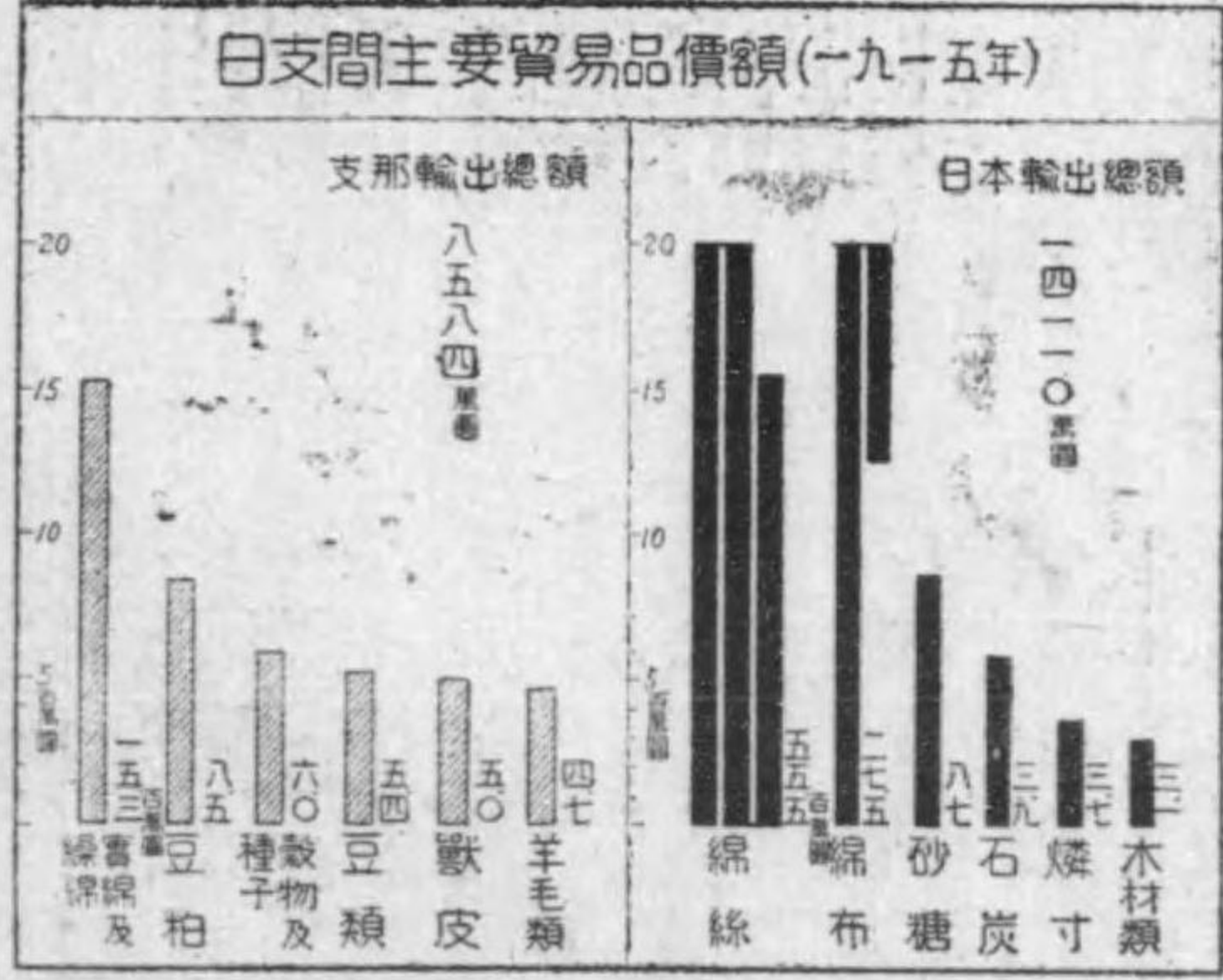
模倣に方法は著しく發



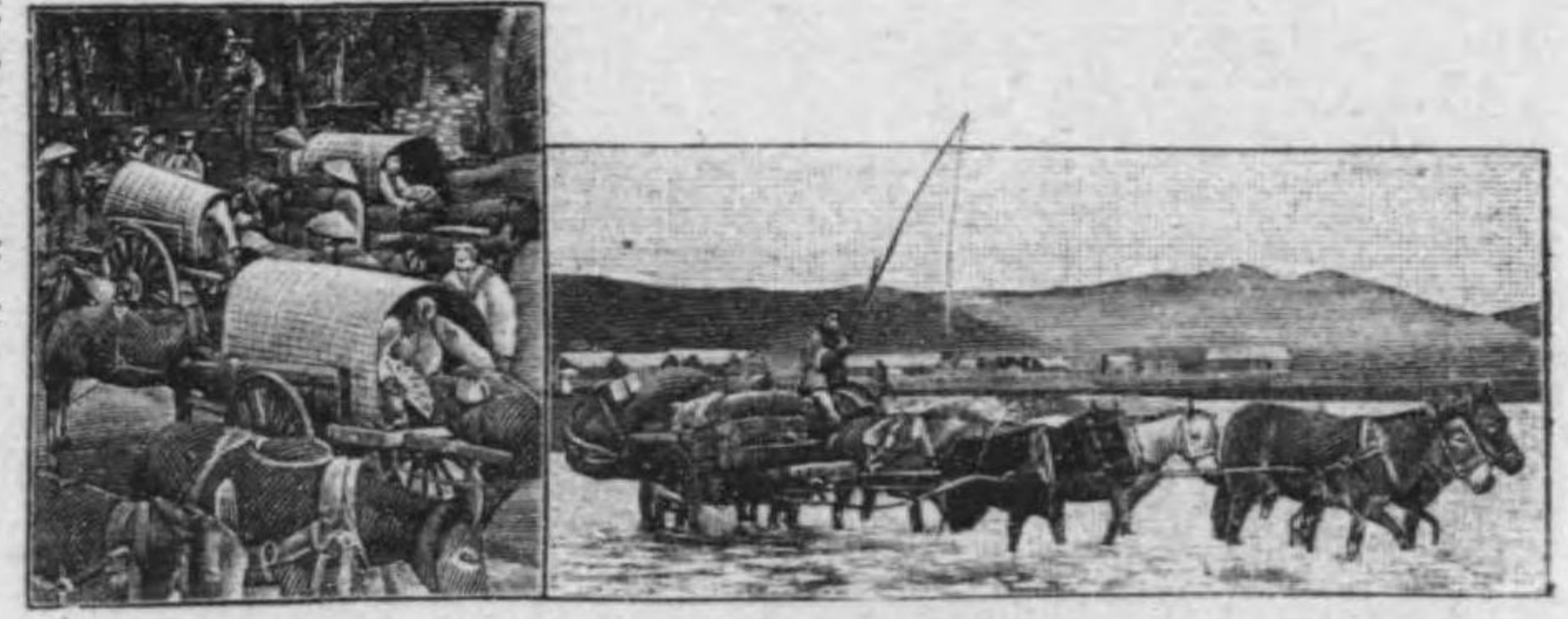
(口虹)場市海上と(樓牌四)場市年新の京北

も重要なるは、本部諸港にして、就中上海・漢口・天津・廣東の四港最も著はる。

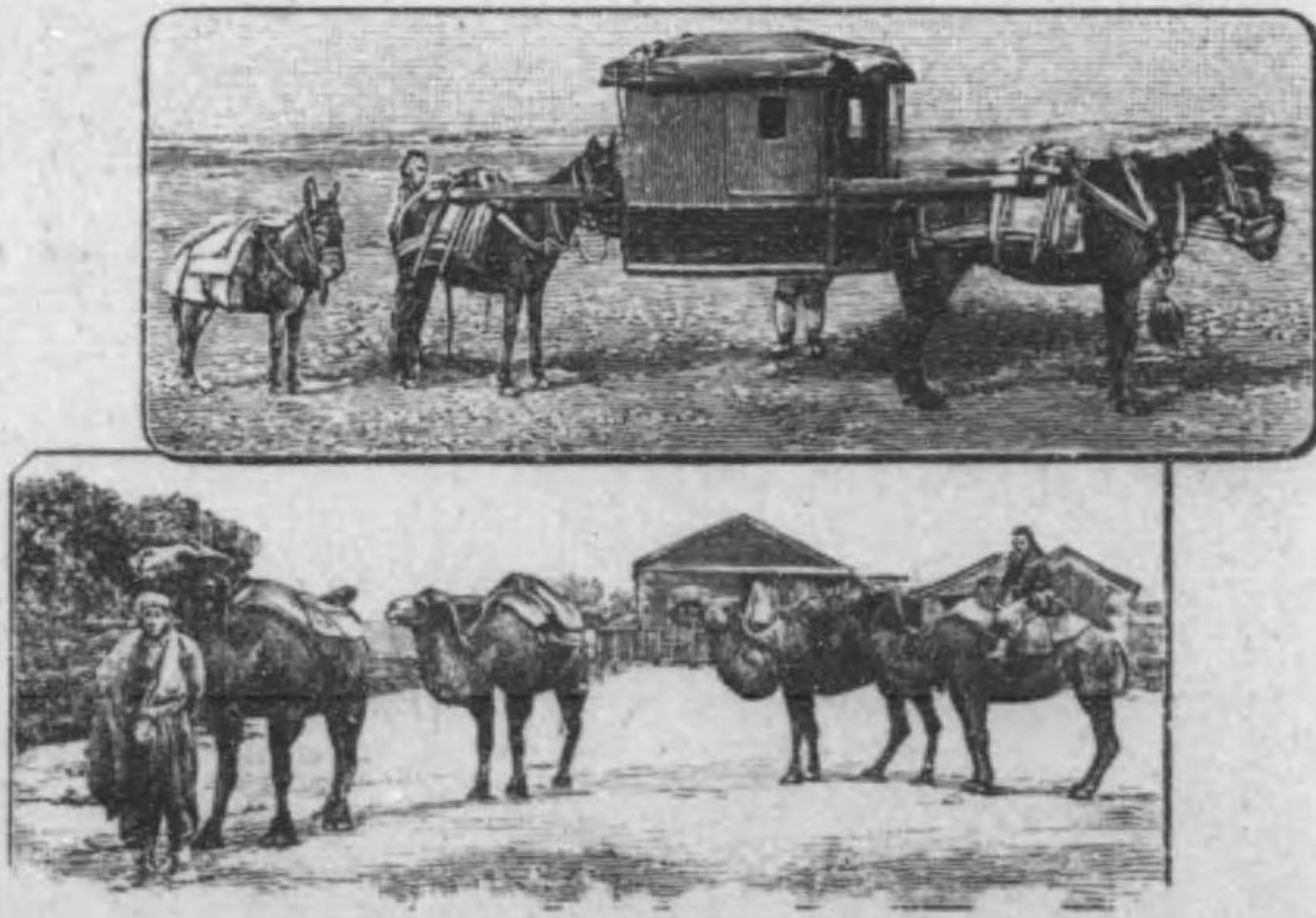
交通 支那は大陸國たるを以て、古來陸上交通に重きを置き、その線路及び機關の發達多様に互れり。概して高原諸部に比すれば、本部及び滿洲は、その進歩發達著しく、殊に南に進むに従ひ、内陸水運の利更に加はり、南船北馬の語を想はしむ。鐵道も本部・滿洲に起り、中にて、京奉



北支那滿洲の陸運雜景
馬車と駝馬



駝駱と驛驛



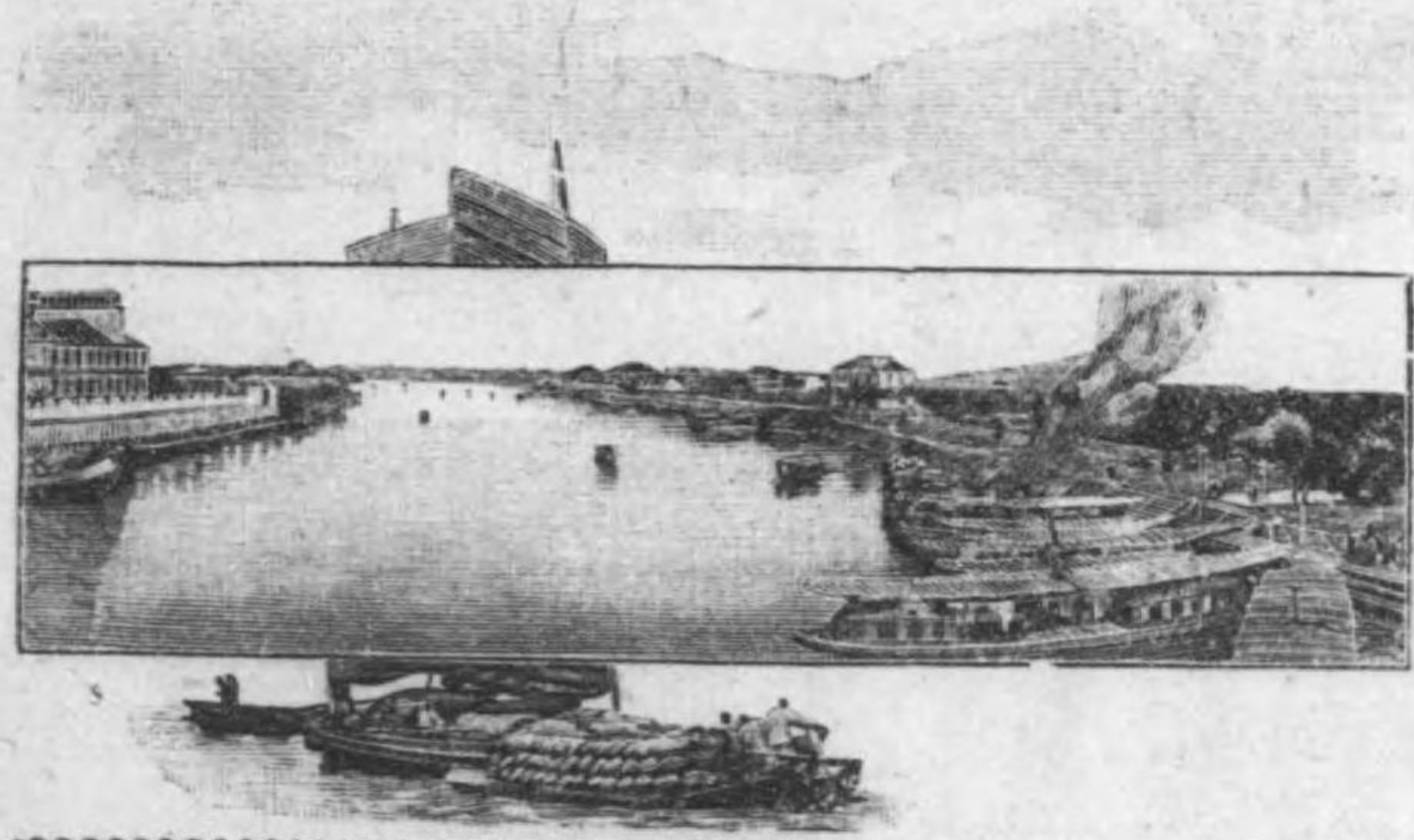
京漢・津浦の諸線と、これに連絡せる我南滿洲線、ロシアの東清鐵道は、支那鐵道の幹線にして、將來は粵漢線も之に入るべし。尙、此

揚子江の航運には日本(日清汽船會社)・イギリス(ス・ド・イツ)・支那の船舶之に従事す。

等と横に連結するものも、漸次起工の途にあり。内陸水運の盛大なるものは、河川にては遼河・白河・淮水・揚子

江珠江を推すべく、そのうち揚子江は、支那の地中海とも稱せられ、河口より重慶まで二千軒餘も航行すべし。運河は古來著名なる大運河を始め、本部の低地、概ね之を見ざ

大運河(杭州の北)



上海南京間鐵道 (滬寧鐵道)



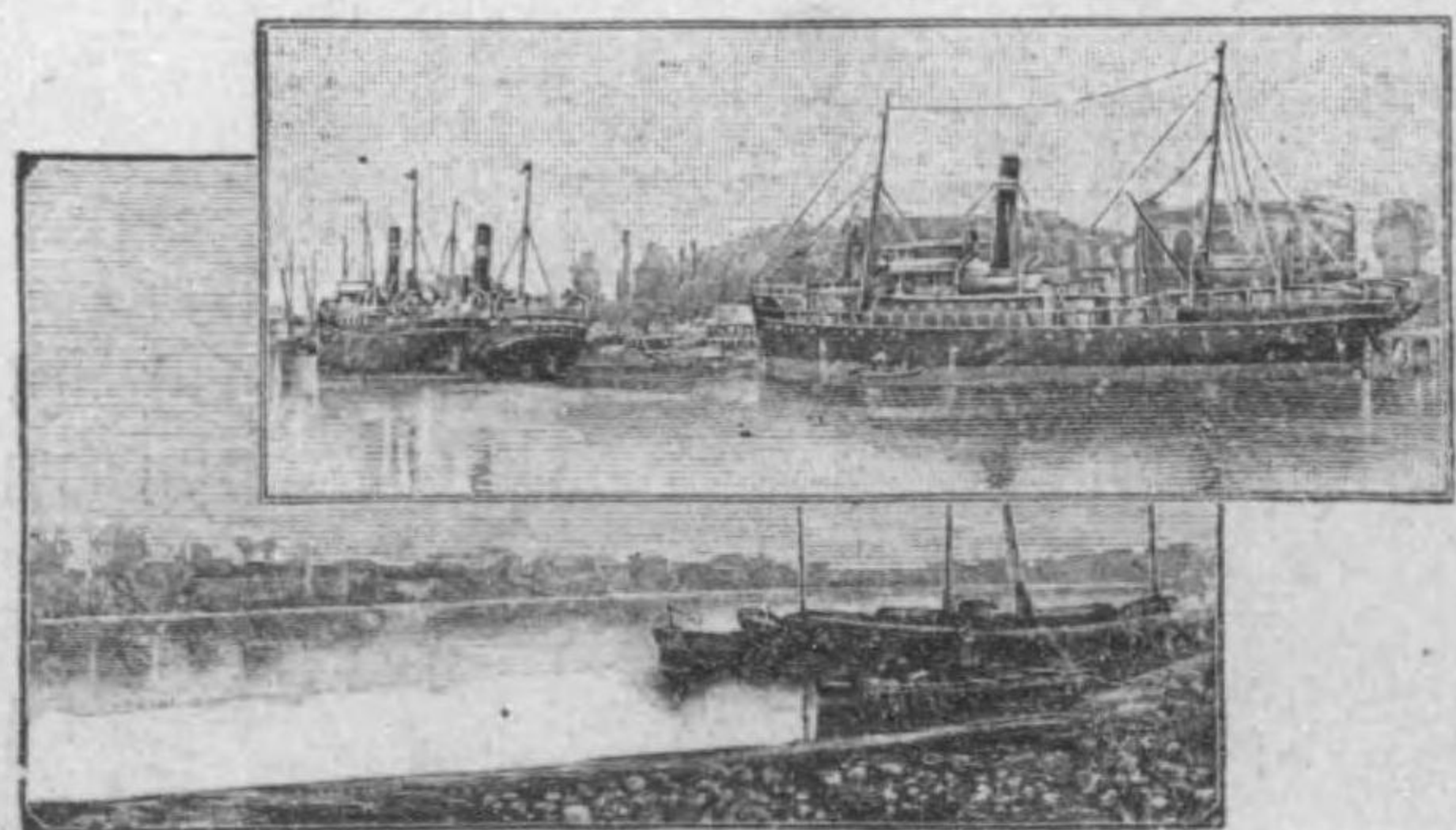
岳陽丸 (日清汽船會社)

揚子江中の流 (漢口港を南々西に望む)



るはなく、殊に南支那に在りては、舟楫の利多きもの少からず。海上の交通は、沿岸並に外國航路共に、概ね内外諸國の船舶之に當り、殊に外國船にては、我國のもの最も勢力あり。各航路の中心は、上海、香港にして、船舶の出入最も多く、大連を除き、天津、廣東等これに次ぐ。

白河天津港の景



黃河下の流 (河南の平野)

通信機關の發達は、未だ十分ならず。されど電線の國外に通ずるもの數條あり。陸上線は、シベリア及び印度と連絡し、水底線は、一方は我國及び南洋諸島に、他方は印度洋を経由して、ヨーロッパに連絡し、世界の通信に便す。

支那と列強及び我國との關係 支那は國土の大なる、民衆の多き、重要産物の豊富なる點に於て、夙に各國の注意する所となりしが、日清戰役の結果、その實力曝露せらるゝや、列強は競うて支那に迫り來り、或は經濟上の利權を獲得し、或は政治上に勢力を扶植し、或は土地を租借する等、諸種の方面に活動を開始するに至れり。當時我國は、國運發展の新时期に入り、強國の一として各國に認めらるゝに至りしかども、その支那に於ける勢力は、極めて微々たるものなりき。然るに日露戰役によりて、ロシアより關東州の租借權、鐵道

所有、鑛山採掘等の權利を繼承してより、漸く、南滿洲は更なり、支那本部、東部蒙古方面に於ても、諸種の特權を確保し、依りて以て、一はこの國を扶け、一は列強と對峙するの素地を作らんとす。蓋し支那の運命は、直接帝國の存立に影響すること大なるを以てなり。

統括諸問 支那の東西及び南北の最大延長を、地圖に據りて概測せよ。

省の名を列舉せよ。内陸水系の區域を示せ。興安嶺、天山山脈及び雲

貴高臺につき説明せよ。地圖を見て、淮水の地形上の特色を述べよ。

揚子江口を境として、支那沿岸を南北二區に分たば、其海岸出入の狀況、背後の地形、港灣の分布等互に相異なるところなきか如何。支那近海の海深に關して述べよ。氣候と重要産物の分布との關係につきて、知るところを述べよ。漢人種と漢人種以外の種族との間に存する差別につきて知るところを語れ。外國の領地及び租借地を列舉せよ。滿洲の鐵道沿線の主要都會を舉げて、これを比較せよ。地理上より揚子

江流域の重要事項を列擧せよ。支那は何故に水産物の輸入を我に仰ぐか。陸上交易の概況を語れ。地圖を見て滿洲里より哈爾濱奉天天津北京を経て、漢口に至る鐵道線路の名稱及びその所有に就きて述べよ。支那の沿岸及び支那經由の外國航路に従事する我汽船會社並にその航路を擧げよ。支那に於けるロシアイギリスの勢力範圍に關し、知るところを述べよ。

南部アジア

一、印度支那

區分	フランス領印度支那	面積	人口	人口密度
French Indo-China	面積八〇萬平方杆	人口一七百萬	人口密度二一人	
トンキン(東京)	保護國			
Tongking				
アンナム(安南)	保護國			
Annam				
ラオス(老撾)	保護國			
Laos				
カンボジア(東蒲塞)	保護國			
Cambodia				

區分	面積	人口	人口密度
コシエンシーヌ(交趾支那)	面積六〇萬平方杆	人口八六百萬	人口密度一四人
Cochin China			
シナム(暹羅)王國	面積七四萬平方杆	人口一五百萬	人口密度二〇人
Siam			
イギリス領印度支那	面積七四萬平方杆	人口一五百萬	人口密度二〇人
British Indo-China			
海峽植民地	ピナン(彼南)・マラッカ・シンガポール		
	(新嘉坡)		

マライ聯邦及びマライ諸國
バルマ(緬甸)……印度帝國の一部

通説 印度支那は、アジアの東南部に突出せる一大半島にして、その南半は、更に延びてマラッカ半島をなし、太平洋と印度洋とを分つ。其地形を観るに、印度支那山脈西藏の東南より來りて、本地域を南に縦走し、イラワヂ・サルウィン・メナム・メコンの諸流、その間を流れ、東方のトンキン川と共に、兩岸に大小の平野を延べ、中には、下流に廣大なる三角洲を作る

1 東京河又は紅河。

ものあり。沿岸は出入に乏しく、マラッカ半島の東西に灣入せるシム・ペグの二灣、及び北方支那との境界にあるトンキン灣を著しとす。

氣候は、全く熱帶性にして、一年は

營經林謨護の島半イラマ



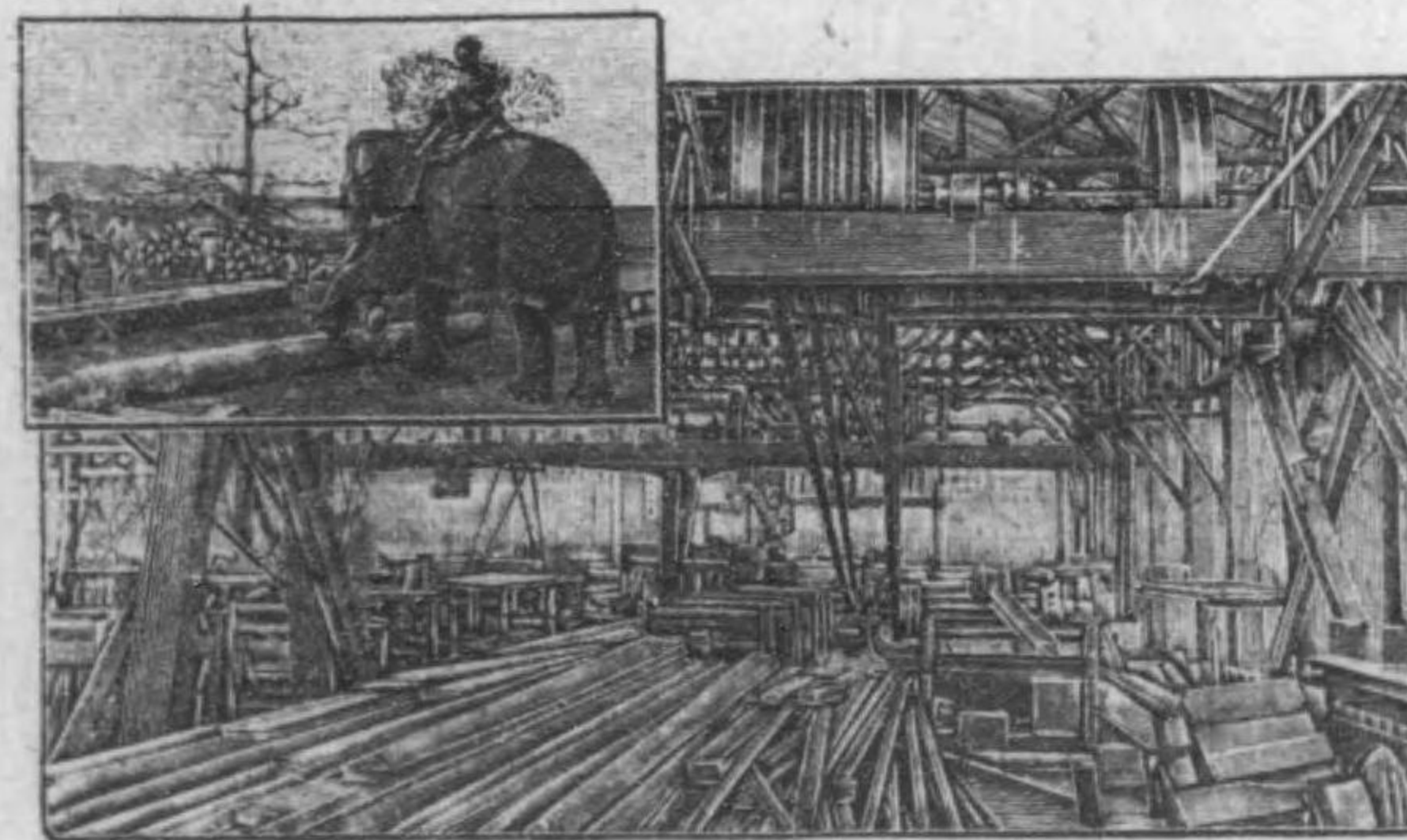
狀の集探液汁

木年九

木年四

茂物用の熱分季の乾雨
繁植有帶れに二

出搬と材製クーチるけ於にムッ

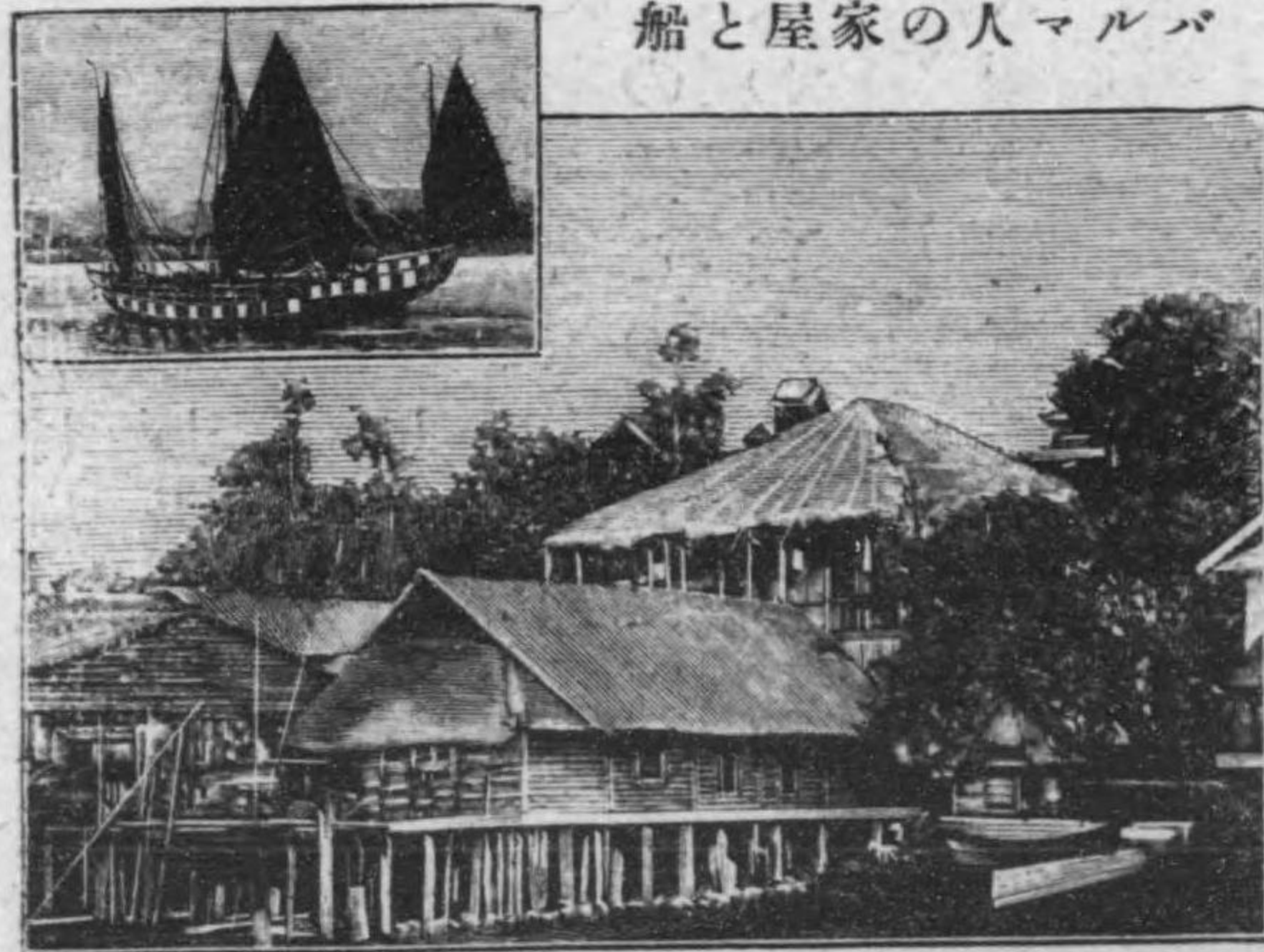


ニ
内
豆
蔻
胡
椒
肉
桂
等。

象の如き巨獸また棲息す。産業にては、農業最も弘く行はれ、米の産、護謨の栽培甚だ

著しく、棉花、諸種の香料及び一部には、船材チーク、錫の産亦多し。住民は少數

船と屋家の人マルバ



景雜俗風人イラマ 屋家人土の邊水 (車牛と路道)



ものあり。沿岸は出入に乏しく、マラッカ半島の東西に灣入せるシム・ペグの二灣及び北方支那との境界にあるトンキン灣を著しとす。

氣候は、全く熱帶性にして、一年は

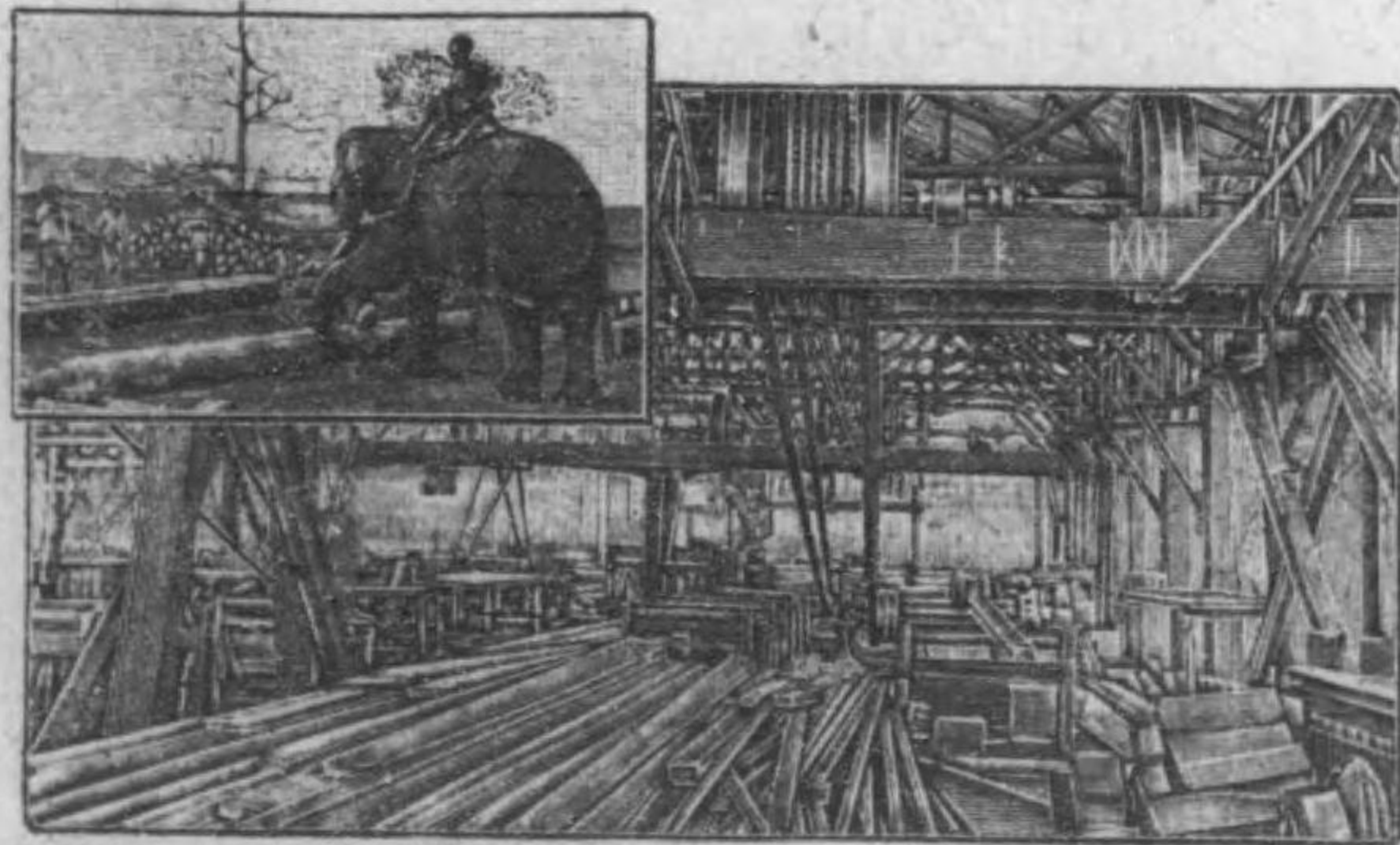
營經林謨護の島半イラマ



汁液採集の狀
本年九月

本年四月

乾雨の二季に分れ、熱帶の有植物繁茂し、
マシに於ける材製と搬出



ニラ、胡椒、胡椒肉、桂等。

象の如き巨獸また棲息す。

産業にては、農業最も弘く行はれ、米の産、護謨の栽培甚だ

著しく、

棉花諸

種の香

料及び

一部に

は、船材

チーク

錫の産

亦多し。

住民

は少数

マルバの人家の屋と船



水邊の土人人家 イラマ人の風俗雜景
(道と牛車)



3 海岸島嶼人(褐色人種)に入る。

4 支那人は概ね商業及び勞役に從事し中には巨萬の富を擁し社會上の勢力大なるもの少からず。

のマライ人を除けば、概ね印度支那族にして、夙に印度及び支那の開化を傳へ、佛教を信ずること深く、壯大なる寺院多し。マライ種族はマラッカ半島に居住し、回教を奉ず。その他、この地方には、支那人、印度人の來住者甚だ多し。

地方誌 フランス領印度支那 印度支那

French Ind-China 印度支那 半島の東部に位し、域内、トンキン、アンナム、ラオス、カンボジア、ユシエンシ

トンキンのハノイ(河内八)は、フランス領印度支那總督府の所在地にして、近傍農産に富み、鐵道四方に通じ、ハイフオン(海

(ソフン) 拜禮の人マルパるけ於に内塔佛



防)港をその咽喉とす。アンナムのユエ(順化六)、ラオスの

ルアン普拉バン、カンボヂアのプノムベン(南旺六)、ユシエンシ一ヌのサイゴン(西貢)は、孰れもその地方の首府にして、中にもサイゴン(一〇)は、出入汽船多く、商業盛んにして、米の輸出多し。

シム シムはメナム川の盆地を控ふる獨立の專制國にして、往古勢を近隣に振ひしが、近年イギリス及びフランスに壓せられて、國勢漸く蹙

侶僧と寺佛るあに内城王ムッシ



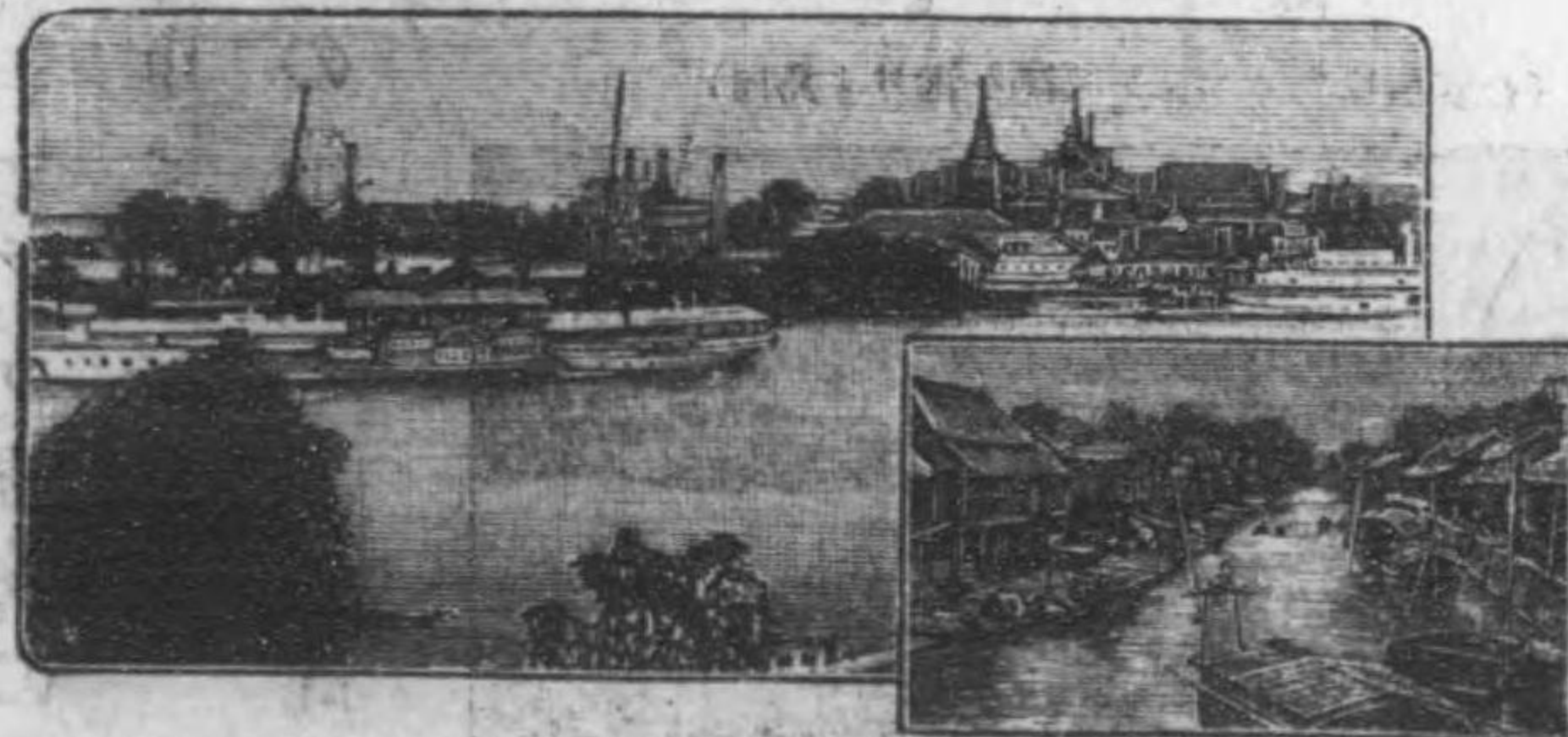
1 帝國公使館所在
地、市の北方に
山田長政の遺跡
を存す。

2 シンガポール・
ヒナンは共に我部
船會社歐洲航路船
の寄港地、中島の
尖端地方は邦人の
護謨栽培その他の

地理教科書 外國篇 上卷
れり。重要産物は、メナム河盆地の米、及びその上流地方の
チーク、マラッカ半島の錫にして、米・チークは我國へも輸出せ
らる。首府はバンコク(盤谷(六三))と
稱し、河口にあるパクナムを咽喉と
す。

イギリス領印度支那 印度支那半
島の西部及びその尖端部に據り、海
峽植民地・マライ聯邦・マライ諸國及
びバルマに分たる。海峽植民地は、
近時護謨樹栽培の事業に著はれ、政
廳所在地シンガポール(三六)は同名
の島の南岸に位し、東西交通の要衝
に當り、且つ錨船安全の良港なれば、

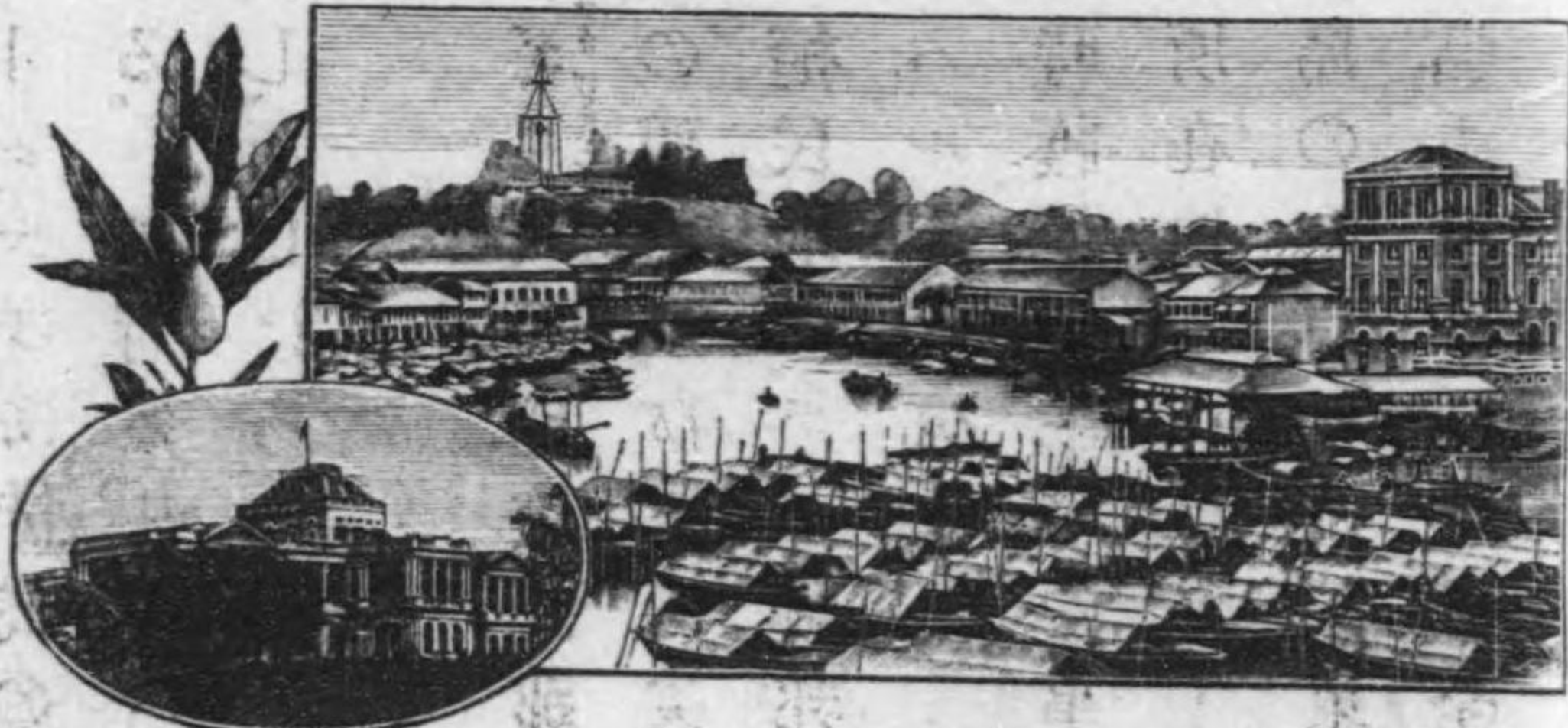
川ムナメと市クコンバ



河運の内市同

業務に従ふ者頗る
多き、邦人にも
比すれば、數・成績
共に未だ及ばず。

岸海港ルーボガンシ



第一章 アジア

マヤ(果實の王と稱せら
るこの地方の産)

出入船舶多し。マラッカ海峽の東
部、マヤ島に港市ヒナンあり。半
島の間をその錨地とす。此等
の後背に當
れる半島の
大部は、マラ
ヤ聯邦及び
マライ諸國
にして、錫・米
の産出に顯
はれ、内地の
開發方に進
行中に屬す。

(む望な島半イラマと隔み港りよ島同)



地理教科書 外國篇 上卷
バルマも亦シムと同じく、一時半島に威を振ひし國なれども、イギリスに併吞せられ、現に印度帝國の一部たり。域内の主部はイラワヂ川の縦谷

3 河口より一千餘
杆の上流パーモ
まで航運行は
る。

4 我々船會社の航
路あり。



世界に於ける米産地分布圖

に依りて、
交通灌漑
の利を享
け、その平
野は世界
著名の米
産地なり。
ラングン
(蘭貢二九)

ラングンの佛塔



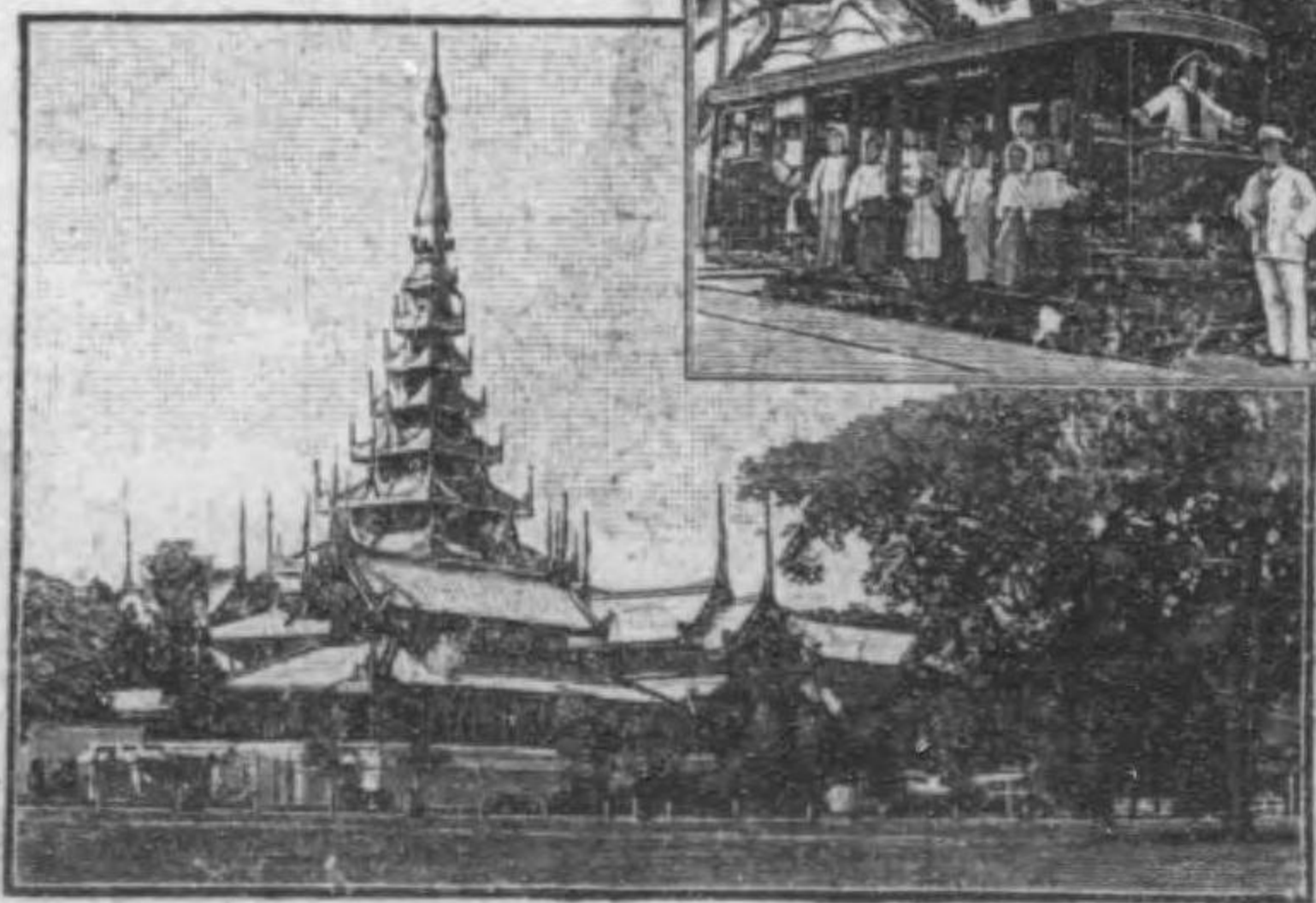
の三角洲上
に位し、米の
大輸出港と
して知らる。
鐵道こゝよ
り發し、舊王
都マングレ
ン(二四)を
經て、支那の
境上に迫る。



ラングンの港

電氣車(ラングン)

マダニの舊王宮



ニ、マライ群島

Malay Archipelago

區分 アメリカ合衆國領

フィリピン群島

Philippines

第一章 アジア

面積三〇萬平方杆
人口九百萬 人口密度三〇人

イギリス領

ボルネオの一部

面積二〇萬平方杆

人口七四萬 人口密度四人

ポルトガル領

チモルの一部

面積二萬平方杆

人口三八萬 人口密度二〇人

オランダ領

オランダ領東印度諸島

面積一九二萬平方杆

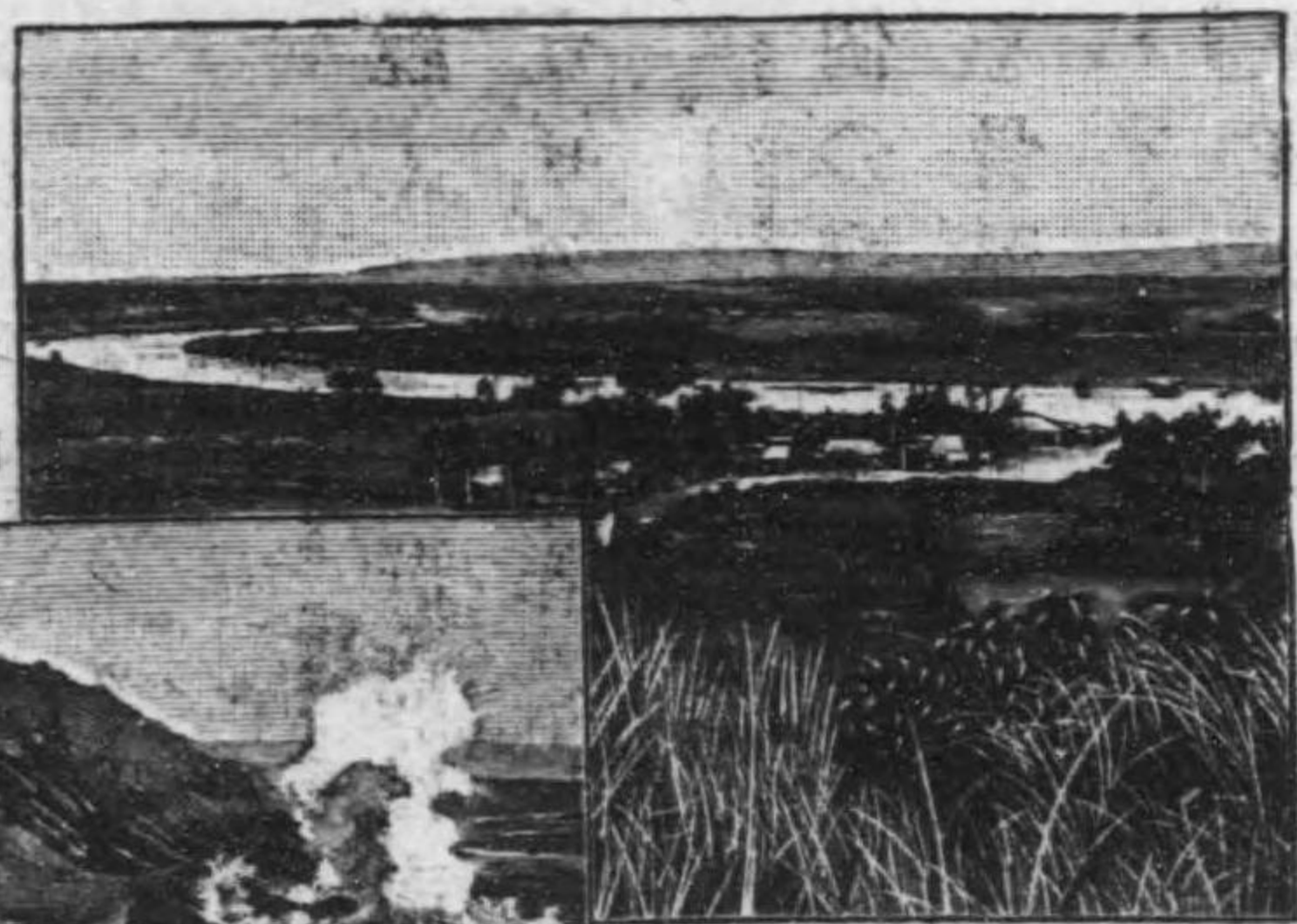
人口四八百萬 人口密度二五人

通説 マライ群島は南支那海を隔て、東南アジアの外堡をなせる列島群にして、太平洋の兩大洋を隔て、その東南は、ニューギニア及びオーストラリア大陸に近接す。列島は、數個の彎形を形づくり、悉く系を印度支那山脈に惹ける山脈を骨格とし、そのうち西南印度洋に凸部を向けたるは、スマトラ・ジャバ及びその東部の島々にして、東南又は東に向つて彎曲せるは、ボルネオ・フィリピン群島なり。又ボルネオの

1 シアバは活火山の數甚だ多く世界火山の爐と稱せらる。

2 スンダ海峽にクワカダツ島あり、一八八三年大爆裂をなししを以て顯はる。

野平のオナダン



トールナ山 火口(マニラ)



東には、別に畸形を呈せるセレベス、ジロロの二島あり。此等の諸島は、ボルネオを除き、火山の噴起著しく、就中、スマトラ・ジャバ・フィリピン群島には、高峻なる活火山少からず、各島の間には、廣狹一ならざる内海、又は海峽横たはり、中にて著名なるは、スンダ・マラッカの二海峽にして、マラッカ海峽は、印度洋と太平洋とを連ぬる世界の重要航路たり。

氣候は、印度支那よりも、一層熱帶の特徴を現はし、殆ど毎日驟雨あり。植物景・農作物は、印度支那に類すれども、特に著しきは、珈琲・煙草・甘蔗にして、護謨・米・茶・コブ・ココア、諸種



住民は、概ね沿岸島嶼人種中の
マライ人及びインドネシア族に
属す。風俗雜景

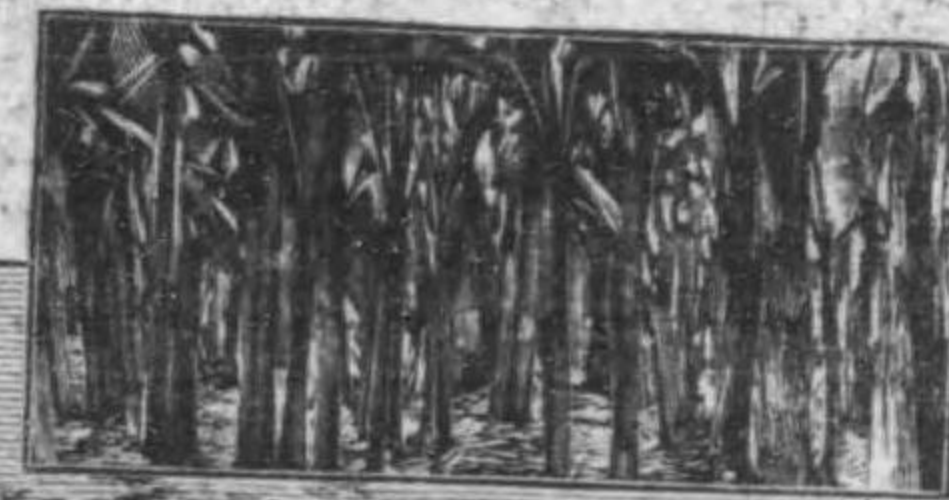
ニラ麻樟腦を産すること
多し。鑛産も重要なもの
の一にして、錫・金剛石・石
油等の産、有望なる處尠からず。

培栽の茶の人土ラトマス



は、りに地次れ産料の香
マてよ方ぎ、にこの香

培栽の麻ラニマ



實非迦



況狀の耘耕田水バツジ

ツアバの茶摘

して、回教を奉ずるもの多く、開化の程度一般に低く、特にインドネシアに屬する者は蠻性を脱せず。支那人の移住甚だ多く、その活動の著しきこと、印度支那にも増し、經濟上の勢力侮るべからざるものあり。近年我國よりも移民又は事業家、續々この方面に入る傾あり。



(年青のバジャ) 装風の人イラマ



(人那支) 人商物食のバジャ

島誌 各島中、オランダ領は、オランダ領東印度の大部分に當り、小島を除けば、スマタラジャ、ジャバ、ボルネオの大部及びセレベス等を著しとす。スマタラジャは、内部に化外の蕃族居住すれども、他は土地大に開け、珈琲、煙草等の栽培盛んに、石油の産亦頗る多し。島の東南内側に

1 九州は我國の大島中人口密度最大にして一平方杆につき約二百人なるに、ジャバは約二百三十人なり。

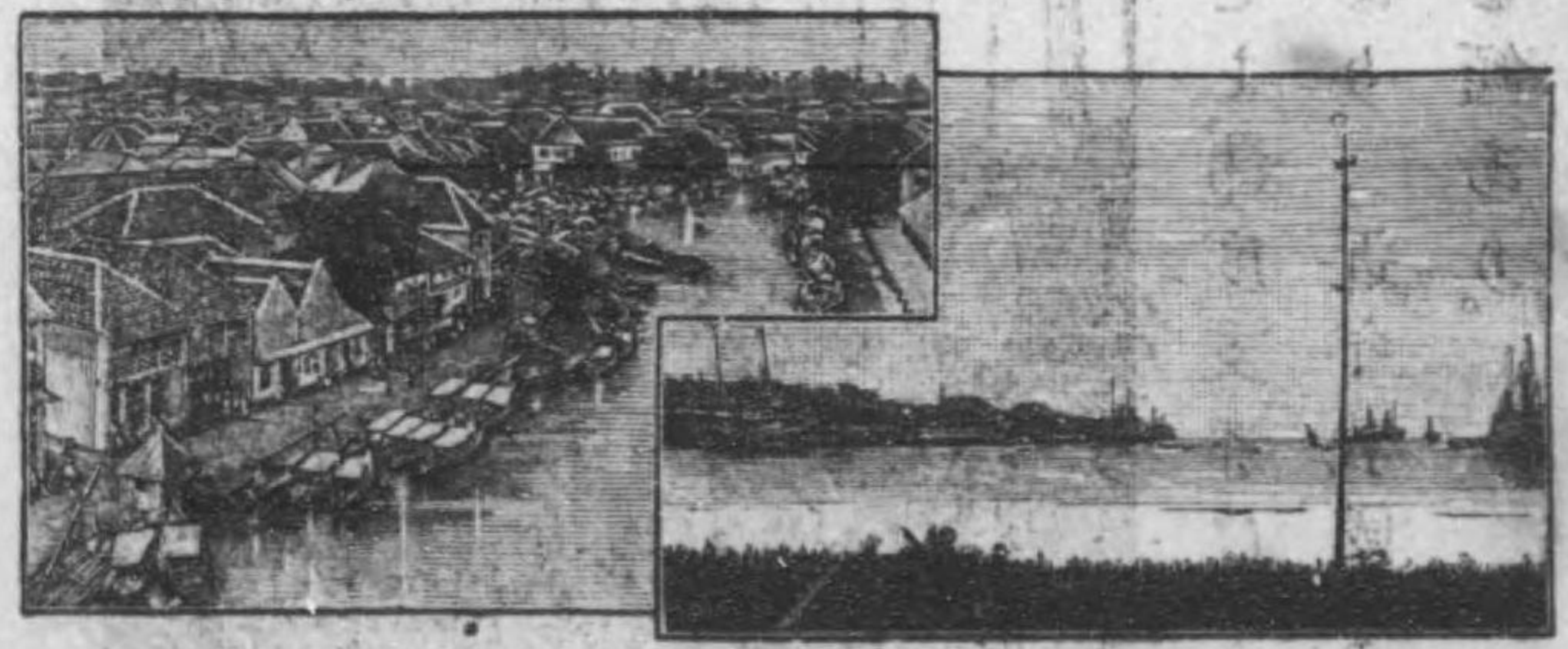
世界砂糖の産出高 (1914-1915)

甘蔗粗製糖 10.00
甜菜粗製糖 8.25

總産出高 18.25

甘蔗粗製糖産出諸國		甜菜粗製糖産出諸國	
イギリス	2.65	ドイツ	2.50
フランス	2.59	ロシア	7.99
ジャバ	1.30	オーストリア	1.60
ハワイ	0.57	アメリカ合衆國	0.65
アルゼンチナ	0.33	フランス	0.33
ポルトガル	0.32	オランダ	0.30
モリシアス	0.26	ベルギー	0.20
日本	0.20		
ブラジル	0.19		

パンカピルトンの二島あり、錫の産を以て著はる。ジャバは、人口の稠密なるを以て聞え、その密度我九州よりも大なり。農産のうち、甘蔗糖は、質量共に



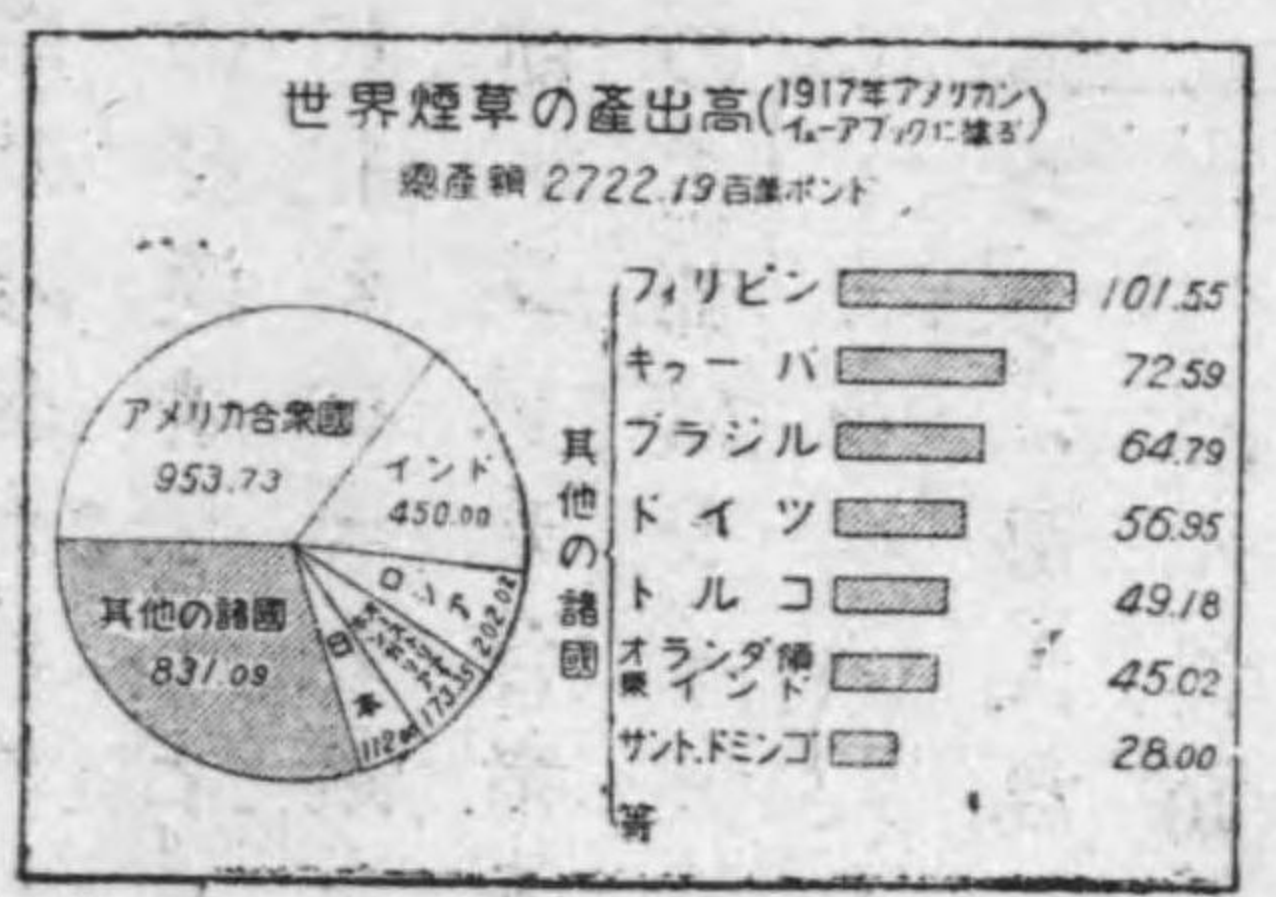
街市ヤバラスと港アビタバ

Spice Islands

2 ニューギニアの一部をも管轄す。パタゴニアの市街は港より数軒内地にあり。又下記總督府は此市街を離れたる處に在り。

地理教科書 外國篇 上巻

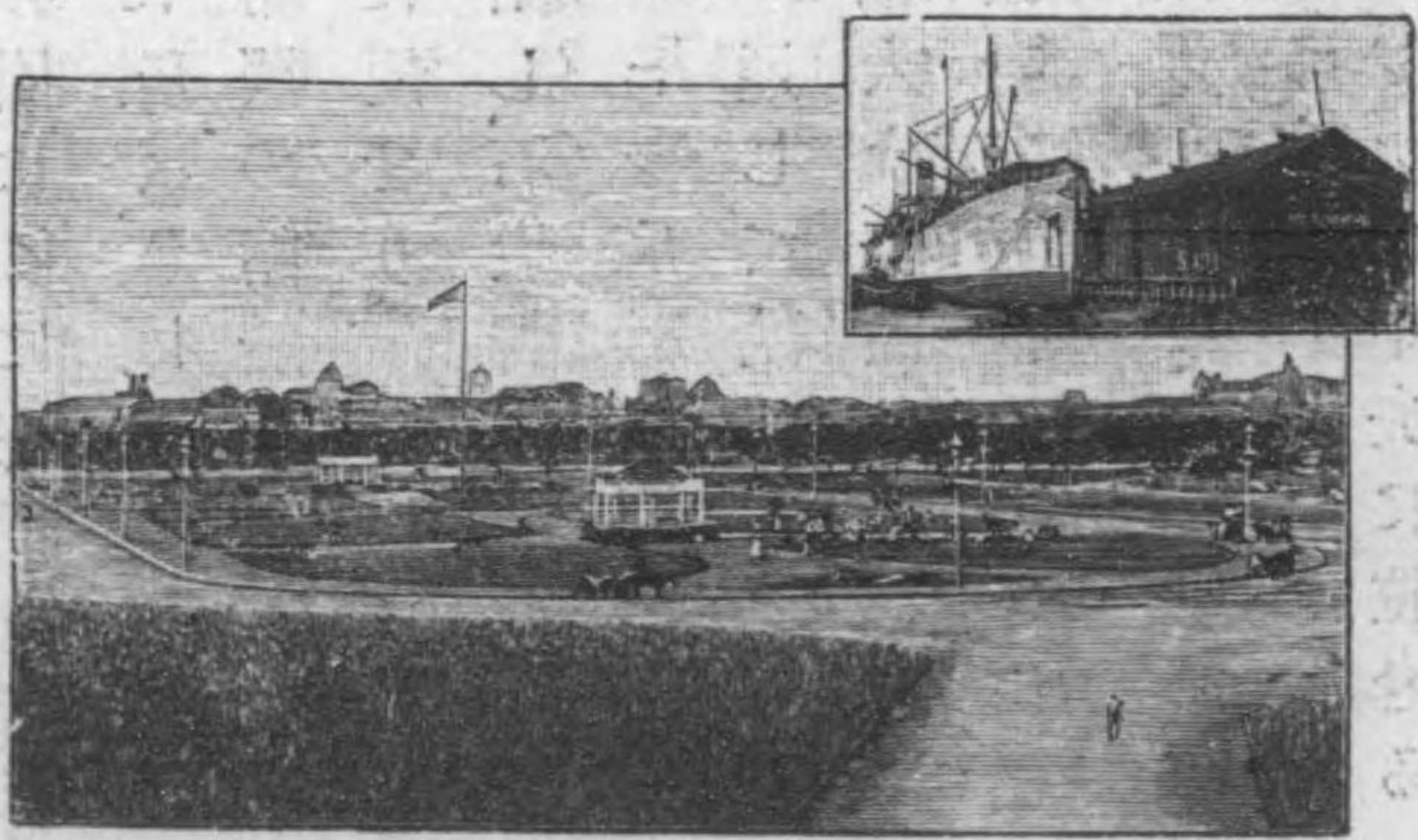
世界に一二を争ひ、スラバヤ(一六)はその商港なり。島の西部にあるパタゴ(一四)は、オランダ領東印度總督府の所在地にして、また有名なる商業地なり。ジバの東には、小島相連り、東端にチモルあり、東半はポルトガル領とす。北部にはセレベス島及びモルッカ群島あり。マライ群島間の航路の一重要港にして、モルッカ群島は、一名香料諸島と稱せられ、各種香料の産地として著はる。ボルネオは、西北の一部はイギリス、他の大部はオランダに屬し、内部は探検未だ洽からずと雖、沿岸の地は近年開發歩を進め、護謨椰子の栽培盛んに、樟腦・サゴの産も多く、また鑛産に金・金剛石・石油等あり。北



3 數百年前より我國人の來往せる地にして、今日も猶附近には本邦移民の居住するもの餘からず。

岸の港市サンダカンは、近時通商の發達著し。フィリピン群島は、もとイスパニア領なりしが、十數年前アメリカ合衆國領となり、住民の主部はフィリピン人と稱し、土人とイスパニア人との混血せるものなり。最大島ルソンは、農業盛んに行はれ、斜面を用ふる水田大に發達し、砂糖・煙草・コブラ・マニラ麻・木材等の産頗る多し。港市マニラ(二七)は、總督府所在地にして、我南洋航路の寄港地たり。群島中最南に位する大島ミンダナオは、輓近各種の産業大に起

第一章 アジア



り、西南盡頭に有名なるザンボアンガ港あり。
日本との關係 この群島は、日本との間に、既に往時より交通開け、近年に至りては、その關係殊に深く、我國人の移住するもの己に數千人の多きに及び、尙、帝國の諸船舶は、續々この方面に航路を開き、彼我交通貿易に便せり。オランダ領東印度諸島は、砂糖・石油を我國に輸出し、石炭・燐寸・洋傘等を我國より輸入す。フリピン群島は、マニラ麻・砂糖・煙草を我國に送り、石炭・綿絲・蔬菜を我に仰ぐ。通じて孰れの地も、彼より我に輸出する物の額は、我より輸入する額を過ぎ、特にオランダ領東印度諸島との間にては、殆ど五倍の多きに達し、その大部分は砂糖なり。

三、印度

面積四〇七萬平方杆(バルムを除く)
 人口三〇三百萬 人口密度七四人

位置・地形 印度帝國の主部は、南部アジアの中央に位せる

印度半島を包括し、北境にヒマラヤの大山脈高く連亘して、アジアの中央高原をかぎり、その南麓の一帶は、西北イラン地方との境界山脈より、東方バルマの縦走山脈に至るまで、ヒンドスタンの低地及びインドス川下流の沙漠平原相連結して、ヒマラヤ山脈と南方のデカン高原とを隔つ。ガングアブラマプトラの二大流は、一部分西藏高原、大部分ヒマラヤ山脈に發源せる諸水を集めて、この平原を流れ、下流相合して、ベンガル灣に入り、開化の發達、産業、交通の進歩を助くること頗る大なり。インドス川は、二流に比し、航運の利甚だ乏しけれども、その上流の地方は、中央アジアに通ずる交通線を導く。デカン高原は、大部分熔岩の溢流せる處にして、東西岸に山脈を走らし、一般に西より東に緩斜し、主要なる河川は、悉くベンガル灣に朝宗す。印度半島の沿岸は西

北の一部を除き、概ね出入に乏しく、主要錨地は、僅に島港ポ
ンベイ、ガンガ河の三角洲上にあるカルカタ、及び人工港マ
ドラスを擧ぐるのみ。

氣候生物 氣候は、熱帶の特徴著しく、季候風の方向と乾雨
の二季と相連關すること圖に示せ
るが如し。ヒマラヤ山脈の東南部

1 概ね我國の夏季
に雨季、冬季に
乾季あらはる。



景の茂繁林帶熱るけ於に度印



2 概説生物分布の
條参照

1 カシミアの原料



第一章 アジア

は、降水量の大なるを以て世に知られ、その一部には、一箇年
の總降水量一萬二千耗を超ゆる處あり。植物の繁茂、甚だ
顯著にして、熱帶の樹林到る處に茂り、動物の巨大獍猛なる
もの、この間に棲息し、人畜之が爲に殺傷
せらる、數年々多大なりと云へり。
産業・商業・交通 印度は、世界にて、風土最
も農業に適すと稱せられ、その生産の多
量にして、且つ種類の豊富なること、他に
殆ど比なく、棉花・甘蔗・阿片・茶・藍靛・小麥・米・
黄麻・珈琲等の産夥し。畜産にては、牛最
も多く、山羊・馬、亦養はれ、特に山羊毛は、重
要なる製織原料たり。又鑛産には、石炭・
金・岩鹽及び金剛石、その他有名なる寶石

輸入 糖、織造材、機械類等
輸出 棉花、綿織、性種子、米、黄麻、植物、皮革、小麥、茶、阿片等

取絲の人士と場市花棉イベンボ

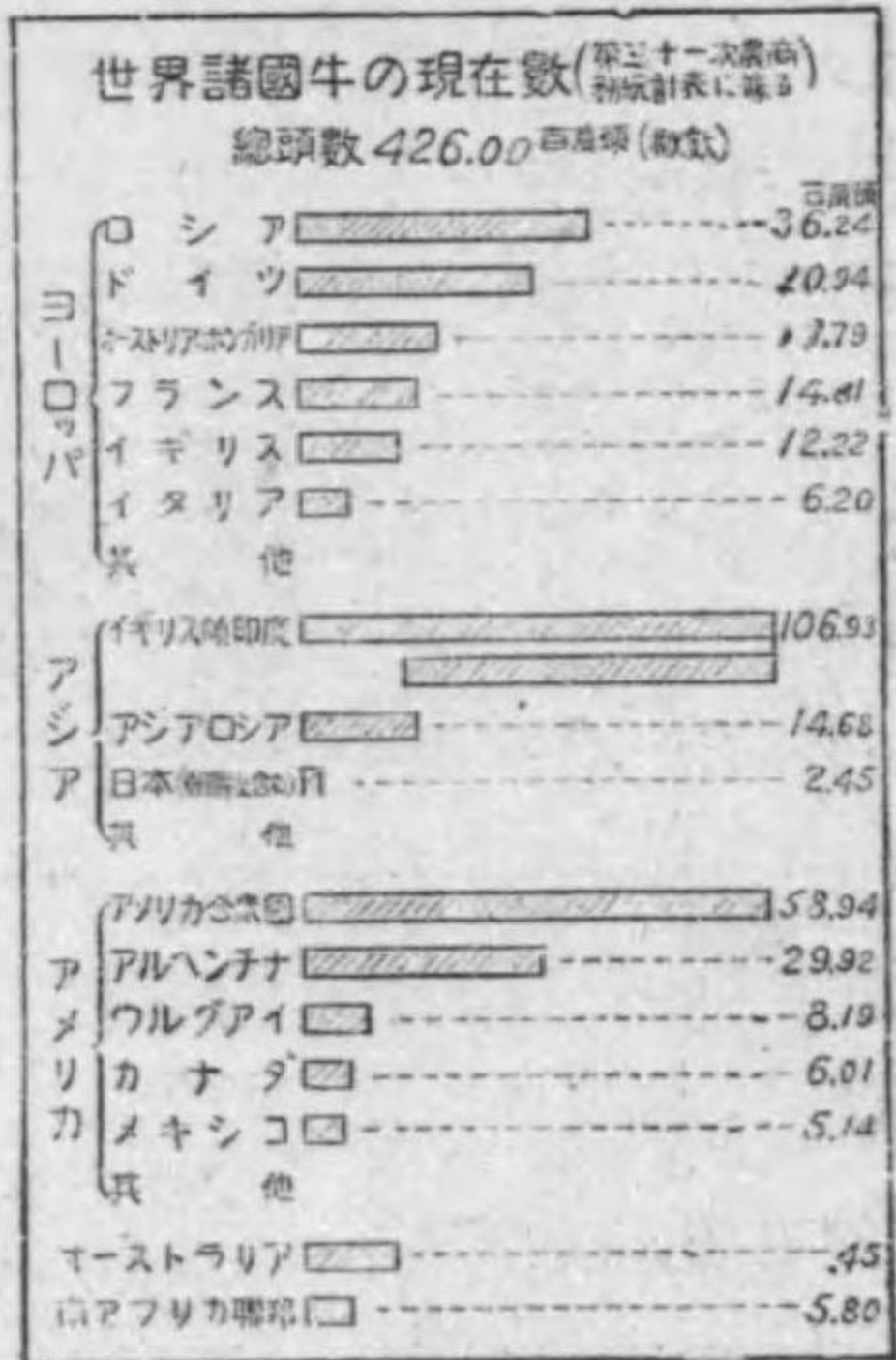


類あり。製造工業は、一般に不振にして、未だ進歩せざれども、綿絲紡績及び織布の製造は、頗る隆盛の域に達せり。外國商業は主として、食料品及び一般原料品を輸出し、日用品を輸入し、取引國は、イギリスとの關

世界の茶産出國と消費國 (1916年ワールドアルマナックに據る)

主要産出國	主要消費國
イギリス領印 302.25	イギリス 312.66
支那(内地) 199.44	ロシア 166.66
セイロン(内地) 191.50	アメリカ合衆國 92.17
日本(内地) 130.86	カナダ 40.83
シバ(内地) 71.45	オーストラリア 35.05

培栽の茶の方地ムサッア



係最も深く、我國及びドイツ・アメリカ合衆國等之に次ぐ。鐵道は、總延長我國に數倍し、ヒンドスタン低地に於ける發達著しく、尙、デカン高原には、斜に高原を横斷して、東西沿岸を連絡

1 白哲人種 (ヨーロッパ人、インドヨーロッパ人等の別稱あり) に屬す。
2 僧族・土族・平民・奴隸

するもの數條を數ふ。沿岸及び外國間の航路は、イギリスの船舶主として之に従事し、極東よりヨーロッパに通ずる重要な水底電線、またこの國を經由す。
住民 印度は世界の中にも、人口多き處として名高く、その大部分はヒンヅ種に屬し、古代開化の進歩、甚だ著しかりしかども、現今内は種姓嚴別の弊百出し、外はイギリスの土人統御の政略自ら中り、人心萎微して振はず。尙、半島の

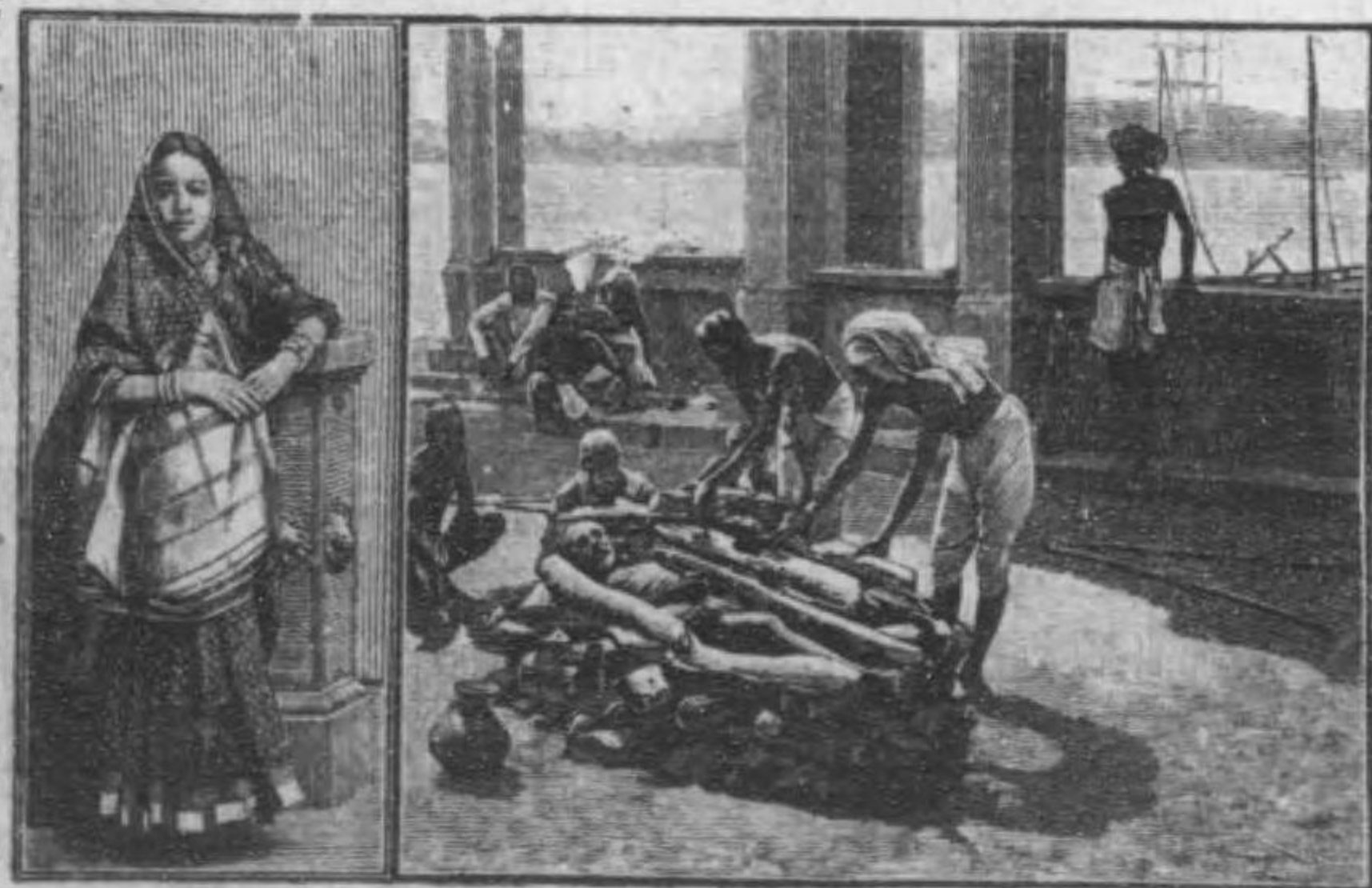
(ルーボイアツ)女舞の度印



地には、先住土人たる少數のドラビダ族住す。宗教は、ヒンヅー教即ち婆羅門教最も勢力を有し、回教これに次ぐ。もとの地に起りし佛教は、現今殆どその跡を絶ち、唯各地に往時の遺跡を存するに過ぎず。

政治 ヨーロッパ人の東漸以來、この地に於ける列強の勢力

俗風の葬火

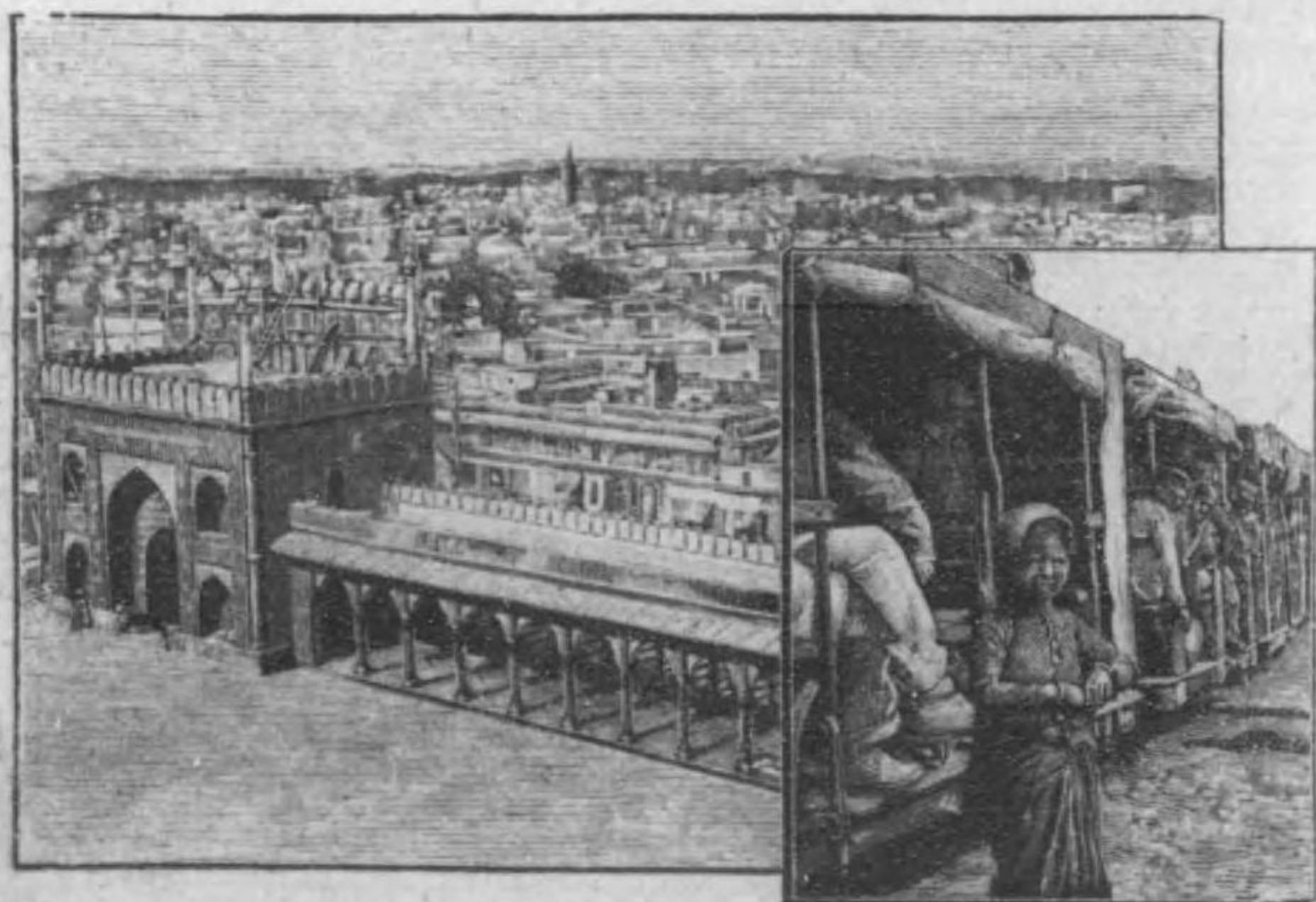


人婦(族貴)ンモラバ



には、自ら消長盛衰ありしが、イギリス東印度商會の經營成功して以來、イギリスの勢力他を壓し、終に沿岸に點在せる小部分を除き、全半島イギリスの版圖となり、現今皇帝の任命せる總督、^{Dalhousie}に駐まりて、全インドを統治す。地方は、直轄地と保護地とに分たれ、前者には總督の任命せる知事を置き、後者には在來の王を存し、イギリス人の監督の下に之を治めしむ。

帝都德里市街と暑季の汽車



都會 ヒンドスタン平原は、インド文明の發現せし處なれ

日本郵船會社カ
レカッタ航路の
終點

河ガンガとスレナベ



装服の民住方地流上スドニイ

谷谿の流上スドニイ



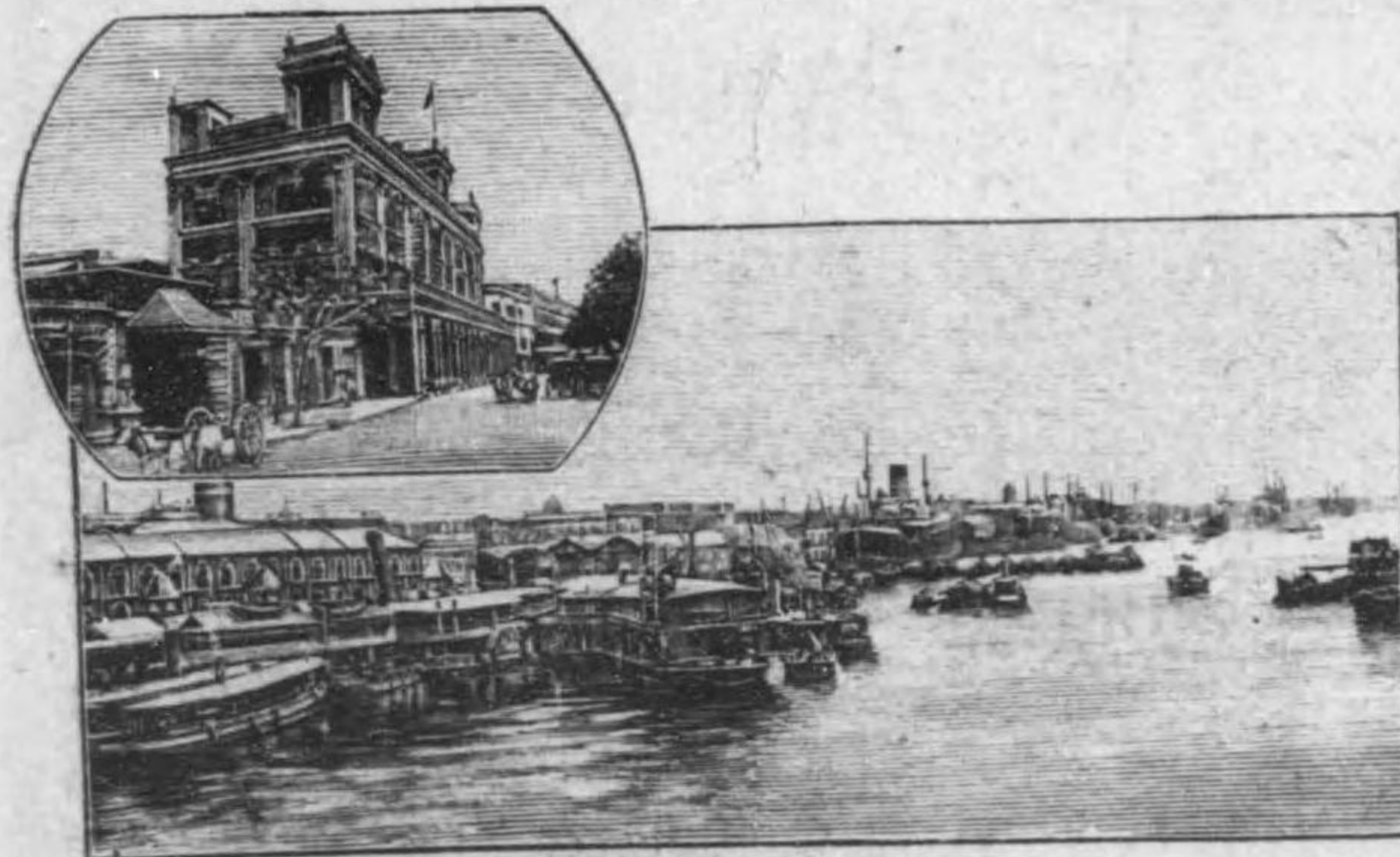
す。カルカタ(一二二)は、ガンガ・ブラマポトラ合流のなせる肥沃なる三角洲に立ち、河港なれども大船を入れ、商業頗る殷盛なり。カルカタの北方、ヒマラヤ山脈の南坂には、西藏

第一章 アジア

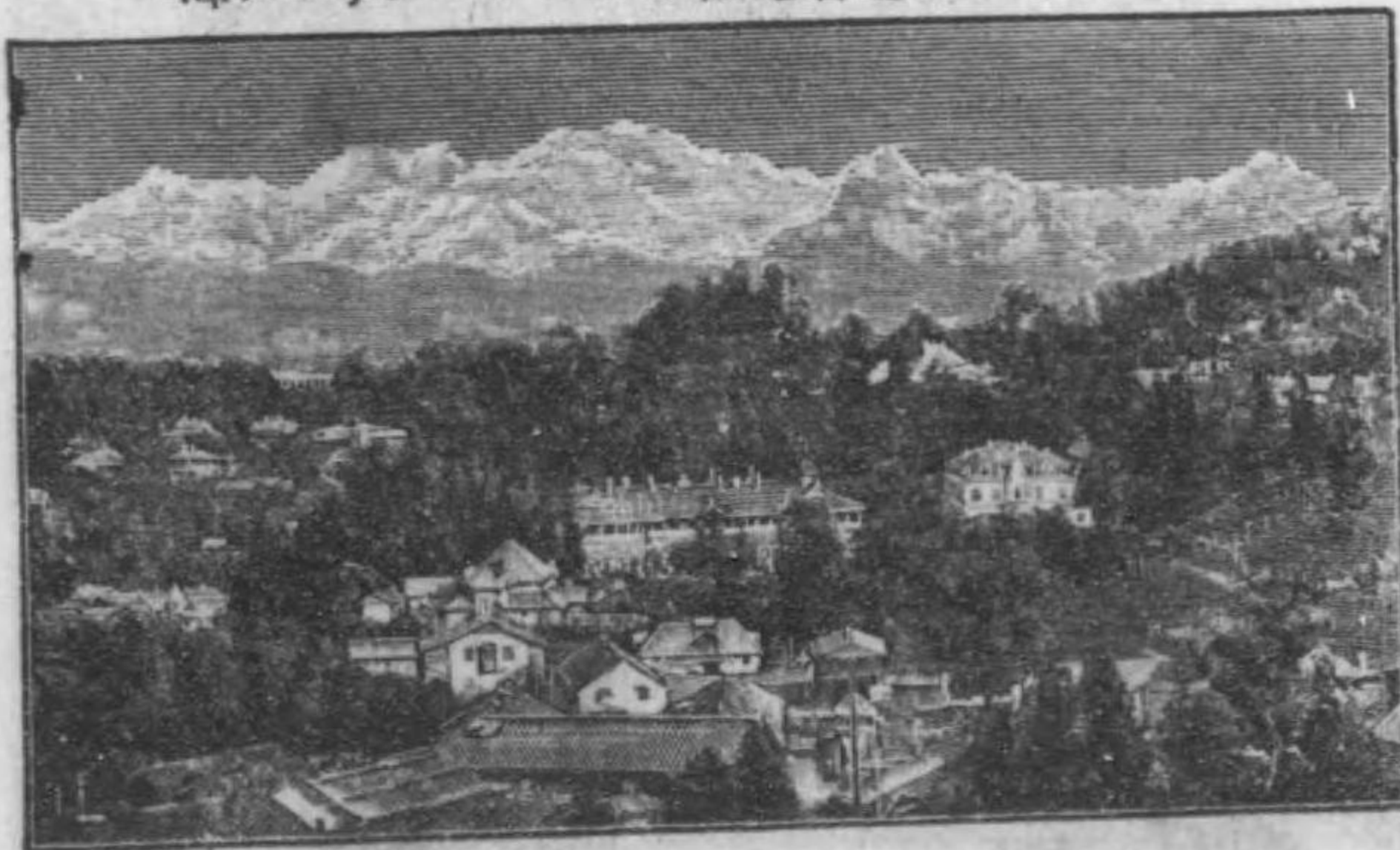
一〇一

類に属
等この
バード
アラハ
ア
パ
ル
高
して名
散地と
物の集
ね農産

館事領總本日と頭埠港タッカルカ
(哩十八とこる距を口河)



峰ガン・ジンチンカバ及地暑避グンリジーダ

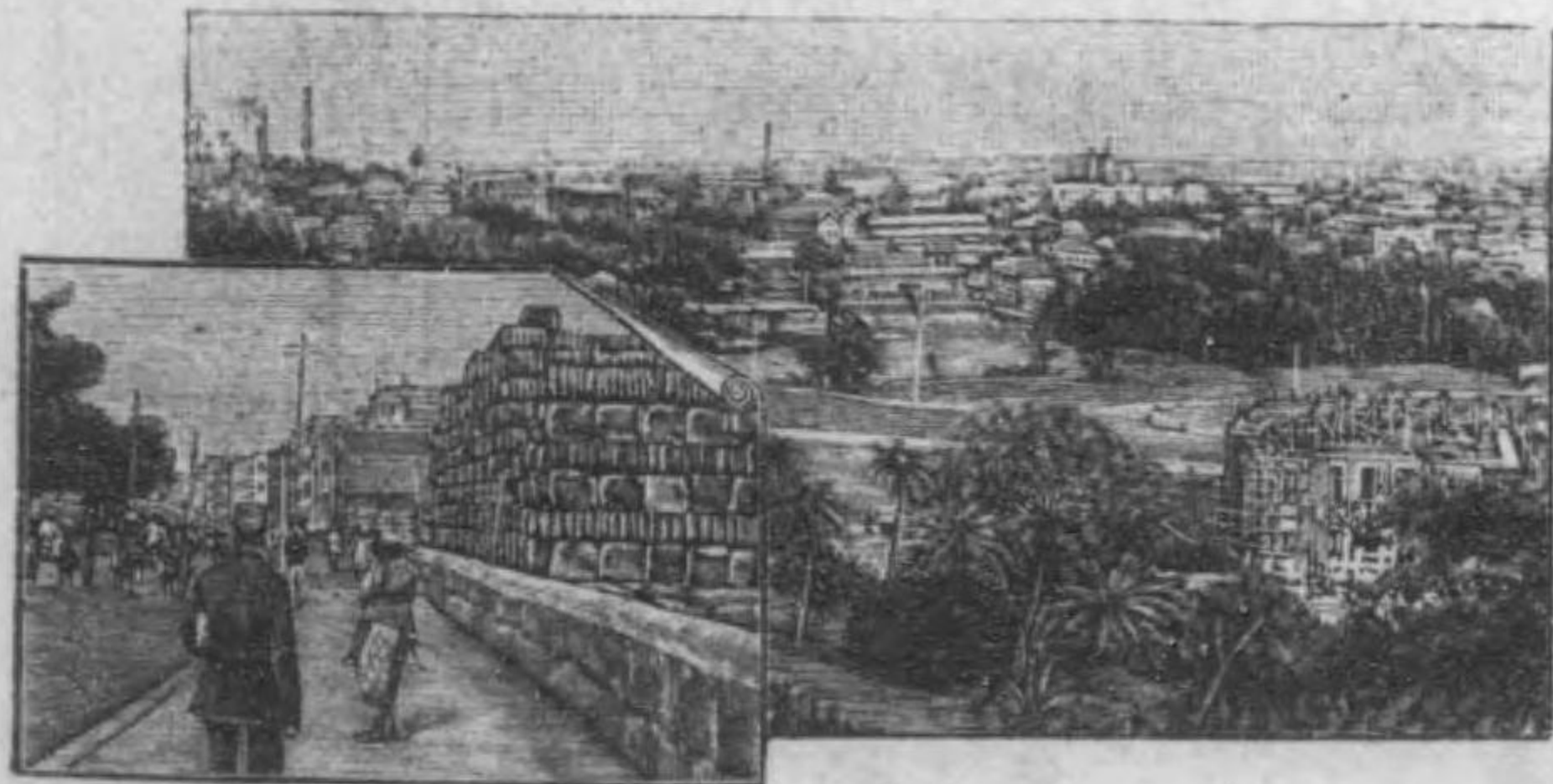


地理教科書 外國篇 上卷
は、古代都市の殘存せるもの、又はその廢墟殘址諸方に散在し、坐るに昔時の盛況を偲ばしむ。現時主要なる都會は、概

一〇〇

に入る門戸Gatewayダージリングあり。ガンガ河の沿岸には、パトナPatna(一四)は穀物の大市場、ベナレスBenares(二〇)はヒンヅー教の靈地を以て知らる。アラハバードAllahabad(二七)は西北方のアグラAgra(一九)と共に、鐵道交通の要路に當り、アグラの西北なるデトリーDehli(二三)は、新に帝都となれり。インドス河の上流に近きベシワールBesawar(一〇)は、アフガニスタンに通ずる路に當り、國防上の要衝たり。デカン高原の兩岸に、ボンベイBombay、マドラスMadrasの二大港あり。ボンベイ(九八)は、インドの棉工業に關し、最も重要

景全 - ベンボ



場置花棉市同

2日本郵船會社ボ
ンマイ航路の終
點、シンガポ
ル以西はセイロ

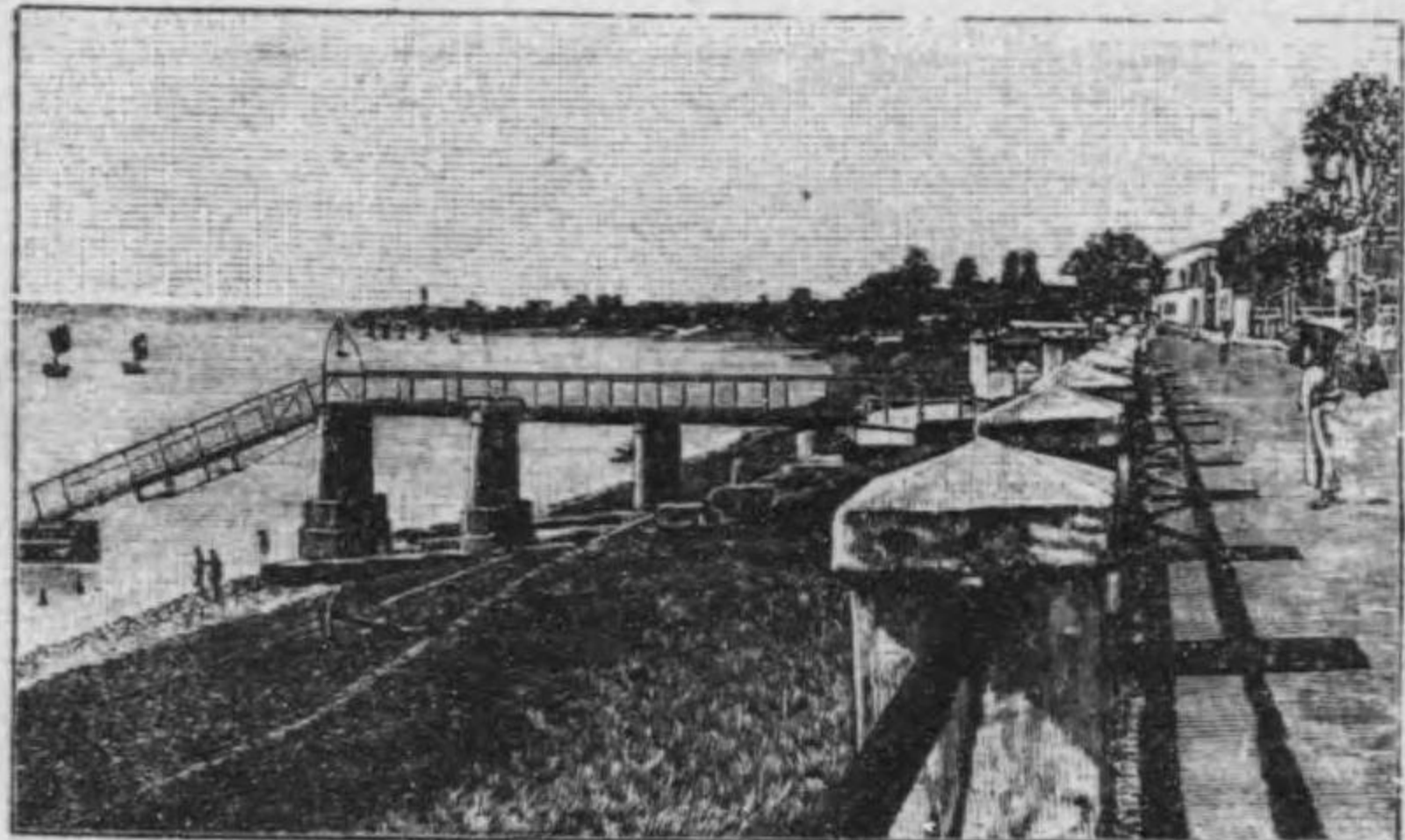
ン島のコロソホ
に寄港す。

なる處にして、棉花の輸出夥しく、市場の活氣あること全帝國第一なり。マドラスMadras(五二)は、良好なる人工港を有し、商業

また頗る盛
んなり。

印度半
島には、イ
ギリス領
以外に、西
岸に往時
盛んなり
しゴアそ
の他のポ
ルトガル

頭埠ルゴナルデンシ領スラフ



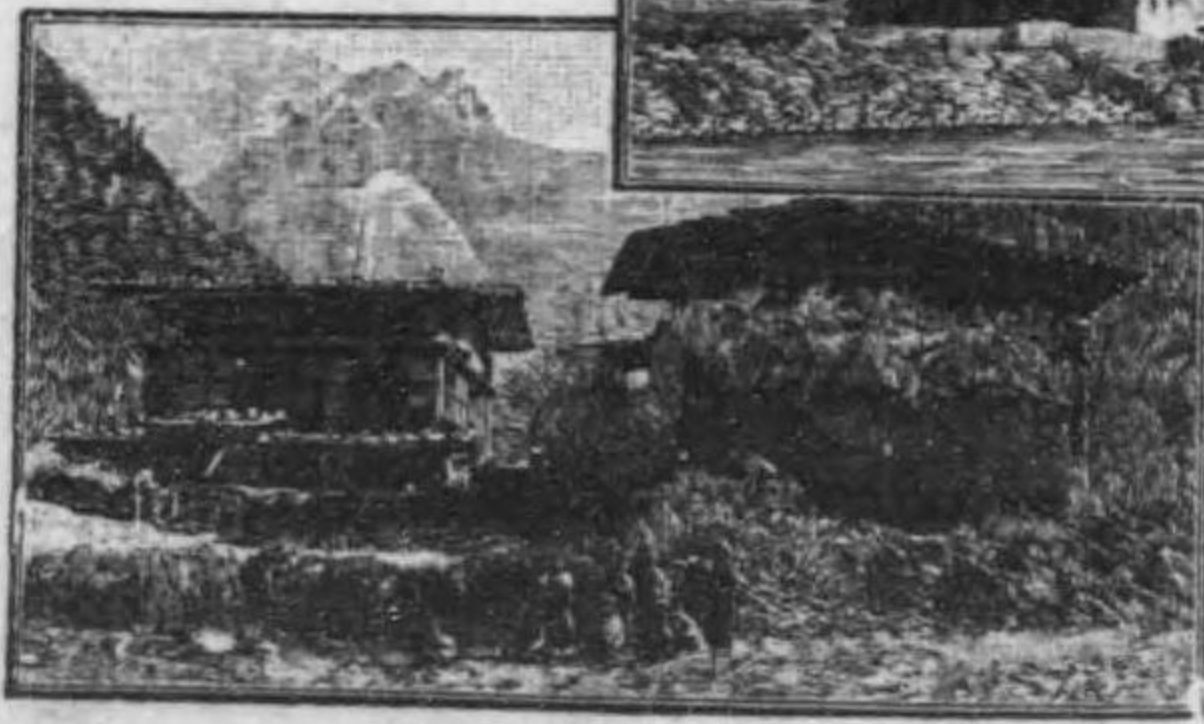
俗風のと(左)人ンターブと(右)人ルーパネ



(クンツツチシタ) 府首の季夏國ンターブ



ネパール國農
村



領、東西岸には、フランス領點在す。

ヒマラヤの南斜面には、ネパール・ブータ
ンの二國あり。共にアジア人種に屬す

る國民の建てたる國にして、

ネパールは、イギリスの監督

を受け、首府をカトマンヅと

稱し、ブータンは、全くイギリ

スの保護國たり。

セイロン島

面積六六萬平方呎
人口四四二萬 人口密度六七人

セイロン島は、印度半島の尖端

に横たはれるイギリスの直轄植民地にして、中央以南土地頗る隆起し、氣候一年を通じて暑く、茶珈琲・米・ココ椰子・カカ

我日本郵船會社
歐洲航路船の寄
港地。

1 我國は日英條約
に準據し、有事
の際はこの地の
國防に關して義
務を有す。

オ・寶石類を産出す。コロンボ(二一)は、
政廳所在地にして、堅固なる防波堤に
よりて碇泊を安全にす。

日本との關係 印度帝國は、政治・外交

及び貿易上、特にわが國との關係深く、

彼より輸出する主要品は、實に我輸入

品の大宗棉花にして、これに次ぐは米

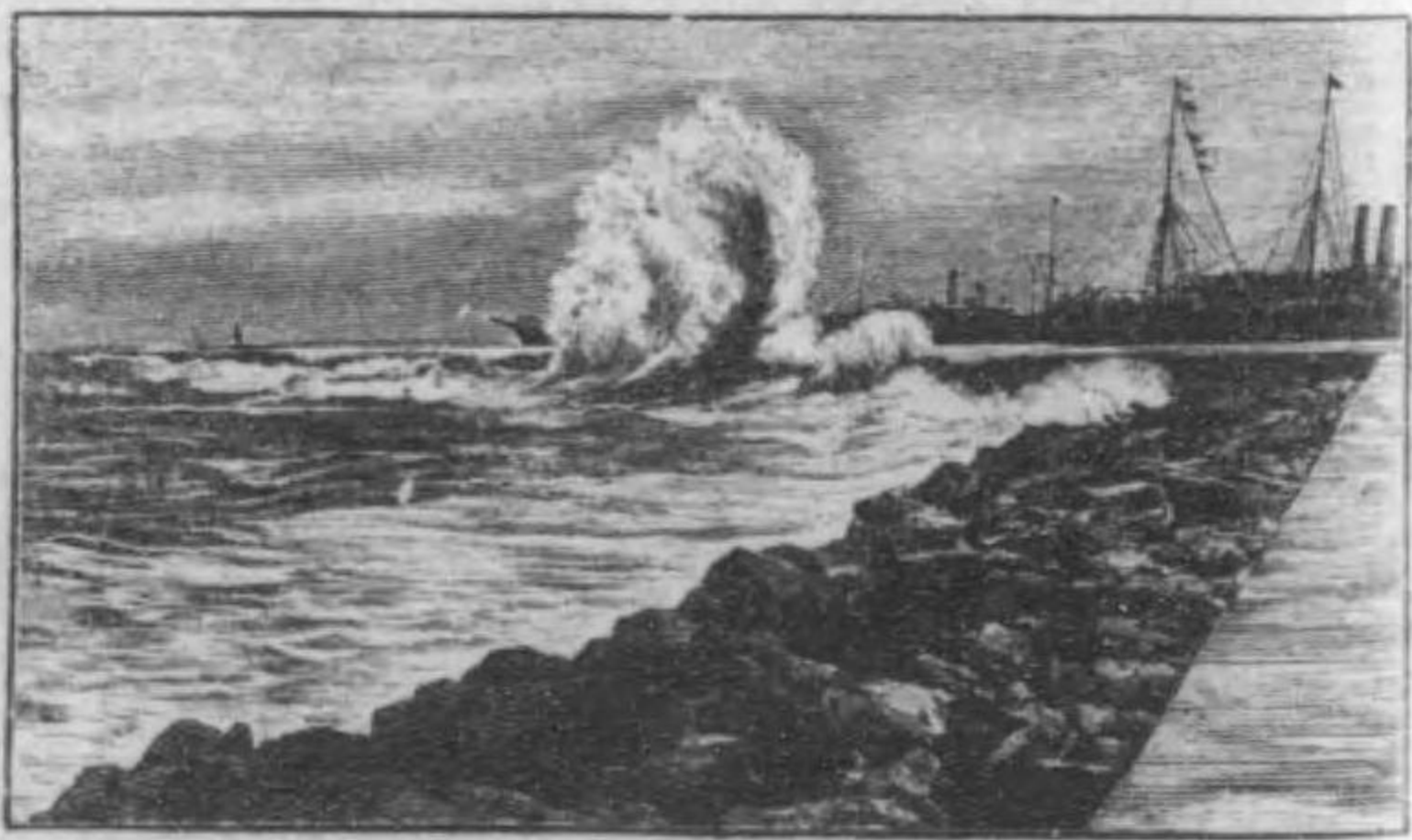
(パール産)なり。又我より彼に輸出す

るものは、各種の低廉なる加工品多く、

就中、絹綿織物は、土人の需要年々増進する傾なり。

此國との間、我汽船の來往を見るは是が爲なり。

港の防波堤



南部アジア統括諸問

印度支那及びマライ群島と印度とにつき、地形及び海岸の相違を述べよ。又氣候に於て、兩者著しく異れるところなきか。三地域を通じ、世界商業の上より、著名なる農産四を擧げて説明せよ。重要林産につきて述べよ。錫の産につきて述べよ。この地方と、我國との間に行はるる商業につきて語れ。重要開港場五を擧げて説明せよ。支那人及び印度人の分布につきて述べよ。わが國の汽船の航路につきて知れるところを語れ。わが國人より見て、將來有望なるこの地方の事業は何なりや。

西部アジア

一、イラン地方

區分

ベルチスタン

インド帝國領

イギリス保護地

アフガニスタン

面積一四萬平方杆	人口四一萬	人口密度三人
面積二一萬平方杆	人口四二萬	人口密度二人
面積五六萬平方杆	人口六〇〇萬	人口密度一人

ペルシア

面積一六五萬平方杆
人口九五〇萬
人口密度六人

通説 イラン地方は、印度半島の西北方に隣れる高原にして、

その邊緣には並行

山脈連亘

し、その間

並に内陸

諸處に火

山を噴起

せり。西

北アルメ

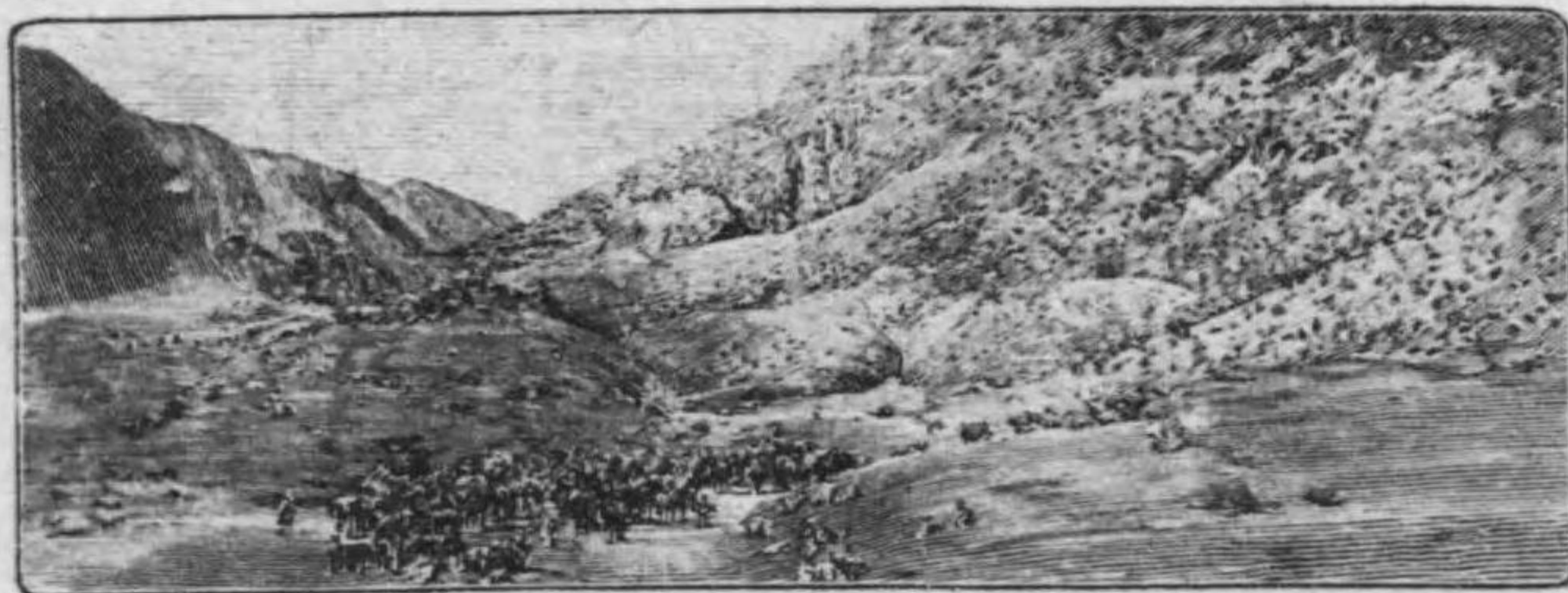
ニア高原

ペルシア高原断面圖 (東經二十五度に沿ふ)

原高アニメルアと山トッラア



群商隊るけ於に越ーバイハ
(門關る入にンタスニガフアリよ度印は峠)



に近く隆起せるアララット山(五一六〇)は舊辭に著名なる休火山なり。

氣候一年を通じて乾燥がちにして、夏季の暑熱は殊に甚しく、諸處に鹹湖の散布せる沙漠あり。産業は、農牧産を主とし、穀物・煙草・棉花・果實・馬・羊・山羊・駱駝を産し、駱駝は特に重要な家畜なり。鑛産には、亞鉛・岩鹽あり。尙、諸處に生絲を出だし、織物にて數物・シールは名産なり。

住民は白哲人種中のイラン族にして、ベルシア人・アフガン人等

庭中の舍宿商隊アシルベ



ベルシア貴婦人

1 このうちデートバームは西南アジアよりアフリカ北岸に於ける重要な食用品たり。

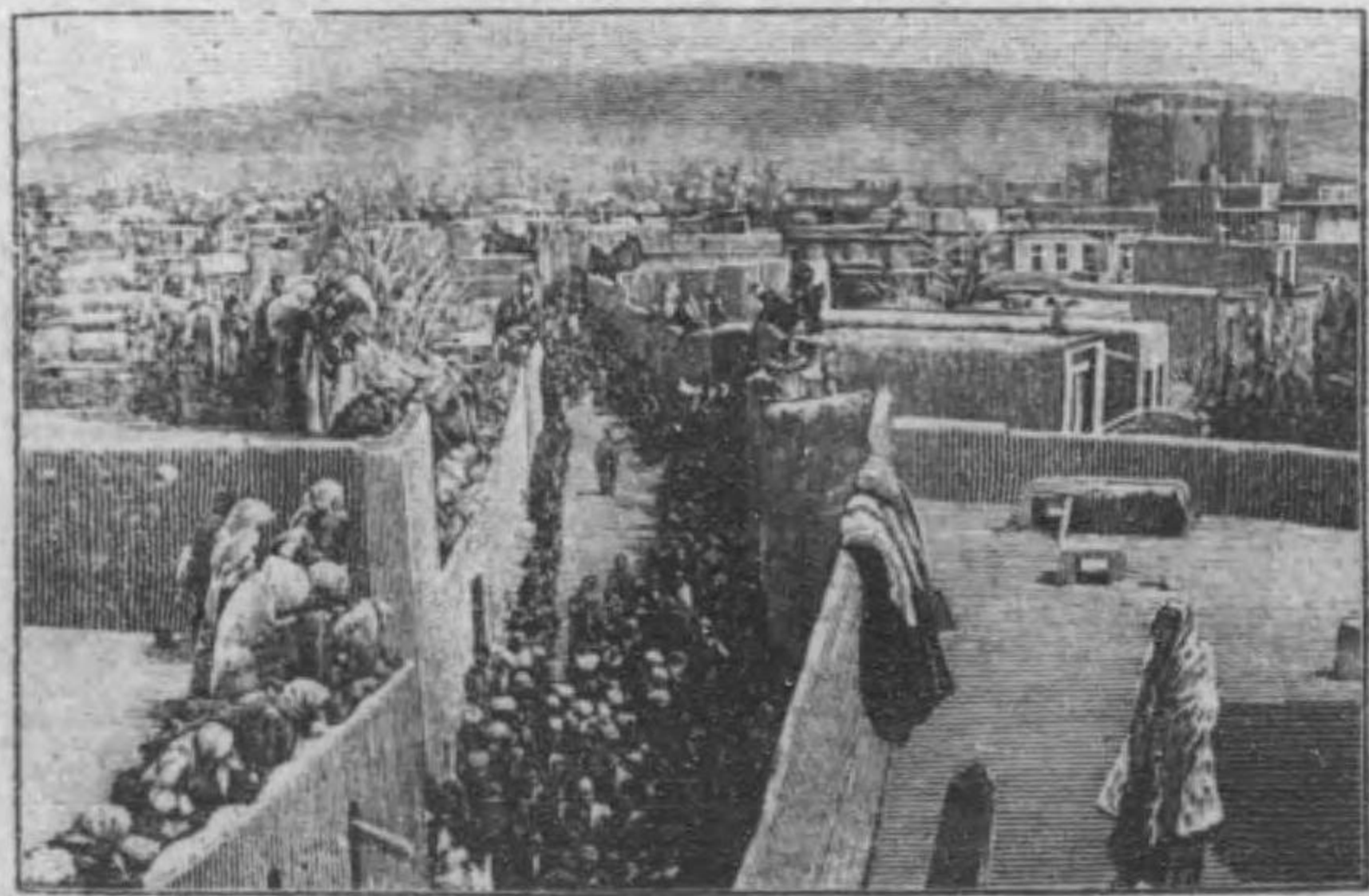
1 近時ドイツも鐵道その他につきこの地方に勢力を扶植せんとす。

に分たれ、回教若しくは拜火教を奉じ、多數は遊牧を事とす。地方誌 この地方は、往古既に開化の域に進み、史上に有名な諸國、或は興り、或は亡びたる處なりしが、近世に至り、イギリス・ロシアの二國、南北より壓迫を加へ、互に屢衝突し、現今ベルシアのみ辛うじて、獨立の名を存すれども、他は、概ね二國の勢力の下に立てり。

アフガニスタンは、概ねイギリスの勢力範圍に屬せる二三の汗の同盟國にして、カブール汗最も勢力を有し、首府をカブール(一八)と稱す。又西北にはヘラットと稱し、

市ンラヘ・テ

る觀を列行禮婚りよ上の根屋きた平

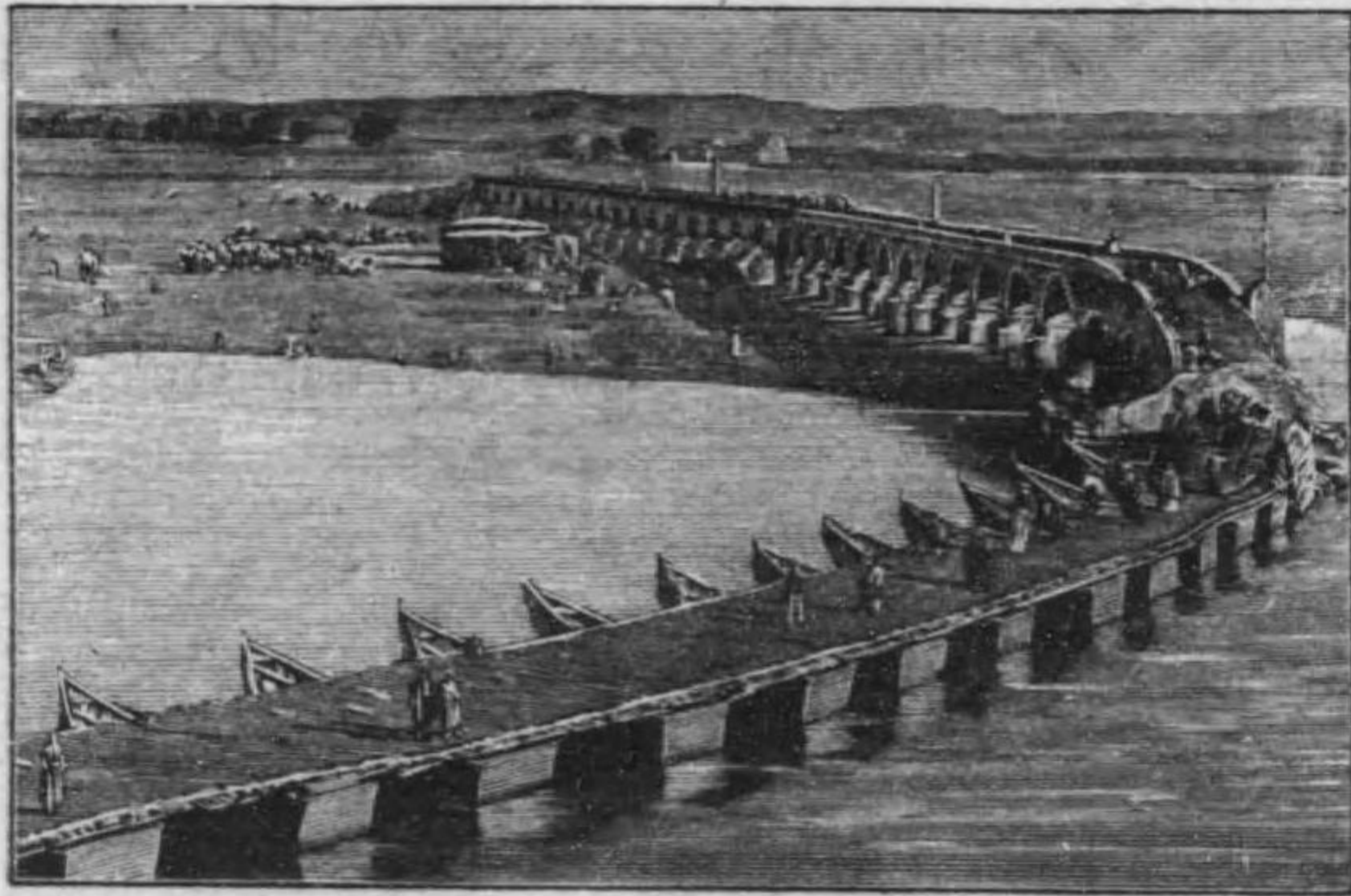


西北方ロシアに通ずる要地あり。ベルチスタンには、イギリスの保護地にケラト、直轄領に交通上の關門地ケクタあり。ペルシアにては、首府テヘラン(二八)は、暑熱を以て名高く、タブリス(二〇)は、ロシアの勢力圏に在る交易場なり。ヘルシア灣岸は、良港に乏しく、僅にブシル港、外二三あるのみ。

二分 アジアトルコ 及 アラビア 附 イギリス 諸領

小アジア(アナトリア)	面積五〇萬平方杆	人口一〇〇萬	人口密度二〇人
アルメニア及びクルヂスタン	面積一九萬平方杆	人口二五萬	人口密度一三人
シリア及びメソポタミア	面積六四萬平方杆	人口五七萬	人口密度九人
アラビア諸領	面積四四萬平方杆	人口一〇〇萬	人口密度二人
アラビア	面積二七三萬平方杆	人口三三三萬	人口密度一人

橋船のルスモるせ架に河スリグチ



通説 アジアの最西を占め、北部は、アルメニア・アナトリアの兩高原高く起り、その南北海に終はる處は、共に單調なれども、西海岸は、出入の變化著しく、北部には、古今に有名な



杉ノバリと(東の源河ンダルヨ)山ンモルヘ

地理教科書 外國篇 上卷

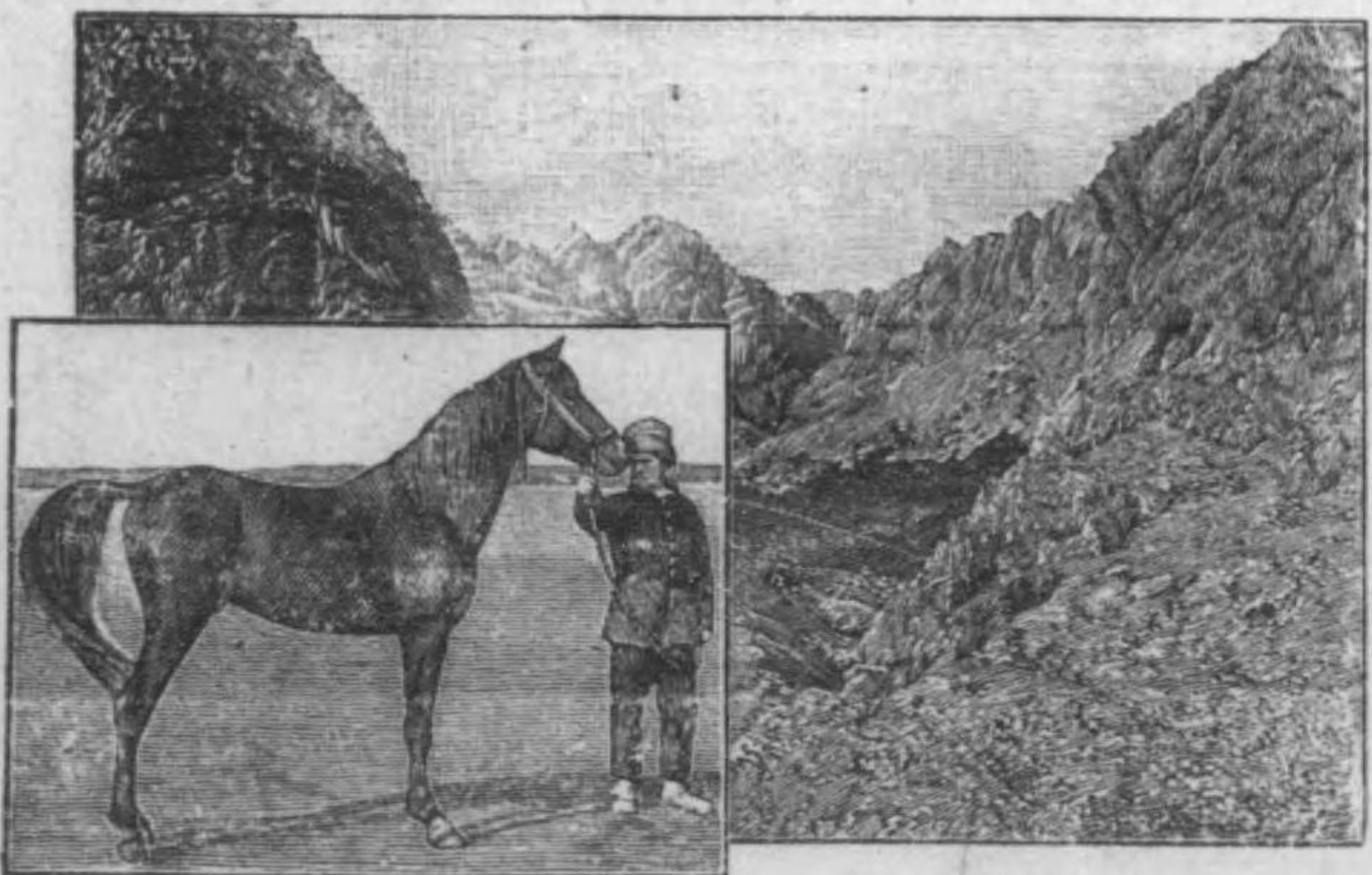
るユーラシア兩斷の水道通ず。兩高原の南方には、ヘルシ
 ア灣と地中海との間に、古代文
 明の發源地たるメソ
 ポタミア低原あり。
 ナイル、チグリス、エウ
 フラトは合流してシアル
 アと稱す。

この間の二流

死海と駝駝旅行



アラビア谷(ガ)と名馬



1 ナイル、チグリス、エウ
 フラトは合流してシアル
 アと稱す。

2 世界に於て最も
 低き地に横たは
 り、水面は地中
 海面より低きこ
 と三九四米、湖
 の深さ三五七
 米。

3 馬、羊、駱駝の飼
 養盛なり
 4 デーツ、パーム、
 柑橘類、オリーブ
 ズ、無花果、葡萄
 等

大陸砂丘とアラビア人



を流れ、後に相合してヘルシア灣に入る。地中海の東岸一

帯は、シリア地方にして、南北に縦走
 せる山脈、ヨルダン川及び死海あり。
 シリアの東方は、アラビア半島と稱
 せられ、廣大なる沙漠高原なり。
 氣候は、アラビア半島及び北の低原
 に於て、熱帶性をあらはし、暑熱甚しく、
 且つ空氣著しく乾燥すれども、北部の
 高原地方は、一般に冷涼にして、諸處に
 草原、沙漠あり。

住民の一部は、遊牧生活をなすもの
 あれども、大部分は、農業に従事し、玉蜀
 黍、棉花、煙草、果實等を栽培し、養蠶一部に行はれ、尙、名馬の産

あり。工藝産にては、絨氈・モスリン及び刃物等名あり。地

斑一俗風の人婦級下と耘耕のナチスレバ



方の商業は、主としてアラビア人、外
國貿易は、
多くイギ
リス・ドイ
ツ・ギリシ
ア人これ
に従事す。
交通は、今
日猶ほ隊
商により
て行はれ、
重要鐵道

(族アヒリア) ンキドベと(港の岸海中地)場市アフッヤ



には、ドイツの敷設中なるバグダード線あり。是はスエズ

運河經由線と並行せる歐亞連絡の重要線なり。

住民は、トルコ帝國內は、黄色人種即ちアジ

ア人種中のトルコ族最も多く、

他に白哲人種に屬するアルメ

ニア人

アラビ

ア人・ユ

ダヤ人

その他

の種族

あれど

も、人口

5 往古この地方に
住せるセム族に
入る。

(ナルミス) 人コルトるけ於に場市



兵騎と民牧遊のンタスチルク

6 イギリス・フランス・ロシア三國共同保護の下にあり。

俗風の人婦と事食の人アピラア



寡く、開化も亦低位にして、多く回教を奉ず。アジアトルコは、政治上トルコ帝國の一部をなし、之と離れて、別に小アジアの西南に近く、名のみトルコ領なるサモスあり。又アラビアには、東西岸のトルコ領の外、イギリス領アデン并にその利益圏たるオマーン汗國あり。此等を除けば、他は無所屬の觀あり。

尙、地中海の東部には、イギリス領キプロス島あり。地方誌 メソポタミアは、古代の文明國アッシリア・バビロニア

(景のロシア) 郊南のドーダグバ



バスラ市の街の水路



林の周囲と街市クスマダ



アの遺跡多く、こゝに地方の大都會にして、隊商の集散地たるバグダード(二三)あり。この東南にバスラ港(八)、西北にモ

スル(八)あり。ド鐵道の通過地として

孰れも所謂バグダー

豫定せらる。アラビア半島の西南内地には、ムハメドの誕生地メッカ(八)同じくその終焉地たるマディナあり。二市は回教巡禮者の蟻集する地にして、現今シリアより鐵道敷設せらる。その沿線にあるダマスク(二五)は、

人商傍路のムレサルエ



ダマスク市中の景



(む望を東りよ塔の院寺部四) ムレサルエ



1 イエス・クライスト(耶穌)はこの南方ペレヘムに生まる。

シリア地方商業の中心と稱せられ、此南方なるイエルサレム(九)は、キリスト教の聖地なり。シリアの西にはイギリス領

川ンダルヨとムヘレテベ



(ふ貯を水雨)所水貯のンデア



キプロス島 アラビア半島の南端には、同じくイギリス領アデンあり。アデンはイギリスの貯炭港、并に東洋に通ずる水底電線の

2 對岸帝都との間
幅〇五杆。

通過地にして、政治上印度帝國に屬す。
 小アジアには、西岸エーゲ海に臨みス
 ミルナ港(Smyrna)三八あり。同海岸第一の商
 港にして、果實の輸出甚だ盛んなり。
 ボスボロス海峡に臨めるスクタリは、
 對岸トルコ帝國の首府コンスタンチ
 ノブルの一部をなし、その附近なるハ
 イダルバシ(Haider Pasha)は、バグダード鐵道の起點
 港ナルミス
 なり。

西部アジア統括諸問

イラン地方小アジアアラビアの地形上の
 比較如何 地圖により紅海の長さ、オマ
 ーン灣よりペルシア灣に通ずる灣入の長さとを測れ。地圖により、ベ



ルシア灣頭より地中海の東北隅に至る區域の長さを測れ。地中海と
 印度洋とを連ぬる二つの交通線は、交通上如何なる意味を有するもの
 なりや、事實によりて説明せよ。此地方に於て、政治上優秀の地位を得
 んとつとむる諸國を擧げて、その領土又は利益圈擴張の現況を語れ。
 ヘラット、イェルサレム、メッカにつきて述べよ。

北部アジア(アジアロシア)

ロシアは、ユーラシアの北部に蟠れる世界の大陸國にして、その中、ヨ
 ーロッパにある部分は、全ヨーロッパ大陸の面積の過半を占め、ア
 シアにある部分も、その總面積の五分の二に垂んとす。ヨーロッパ
 シアは、全ロシア建國の核心とも稱すべき處にして、アジアロシアは
 是に反し、全く最近數百年に互りて贏ち得たる新領土なり。

全ロシアの總面積 二二五六萬平方杆
 總人口 一八二百萬 人口密度 八人

アジアロシア

面積 一六三五萬平方杆
 人口 三五百萬 人口密度 二人

區分

シベリア

面積一二三九萬平方千米
人口一〇百萬 人口密度〇・八人

中央アジア

面積三四九萬平方千米
人口一〇百萬 人口密度三人

カフカズ地方

面積四七萬平方千米
人口一三〇萬 人口密度二八人

アジアロシアは、北部ユーラシアの過半を占め、その西南は少しく細まりて、自然地理上、極めて不明瞭なるアジア・ヨーロッパの境界に及ぶ。域内は、シベリア・中央アジア・カフカズの三地方に大別せられ、シベリア最も廣大なり。人口密度は、西部に最も著しく、東北部に到るに従ひ寡少となり、廣漠たる無人の境、天涯にひろまれる觀あり。

一、シベリア

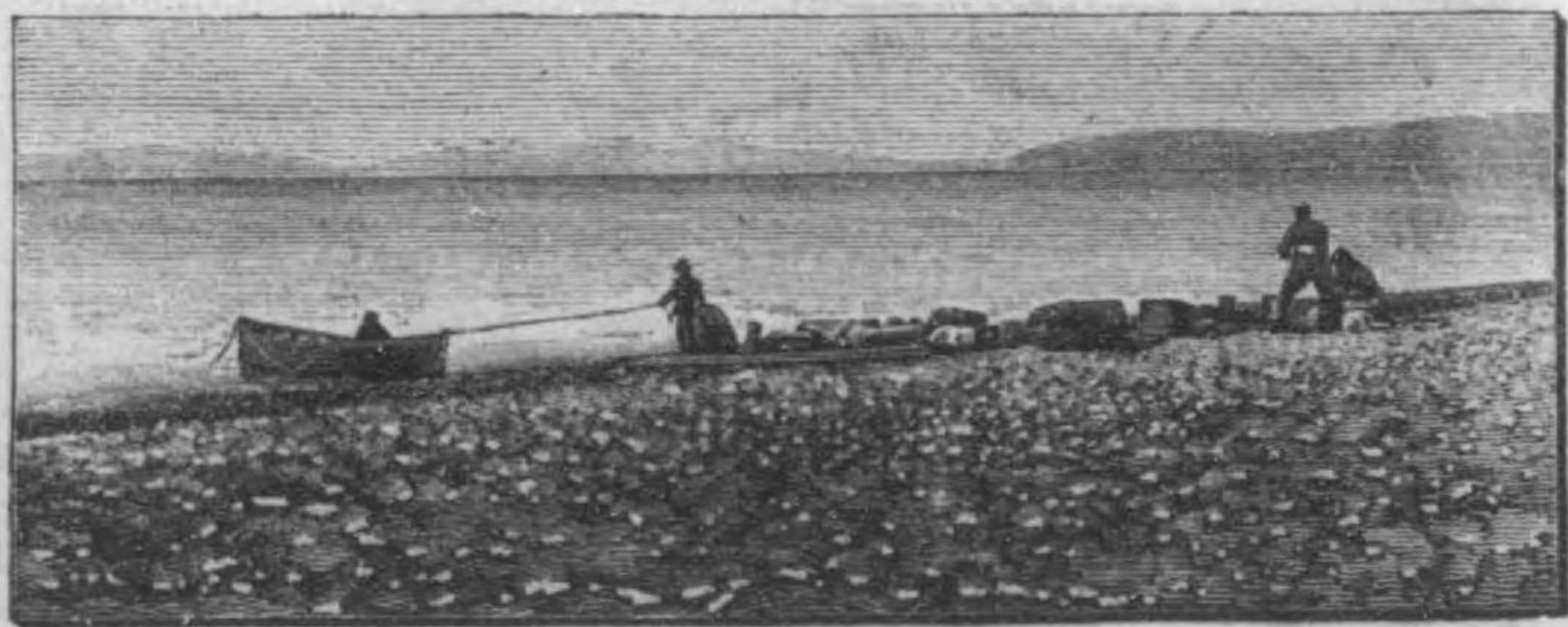
位置境域 シベリアは、アジアの中央高原の北部斜面を占め、沿岸單調なる北極海に漸下し、北緯凡そ七十度以上の高

1 ウラル山脈は西方には緩急なる傾斜をなせども、東方は地勢急に下りてオアの低地に臨む。
2 東部アジアの縁海。

緯度に進み、西は地形上ヨーロッパを割れるウラル山脈に制せられて南下し、こゝに低地つゞきにて、ロシア領中央アジアと相倚り、東方は、遠く北太平洋の支海に終り、面積の大なる遙に支那をも凌駕せり。

地形 地形自ら東西の二部に分れ、西部は、オプ川流域よりイニセイ川左岸に亙れる大低原にして、中央より以南、卑濕地を除けば、地味肥沃にして、小麥を始め穀物を産すること饒多なり。東部は、中央高原の北面に横たはれる幾多の並行山脈、斜に東北に走り、殊に

(側アジア) 峽海グンリーベ



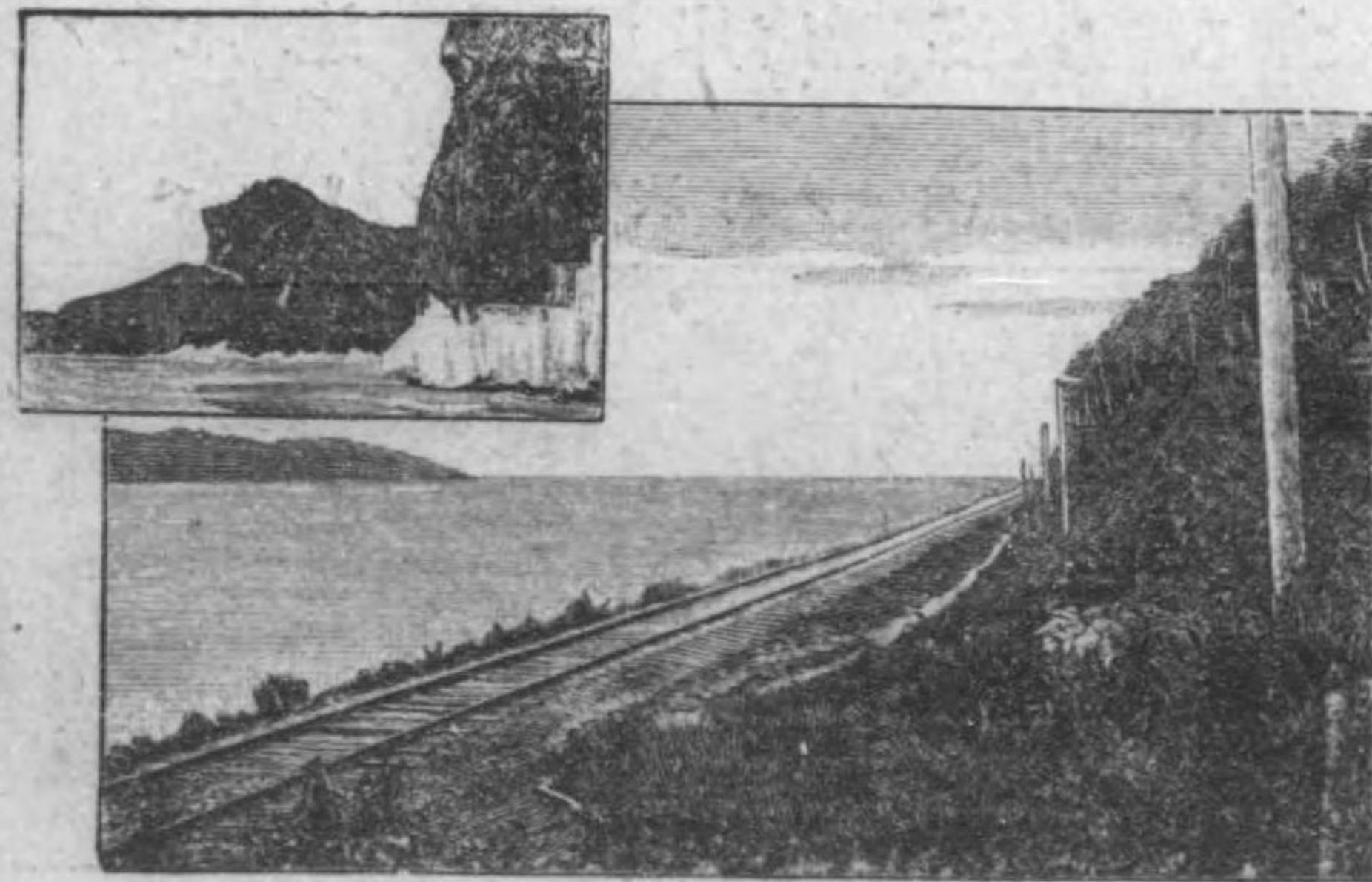
3 世界最大深の淡水湖。この湖はイェニセイ川一源流の中段に横たはる。

1 ベルホヤンスクは世界の寒極と稱せられ、一月及び七月に於ける平均気温の差六十度と稱せらる。北極洋沿岸は殆ど一年の大部分凍結し、地表は凍土帯をなせり。

地理教科書 外國篇 上卷

バイカル湖及びレナ河以東、出入に乏しき太平洋岸に至る迄は、高さ著しからざる山脈と廣大なる臺地と交互し、此東に發源せる黒龍江は、爲に幾多の併行せる支流を合せ、滿洲の境界より東北に轉じてオホーツク海に入る。

結凍のそと湖ルカイバ



一二四

氣候・生物 位置・地形に制せられ、空氣は一般に乾燥し、冬季は、気温の低下甚しく、これに反し夏季は、日中の上昇稍著し。概して北部より東部の海岸にかけて、氣候寒く、地表は半歳餘の久しきに亙りて凍結す。植物は、北の凍土帯を除き、その南方諸地

方は、寒帯林中特に針葉樹の密林弘く分布し、これより西南

中央アジアに近づくに従

物獲獵狩と例一の屋家のアリベシ部北
(牙の象舊のドンゴ十三百るせ柳發りよ中地)



鹿馴と林森のアリベシ部南



第一章 アジア

十二五

地理教科書

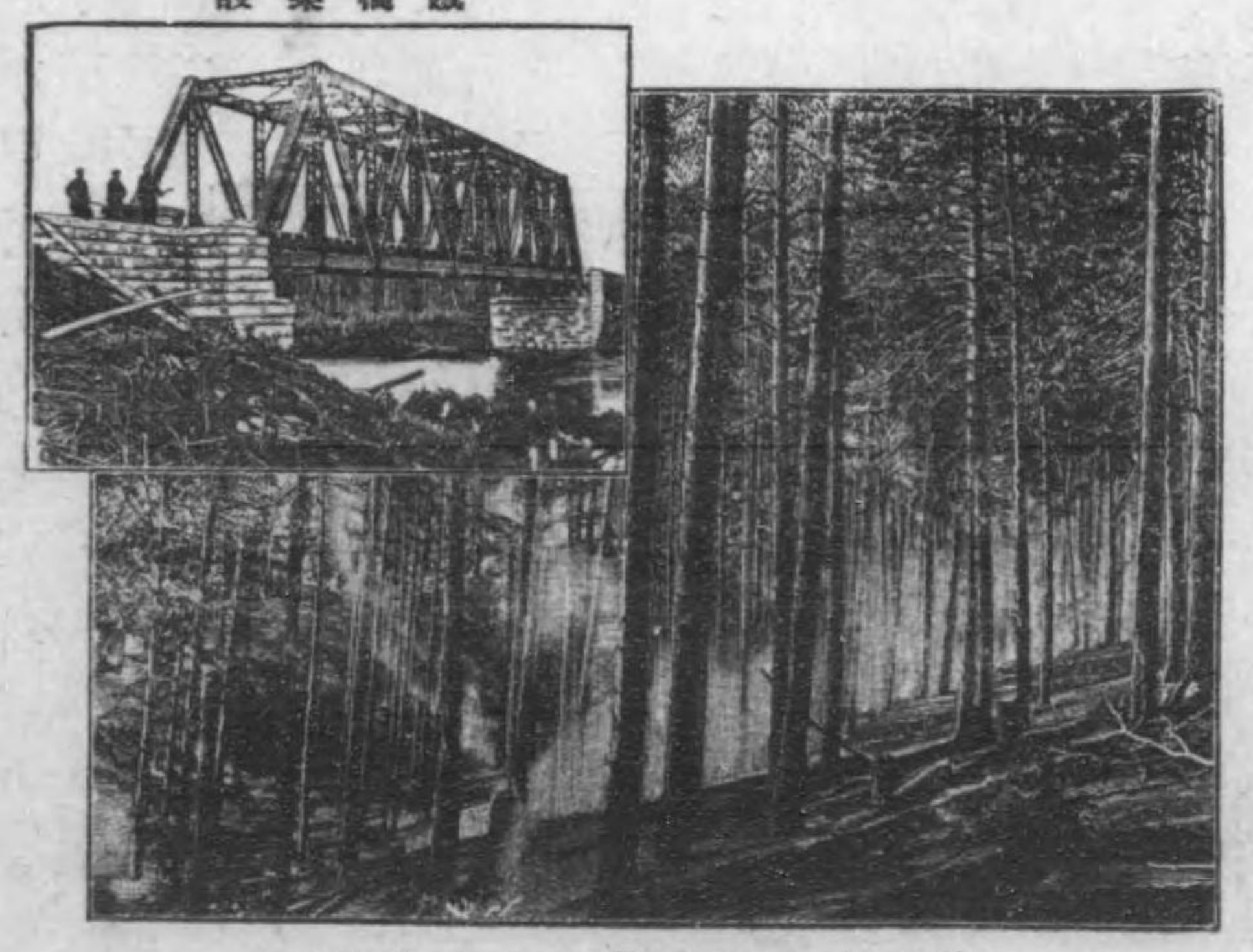
外國篇 上卷

一二六

ひ、漸く草原となる。動物にては、野獸の棲息地として、虎・豹・熊、諸種の鹿類出沒し、極寒の地には、別に極熊の彷徨するあり。概して水陸を通じて、毛皮獸の産夥しく、世界毛皮の一大供給地たり。産業 氣候に制せられ、植民の區域は、南部に横に延長し、特に主要農業地は、南部平原に密集し、他は、南方谿谷の平野を點綴す。ライマ、燕麥、大麥、小麥、馬鈴薯はこの孰れの地にも産し、

拓開のアリベシ

設架橋鐵



探伐林森るけ於にルカイバ分

1 東部地方は我國より、蔬菜、果實、雜貨を入れ、沿海諸地方の水産物を我に輸出す。

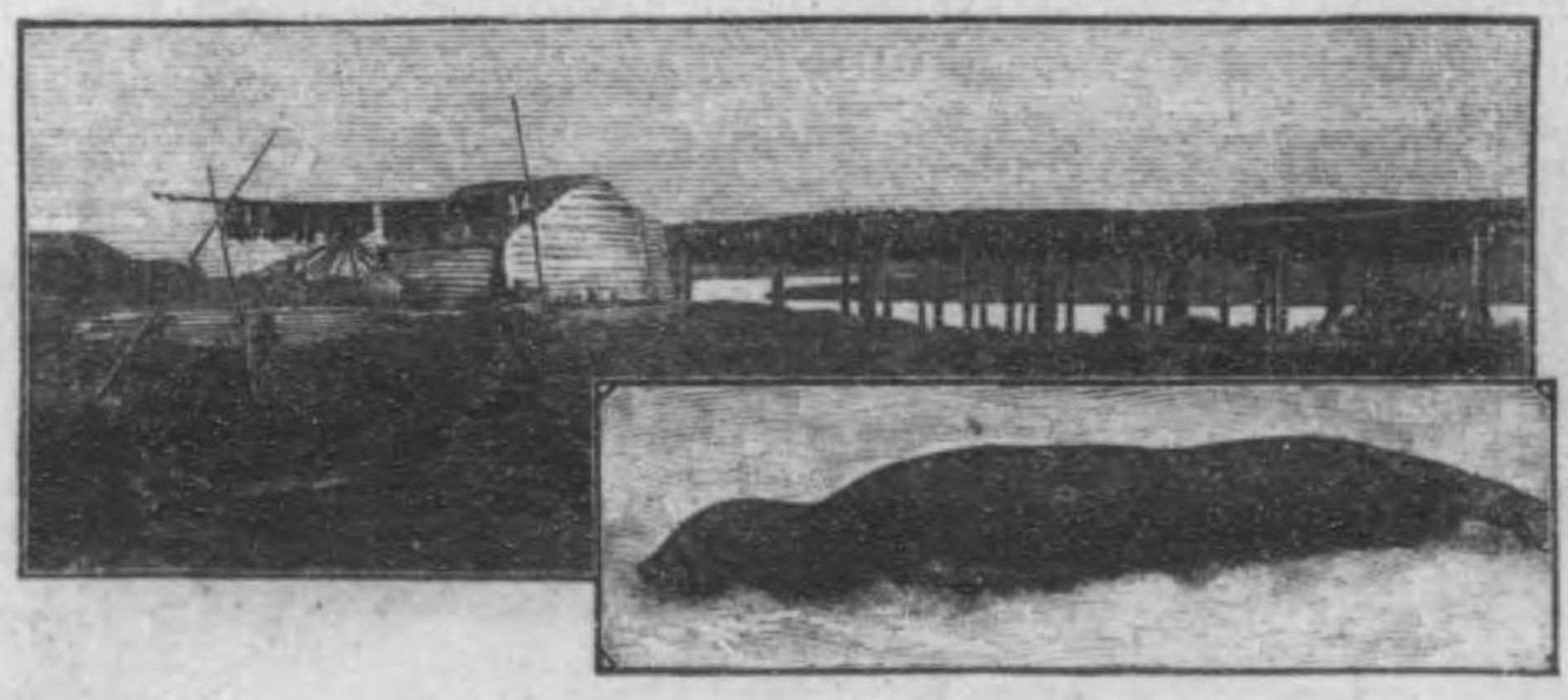
第一章 アジア



圖布分地産麥小るけ於に界世

又諸處に麻、甜菜の栽培あり。家畜にては、羊・山羊・馬・牛・豚等を飼育し、尙、河湖の水産と、東海岸の鯨・鮭・鱒及び海獸、黑龍江の流域、アルタイ山地の金・白金・鐵・銀・石炭・石油等の鑛産も名高く、林産亦多望と稱せらる。されど製造工業は、頗る幼稚にして、製粉・乳製品等稍著しく、日用品の大部分は、全く他よりの輸入に俟ち、殊にヨーロッパ、

釣海と干鮭の村漁岸沿峽海グンリーベ



一二七

パロシヤ・ドイツ・支那等より仰ぐもの多し。輸出は、穀物・鑛産物及び水産物を主とし、多くはヨーロッパシヤに送り、その他は、諸外國に向ふ。交易場は、陸上にあるものを除けば、ウラヂポストク港を最も重要となせり。

ベシアリ小都會の市場(マソク)

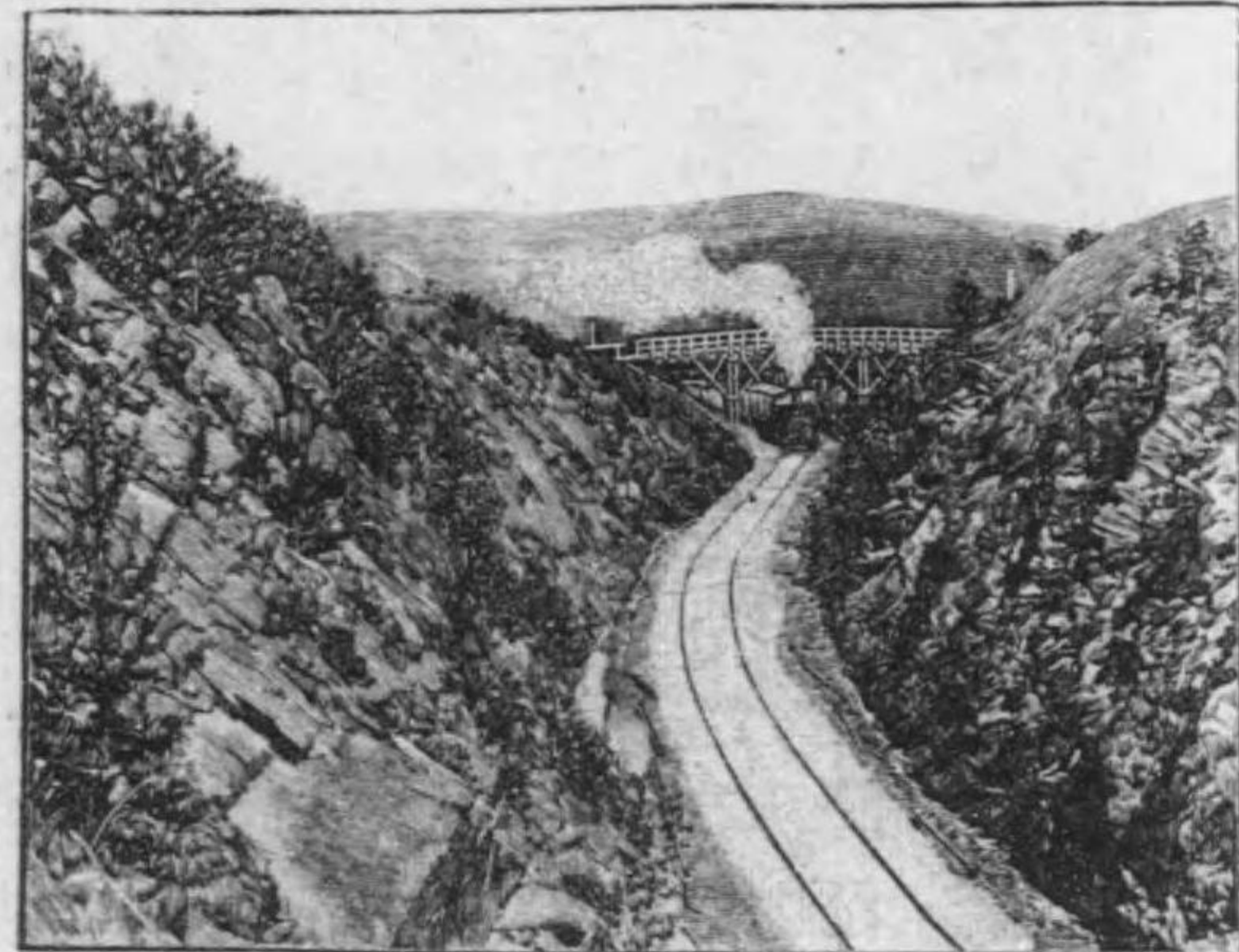


交通 陸上交通は、ロシア東漸の政策と關聯し、主に南部に發達し、これに世界の交通系に屬せるシベリア鐵道敷設せらる。是より北方は、聚落の減少と共に、交通不便となり、郵便の如き猶ほ不完全の状態にあり。冬季は、橇の使用盛んにして、一年中物資の

1 シベリア鐵道とはモスクバより極東に至る線路を稱し、列車はウラヂポストクより東清鐵道によりシベリアのカラムスカヤ驛

に出でて西進す。所要日數平時急行列車にて九日を要す。

ウララ山に於けるベシアリ鐵道



ヤノロア山脈とベシアリ鐵道沿線のチタ市



ウスリ鐵道

運動最も自在なり。

水運は、夏季黑龍江・イニセイ・オブの諸川とバイカル湖との通航、最も盛んに行はれ、オプ・イニセイは中流の利用を主と

2 下流は氷結期長く、水深常に變ず。

す。北極海は一年を通じて、殆ど船舶の往來を缺き、太平洋岸は、夏季僅に沿岸航路を見、ウラヂポストク港のみ例外なり。

住民政治

ヨーロッパより移住せるものは、概ねスラブ族なるロシア人なれども、地方土着のアジア人は、トルコ・ブリヤート・ヤクート・ギリヤーク・オスチヤク等々の種族にして、開化の程度低く、多くは遊牧・狩獵を営む。ロシア人の移住は、一部流刑によりて行はれ、東部の開發は、主として之に基けり。シベリアは

斑一俗風び及落村の人アシロ



沿海黒

龍江東

シベリ

ア及び

西シベ

リアの

三地方

に分た

れ、西シ

ベリア

(近附クスンナルネ)ぶ搬を水囚女



例族諸方北人アジア

族コッロオ



族ドーエモサ

族スーグンラ

の内務省直轄を除けば、他の二地方は、共に兵權を持せる總督政治の下に立てり。政治區劃を示せば左の如し。

3 總督駐劄地ハバ
ロフスク

4 總督駐劄地イル
クツク

5 内務省直轄

沿海黒龍江地方 (沿海州・カムチャツカ州・黒龍江州・外

バイカル州・サハリン(北部カラフト))

東シベリア地方 (イルクツク省・イニセイスク省・ヤ

クーツク州)

西シベリア地方 (トムスク省・トボルスク省・アルタ

イ州)

都會 サハリンは、日露戦役の結果、南半を我に失へる樺太

島(一名サハリン)の北半を稱し、石炭・水産及び多少の農産あ

り。戦争以後、開發の業全く挫折し、小都會の見るべきもの

は、軍務知事駐劄地たるアレクサンドロフスクに過ぎず。

帝國領とは、一條の陸路、中央低地帯を経て通ず。我千島列

島の東北には、カムチャツカ半島あり。高山連峙の間、我富士山

よりも高き火山聳え、東部沿岸には、良港灣あり。夏季近海

1 グリウチエフス
カヤ(四九一六
米)

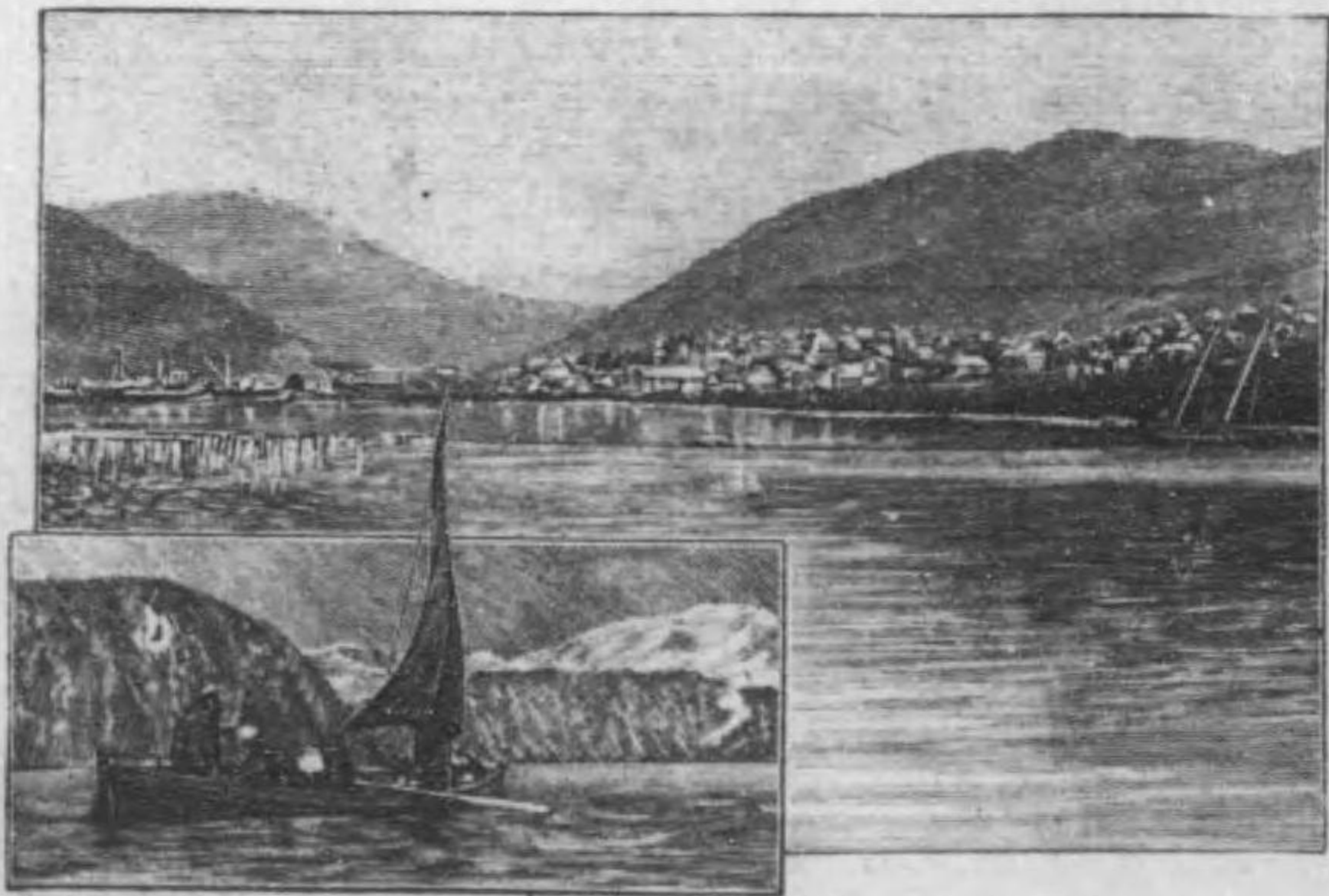
2 鮭・鱒・鰻鮒 等

水産豊かにして、首府ピートルバプロフスクは、著名なる港
市なり。カムチャツカ半島の西、オホーツク海に臨める地方
は、山脈常に海岸に並行して走せ、
其後背
亦是等
と同方
向の山
脈走り
て内地
と隔離
す。オ
ホーツ
ク・ニ
コ

(岸沿海ゲンリーベ)家住のそと族チクッチ



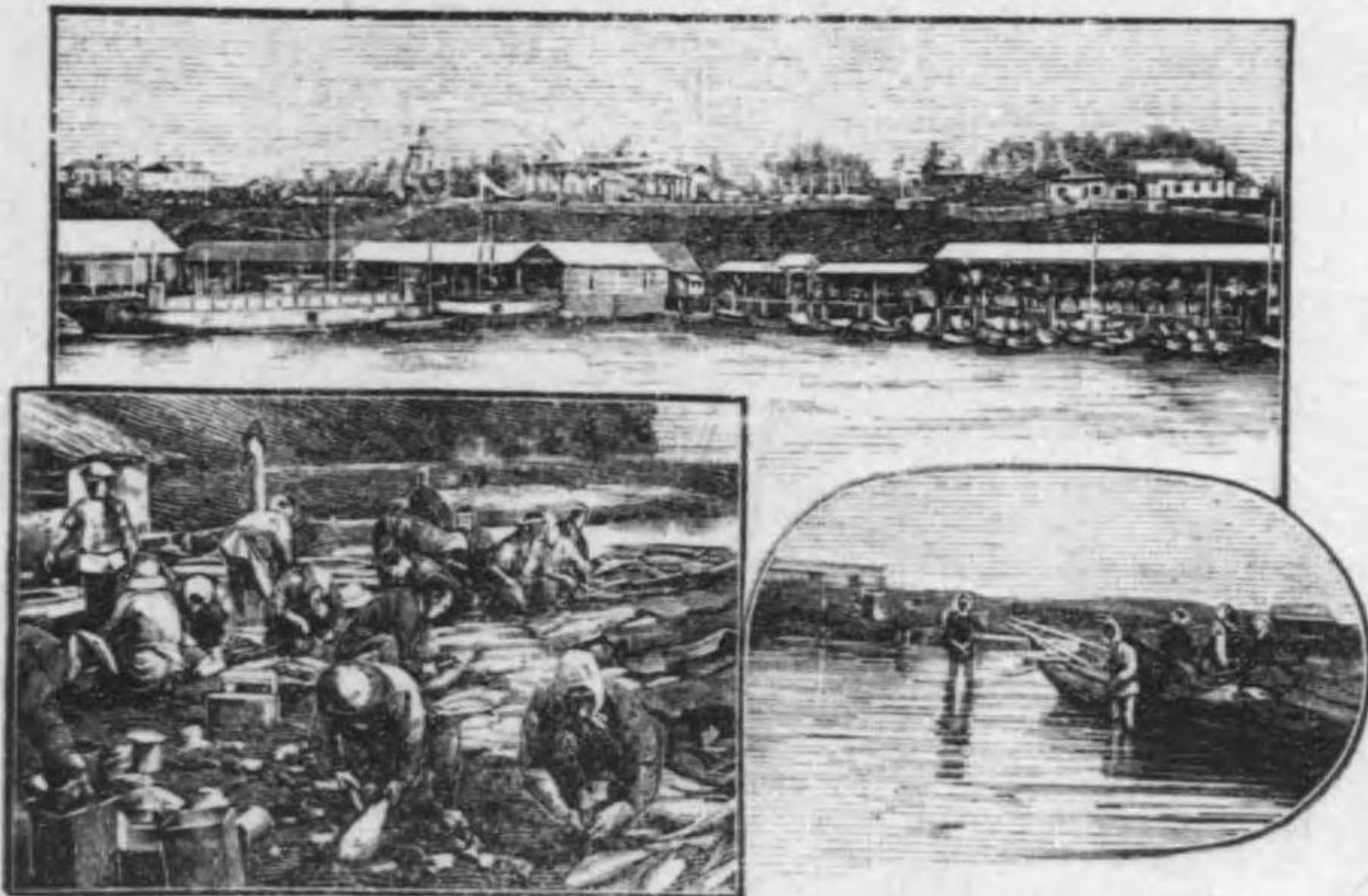
崖断の岸海ゲンリーベと港クスフロアバルト



ライエフスク(六)ウラチポストク等の港市は、共に數百年前
ロシアの勢力東漸して、始めて海に達せる頃の建設に係り、

そのうち順次發達を遂げたるは、軍港・商港を兼ねたるウラチ
ポストク(九)にして、自然の良港
灣をなし、其經營の規模、外觀全

業漁人邦と頭埠港クスフエイラコニ



景る去を膾炙の鮭

者業漁人邦の州海沿



註 敦賀との間定期航路あり。

4 本流、松花江の航路、ここに集る。

5 これより西に隔たれるカリムスカヤ驛はシベリア鐵道本線の東濱鐵道に連絡する一寺線を岐つ

くヨーロッパ風をなせり。現時我國を經由せる世界的交通線の要處に立ち、ロシア東面の貿易港として、漸次、東洋は勿論、アメリカ合衆國との關係深からんとす。黒龍江に沿ひ内地に入れば、ウスリ川の會點に、總督府所在地ハバロフスク(五)あり。江の交通の中心に當り、ウラチポストクとの間、鐵道ウスリ線を通ず。又ブラゴベシチンスク(六)は、附近の金鑛にて市況活氣を呈す。江の一源流に臨めるストレチェンスク・ネルチンスクは、シベリア鐵道に沿ひ、是より西方蒙古の賣買城に近く

頭埠港商クトスボチラウ



開市場 キアフタ あり。

バイカル湖の西にては、湖水の溢流せるアンガラ川に臨み

て、東部シベリアの中心都會たるイルクツク(一三)あり、總督府所在地にして、

毛皮其他の取引盛んに、各種の工業漸く起れり。

西方クラスノイ、ルスク(九)も、亦毛皮、穀類を集散し、林野の開拓盛

んに行はる。是より以西は、地平坦にして、肥沃なる西シベリアの穀庫に入り、

トムスク・トボルスク等の都市あり。

トムスク(一二)は、シベリア鐵道と支線によりて通ぜるシベリア唯一の大學

所在地にして、シベリア最古の都會ト

川ラガンアとグツクルイ (む望をクツクルイてて隔を河りよ揚車停)



ボルスクは、オア河舟運の終點なり。鐵道を南に離れたる

バルナウル(六)は、草原の主要都會にして、穀物を集散するこ

と頗る盛んに、且つ附近に有名なる官營採鑛地を控へ、トボ

ルスクとの間航通の便あり。尙、この地は、シベリアより蒙

古の西北部に入る軍事要路に當れり。

二、中央アジア

通説 この地は、シベリアとヨーロッパとを南部にて

連絡する低地にして、その西南隅は、一部分地中海の海面よ

りも下れるアラル・カスピの低窪地となり、境上諸山脈より

來れる諸川を容る。アラル海に注ぐアム・シルの草原流はこ

の例なり。カスピ・アラルの二海は、往古地質時代、北極海と

地中海と連絡せる海峽の迹と稱せられ、大低窪地の表面に

は、諸處にこの種の鹹湖と沙漠とを存す。

1 この大盆地は内陸性氣候著しく、降水量は一年二百耗にも達せず。されば上源水量大なる河川もこの域に入りて涸るゝもの多し。

2 草原(ステップ)地方に盛んにして、キルギス草原の如きはこの一例。

産業は、牧畜業弘く行はれ、灌漑の便ある地には、農業起り、棉花、果實等を産し、尙、養蠶業も著はる。商業は、専らヨーロッパロシア及び附近の諸國との間に行はれ、棉花と生絲とは、その重要輸出品たり。陸上交通は、隊商の通路以外、鐵道稍發達し、ヨーロッパロシアの東南部より直接に來れるものと、カスピ海の航通に依りて連絡せるものとあり。この外シベリア鐵道北の一角を過ぐ。

活生牧遊の族スギルキ



住民は、概ね開化の程度低きトルコ及び蒙古の諸族にして、遊牧生活を營む者多し、全地域は、ヒバ・ブハラKhiva Bukharaの汗國以外

1 キルギス族最も顯はる。

2 オスマンにステップ地方總督駐在す。但し前二州はヨーロッパロシアなるカザン軍監區に屬せり。
3 總督駐在地はタルキスタン。トルキスタン總督は外カスピ地方をも管す。

に左の地方に分たれ、總督によりて治めらる。

- ステップ地方 (ウラルスク州・ツルガイ州・アクモリン州) Uralsk Turkestan Akmolinsk
- スク州・セミ巴拉チンスク州) Semipalatinsk
- トルキスタン地方 (セミレチエ州) Semirechensk
- フエルガーナ州・サマラルカンド州・シルダリア) Fergiana Samarkand Sirdaria
- 外カスピ地方 Transcaucasia

地方誌 シベリアとの境界附近は、有名なる草原帯をなし、其中にあるオムスク(一四)は、シベリア鐵道に沿ひ、政治、Omsk

經濟上頗る重要なる處なり。タシケント(二七)はシル河域にありて、製革の業盛んに、鐵道は此傍を過ぎ、東方アンTashkent

(よ見なと林の園周と根屋平) 街市ドンカルマサ



1 この都會以下悉くオアシスの地に建設せらる。2 パミルを越えカシガルに至る要處。

アシア人千古の英雄ナムルの墓はこの地に在り。

地理教科書 外國篇 上卷
チシアン(八)に終る。サマルカンド(一〇)は、中央アジアの肥沃地に起れる都會にして、史上に名高く、この西南鐵道に沿うて、メルブあり、支線をアフガニスタン國境に出だし、ロシア南下の重鎮を以て目せらる。この鐵道の起點クラスノボドスクは、カスピ海東岸の港にして、對岸バクラーとは定期船を通ず。ヒバ・ブハラは、共に前世紀の中葉、ロシアの侵略せる地にして、生絲・葡萄その他の果實を産す。

三、カフカズ地方

カスピ海と黒海との間に夾まり、北はマニチ低窪地を以てヨーロッパと境し、南は直にアルメニアの高原に

(山火休の米〇三六五拔海) 山ズールブルエ



1 高峻なる山脈にして最高は海拔五六〇〇米を超え、諸處に氷河を存す。

2 世界三大石油產地
原産地バグー近傍より送油管にて、黒海岸なるバツムに輸送す。

接す。構造上黒海の北岸、クリム半島と連絡せるカフカズ山脈は、この地方を西北より東南に斜斷し、全地域を北部即ち内カフカズ、南部即ち外カフカズの二に分つ。氣候概して亞熱帯に近く、黒海沿岸の地を除けば降水量大ならず。カフカズ山脈以南の地には、諸處に亞熱帯林繁茂し、葡萄その他の果實、生絲の生産に適し、尙、石油の大産出あり。陸上の交通線は、北方ヨーロッパより來れるもの本地方の幹線となり、鐵道亦南北兩部を連れ、以て黒海・カスピ海上の汽船交通と連絡せり。

住民は、世界にて身體優秀を以て名ある白哲人種中のカフカズ人最も多く、アルメニア人・ロシア人亦少からず。この地方は、政治上總督の治下に立ち、バクラー・チフリス及びバツム等の諸都會有名なり。バクラー(二四)は、石油發掘の中心

となり、チフリリス(三三)は總督府所在地、バツム(五)は、石油積出港として名あり。

北部アジア(アジアロシア)統括諸問

地圖によりカスピ海よりデシネフ岬(ア

シア最東の岬)に至る迄の長さを測れ。

湖水に終る重要河川を擧げよ。空氣の

乾燥著しき地方の地形につきて語れ。

全地域に亙り、普通に行はるゝ生業は何

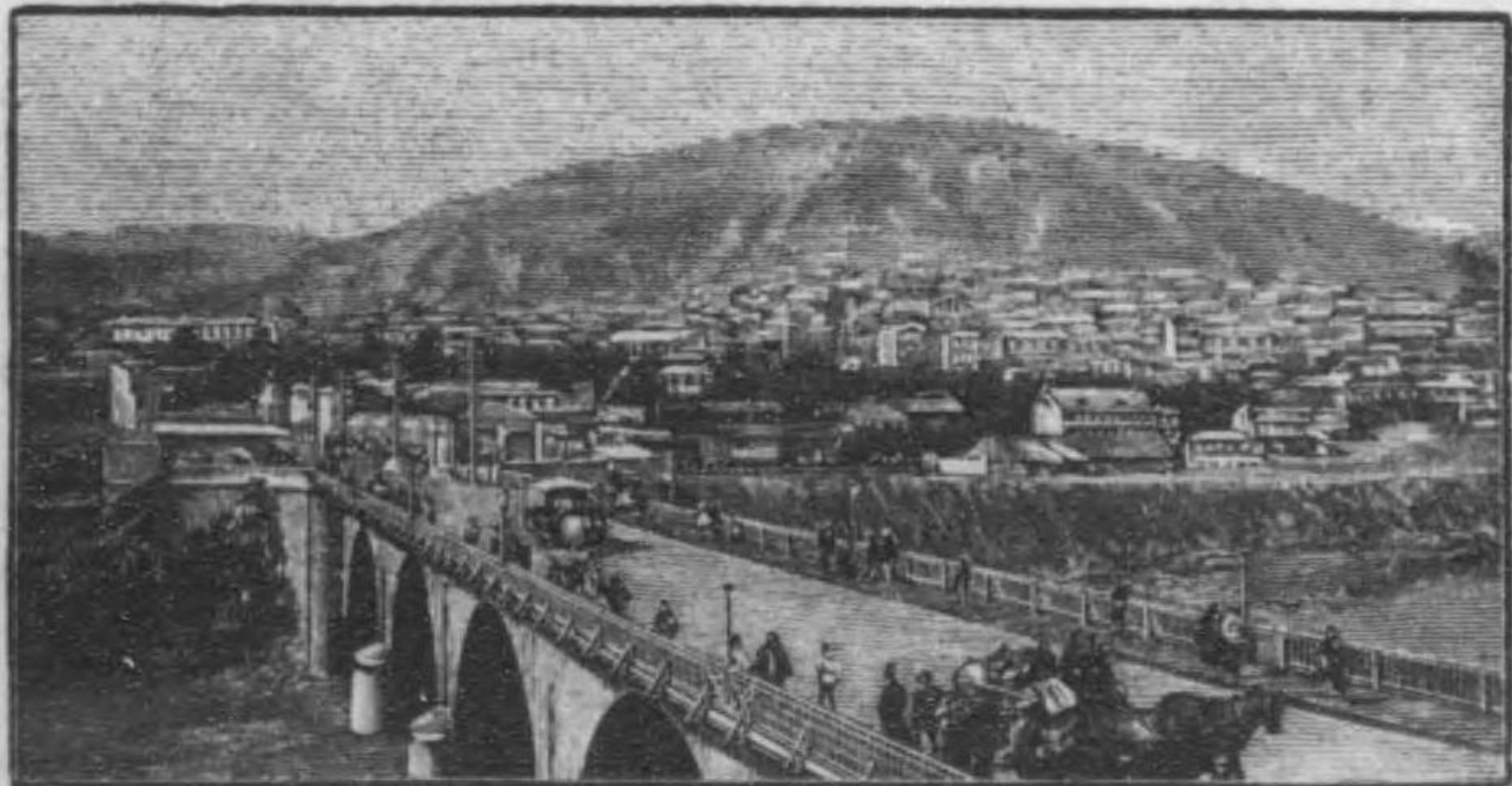
なりや、且つ、その狀況につきて知る所を

述べよ。ヨーロッパよりアジアに通ずる

鐵道分布の一般狀況につきて述べよ。

自然、人文兩方面よりシベリア北部の地方を説き明かせ。シベリア鐵道沿線の著名なる都會三つを擧げて比較せよ。

(む望を西りよ橋イラコニ) 景の市スリフチ



シベリア鐵道

住民

括説 人文地理

住民 アジアは、世界最大の大陸として、種々の地形と氣候及び生物とに富み、中に世界にて、最も早く開けたる支那・印度・メソポタミア等を包括し、その大部分と他の地方とは、現今多大の住民を有し、その總數は、世界全人口の半以上を占め、我帝國を始めとし、支那本部、印度の平原地方、ジバ島等は、人口の密度頗る稠密なり。

大陸の一部即ち印度・アラビア・支那等の住民中には、本國を離れて、他の國土又は大陸に入り、勞働を供給するもの多大なり。又一方、北部アジアの地方にはヨーロッパより來住するものあり。ロシア人は是なり

此等住民のうち、黄色人種(アジア人種)は、大陸の西南部を除き、他の大部に亙りて居住し、種族の細別甚しく多く、その數

世界各人種の分布圖



白哲人種(ヨーロッパ人種)に優り、開化の程度高きより低きに至るまで、著しき逕庭あり。白哲人種は、印度以西の地に住し、古代夙に文化開け、幾多の強國をも建てたる種族なれども、今や大に衰へ、多くはヨーロッパ諸國の治下に立てり。この外、少數のマライ人、インドネシア族等あり。アジアは、世界の三大宗教を始めとし、諸種の宗教の發源地と稱せられ、そのうち、佛教は、殆どその起源地印度に迹を絶ち、東方諸國に流行す。されど、古に比して大に衰頽せる色あり。クリスト教は、主

としてアジア大陸以外の全世界に傳播し、歐米諸國信仰の中心となり、現今此等の諸國より逆に傳導せらるゝを見る。回教は、開教後、他の大陸にも流入せしかども、上記二教と異り、依然としてアジアに勢力を張り、中央アジア、西南アジアは更なり、尙、マライ群島、南洋方面にも行はる。聚落の状況は開化の程度にもよれど、種族地方又は國々により區々にして一ならず。中央アジアの高原、その他遊牧人の住する區域は、天幕に

世界宗教分布圖



1 都會の形態各地一ならず。支那及び附近の地には、城壁にて繞らざるもの多し。

より雨露を凌ぎ、轉々としてその居住を移し、印度支那半島、マライ群島の一部には、水邊の樹上又は筏上に居を構ふるもの尠しとせず。されど開明に趨けるものは、種々の材によりて居住を造り、大都會の如きは、その國又は民族の開化の特徴を誇示するもの多し。印度及び支那の諸地方のもの此類例なり。但し首府・開港場等の都會には、歐米に倣ひたる様式あり。概して聚落の發達は、季候風帶に著しく、内陸地方に入りて貧弱なり。

問 ユーラシア人口密度圖を見て、疎密一様ならざる理由を考察すべし。黄色人種中の有名なる種族二三を挙げ、その開化の狀況を略述すべし。挿繪に由りて見たる住居の狀況につきて知るところを述べよ。アジアに於ける三大宗教以外の宗教につきて述べよ。人口五十萬以上の都會を地方別(東部アジア・南部アジア……)に列舉せよ。挿繪により、城

政治

壁にて繞らざる、都會を挙げ、その構造の概略を語れ。

政治 アジア大陸は、古代、諸處に強大なる國家の發達せし處なれども、盛衰興廢常なく、現今大部分の地は、殆ど歐米諸強の領土又は勢力範圍となり、西アジアにてはペルシア、東及び南アジアにては、支那・シムスの諸國、獨立の名を存するのみ。此間に立

ユーラシア人口密度圖



ちて、古代より永續して獨立を維持し、國力年と共に加はり、歐米列強と伍して、世界の活動裡に馳驅するは、獨り大部分列島より成れる我大日本帝國あるのみ。全地域のうち、國家の發達全く缺くる處は、アラビア半島の大部にして、尙、歐亞の境に近づくに従ひ、附近の強國その間に侵入し、これが爲に、自ら一種の間曠地域を生ぜる觀あり。列強のうち勢力大なるものは、南方にありてはイギリス、北方にありてはロシアにして、二三世紀以來、一は海路より内陸に、一は内陸より沿岸に向ひ、兩勢力時に屢衝突し、互に相對峙して今日に及び。ドイツ・フランス二國亦この間に侵入し、領土の獲得、勢力の扶植につとめ、尙、近時アメリカ合衆國は、南洋諸島より東部アジアに近接せり。

問 アジア諸國の政體を語り、且つ我國との條約國を擧げよ。アジアに

産業・商業

於けるイギリス・ロシアの領土の大きさを比較し、尙、その各者のアジアの總面積に對する割合を略述せよ。アジアに於けるフランス・オランダ二國の領土を比較せよ。政治上印度帝國の特色を述べよ。

産業・商業 アジアの産業は、概ね人口の粗密に伴うて、消長する傾向を有し、季候風帶は、世界にて最も重要な農業區の一となり、米・茶・棉花・甘蔗等の日用必須品を始めとし、各種の農産に富み、原料品を歐米の大市場に供給すること甚だ盛んなり。牧畜は、一般に高原又は草原の地域に行はれ、家畜の數頗る大なるが如しと雖、世界の商業上未だ大に顯はるゝに至らず。之に比すれば、鑛産は頗る見るべく、シベリア・カフカズ地方・印度・マライ群島・支那等それぞれ石炭・鐵又は石油、その他重要金屬を埋藏すること多く、逐年採掘高増大する傾向あり。製造工業は我國を除けば、その發達甚し

く後れ、歐米諸國より精製品を輸入すること、孰れの國と雖、頗る多額に上れり。アジアに於ける商業は、中央高原より西南部に互れる沙漠又は草原帯は、今猶ほ隊商により、僅に東西に貨物を通ずるに過ぎざれども、南部・東部兩アジアの諸地方は、純然たる世界商業の一分野となり、印度及び支那の貿易は、歐米諸國及び我國の争うて相關係する所たり。ボンベール・カルカッタは、おもにイギリス商業の一部をなすものなれども、香港は、東洋貿易の關鍵となり、イギリスは勿論、東洋及び南洋に利害を有する諸商業國の一大取引場及び一大倉庫たる觀あり。上海は、揚子江口附近にある支那の一貿易場なれども、實は列強の商業植民地にして、港勢市觀宛然歐米の一大商業都會を見るが如し。

この外、マライ群島・印度支那も、それ／＼商業上重要視すべき處にして、

現に領主國以外、イギリス・ドイツ及び我帝國の活動地たり。アジア

シアは、前諸地方に比すれば、一般に地方的にして、商業の規模小なり。

問 護謨・チルク石炭・石油及び錫の生産につきて語れ。山羊・ヤク・馴鹿を

飼養する地方を述べよ。日本を除き、工業の比較的盛んに行はるゝ國

又は地方を挙げ、其種類につきて略述せよ。支那・マライ群島及び印度

の重要輸出品を、國別に列舉して説明せよ。ウラヂボストク・漢口・マニ

ラ・スラバヤ・ラングン・ボンベールの商業狀況を略説せよ。

交通 アジア大陸は、地形に制せられ、陸上の交通は、北部に

於て僅に東西横斷の鐵道敷設せらるゝを見れども、他は全く一部分の交通路に止まり、殊に南北縦貫の鐵道に至りては、其計劃さへ聞くこと能はず。諸國中、陸上交通線の發達は、著しきは、印度にして、ヒンドスタン低地の鐵道網の發達は、歐米諸國にも比すべし。支那は、既設鐵道以外、數多の新設

計劃線あれども、南北貫通線は、未だ成るに至らず。只ロシアの東清線、我國の南滿洲線を合せ、京奉・津浦・京漢の三線稍之に擬すべきのみ。陸上の水運は悉く地方的にして、河航運河を主とし、海上の交通は、印度・太平の兩洋面共に、イギリス・ドイツ・フランス及び我帝國の汽船の活躍自覺ましく、殊に極東に近接するに従ひ、帝國の東洋諸航路は、諸外國の船舶と競争し、敢て遜色なきに至れり。諸港中、香港は世界的商港にして、出入貨物の數量最も多く、之に次ぎては、我國の港を除けば上海・ボンベイ・カルカタ等を推すべし。シンガポールは此等に比すれば、單純なる寄港地たる觀あり。

問 西南アジアの鐵道につきて述べよ。日本郵船會社の航路並に寄港地を擧げよ。交通上より大連・コロンボ・カシガル・メルブを説明せよ。

中等 地理教科書 外國篇 上卷 終

中等 地理教科書 外國篇 中卷

大關久五郎 著

第二章 ヨーロッパ

面積九十九萬平方杆 人口四〇〇百萬 人口密度四〇人

總說 自然地理

位置・境界

位置・境界 ヨーロッパは、ユーラシア大陸の西部にある一大半島にして、西北は大西洋に面し、漸次西南に狭まりて、イベリア半島に終る。ユーラシアとアフリカとの間に横たはれる地中海は、イベリア半島の南にて、大西洋と相通じ、ジブラルタル海峡をなせり。

島嶼

各大陸の胴體肢體の比較

19	6	2	15	17	1
ヨーロッパ	14	アフリカ	オーストラリア	北アメリカ	南アメリカ
73	80	98	80	75	99

胴體 □ 肢體 ■ 半島 ▨ 島嶼 (面積100に對しての割合)

海岸 ヨーロッパは、陸地の肢體に富み、北より數へて、スカンディナヴィア・ユトランドの兩半島を出だし、又イギリス群島を分ち、その間、バルト海・北海の淺海及び南方にビスカヤ灣等あり。又地中海には、イタリア半島東南に突出して、シチリア島・マルタ島と共に、この海を海深割合に大なる東西の二部に分てり。東部地中海には、バルカン半島ありて、イタリア半島との間、アドリア海、アジアとの間エーゲ海、黒海を挟み、その東南海岸に、有名なるダルダネル・ボスポロス海峽あり。尙、大西洋の北部には、イスラランド島あり。是より以北、北極海には、大陸に近くノバヤゼムリア・スピッツベルゲ

地形

1 最高峰をモンブラン(四八一〇米)と稱す。一般に高山地貌發達し、數百の水河を存す。

ン等の諸島あり。大陸よりイギリス群島・イスラランド島を経て、グリーンランドに至る間は、海深淺く、尙、この續きはスカンディナヴィア半島に沿ひ、北極海沿岸に及ぶ。

問 地圖につき、大西洋及びその支海と、地中海・黒海との間の距離を概測し、以てヨーロッパの西南に細まり行く大勢を略述すべし。諸種の點より、イギリス群島と、日本群島とを比較せよ。ノルウェーの海岸の特徴如何。バルト海と、地中海とを比較せよ。

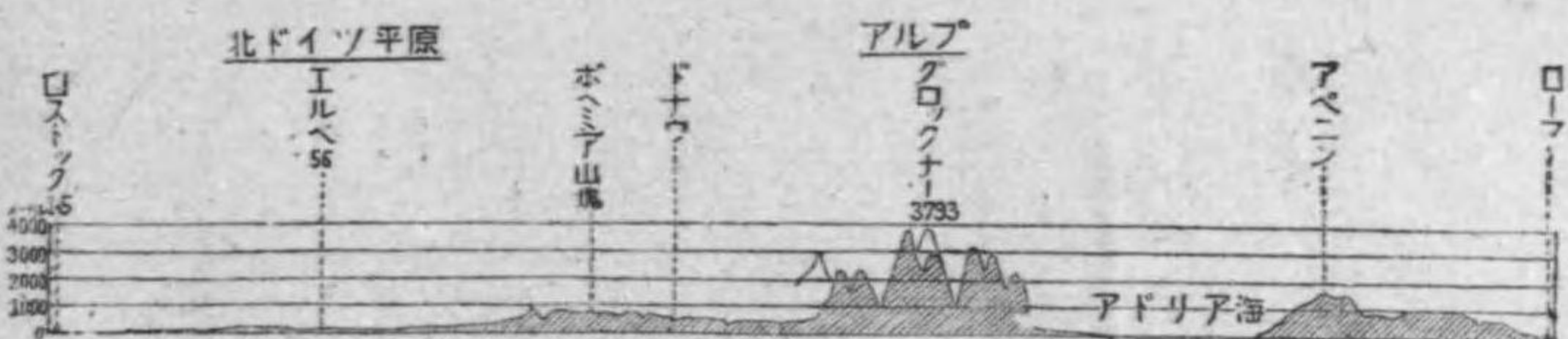
地形 ヨーロッパは、中部以南に地高く、パミルより西進せる山脈を以て、その骨格となす。アルプ・カルパチア・バルカン等の



圖系山アジラ—ユ

主要河川

ライン	三	二	四
ドナウ	一	八	三
ワグネル	二	三	五
ボルト	二	九	六
ボナ	三	四	一
ボルト	三	四	一
ボルト	三	四	一
ボルト	三	四	一
ボルト	三	四	一



ヨーロッパ断面圖 (ローマ、ロストック(バルト海岸)間)

諸山脈は、皆これに屬し、尙、その南には、イタリア半島を亘れるアペニン山脈あり。アルプ・カルパチアの諸山脈は、所謂中央ヨーロッパの高地を形づくり、その北西に隣接せる概ね高原狀の諸山塊と共に、大西洋・地中海及び黒海の斜面を分てり。有名なエルベ・ライン・ローヌ・ドナウの諸流は、此等の孰れかに屬す。イベリア半島は、別に孤立せる一高原をな

河氷のンラブンモ



1:35,000,000

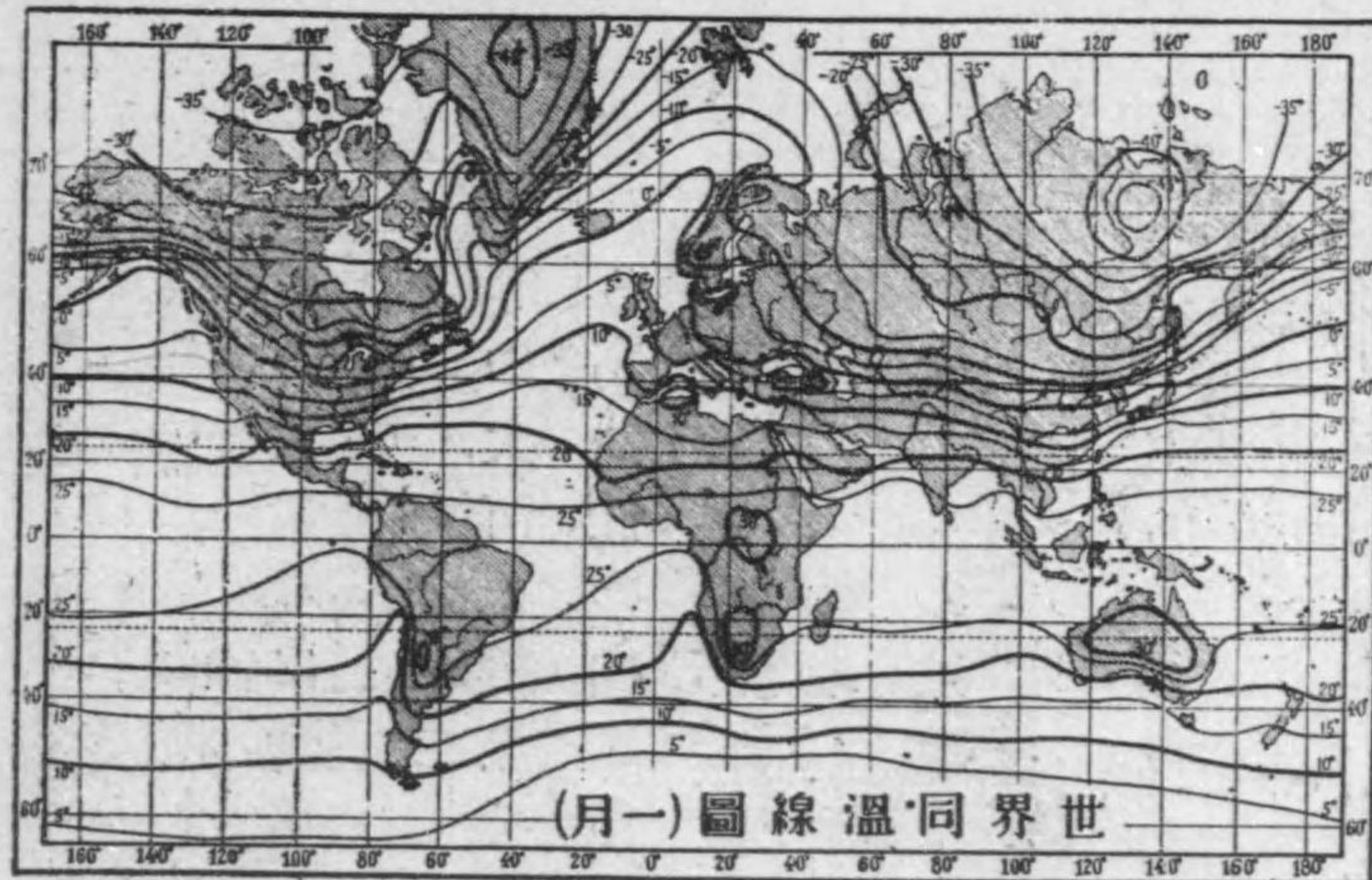
2 諸流の發源地は
バルグイ丘附近
なり、海拔三二
〇米。

3 互に連絡せる河
湖の群集はその
一例にして、バ
ルト海の東北沿
岸にあるもの最
も著し。
イタリヤは地震
國としても有名
なり。

し、大陸との境に、ピレネー山脈あり。大陸の東部には、廣大なる低原あり。其面積全ヨーロッパの半を出て、東南は、カスピ・アラルの大盆地に漸移し、西は狭く中央ヨーロッパの北部平原と連り、ヨーロッパ第一の長流ボルガを始め、ドニエブル、ドビナ等の大河を緩流せしむ。スカンヂナヴィアには、半島を互れる高原性の山脈あり、現時諸處に、氷河・氷田を存す。尙、この半島の他の部分は更なり、バルト海南岸一帯の地域も、廣く過去の氷蝕地形を存するを以て有名なり。火山は現に活動するものは、地中海沿岸に多く、就中、イタリヤ半島のベスビオ山、シチリア島のエトナ山最も有名なり。この外、アイスランドも、火山島として名高し。

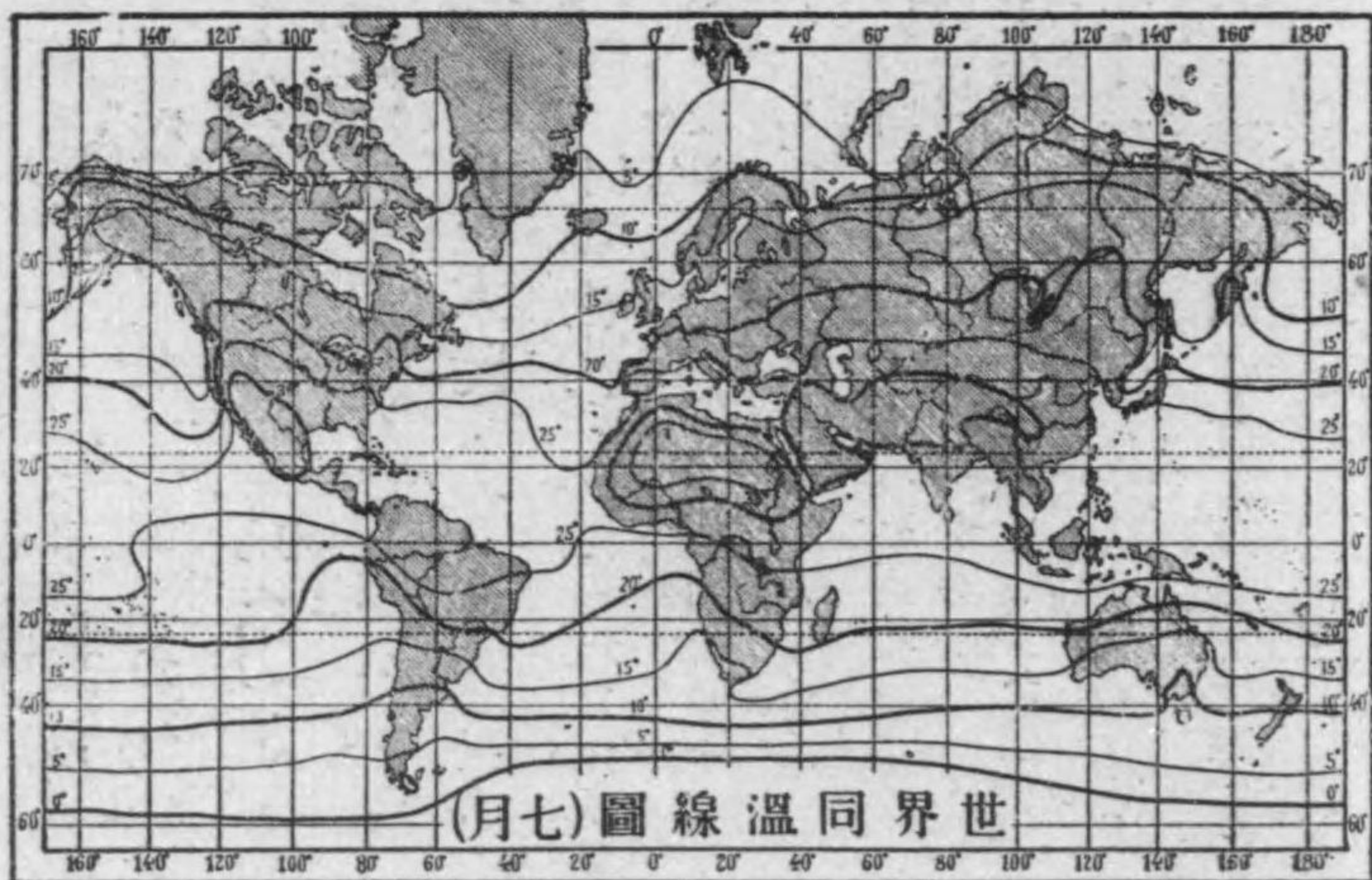
問 地形上より、アジアの中央高原と、中央ヨーロッパの高地とを比較せよ。
ライン川・ドナウ川につきて述べよ。地圖を見て、内陸盆地の有無を明

1メキシコ洋流と
相す。



かにせよ。

氣候 ヨーロッパは、肢節の發達著しき大半島なるを以て、其東南アジアと境する地方を除けば、海洋の影響最も著し。一般に大西洋に面する地方は、北アメリカより來れる、大西洋暖流の北上により、他の同緯度の大陸岸に比し、氣溫適に高く、スカンデナヴィアの西岸の如きも、冬季に氷結を免る。尙、各地方を通じ、大西洋に面する沿岸は、降水量多し。地中海は、大陸の間に



に存し、殊に熱帶大陸の稱あるアフリカに隣れるを以て、沿岸は、概して亞熱帶性の氣候を呈し、好晴多く、降水量稍少ない。又東部ヨーロッパの平原、特にその東南方カスピ・アラル二湖の盆地に近づけば、一年の寒暑の差甚しく、雨量も寡く、純然たる大陸氣候を現せり。

問 同溫線圖を見て、夏季七月と冬季一月との氣溫の差異につきて語れ、世界全年同溫差線圖を見て、ユーラシアの西岸と、東岸との相違を指示し、その理由を述べよ。地中海の半島は、好晴多しと云へり、その理由に關し知るところを述べよ。

生物の分布

生物の分布 ヨーロッパは、生物の分布上、アジアの中央より北及び西南に互れる地方に類し、植物帶は、北より南に、ツンドラ・寒溫兩森林帶及び亞熱帶林と漸移し、草原帶は、僅に東部ヨーロッパ低原の東南部に限られ、沙漠は全く缺けり。一



般に土地の開發よく行はれ、耕地帶比較的ひろく、溫帶農作物には、大小麥・燕麥・ライ麥・玉蜀黍・馬鈴薯・處により甜菜・麻類植ゑられ、果實には、地中海地方に柑橘・無花果等の亞熱帶産中部以南に葡萄の産あり。動物は、アジアの大部と同じく、舊北區に屬すれども、アジアの如き巨大獐猛なるもの、殆どその迹を絶ち、馬・牛・羊・山羊・豚等の重要家畜到る所に飼養せられ、その利用大に見るべし。又北極海及びそ

第二章 ヨーロッパ 九

の南部沿岸には、海棲動物多く、魚類また一般に豊富なり。

問 植物分布圖につき、アジアの總説參照、ヨーロッパ全面積に對する耕地の廣さを、アジアの全面積より見たるその耕地の大凡の廣さと比較せよ。地中海沿岸の一部には、甘蔗を栽培する地方(イスパニア)あり、アジアの孰れの地方にかゝる例ありしか。尙この地方にこの産ある理由如何。ヨーロッパ北方の海棲動物は、アジアのカムチャツカ沿岸の水産に略相等しと云へり、その種類を列舉せよ。

各説

北部ヨーロッパ

一、ヨーロッパロシア

面積五三九萬平方
人口一四七百萬

人口密度二七人

位置境界 ヨーロッパロシアは、ヨーロッパの東北部の大なる面積を占め、東と東南とは、陸地によりて、アジアにあるその版圖と連り、西北はスカンデナヴィアの諸國スウェーデン及び

↑北は北極海、西はボトニア・バルトの二内海、南は黒海。

↑ラドガ・オネガの二湖最も大にして重要な運河通ず。

ノルウェー、西南はドイツ・オーストリア・ハンガリア及びロマニアと隣り、北・西南の三面互に離れ々々に海に面し、位置自らヨーロッパの中心より遠ざかれり。
海岸地形 ロシアの海岸は、各相隔離し、又北及び西の沿岸は、冬季數箇月に亙りて凍結し、内海は、その咽喉を他國によりて扼せらるゝを以て、海面の利用甚しく制限せらる。唯夏季は、北極海・バルト海共に、船舶の交通頻繁にして、諸港灣の活動著しく、殊に西部内海は、この國と他の諸國との海上交通の主要區たり。黒海岸には、クリム半島南に突出し、東にアゾフ海、西にオデッサ港あり。

國內概ね低平なる曠原にして、諸大河は概ね中央より少しく北なるバルダイ丘陵に發し、曠原中を迂曲緩流し、諸方の湖海に注ぐ。西北方フィンランドの湖沼群と共に、夏季水運

(近附ラマサ)橋鐵と河ガルボ



の利頗る大に、又各河湖の間、諸處に運河の連絡ありて、交通を助くること多し。ウラル山脈は、東方アジアロシアとの境をなし、南方は總狀に分岐して、草原の間に低下す。高さ概ね低く、西方の傾斜は緩かに、東方は急峻なり。氣候、生物の分布 氣候一般の狀勢は、アジアロシアに類し、中部以北はシベリアに、東南部は中央アジアに酷似す。唯バルト海沿岸一帶の地方の稍、溫和にして、降水量の大なるは異れり。されば、植物の北方ツンドラより、南するに従ひ、森林帯及び草原に漸移する大勢も亦アジアロシアと大差なしと雖、特に南部の草

地墾開の近附ンザカ



原は、黒土帯ひろく、地味豊沃なる耕地發達せり。動物は猛獸その迹を絶ち、北方に馴鹿多し。動物は猛

産業 土地の開發、中部以南に著しく、南部黒土帯の小麥を始め、ライ麥・裸麥その他麻・甜菜を主要農産とし、外國へ輸出する量尠しとせず。林業は、頗る有望にして、内外國に對する木

世界小麥の主要産出國(1915)
總産額 548 百萬ワオター (1ワオター=480キログ)





1 主要輸出品
穀物・木材・亞麻・
綿卵等
主要輸入品
製造品即ち機械
類、織物原料(棉
花羊毛・石炭・
骸炭・茶等)

けるもの最も有名なり。外國貿易は、主として原料品即ち農林産を輸出し、精製品を他國に仰ぎ、イギリス・ドイツ・フランス等との取引最も多し。

交通 ヨーロッパロシアの交通は、主として陸上交通による

材の供給多大と稱せられ、又鑛業はウラル山脈及びその他の各地に見るべく、金・白金・石炭等を産す。水産業は、主として北極海の一部及び内地の河湖に行はれ、製造工業にては、ポーランド及び中央各地の紡績及び綿機業比較的盛んなり。内地商業は、年市の舊慣今猶ほ存し、ニジニノブゴロドに於

必要あるを以て、道路・内陸諸水の連絡、割合に良く發達し、冬季橇の利用亦盛んなり。鐵道は、その密度西南に大となり、中心はモスクバにして諸方に通じ、東のシベリア鐵道、西の中央ヨーロッパの諸地方に至る主要線を集む。海上の交通は、發達未だ十分ならずと雖、ペトログラードは海陸連絡の要處に當り、オデッサは出入船舶多く、極東に通ずる義勇艦隊の航路ここに發す。

住民 住民は、ユダヤ人以下少許の他種族を除き、大部分は白哲人種中、ヨーロッパの東北平原地方に住するスラブ民族にして、ポール族(ポーランド人)・ロ

(者叔と群の女男) 人 ア シ ロ

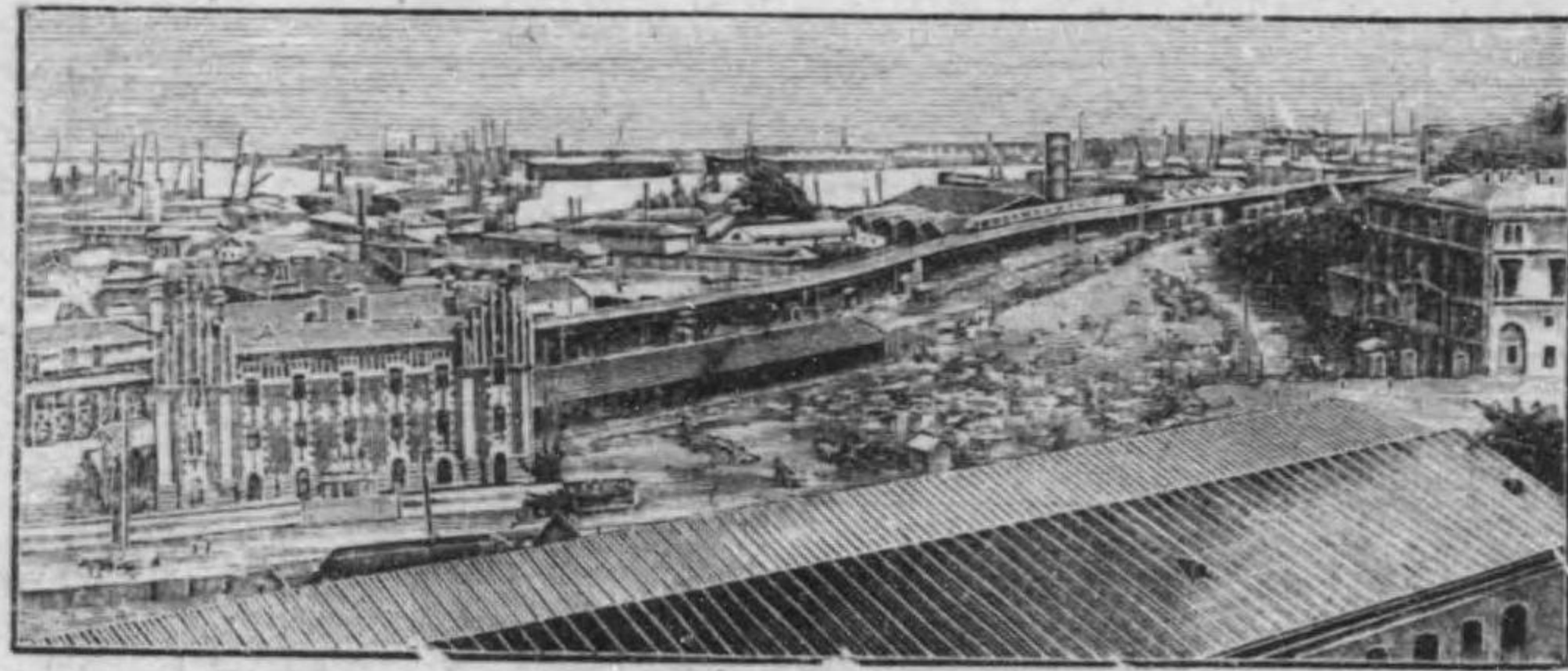


ポーランド地方にはポーランド族、西北の地方にはアジア人種たるフィン・ラップ族、その他東北より東南に至る間アジア人種たる諸種族住す。

シア族等に分れ、其中ロシア族は、國民の中堅を形づくり、多く中部の諸地方に住す。一般に教育未だ普及せざれども、民族特有の文化を有し、國民の多數は、ギリシア正教を奉ず。
政治 ロシアの建國は、中世紀にあり。その始めアジア民族の掣肘下に立ちしことありしも、後ちロシア民族の統一成り、又西ヨーロッパの開化の影響を受けて以來、國勢頓に隆盛に趨き、終にユーラシア北部の地を併せて、以て今日の大を致せり。然れども、他の列強に比し、國家内部の統一未だ堅實なるに至らず、政體も從來立憲君主政なりしを、近時共和政に改め、地方は州省等に分ち、數州又は省を併せ、總督をして之を治めしむ。この國は、國土の位置に鑑み、強大なる陸軍を備へ、海軍は數個の艦隊に分たる。
都會 ヨーロッパ、ロシアも亦アジア、ロシアの如く、一般に人

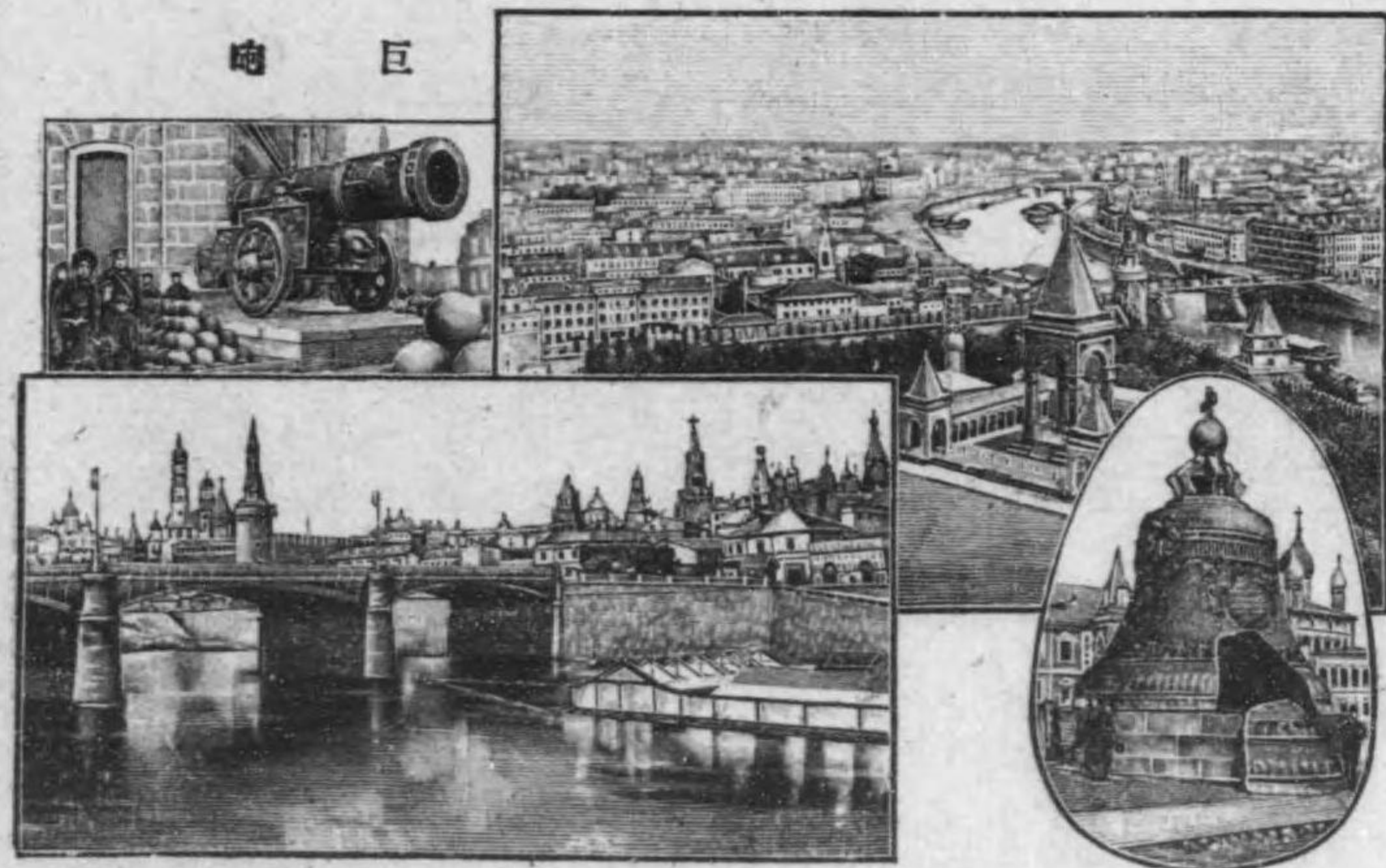
1 ニコライエフは近時盛大となりし軍港にして、有名なる造船所その他の軍事工場あり。

オデッサ港



口の密度小なれども、中央より西南に亙りて、その密度稍大となり、こゝに大小の都會發達せり。
先づ黒海沿岸には、セバストポリ(六六)ニコライエフの二軍港、貿易港オデッサ、内陸に入りては、キエフ・ハルコフ・ツラモスクバ等を擧ぐべし。オデッサ(六三)はこの國第二の商港にして、黒土地方の門戸をなし、ヨーロッパ諸國の商人來往す。キエフ(六一)は、地方の名都市にして、ハルコフ(二六)と共に製糖工業に著はれ、ツラ(一四)には、國立製鐵所設けらる。尙、この地方の東部、ボルガ河に沿うて、數多の都會あり。河口にある

モスクバ市 全景



巨鐘 ンリムレク

一八
は、カスピ海の商港・軍港を兼ねたるアストラハン(一六)にして、其他、サマラ(一四)、カザン(一七)、ニジニノブゴロド(一一)等著はる。モスクバ(一八)は、殆どこの國の中央に位せる舊都にして、クレムリン宮殿・大學等存し、近郊と共に、機業その他の工業甚だ盛んに、尙全國の經濟・交通の中心たり。西部にては、ポトラ

2 市街は一七〇三年ペテロ大帝の建設に於ける。本邦大使館所在地。

ンドにロヅ・ワルシワあり。ロヅ(四二)は綿工業に著はれ、ワルシワ(九一)は、舊ポーランド王國の首府にして、ウイヌツラ川に跨り、鐵道の一結節點となり、商工業盛大なり。バルト海沿岸は、國中最も開けたる一地域にして、リガ・ペトログラード等の大都會あり。リガ(五七)は同名の灣に臨み、穀物・亞麻・木材等を輸出し、首府。ペトログラード(二三二)は、フィンランド灣の奥、ネバ河口に跨り、市街の建造全く西ヨーロッパに摸し、市況國內にて最も活潑に、船舶の出入亦盛んなり。フィンランド灣口のクロンスタット(七)は、ペトログラードの

第二章 ヨーロッパ

ワシルワ



フィンランドは
フィン族の國す
る處なれども政
治上ロシアに併
せられ、中央よ
り派せる總督統
治の事に當る。
尙首府にはフィ
ンランド議會あ
り。

岸沿河バネ市ドーラグロトベ

像の帝大ロテバ



防備を掌れる海軍の根據地にして、
尙、灣の南岸に軍港レバル(一四)北岸
にフィンランドの首府ヘルシングフォ
ルス(一七)あり。北極海の沿岸には、
新に發達せるアレクサンドロフス
ク港及び白海の沿岸にアルハンゲ
ルスク港あり。アルハンゲルスク
は、夏季木材の輸出と、捕鯨船の輻輳
とを以て名あり。

朝鮮・滿洲の事により、一度國交破れ、彼我干戈の間に見えたることありしかども、平和克復後、互に理會を加へ、殊に近年

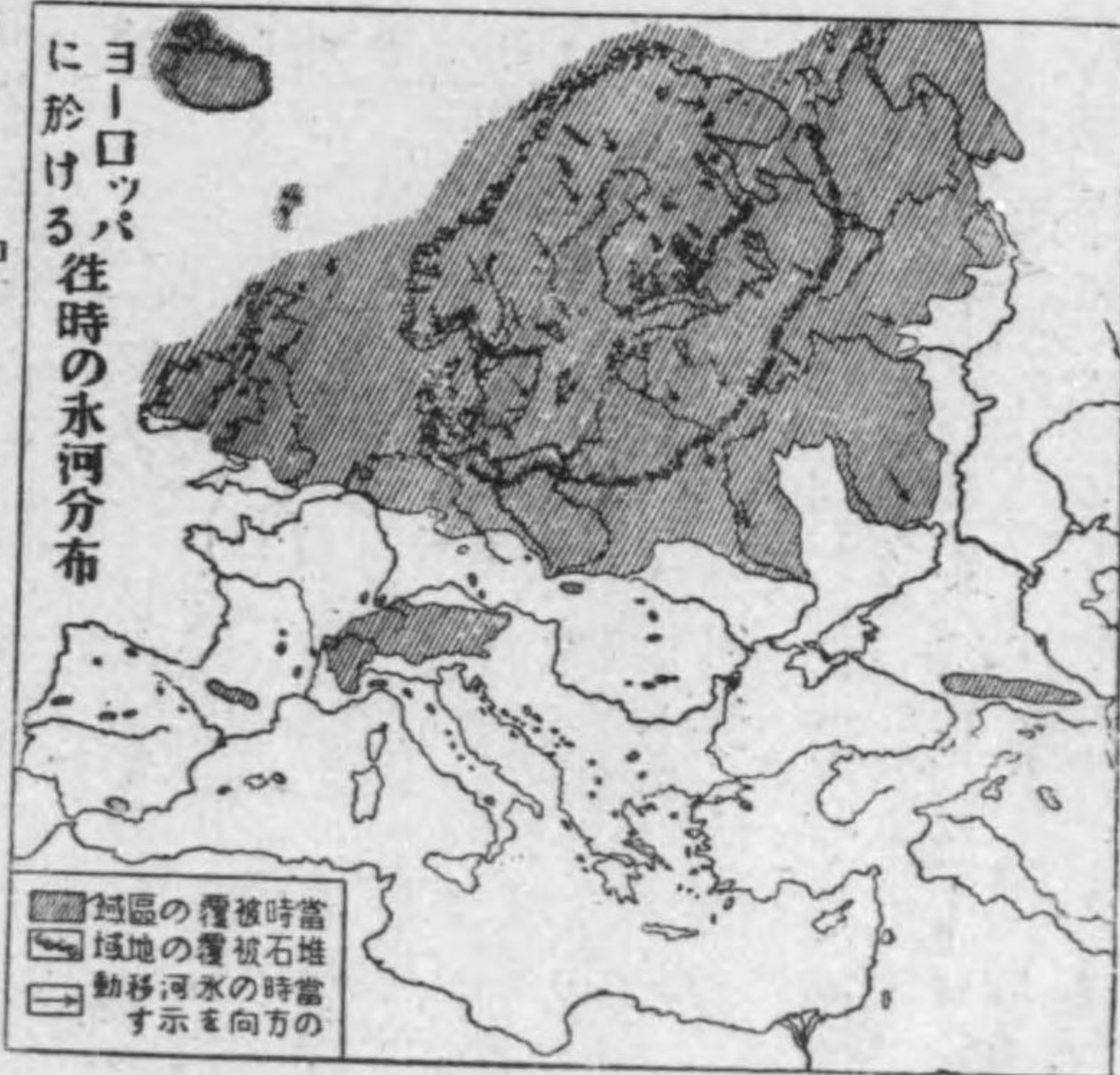
日本との關係　ロシアは、極東にて、わが國と隣接の地位にあり。曩に

益親密の度を増し、日露協約の成立を見るに至れり。然れども、商業上の關係は、未だ深きに至らず。獨り我鐵道及び航路のみは、彼のシベリア及び東清鐵道と連絡し、兩國共に、世界交通の大系に與れり。

ニ、スウェーデン・ノルウェー及びデンマルク

スウェーデン Sweden	面積四五萬平方杆 人口五八百萬	人口密度一三人
ノルウェー Norway	面積三二萬平方杆 人口二四百萬	人口密度七人
デンマルク Denmark	面積四萬平方杆 人口二九百萬	人口密度七三人

位置地形　スウェーデン及びノルウェーの國せるスカンデナヴィア半島は、之と相對せる南方のユトランド半島一名デンマルク半島と共に、北ヨーロッパ西北の肢節を形づくり、西に大西洋及び北海、東にその内海バルト・ボトニア兩灣を擁し、

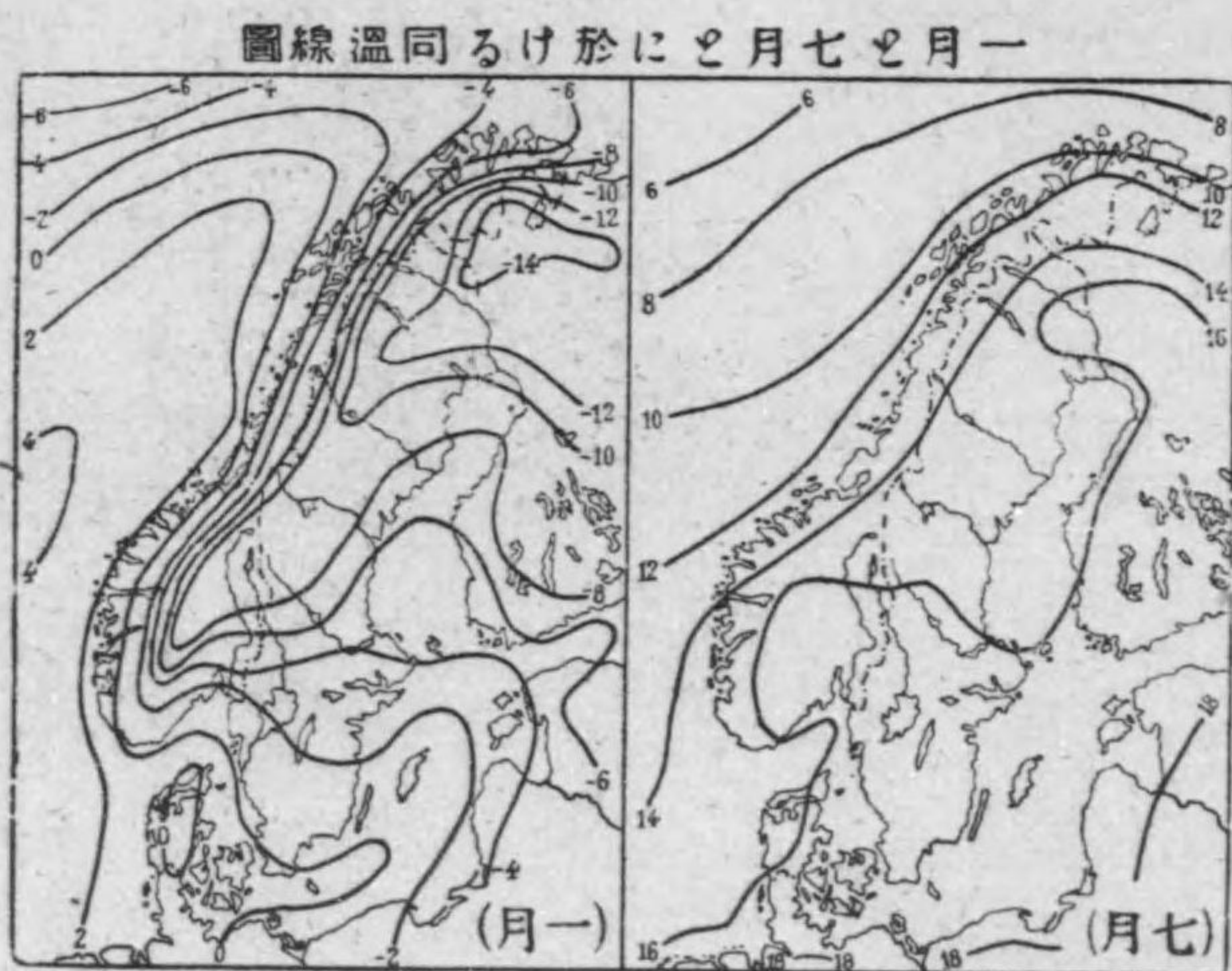


偏せる高原状の山脈をおこし、西斜面は急に、群島を控へたる、^{Fjord}フィヨルドと稱する峽灣に終り、東斜面は緩かにして、概ね湖沼を有し、且つ相並行せる數多

全陸面氷河時代の地表若しくはその遺迹より成れり。その高低の狀勢を觀るに、スカンヂナウイア半島は、分水界中央より西に



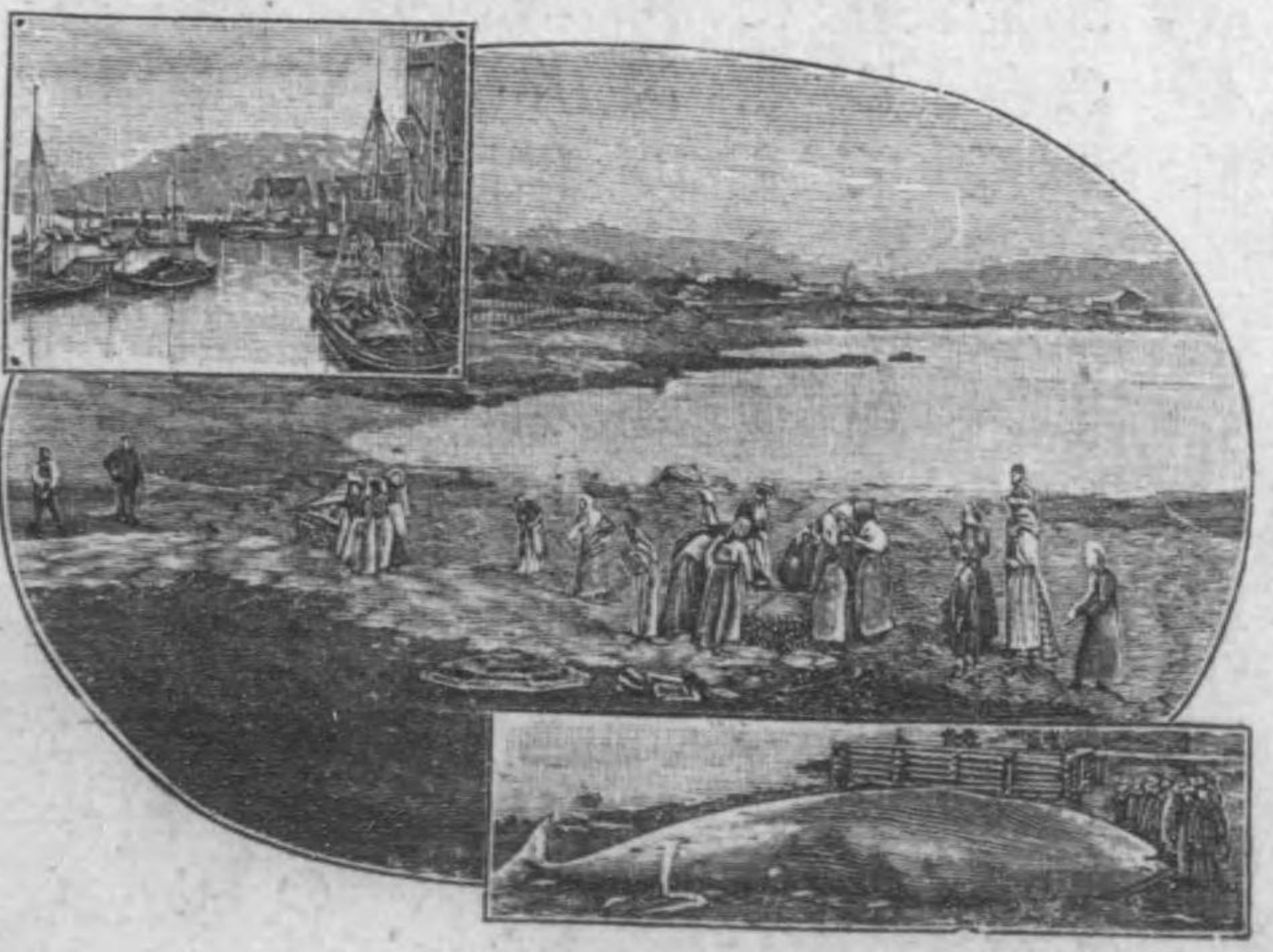
1 現時猶ほ諸處に氷河を存す。
2 兩岸絶壁をなし細く陸地に侵入せる灣にして、水深く、長さ頗る大なるものあり。高緯度に在る道種の峽灣は悉く氷蝕を受けたり。



の河流を通ず 尙南部には大湖二三を湛ふ。ユトランド半島は、概して地低く、東西兩岸並に半島の東に横たはれる諸島共にまた峽灣に富めり。氣候・産業・交通 位置北偏せるに拘らず、西斜面は暖流の影響によりて、氣温頗る高く、沿岸は冬季猶ほ結氷を見ず。内海方面は是と反す。一般に北するに従ひ、氣候一年を通じて寒く、地表轉荒寥を極む。産業は、スカンヂナウイアにては、専ら林産と水産とを重んじ、農牧業はその産を以

て自給するに足らず。林産にては、木材、バルブ、水産にては、西岸の鯨、鱈等の魚族、海豹、鯨等の海獣名高し。ノルウェーの水産國として、世界に顯はるゝは、この理由に基けり。その他スウェーデンには、良質を以て名高き鐵鑛を産し、各國にも之を輸出し、デンマルクは、畜産國としてその名大に聞え、乳酪、乾酪は、この國主要の輸出品たり。交通は、兩半島共に海上に發達し、就中ノルウェーは海運業に顯はれ、世界孰れの海面にも、其船影を見

景雜場漁と港ーゼムロト



鹿馴と族ブッラ



第二章 ヨーロッパ

ざることなし。由來三國は、史上に名高き海國民を出だし、その海上の活動、海外移民等の事蹟は、近世海

スウェーデン人の風俗



ノルウェーの農民



事思想發達の基をなせり。

住民政治

スカンデナヴィア半島の北部に居住する少數のラップ及びフィンを除けば、他は三國共に、その國民すべて血統

比較的純なるチーントン族にして、新教を奉じ、教育一般に普及せり。又三國孰れも立憲王國にして、國家の勢威中位に屬し、共に我條約國なり。都會 スカンデナヴィアの都會は、スウェーデンのウプサラ・ストックホルム・ゲテボルグ、ノルウェーのトロニエム・ベルゲン及びクリスチニアを主要とし、ウプサラは、有名なる大學の所在地、ストックホルムは、島上に立てる

景港のムルホクトス

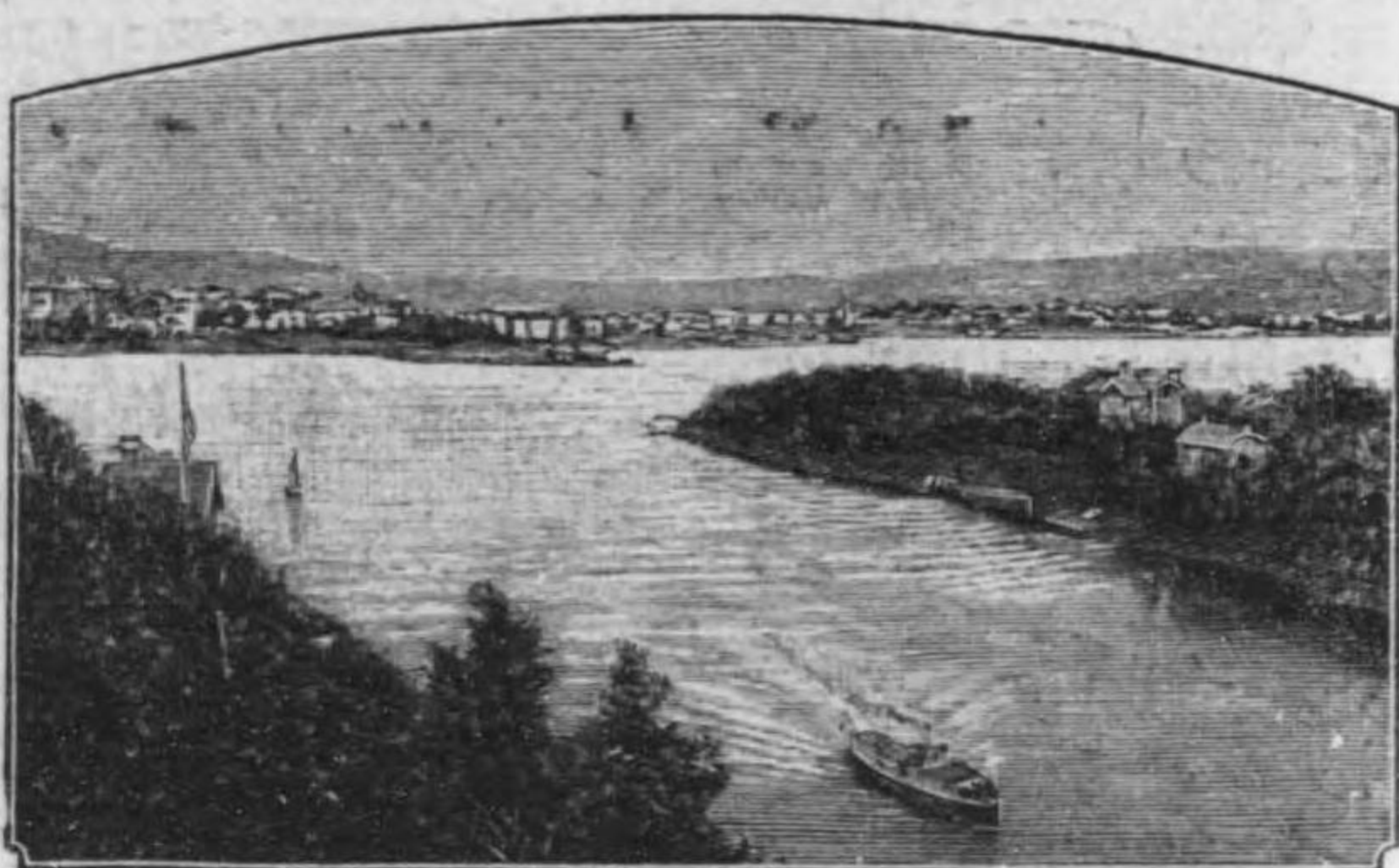


1 彼植物分類學者リンネの親しく教鞭を取りし處。
2 本邦公使館所在地。

3 この線は概ね湖沼を連れたる運河に並行す。該運河は漕運の利甚だ大なり。

4 これより東北方半島の北端に近く、世界最北の都會ハンメルフェストあり。

南方よりクリスチアニアを望む



秀美の王都にして、兼ねて、内陸水運及び沿岸交通の衝に當る。フィンランドよりボトニア灣の沿岸を廻り來れる鐵道は、二市を連ね、一は西岸なるこの國第一の商港ゲテボルグ(一九)に、一は南岸よりデンマルクの諸島を経てドイツに通ず。半島を横斷する鐵道は、北にあるものは、世界最北の鐵道として、ナルウィクに終り、中央にあるものは、ノ



第二章 ヨーロッパ